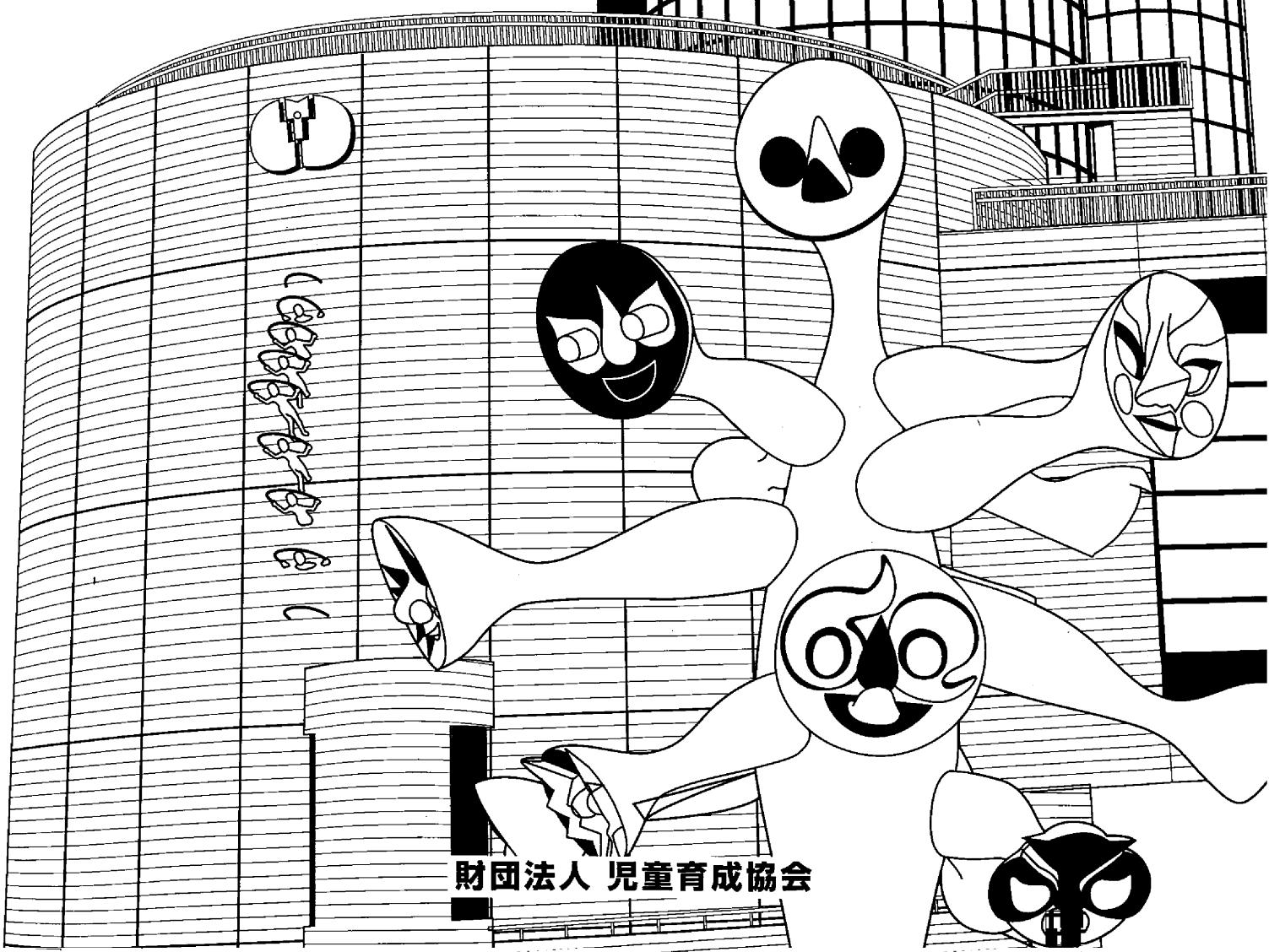


平成 **20** 年度

子どもの城 事業年報



財団法人 児童育成協会

平成 **20** 年度

子どもの城
事業年報

Contents

目次

こどもの城
事業年報
平成20年度

事業の概要

平成20年度の活動	7
1 はじめに	7
2 一般事業活動	7
3 その他の活動	9
4 国庫補助による事業活動	10
5 開館時間・入館料（ことも活動エリア）	11

平成20年度活動一覧表	15
1 来館児・者数	15
2 クループ活動実施状況	16
3 講座・クラフなど	17
4 観察・見学実績	19
1年の歩み	20

各部の事業

体育事業部

平成20年度の活動	25
1 はじめに	25
2 スポーツ遊びプロクラム	26
3 まとめ	27
平成20年度活動一覧表	28
1 一般利用	28
2 講座・クラフなど	31
3 その他	36

造形事業部

平成20年度の活動	49
1 はじめに	49
2 オープンスタジオ～からくりと造形～	50
3 まとめ	51
平成20年度活動一覧表	52
1 一般利用	52
2 講座・クラフなど	53
3 その他	56
平成20年度プログラム一覧表	57
1 親子コーナー	57
2 クリエイティフコーナー	58

プレイ事業部

平成20年度の活動	37
1 はじめに	37
2 プロクラム活動	37
3 「はてな？」を楽しむ ～科学遊び サタニー・ラボラトリ～	38
4 まとめ	39
平成20年度活動一覧表	40
1 一般利用	40
2 講座・クラフなど	46
3 その他	47

音楽事業部

平成20年度の活動	59
1 はじめに	59
2 音楽口ヒーの活動から	60
3 その他の活動から	61
4 まとめ	62
平成20年度活動一覧表	63
1 一般利用	63
2 講座・クラフなど	67
3 その他	70

AV(オーディオ・ビジュアル)事業部

平成20年度の活動	71
1 はじめに	71
2 乳幼児親子のための新プロクラム	71
3 その他の活動	73
4まとめ	74
平成20年度活動一覧表	75
1 一般利用	75
2 講座・クラフなど	78
3 その他	79

保育研究開発部

平成20年度の活動	81
1 はじめに	81
2 3つの保育事業	81
3まとめ	87
平成20年度活動一覧表	88
1 一般利用	88
2 講座・クラフなど	89
3 その他	90

小児保健部

平成20年度の活動	91
1 はじめに	91
2 診療・相談活動	92
3 季節の離乳食(短期講習会)	93
4まとめ	95
平成20年度活動一覧表	96
1 一般利用	96
2 講座・クラフなど	96
3 その他	98

企画研修部

平成20年度の活動	99
1 はじめに	99
2 事業全体のとりまとめ	99
3 ホランティアの活動と養成	101
4 講座・クラフ	103
5まとめ	104
平成20年度活動一覧表	105
1 一般利用	105
2 ホランティアの活動	108
3 講座・クラフなど	112
平成20年度「クラブ活動」プロクラム一覧	114

劇場事業本部

平成20年度の活動	115
1 はじめに	115
2 主な自主・提携公演	115
3まとめ	123
平成20年度公演目一覧表	124
1 青山劇場	124
2 青山円形劇場	125
3 その他	128

広報部

平成20年度の活動	129
1 はじめに	129
2 「こどもの城ニュース」について	129
3まとめ	130
平成20年度活動一覧表	131

こどもの城から全国へ

こどもの城から全国へ

平成20年度の活動	135
1 はじめに	135
2 事業の概要	135
3まとめ	137

平成20年度活動一覧表	138
1 講座・クラフなど	138
2 〈動くこどもの城〉	139
3 助成金による事業	142

1

事業の概要



事業の概要



平成 20 年度の活動

1. はじめに

本年度は、前年度の来館児・者数（総推計）が 90 万人をわずかながら割り込んだことを受け、全体として緊張感の漂う一年であった。結果として、有料来館児・者が 6,000 人近く増加したことなど、全体で 90 万人をわずかながら超えたことで、一息つけるものとなった。しかしながら、年間を通じると、前半は回復基調であったが、逆に後半は減少傾向となっており、必ずしも歯止めがかかったとはいえない。

来館児・者増を最大の課題として、先入観にとらわれることのない、きめの細かい事業の見直しと積極的な事業展開をした。夏休み特別期間には、前年度から始めた一般利用と短期講座の性格をあわせ持った、新しい試みである「あそび day キャンプ」が、各事業部の協力で実施され、たくさんの参加者があった。

前年度にも実施された 4 つの大きなイベントは、本年度の事業計画、予算にしっかりと反映させ、それぞれをさらにレベルアップさせ、来館児・者の増加に貢献した。特に、雨天のため 2 日目を館内で実施した「秋まつり」は、苦労はしたもののが天候のなか多くの参加者があった。開催時期を 1 月に変更した、プロジェクトチームによる「ドルッチャ・ドリーム」は、企画段階から多くの子どもたちが参加し、スタッフとともに精力的な活動が展開され、印象深いものであった。

乳幼児と親の居場所作りは、大切な活動として位置づけられているが、「赤ちゃんサロン」に加え、試行的に「ぽかぽか広場」を実施。平日の午前中に 4 階の音楽ロビーを中心に行なった、各事業部の協力で開催し、たくさんの参加

者を迎えることができた。

本年度初めて実施した「あり方検討会」による事務・事業評価は、「こどもの城」の多くの事業に対して客観的な数値評価をしていくというもので、これから運営をより良くするために活用されることと期待している。

2. 一般事業活動

(ア) 来館児・者数

本年度の有料来館児・者は 232,451 人、劇場入場者 377,984 人、保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者、および研修・会議室や宿泊施設関係の利用者を加えた総推計は 908,693 人で、前年度比 14,153 人の増となった。

有料来館児・者は、前年度比 5,818 人の増となった。年間をとおしてみると、年度前半は前年実績より増加の傾向だったが、後半は減少傾向となった。しかし、全体としては増加となった。

(イ) 一般来館児・者のための活動

【平常期間】

〈平日〉

○3歳未満の子どもを連れた母親の来館が多いため、気軽に参加できるプログラムの提供と、穏やかで居心地の良い雰囲気作りを心がけた。

○ベビーカーによる来館者が多く、アトリウムで積極的に預かることや活動エリアでの混雑の緩和をはかった。

○乳幼児と親を対象としたプログラム「ぽかぽか広場」

と「赤ちゃんサロン」を各部門協力して午前中から実施し、ニーズにこたえた。

〈土曜日〉

○バスケットボールやバドミントンのような、スポーツ活動「ビッグサタデー」を体育室で実施した。

○糸電話、クイズ100問ラリーなどの知的な遊びや、車いす体験などをテーマに取り上げた「サタデー・ラボラトリー」をプレイホールを中心に実施した。

〈日曜日〉

○来館児・者の増加をはかるために、定型化したプログラムの見直しと、家族を対象とした「Go!Go! ヴィーグル」「ファミリープレイタイム」などを積極的に実施した。

○Bスタジオ、音楽ロビーを使った小さなコンサートなどを講座と連携を取りながら開催した。

○各事業部協力による、大きなイベントを年4回実施した。「とり+かえっこ」「秋まつり」「ドルッチャ・ドリーム」「小学生プログラムスペシャル」。

〈ハッピーマンデー〉

○「サッカーフェスティバル2008」(10月12～13日)＝Jリーグ・FC東京の協力で、選手との交流や練習、大会形式のイベントを実施した。

○「ファミリープレイタイム」＝親子で遊び道具を作り、小さな遊びに挑戦するプログラムを提供した。“野菜スタンプでカードを作ろう”(9月15日)。

【特別期間】

○夏休みなどの特別期間は、キャッチコピーをつけ、全館の催しが相互に関連性を持ち、来館児・者に統一的なイメージが伝わるよう工夫した。

あそびひろがる 楽しさいっぱい！

(児童福祉週間＝ゴールデンウイーク)

夏にはじけろ げんきっす(夏休み)

ホットに元気@冬休み(冬休み)

とびだせ元気@春休み(春休み)

○児童福祉週間(ゴールデンウイーク)、夏休みなどの特別期間には、エレベーターホール、ロビー、廊下など

【来館児・者数(対前年度比較)】

来館児・者区分	平成20年度実績①	平成19年度実績②	差し引き増減①-②	(人)
有料来館者(大人)	117,418	112,099	5,319	
有料来館児(子ども)	94,690	92,701	1,989	
有料来館児・者(団体)	20,343	21,833	▲1,490	
小計(有料来館児・者)	232,451	226,633	5,818	
3歳未満児推計	58,783	56,117	2,666	
招待者・児	41,938	41,456	482	
劇場入場者	377,984	381,795	▲3,811	
講座・クラブ受講生	71,638	74,511	▲2,873	
その他の	125,899	114,028	11,871	
合計	908,693	894,540	14,153	

の共用部分に、鯉のぼりや、すいかをデザインした装飾を施し、それぞれの季節感を強調した。

【外部団体、企業との共催事業】

〔こどもの城〕の活動趣旨に賛同する外部団体、企業の協力を得て以下の事業展開を行った。(順不同)

○造形スタジオ(日常活動)……アート・バイ・ゼロックス、中川ケミカル(株)、山田ダンボール(株)、リンテックス(株)

○マタニティ・コンサート……タカタ(株)、和光堂(株)、大島椿(株)、ユニ・チャーム(株)、ビーンスターク・スノー(株)、クラランス(株)

○赤ちゃん大集合……和光堂(株)、大島椿(株)、持田ヘルスケア(株)、ピジョン(株)、(株)ベビーリース、ビーンスターク・スノー(株)、(株)赤ちゃんとママ社、(株)江崎グリコ、アイクレオ(株)、(株)ケイジエイシー、(株)カトージ、(社福)日本保育協会、(社)全国ベビーシッター協会、(財)児童健全育成推進財團

○小児保健セミナー……ユニ・チャーム(株)、ビーンスターク・スノー(株)

○小児保健部(リーフレット作成)……大塚製薬(株)

○ニッサンゆかいな絵本と童話展……日産自動車(株)

○第16回キンダーフィルムフェスティバル……キンダーフィルムフェスティバル実行委員会

○妖精冒険ものがたり～スパイダーウィックの謎(妖精探しをテーマにした謎解きゲーム)……パラマウントジャパン(株)

○いらなくないもん!エコアート展(リサイクルアート作家の作品展示とワークショップ)……ウォルトディズニースタジオ

○ふしぎ体験!!わくわくサイエンスショー(イベント招待)……(財)機械産業記念事業財團

(ウ) 講座・クラブ

継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらうため、講座・クラブ活動を実施した。これからも、受

講生や保護者との信頼関係を保ちつつ、受講者の需要にマッチした運営をしていきたい。実施種類、コース数、参加人数は以下のとおり。

- 講座……33種、52コース、受講者数1,631人
(前年度 33種、51コース、受講者数1,355人)
- クラブ……6種、6コース、受講者数853人
(前年度 6種、6コース、受講者数873人)
- 講習会……7種、19コース、受講者数483人
(前年度 7種、19コース、受講者数480人)
- 短期集中講習会……16種、146コース、
受講者数2,059人
(前年度…16種、121コース、受講者数1,692人)
- 専門指導者向け講習会……10種、19コース、
受講者数734人
(前年度…10種、20コース、受講者数893人)

(エ) グループ活動

〔子どもの城〕開館時間前、平日の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、各事業部において特別プログラムを提供する「グループ活動」は、一般来館児・者の受け入れ、講座・クラブの実施と並び〔子どもの城〕の事業のなかで重要な位置を占めている。

ハンディキャップを持った子どものグループや、インターナショナルスクールの子ども、自主保育グループなどさまざまな団体からの申し入れがあり、利用件数は安定している。

本年度は155グループ、3,187人（前年度169グループ、3,332人）を受け入れた。

(オ) 保育研究開発部・小児保健部

〈保育研究開発部〉

- 保育事業の3つの柱である「保育クラブ」「幼児グループ」および「親子教室」を継続して実施した。
- 保育関係者のための研修プログラム（「家庭支援の理論と実践」、ニュースレターの発行、「保育セミナー」の開催など）を実施した。

○一般来館児・者を対象として特別期間に行った「親子工房」や、平常期間の土曜日に親子がゆったりと一緒に遊べる「よちよちクラブ」などにも積極的に取り組んだ。

〈小児保健部〉

- 小児保健クリニックでは診療・相談を実施し、その件数は2,192件（前年度2,506件）であった。
- 体育事業部と連携した講座、「健康スポーツ教室」および「マタニティ・スイミング」を継続して実施した。
- 小児保健関係者のための研修プログラム（「小児保健

セミナー」ほか）を実施した。

- 「赤ちゃんサロン」は年間18回で3,722人（前年度18回3,285人）でやや増加した。
- 妊娠中の女性とその家族を対象とした「マタニティ・コンサート」（7月6日）を青山円形劇場で実施した。

(カ) 劇場事業

自主公演としては、青山劇場で2公演、青山円形劇場で14公演、提携公演として青山劇場で5公演、青山円形劇場で10公演を実施した。このうち、こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン」は、社会保障審議会児童福祉文化賞推薦作品に選ばれた。

「青山太鼓見聞録」「TOKYO DANCE TODAY」「KOUSKY VI沢則行 meets 中西俊博」「Over The Rainbow…？」は文化庁重点支援事業、「DANCE - X08」は芸術文化振興基金の助成対象作品に選ばれた。

劇場の貸与については青山劇場が28件、青山円形劇場が27件で、国費による工事期間等を除いた稼働状況は表のとおりであった。

また、劇場公演のほかに、若手舞台芸術家の育成をはかるためのセミナー「APAS = Aoyama Performing Arts Seminar」を13件、実施した。

【青山劇場・青山円形劇場の稼働状況】

	使可用日数(日)	使用日数(日)	稼 働 率(%)	前年度稼働率(%)
青 山 劇 場	333	298	89.5	92.1
青 山 円 形 劇 場	361	331	91.7	87.6
計	694	629	90.6	89.8

(キ) 利用者サービス事業

〔子どもの城〕を利用する人などの便宜をはかるため、宿泊施設、売店、各種自動販売機及び駐車場の管理、運営を行った。

研修室については児童厚生員等を対象とした宿泊研修や保育・小児保健関係のセミナーの開催場所として利用するほか、他の福祉関係団体が主催する研修会やセミナーの会場としても活用された。

3. その他の活動

(ア) 広報

〔子どもの城〕の事業・活動内容をより理解、認識していただくとともに、利用者の増加をはかることを目的として、各種の広報活動を行った。

活動の主な柱としては、

- ①「子どもの城ニュース」の発行（年12回発行）

- ②各種広報資料(パンフレット、チラシなど)の作成・配布
- ③月刊誌「こども未来」などを通じて〔子どもの城〕の活動内容の紹介
- ④新聞・テレビ・雑誌・インターネットなどを通じての広報
- ⑤広報企画の推進

—などであり、新聞、テレビなどの取材は、外国からのものを含めて年間 149 件(前年度 187 件)であった。

(イ) 子どもの城友の会

〔子どもの城〕のサポーターともいえる「子どもの城友の会」の会員増加をめざして、キャンペーンや映画試写会(『西の魔女が死んだ』『ホートン ふしげな世界のダレダーレ』『アルビン歌うシマリス 3 兄弟』『ティンカーベル』)への招待、「友の会おそなえ餅づくり」「たからものタペストリーをつくろう」などのイベントを実施した。

新規会員は 267 家族であったが、本年度末現在の会員数は 884 家族(前年度末 965 家族)とやや減少している。

(ウ) 国際交流

例年行っている、京浜地区の外国人学校の合同造形展「アートスケープ 2008」にギャラリーを提供したほか、ハンガリー大使館の協力を得て「ハンガリーの子どもたちと鬼ごっこ交流」、オランダ大使館の協賛による“写し絵”を使った「おもしろ光のサーカス」公演、夏休み短期講座のなかでアフリカやインドネシア、ベトナムの民族楽器を紹介し、演奏等をするなど、気軽に自然な国際交流をめざした。

グループ活動におけるインターナショナル・スクールの利用件数は 59 件(前年度 57 件)で日本の児童文化の紹介と社会体験の機会となっている。

(エ) 実習生・研修生の受け入れ

大学などからの要請に応じて、〔子どもの城〕の各事業部をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生・研修生を受け入れているが、本年度は実習生 16 人、研修生・研究生 3 人(前年度：実習生 22 人、研修生・研究生 4 人)を受け入れた。

中・高校生の職場体験としての依頼が学校から多く寄せられるようになり、各事業部と調整しながら受け入れた。本年度は中学生 9 件 23 人、高校生 3 件 48 人(前年度：中学生 9 件 25 人、高校生 4 件 59 人)だった。

(オ) 講師派遣

〔子どもの城〕で行う指導者向け講習会やセミナー、〈動く子どもの城〉の派遣事業以外にも、児童館を中心とした全国の児童健全育成の現場からの要請を受けて、講師派遣という形で各地に出向き、〔子どもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。

地域の子育て支援センターや学童クラブなど子育て支援、次世代育成に関わる派遣依頼も増加の傾向にある。本年度の派遣実績は 149 件(前年度 168 件)であった。

(カ) 助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」からの助成を受け、「児童館を活用した父親ネットワークづくり事業」「児童館における中高生のボランティア活動の活性化事業」を行った。

また、「子育てサークル活動者研修事業」を全国 4 か所で実施した。

4. 国庫補助による事業活動

(ア) 啓発活動

児童の健全育成にかんする冊子を配布し、事業実例の紹介と理念の普及に努めた。

(イ) 児童館巡回支援活動等事業〈動く子どもの城〉

全国の児童厚生施設に対し、〔子どもの城〕で開発、蓄積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、併せて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発に努めた。

本年度は特に、乳幼児と親を対象としたプログラムの充実をはかり、多くの派遣依頼にこたえた。

○乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム＝「ぽかぽか広場」「すくすくスキンシップ」など 17 か所

○幼児や学童を対象とした遊びのプログラム＝「身边的道具でスポーツあそび」「アニメワークショップ」など 13 か所

○展示とワークショップ＝「造形ワークショップ展」「おりがみ作品巡回展」など 17 か所

合計、北海道ほか 24 都道府県で 47 か所(前年度 47 か所)。

(ウ) 中央児童厚生施設事業

【子どもの城】の事業に理解と協力が得られるボランティアの養成、児童の健全育成活動に参加するボランティアの拡充などをはかるための事業を実施した。

本年度末までのボランティア講習修了者数は、2,564人。うち【子どもの城】のボランティアとして登録されているのは347人(前年度322人)、本年度中に【子どもの城】の事業活動に参加したのは延べ6,861人(前年度7,300人)であった。

また、【子どもの城】での施設ボランティアの育成以外にも、ボランティア交流事業(香川県、富山県)、ボランティアのグレードアップのための研修(福井県、千葉県ほか10か所)など地域における活動への支援も実施した。

5. 開館時間・入館料(子ども活動エリア)

(ア) 平常期間

【子どもの城】の「子ども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平日	12時30分～17時30分
土・日曜日・祝日	10時00分～17時30分
月曜日	休館(祝日・振替休日にあたると きは開館。翌火曜日が休館)

(イ) 特別期間

学校の季節休み(夏休み、冬休み、春休み)、児童福祉週間(ゴールデンウイーク)、11月1日の【子どもの城】の開館記念日を含めた9日間を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

なお、5月5日「子どもの日」と、11月3日「文化

の日」は「子ども」の入館料を無料とした。

開館時間は、特記した日を除き、10時～17時30分。

■児童福祉週間(ゴールデンウイーク)特別期間■

4月26日～5月6日(4月28日は休館)

※4月30日、5月1・2日は12時30分開館

■夏休み特別期間■

7月19日～8月31日(毎日開館)

■子どもの城ファミリーウィーク(開館記念)特別期間■

10月25日～11月3日(10月27日は休館)

※10月28～31日は12時30分開館

■冬休み特別期間■

12月25日～平成21年1月7日

(12月29日～1月2日は休館)

※1月3日は12時30分開館

■春休み特別期間■

3月25日～4月5日(毎日開館)

(ウ) 入館料

【入館料】

一 般	こども(18歳未満)	400円
(保護者が同伴した3歳未満児は無料)		
大 人	(18歳以上)	500円
回数券	こども(6枚つづり)	2,000円
	大 人(6枚つづり)	2,500円
団 体	(20人以上) こども	320円
	大 人	400円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス(1年間有効)	大人	3,000円
わくわくパス(夏休み期間限定)	大人	1,800円
ドキドキパス(夏休み期間限定)	こども	1,500円
小・中学生土曜日パス(1年間有効)	小・中学生	2,500円

[こどもの城] の概要

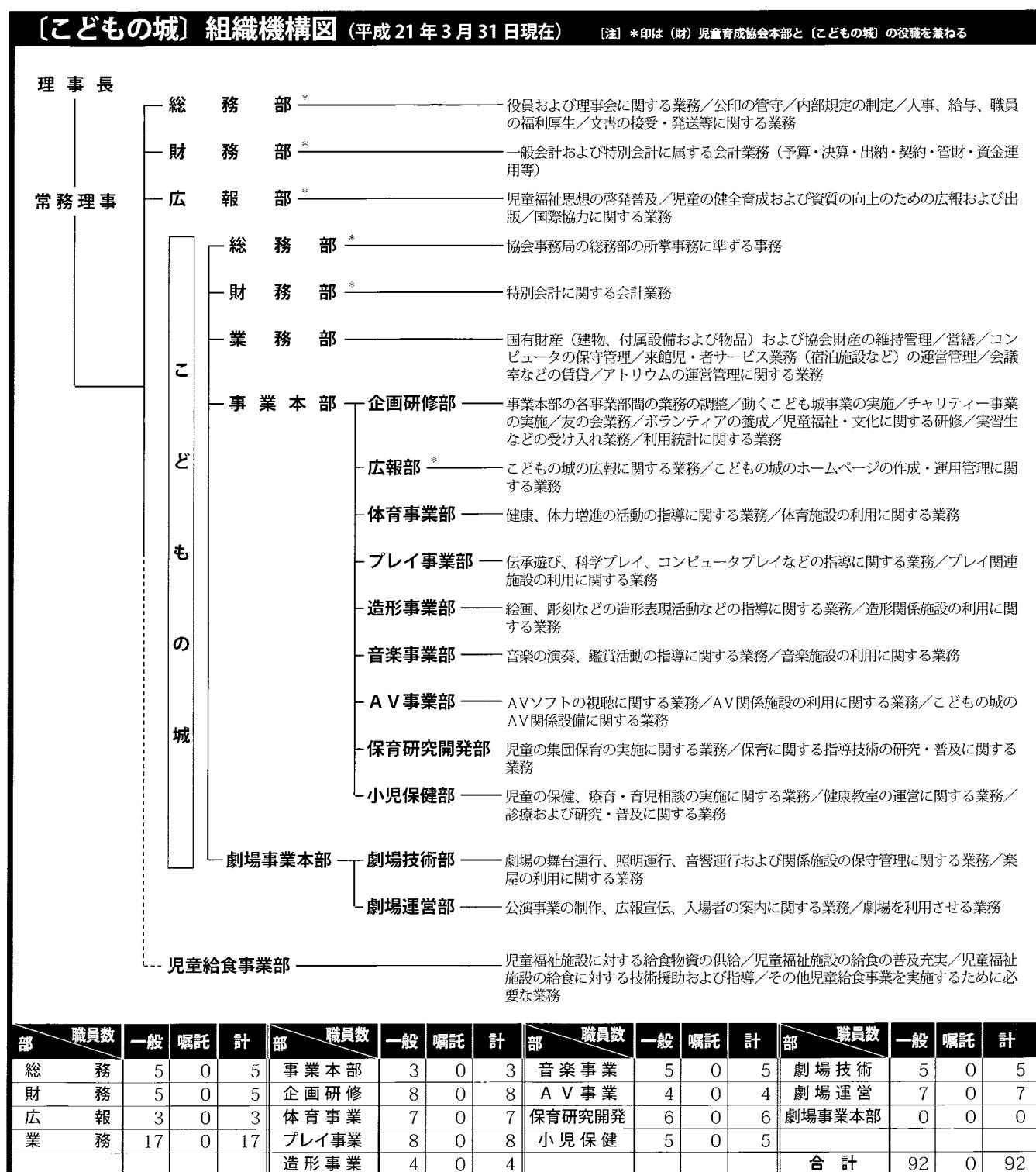
	オフィス		13 F 12 F 11 F	
	パソコンルーム		10 F	
	研修室		9 F 8 F	
	ホテル		7 F 6 F	
5 F	屋上遊園 プレイポート	小児保健クリニック 保育室	5 F	ふしげが丘
4 F	ビデオライブラリー	音楽ロビー A・B スタジオ	4 F	
3 F	造形スタジオ 青山円形劇場	プレイホール コンピュータプレイルーム	3 F	
2 F	ギャラリー	屋外通路	ファミリーラウンジ	2 F
1 F	アトリウム		エントランスホール レストラン	1 F
B 1	プール観覧室		フリーホール	B 1
B 2	体育室／プール／健康開発室			B 2
		駐車場		B 3 B 4

建築概要

所在地………東京都渋谷区神宮前 5-53-1
 建築主………厚生労働省（当時：厚生省）
 敷地面積………9,923 平方メートル
 建築面積………6,001 平方メートル
 延床面積………41,699 平方メートル
 建ぺい率………60.48%
 容積率………345.38%
 階数………地下 4 階・地上 13 階・塔屋 1 階

最高高さ………G L + 57.6 メートル
 基礎下端………G L - 28.5 メートル
 主要構造………高層部 鉄骨造り
 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り
 地 下 鉄筋コンクリート造り
 着工………昭和 56 年 11 月
 完成………昭和 60 年 9 月（11 月 1 日開館）

※ [こどもの城] は 1979 年（昭和 54 年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会があたっている。



(財)児童育成協会役員 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

役職	氏名	役職	氏名
理事長	吉武 民樹	理事	篠原 徹
常務理事	林 重夫	理事	山口 規容子
理事	大野 出穂	理事	藤田 與彦
理事	小山 敬次郎	監事	秋山 昭八
理事	廣瀬 友久	監事	弁護士
理事	品川 正治	(財)国際開発センター会長	公認会計士

〔子どもの城〕の付帯事業（平成21年3月31日現在）

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
宿泊施設	子どもの城 ホテル	6・7階	客室数 客室定員 27 68	無休(12月28日～1月2日を除く)	洋室24室(シングル3、Aツイン10、Bツイン11) 和室3室(5人用1、6人用1、12人用1) ※1泊7,455円～
貸し室	研修室	8・9階	研修室 10 ※一部通しで使用 できる。利用人員 400人ぐらいまで	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=9:00～21:00	研修および会議など ※1単位時間13,335円～
	ギャラリー	1階アトリウム		無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=10:00～17:30	各種展示会など ※1日31,500円
物品販売	売店	1階アトリウム	1か所	営業日時=「子ども活動エリア」の 開館日の12:30～17:30	がん具、文具、スポーツ用品、講座指 定水着、催事関係用品、印刷出版物、 衣料、雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲・食販売 35か所 テレホンカード 1か所	無休	ドリンク類、牛乳類、カップ麺類など
公衆電話		館内各所	5か所	7台	無休
駐車場		屋内(地下2階～ 地下4階)、屋外(1 階)	約126台 (業務車両分含む)	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=8:00～22:00	普通車両は地下駐車場、バスなど大 型車両は屋外(1階)に駐車 ※普通車両 30分 300円 マイクロ車 1時間 840円 大型車 1時間 1,260円
飲食関係	レストラン 「アンファン」	1階	客席数 140	無休(12月28日～1月2日を除く) 営業時間=7:30～19:00	ファミリーレストラン、すし、弁当 仕出し、パーティー、宿泊施設利用 者の食事など
	劇場内 「スナック」	青山劇場内地下お よび2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間=開演前・幕間	喫茶、軽食

平成 20 年度活動一覧表

1. 来館児・者数

	一般来館児・者		劇場			その他	計
	日時	総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
4月	大人 子ども 団体 受講生など	(人) 8,559 8,094 424 13,015	(人) 30,092 推計 (34,378)	(人) 26,280	(人) 7,666	(人) 33,946 11,632	(人) 75,670 推計 (79,956)
5月	大人 子ども 団体 受講生など	10,897 6,626 796 10,835	29,154 推計 (34,608)	35,577	8,052	43,629 10,375	83,158 推計 (88,612)
6月	大人 子ども 団体 受講生など	7,810 5,290 1,303 9,176	23,579 推計 (27,490)	25,504	5,940	31,444 11,004	66,027 推計 (69,938)
7月	大人 子ども 団体 受講生など	11,986 10,078 3,162 7,856	33,082 推計 (39,082)	29,042	6,434	35,476 12,616	81,174 推計 (87,174)
8月	大人 子ども 団体 受講生など	23,629 23,898 3,777 9,199	60,503 推計 (72,323)	13,992	9,872	23,864 9,650	94,017 推計 (105,837)
9月	大人 子ども 団体 受講生など	8,158 5,589 665 7,933	22,345 推計 (26,430)	24,165	4,204	28,369 8,979	59,693 推計 (63,778)
10月	大人 子ども 団体 受講生など	7,370 4,841 1,053 9,194	22,458 推計 (26,148)	29,134	6,422	35,556 10,274	68,288 推計 (71,978)
11月	大人 子ども 団体 受講生など	8,794 5,701 1,292 9,653	25,440 推計 (29,844)	19,092	6,166	25,258 10,891	61,589 推計 (65,993)
12月	大人 子ども 団体 受講生など	5,517 4,176 765 6,319	16,777 推計 (19,540)	21,067	8,599	29,666 9,500	55,943 推計 (58,706)
平成21年 1月	大人 子ども 団体 受講生など	7,882 6,364 3,404 7,908	25,558 推計 (29,506)	23,227	8,147	31,374 8,175	65,107 推計 (69,055)
2月	大人 子ども 団体 受講生など	6,777 4,927 1,832 9,228	22,764 推計 (26,159)	7,135	8,364	15,499 11,103	49,366 推計 (52,761)
3月	大人 子ども 団体 受講生など	10,039 9,106 1,870 13,260	34,275 推計 (39,302)	38,265	5,638	43,903 11,700	89,878 推計 (94,905)
計	大人 子ども 団体 受講生など	117,418 94,690 20,343 113,576	346,027 推計 (404,810)	292,480	85,504	377,984 125,899	849,910 推計 (908,693)

注)「一般来館児・者」の「推計」は、3歳未満児の推定来館児数を含めたもの。

「受講生など」は、招待と講座・クラブ受講生を合算したもの。

「その他」は、宿泊施設・研修室等の利用者。

2. グループ活動実施状況

		保育所	幼稚園	小学校	中・高校	養護学校	ろうあ学校	盲学校	小学校特殊学級	中学校特殊学級	障害児施設	自主保育グループ	計
件数		36	64	25	1	14	0	2	8	0	1	4	(件) 155
月別内訳	4月		4	1									5
	5月	1	5	4									10
	6月	5	13	3		2			1				24
	7月	1	2										3
	8月												
	9月	6	1	2		4							13
	10月			3	1	3			1				8
	11月	1	13	4					1				19
	12月	5	1			1			1		1	2	11
	平成21年1月	7	6	2									15
	2月	7	13	1		3		1	4				29
	3月	3	6	5		1		1				2	18
地域内別内訳	東京都区	36	57	25		10		2	8		1	4	143
	東京都市		2			2							4
	他府県		5		1	2							8
参加児童数別内訳	10人未満					6		1	2		1		10
	10~19	20	38	16		4		1	4		1		84
	20~29	15	15	8		2			2				42
	30~39	1	4		1	2					3		11
	40~49												
	50~59		3	1									4
	60~79		4										4
	80~99												
	100~149												
	150人以上												
参加児童数	延べ人数	670	1,531	492	38	205		20	120		3	108	3,187
	1件当たり人数	18.6	23.9	19.7	38.0	14.6		10.0	15.0		3.0	27.0	20.6
引率者数		122	241	58	2	192		11	67		3	2	698
付添者数		4	53	4		18		19			3	5	106
活動部門	体育	9	13	8		1			2			2	35
	プレイ	20	18	5		5							48
	造形	1	19	4	1	2			4				31
	音楽	5	23			8		2	2		1		41
	A V	2	6	9	1								18
	プレイ自由	36	60	24		7		2	6		1		136
	A V自由			1									1
	その他自由利用										2		2

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することがあるので、重複して計上してある。

3. 講座・クラブなど

〈講座〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	親子水泳	幼児・親	1 年 2 コース	60 (組)
	幼児水泳	幼児	〃 5〃	270 (人)
	幼児体育	〃	〃 3〃	120
	小学生水泳	小学生	〃 5〃	300
	小中学生水泳	小・中学生	〃 2〃	80
	小学生体育	小学生	〃 2〃	60
	シニア・スイミング	小・中・高校生	〃 1〃	30
	シニア・スイミングフレッシュ	〃	〃 1〃	30
	ジュニア新体操	小学生の女子	〃 1〃	35
	シニア新体操	小・中・高校生の女子	〃 1〃	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	〃 1〃	15
プレイ	キッズクラブ	小学生	〃 1〃	30
	ユースクラブ	小・中学生	〃 1〃	40
造 形	こどもクリエイティブクラブ～クレイワーク	〃	〃 1〃	16
	〃 ～ゆかいな造形	〃	〃 2〃	32
	〃 ～親子でアート	幼児・親	〃 1〃	10 (組)
	〃 ～絵本の世界へ	小・中学生	〃 1〃	16 (人)
	〃 ～ハンズワーク	小・中・高校生	〃 1〃	16
	大人のための造形表現教室	一般	〃 1〃	25
音 楽	みんなで楽しいリトミック	幼児・親	〃 3〃	60 (組)
	リズム・ムービング	幼児	〃 1〃	20 (人)
	リズム・ムービング&パーカション	小学生	〃 1〃	15
	おんがく大好きミュージック・パーク	ダウン症の幼児・小学生と親	〃 2〃	20 (組)
	合唱講座	小学生	〃 1〃	30 (人)
	児童合唱団	合唱講座修了の小・中学生	〃 2〃	120
	ガムラン講座	小・中・高校生	〃 1〃	15
	三味線	〃	〃 2〃	24
	混声合唱	高校生以上	〃 1〃	40
	和太鼓グループ	小・中・高校生	〃 1〃	12
	パーカッション・アンサンブル	〃	〃 1〃	15
	レッツ・プレイ・サンバ	小・中・高校生	〃 2〃	20
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生	〃 1〃	20
計	32 種		52 コース	1,631

〈クラブ〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1 コース	—
	レディース・コース	一般女性	〃 1〃	150 (人)
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	〃 1〃	420
保 育	幼児グループ	幼児	1 年 1〃	22
	保育クラブ	〃	〃 1〃	450
企画研修	L.T.T. (高校生ボランティア)	高校生	〃 1〃	30
計	6 種		6 コース	—

〈講習会（1か月以上のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体 育	幼児・母親体育 I・II・III (1・2歳)	幼児・母親	3か月 3コース	90(組)
	幼児・母親体育 I・II・III (2・3歳)	〃	〃 3〃	90
	母と子のすくすくランド I・II・III	5か月～・母親	〃 3〃	90
	ぱちやぱちやファミリースイム I・II・III	幼児・保護者	〃 3〃	90
音 楽	おんがく星みつけた I・II・III	幼児・親	3か月 3〃	90
保 育	親子教室	幼児・親	〃 3〃	48
企画研修	じょいんクラブ	小・中学生	6か月 1〃	20(人)
計	7種		19コース	518

〈短期講習会（1か月未満のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体 育	夏休みこども集中水泳講習会 (A・C)	小・中学生	5日間 2コース	100(人)
	〃 (B・D)	幼児	〃 2〃	80
	夏休み体操教室 ガンバ	小学生	〃 1〃	30
	春休みこども集中水泳講習会 A	小・中学生	〃 1〃	50
	〃 B	幼児	〃 1〃	40
	成人水泳集中講習会	一般	7日間 12〃	240
ブ レ イ	夏休みロボットプログラミング入門	小学生	4日間 1〃	15
造 形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日 30〃	450
音 楽	夏休み手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生(親子)	1日 14〃	344
	大人のための手作り楽器のワークショップ	一般	〃 1〃	30
	ガムラン体験半日講座	小・中学生	〃 3〃	45
	感じる心を育てる講座	一般	〃 1〃	80
A V	夏休み映像・科学ワークショップ	小・中・高校生	〃 48〃	572
小児保健	夏休みこども1日ドック	小・中学生	1日 1〃	10
	季節の離乳食	乳児・親	〃 9〃	90
	親子のほっとタイム	〃	〃 6〃	60
劇 場	和太鼓カレッジ (ワークショップ・講演・工作教室)	小学生～一般	1日 10〃	350
	オブジェクトシアターワークショップ	一般	2日間 1〃	10
	海外で活躍する日本人アーティストから、海外のアート環境を聞こう会	〃	1日 2〃	61
計	19種		146コース	2,657

〈専門指導者向け講習会など〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
保 育	保育セミナー	保育関係者	1コース	80(人)
	家庭支援の理論と実践～子育て家庭を支援するために～	〃	3〃	150
小児保健	小児保健セミナー	保育者・保健師など	1〃	100
	子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際」	〃	2〃	120
	次世代育成支援講習会	養護教諭・保健師など	1〃	50
企画研修	おりがみにつよくなる講習会	児童厚生員など	2〃	100
	つくって演じる人形劇	〃	2〃	60
	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	〃	3〃	150
	ボランティア講習会	18歳以上	2〃	60
	ボランティア・グレードアップ講習会	ボランティア登録者	2〃	60
計	10種		19コース	930

4. 観察・見学実績

年 度	都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体	児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークルなどの団体	海外からの観察・見学	そ の 他	計	
昭和 60 年度	(100) 1,122	(100) 1,578	(22) 169	(18) 410	(240) 3,279	
61 年度	(121) 714	(192) 4,085	(52) 359	(31) 513	(396) 5,671	
62 年度	(107) 439	(123) 2,437	(36) 347	(20) 477	(286) 3,700	
63 年度	(91) 598	(69) 770	(30) 211	(32) 296	(222) 1,875	
平成元 年度	(72) 541	(71) 931	(10) 86	(25) 195	(178) 1,753	
2 年度	(65) 605	(27) 292	(8) 156	(17) 212	(117) 1,265	
3 年度	(63) 417	(47) 705	(11) 77	(6) 274	(127) 1,473	
4 年度	(78) 585	(62) 1,038	(9) 122	(6) 35	(155) 1,780	
5 年度	(69) 698	(75) 1,182	(14) 119	(9) 41	(167) 2,040	
6 年度	(96) 782	(73) 1,251	(13) 144	(13) 116	(195) 2,293	
7 年度	(136) 956	(101) 1,542	(19) 273	(16) 94	(272) 2,865	
8 年度	(63) 402	(188) 1,691	(19) 139	(8) 48	(278) 2,280	
9 年度	(89) 723	(134) 1,335	(14) 229	(24) 43	(261) 2,330	
10 年度	(63) 474	(150) 1,470	(26) 204	(24) 145	(263) 2,293	
11 年度	(83) 863	(171) 975	(18) 177	(17) 68	(289) 2,083	
12 年度	(85) 616	(154) 596	(14) 128	(27) 37	(280) 1,377	
13 年度	(29) 254	(216) 1,029	(15) 109	(26) 68	(286) 1,460	
14 年度	(13) 40	(189) 1,212	(16) 211	(8) 38	(226) 1,501	
15 年度	(8) 14	(152) 965	(19) 149	(8) 14	(187) 1,142	
16 年度	(5) 53	(156) 1,084	(14) 135	(6) 13	(181) 1,285	
17 年度	(5) 41	(198) 924	(15) 300	(13) 35	(231) 1,300	
18 年度	(3) 31	(184) 1,267	(15) 229	(2) 7	(204) 1,534	
19 年度	(1) 2	(175) 903	(19) 192	(6) 21	(201) 1,118	
平成 20 年度	4月	(2) 5	(8) 24	(4) 32	(1) 27	(15) 88
	5月	(0) 0	(12) 46	(1) 6	(1) 2	(14) 54
	6月	(3) 15	(9) 13	(2) 29	(0) 0	(14) 57
	7月	(1) 2	(11) 37	(0) 0	(0) 0	(12) 39
	8月	(1) 3	(13) 34	(3) 6	(0) 0	(17) 43
	9月	(0) 0	(14) 40	(2) 5	(0) 0	(16) 45
	10月	(2) 2	(20) 187	(2) 24	(0) 0	(24) 213
	11月	(1) 1	(10) 79	(2) 9	(0) 0	(13) 89
	12月	(0) 0	(5) 36	(1) 25	(0) 0	(6) 61
	H21 1月	(1) 1	(13) 39	(0) 0	(0) 0	(14) 40
	2月	(0) 0	(20) 50	(0) 0	(0) 0	(20) 50
	3月	(0) 0	(10) 19	(0) 0	(0) 0	(10) 19
	合 計	(11) 29	(145) 604	(17) 136	(2) 29	(175) 798
累 計		(1,456)	10,999	(3,152)	29,866	(445) 4,401
						(364) 3,229
						(5,417) 48,495

注) () 内は、団体数。

「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1 年の歩み

月 日	事 項
4.15	「赤ちゃんサロン」の開催時間が 11 時～14 時に拡大される（音楽ロビー）
4.26～5.6	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間「あそびひろがる 楽しさいっぱい」 子どもの城風雲録～暗黒神凱羅の野望～／春の運動会！楽しく勝つ方法／パソコン デコプレート／子ども歳時記「端午の節句」／ゴールデンウイーク 人形劇フェア／あそびのおもちゃ箱／スラマシアン！インドネシア！／ふしぎな映像実験室／パパブベビータウン～パパママいっしょのスペースだよ～——ほか
5.3～6	子どもフェスティバル（青山円形劇場）
5.10～25	青山円形劇場プロデュース「HYMNS～ヒムス～」（青山円形劇場）
5.10～7.8	第 58 期ボランティア講習会（研修室ほか） ※第 59 期ボランティア講習会は、平成 21 年 2 月 7 日～3 月 3 日に開催
5.11	L.I.T. の高校生が「昔であそぼう !!～昭和にタイムスリップ」（渋谷区立猿楽小学校）
5.31	第 11 回子どもの城子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康 0.1.2 歳児」（研修室） ※第 12 回は、平成 21 年 2 月 13・14 日（2 日間）に開催（研修室）
6.3	3 か月～2 歳の乳幼児と保護者のための「ぽかぽか広場」スタート（年 7 回／音楽ロビー）
6.4・5	平成 20 年度第 1 回子どもの城児童厚生員等実技指導講習会「遊びの専門技術～身近なモノでつくって遊ぶ～」（研修室） ※第 2 回（10 月 22～24 日）「これからの児童館活動～乳幼児のひろば事業について考える～」 第 3 回（平成 21 年 1 月 24・25 日）「これからの児童館活動～中高生の“社会参加”と“居場所づくり”～」
6.12～15	玉川大学芸術学部+青山円形劇場提携公演「Performing Arts Fair 2008 in 青山」（青山円形劇場）
6.14	平成 20 年度第 1 回家庭支援の理論と実際「子どもの発達特徴をめぐって～親と子への支援のあり方を考える～」（研修室） ※第 2 回（10 月 18 日）「『育てにくい子』を育てる保護者への支援～ペアレン特・トレーニングの活用～」 第 3 回（平成 21 年 1 月 17 日）「家族を支えるということは」
6.15	一輪車に乗ってみよう（体育室）
6.21・22	とり+かえっこ in 子どもの城（ギャラリー） ※平成 21 年 2 月 21・22 日にも開催
7.6	第 23 回子どもの城マタニティコンサート「礌絵里子・白石光隆～ヴァイオリンとピアノの音楽絵本」（青山円形劇場）
7.9～13	タカイズミプロジェクト Vol.1 遊機械オフィス×青山円形劇場プロデュース「Over The Rainbow……？～アリス的不完全穴ぼこ墜落論～」（青山円形劇場）
7.13	楽しい夏休みをすごすために「It's スノーケリング」（プール） ※同「It's ライフセービング」を 7 月 21 日に開催（プール）
7.17～19	TOKYO DANCE TODAY #3 「森下真樹／うず巻 MAKI-NO-UZU-MAKI」（青山円形劇場）
7.21～8.31	夏休み特別期間「夏にはじけろ！ げんきっず」 オリンピックへの道～いろいろなスポーツスポーツにチャレンジ～／オープンスタジオ「からくりと造形」／Viva ! おんがく ! スーパーあそびまつり !／音楽あそびの祭典 ! かがやけ ! ピコピコオリンピック !／お城 TV スタジオ／不思議な映像実験室／つくって遊ぼう親子工房～親子で作る'08 系スケルトン DE エコカー／パソコンであそぼう「ジャングル☆カメラ」「マジックピクチャー」／はじまる夏休み ! あつまれ小学生 !!／くらやみディスカバリー／ウォーターランドの戦い 2008／いらなくないもん ! エコ・アート展——ほか
7.21～8.31	第 25 回渋谷スタンプラリー（子どもの城、NHK スタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館）
7.23～27	月猫えほん音楽会 2008（青山円形劇場）
7.23～8.31	夏休み子ども集中水泳講習会、ガンバ 2008、夏休み造形教室（5 コース）、親子で作ろう！手作り楽器のワークショップ（9 コース）、映像・科学ワークショップ（9 コース）、小学生パソコン教室～ロボットプログラミング入門、子ども 1 日ドック——さまざまな夏休み短期コースを開講

月 日	事 項
7.28～8.10	あそび day キャンプ～2008年夏（[こどもの城] でアウトドア～ネイチャーコース・ワイルドコース～／Dance [E] プロジェクト Vol.2／レッツ・プレイ・ガムラン 南の島バリ島の音楽—4コース）
8.8～12	第16回キンダー・フィルム・フェスティバル（青山円形劇場）
8.9・10	第22回こどもの城保育セミナー「子どもの育ち・社会の育ち PART IV～子どもの最善の利益を支える子育て支援」（研修室）
8.16～19	TAIKO JAPAN 2008 ※第7回東京国際和太鼓コンテスト（16・17日／青山劇場）、青山太鼓見聞録～太鼓の躍動～（19日／青山劇場）、青山太鼓見聞録外伝～伊藤多喜雄＆金子竜太郎、知れば知るほど～（15日／青山円形劇場）、和太鼓力レッジ・ワークショップ（16・17日／青山円形劇場、体育室、ピロティほか）／青山☆太鼓の殿堂～追悼 小口大八、阿修羅の世界～（9月1日）
8.24	つくって演じる人形劇“つくる”（研修室） ※“演じる”は9月7日に開催
8.25～28	世界名作映画と青山劇場舞台機構体験の集い（青山劇場）
8.30・31	L.I.T. (Leader In Training) の高校生による「みんなでつくろう！ふえすたまランド」（フリーホールほか）
8.30	第42回パンパ大会（プレイホール）
9.20・21	秋まつり～みんなで縁日をたのしもう！（ふしきが丘／フリーホール・サンクンガーデン・プール観覧室）
9.23	元気いっぱいみんなで体を動かそう！～ラジオ体操80周年（体育室）
9.27～10.5	青山演劇 LABO #001 KAKUTA 「STAR MAN」（青山円形劇場）
10.8～19	青山円劇カウンシル #2～Relation～ONEOR8 プロデュース「思い出トランプ」（青山円形劇場）
10.12・13、19	ブラジルフェスタ 「Vamos! Futebol!～サッカーやろうぜ！」（12・13日）／「Vamos! カポエイラ」（19日）（体育室）
10.25～11.3	開館記念ファミリーウィーク特別期間（11月3日は、こどもの入館料は無料） 親子DEスポーツ／親子DEぱちゃぱちゃ／第15回親子体験ワークショップ／よちよちクラブ／わくわくパペットランド／あそびでつくる家族のWA／あそびが山もり！ドドン村!! —ほか
10.29	赤ちゃん大集合（赤ちゃんサロンスペシャル／みんなであそぼうにこにこパーク／ごろごろハイハイ／うたってバブリン—ほか）
11.1～24	第23回造形スタジオ展（造形スタジオ）
11.1～24	第9回全国児童館おりがみ作品展（ギャラリー）
11.9	おりがみにつよくなる講習会（研修室） ※11月16日も開催。
11.20～23	DANCE-X 08 Dance Exchange Program／Montreal - Seoul - Tokyo（青山円形劇場）
11.22～24	ハンズオン広場「発見！体験！プレイホール」（プレイホール）
11.29	第23回小児保健セミナー「気になる親へのかかわりかたPART3～上手な話の聞き方・伝え方～」（研修室）
11.26～12.26	青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン～」（青山円形劇場）
12.7	第21回水泳記録会（プール）
12.22～H21.1.7	冬休み特別期間「ホットに元気@冬休み」 こども歳時記「クリスマス」「お正月」／パソコンでデザイン「ミニクリスマスツリーを作ろう」「わくわく☆カレンダー2009」／わいわいスタジオ「クリスマススペシャル」／冬だ！あつたかスポーツ大集合／初あそび☆だがしやタイムトラベル／新春あそびのお年玉 “目出田一家”のお正月／ゆく年くる年おすすめダンス！1・2・3！／アニメフェスタ2009／新春もちつき大会—ほか
1.2～7	第21回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン3～コーン姫をさがせ！～」（青山円形劇場）

月	日	事項
1.24・25		中西俊博 Leapingbow 2009 「Cool Groovin' Best」(青山円形劇場)
1.24・25		ドルッチャ・ドリーム (音楽ロビー・プレイホール・体育室ほか)
2.1～15		保育活動展
2.14・15		集まれ！小学生 (サタデー・ラボラトリースペシャル／ポコ・ア・ポコ土曜音楽俱楽部スペシャル／ビッグサタデースペシャル／クリエイティブコーナースペシャル)
2.19		平成 21 年度第 1 期「こどもの城の講座・クラブ」受講生受け付け開始
3.27～29		TOKYO DANCE TODAY #4 「小野寺修二／あらかじめ」(青山円形劇場)
2.27		第 3 回こどもの城次世代育成支援講習会「思春期の心身の発達を考える」(研修室)
2.27～3.1		青山円形劇場オブジェクトシアター Vol.12 「KOUSKY VI～沢則行 meets 中西俊博～ココロがやわらか不思議にうごきだす～」(青山円形劇場) ※「NORISAWA メソッド」のワークショップを 3 月 7・8 日開催 (B リハーサル室)
2.28～3.8		インターナショナルスクールの合同美術展「アートスケープ展 2009」(ギャラリー)
3.1～22		ドキドキッズ・オン・ステージ (音楽講座の発表会をかねる、ミニコンサート) 「ひらけリズム・ムービングのとびら」「集まれ！タイコのなかまたち」(1 日、B スタジオ)／「サンバ・フェスティバル！」(8 日、音楽ロビー)／「ジャワ島のガムランと踊り」(15 日、音楽ロビー)／「花のお江戸の助六太鼓」(21 日、B スタジオ)／「三味線三昧」(22 日、B スタジオ)
3.5～11		青山演劇 LABO #002 グリング「吸血鬼」(青山円形劇場)
3.14・15		こどもの城児童合唱団コンサート「こどもたちからのサウンドメッセージ」(青山円形劇場)
3.20～22		Classical ROLLY 2009 (青山円形劇場)
3.20		第 21 回新体操発表会「Discover」(体育室)
3.22		第 43 回パンパ大会 (プレイホール)
3.25～4.5		春休み特別期間「とびだせ元気@春休み」 ～めざめよ～からだ力・スポーツ力／やってみよう！つくってみよう！～造形野菜畑～／パソコンでデザイン！もりもり！おべんと BOX／みんなであそぼう！春らんまん！歌うかどには友きたる！／春満開！カモン!! みんなであそんじゃ王国／コロリン大作戦／オランダから写し絵と幻灯機がやってくる！ ジャイアント・ライト・サーカス——ほか
3.25～4.6		ニッサンゆかいな絵本と童話展～ポツケに発見！たからもの～ (ギャラリー)



2

各部の事業

体育事業部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブを中心に、そして土・日曜日、祝日および学校の季節休みなどの特別期間は一般来館児・者向けに、体育室でスポーツ遊びのプログラムとプールの開放を行っている。

子どもたちの体力低下が騒がれて久しいが、〔子どもの城〕を利用する子どもたちにいかに運動を体験させ、体を動かす楽しさを伝えるかが、体育部門の使命と考えている。楽しみながら体力向上をはかる場である。

25 m × 5 コースの温水プール、小さめのバスケットボールコート 1 面分の体育室と健康開発室がある。子どもたちの遊びが、かなり変わってきていると言われているが、体育室で見る子どもたちの表情は、今もかわらずに輝いている。

(ア) 一般利用

講座・講習会などが中心となっている体育事業部の活動のなかで、一般来館児・者向けのプログラムは、土・日曜日と祝日、学校の季節休みなどの特別期間に行っていている。

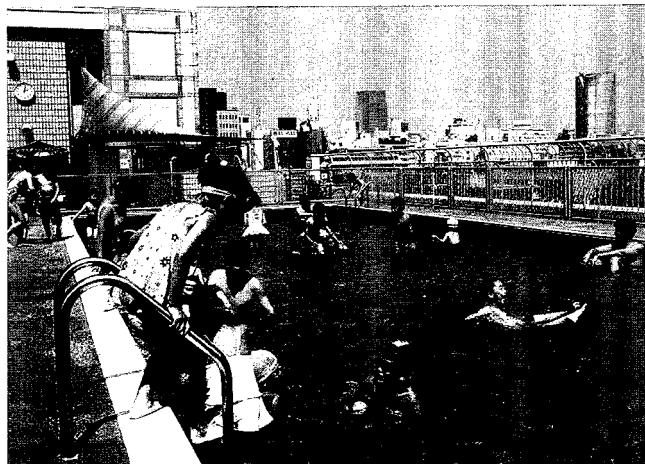
日曜日(および、その前日の土曜日の午後)は、フライングディスクを使ったゲーム、ドッジボール、サッカー、プラスチックのスティックを使うユニホック(ホッケー)、そして家族で楽しめる卓球を行った。

前年度までは、第 1 土・日曜日はフライングディスクというように、週ごとに種目を決めていたが、第 5 週の種目・ユニホックまで回らないことが多かった。本年度

は、1 日 2 種目とし、いろいろな種目を楽しめるようにした(活動一覧表参照)。「より楽しむことができる」「1 種目目は苦手だが、もう 1 種目のほうは得意だから良かった」という来館児・者からの声が聞かれた。祝日は前年度に引き続き、鬼ごっこを行った。

平日は講座・講習会などに使用しているプールも、土曜日(13 時 30 分～16 時)、日曜日・祝日(10 時 30 分～17 時)は、一般来館児・者向けに開放している。気候が暖かくなるにつれて利用者も増え、夏の時期は連日大盛況である。さらに、夏休み特別期間には、屋上遊園に“ちびっこプール”を開設して、その運営を担当。乳幼児が安心して利用できるため、夏の風物詩として人気を集めている。

健康開発室は、体力測定を有料で行っている。年齢・性別に応じて全国平均と比較し、簡単なコメントをつけて健康・体力作りに役立てられるようにしている。子どもから大人まで測定できるので、家族で互いにどのくら



屋上遊園の“ちびっこプール”

いの体力があるのか比べあう姿が見られる。大人にとっては、体力維持のよい指標となっている。

(イ) 講座・クラブなど

親子、幼児、小・中学生（「シニアスイミング」「シニア新体操」は高校生も可）を対象に、水泳・体育の講座を開講している。ほとんどの講座は週1回であるが、「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回、「シニアスイミング」は週3回ある講座枠のなかから選択して受講できるようにしている。

幼児の講座（水泳・体操）は、どれも定員に近い人数が受講しているが、小学生の早い時間の講座は空きが目立ってきた。反対に、遅い時間の講座は満員傾向にある。学校の授業が遅くまでとなり、講座時間に間に合わないことが原因と考えられる。近い将来、時間割りの見直しを検討しなければいけない時期にかかっている。

成人向けコースとして、「レディースコース（スイミング／リズム＆ストレッチ）」があり、平日の午前中に開講している。初心者から上級者まで、幅広く楽しめるように配慮している。

年度の後半には、水泳講座受講生の「水泳記録会」、新体操講座受講生による「新体操発表会」を行い、活動の成果を保護者に見てもらう機会としている。

2. スポーツ遊びプログラム

(ア) 特別期間のスポーツプログラム

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウイーク、夏休み、冬休み、春休み）の体育室の活動は、テーマを決めてプログラム作りをしている。本年度はオリンピックイヤーということで、オリンピック種目をはじめ、たくさんのスポーツを体験してもらおうと、年度始めから、長い夏休み特別期間はオリンピックにちなんだものにすることを決定し、プログラム作りを進めた。

一般の来館児・者を対象にするプログラムは、参加年

齢もさまざまであり、特に幼児にはわかりやすいように遊びを取り入れたルールにアレンジして行った。また、子どもだけではなく、親子でも楽しめるように工夫し、スポーツを身近に感じてもらうように配慮した。

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間では、「春の大運動会～楽に楽しく勝つ方法～」を行った。最近は、春に運動会を実施する学校が多く、運動会種目で勝つコツを組み込んだプログラム。前年度に引き続き、午前中は「親子であそぼ」というプログラムで、幼児や小学生低学年とその親が対象。親子体操やスキンシップ運動で楽しく過ごす時間となった。

夏休み特別期間は、北京オリンピックにちなんで「オリンピックへの道～いろいろなスポーツにチャレンジ～」。オリンピック種目を中心に、新競技やニュースポーツなど、さまざまなスポーツに焦点をあてた。スポーツを楽しむことだけではなく、スポーツの知識をレクチャーする時間を設けて、オリンピックやスポーツがより身近に感じられるようにプログラムを組んだ。オリンピック種目であるトランポリンは例年のごとく、日本トランポリン協会の協力を得て実施した。

冬休み特別期間は「冬だ！ あったかスポーツ大集合」。グラウンドで行われるウインターポーツを中心に、寒い冬をめいっぱい動いて暖かくなろう、というコンセプトでいろいろなスポーツに取り組んだ。また、ブレイクダンスの外部講師を呼んで「HOT！ ホット？ ブレイクダンス」を一日限定で行った。一般来館児・者向けのプログラムは、球技を中心とした活動が主であり、ダンス系の活動を取り入れたのは初めての試みである。集客力は全く未知であったが、大勢の子どもが参加してくれ大変盛り上がったイベントになった。

春休み特別期間は「めざめよ、からだ力・スポーツ力」がテーマ。体のいたるところにある力や能力を、運動やスポーツを楽しみながらめざめさせ、引きだすこと目的としてプログラムを展開した。午前中は「親子力」というテーマで親子の体操、運動を中心に行った。



春の大運動会～楽に楽しく勝つ方法～（玉入れ）



オリンピックへの道～いろいろなスポーツにチャレンジ～（新体操）

HOT ! ホット ? ブレイクダンス



親子 DE スポーツデラックス (ユニホック)



(イ) その他のプログラム

毎年“海の日”に、日本ライフセービング協会の協力のもと、「It's ライフセービング～たのしい夏にするために～」をプールで行っている。海の危険性や、万が一事故に遭遇したときの対処法を学習した。着衣泳の実技講習があるため、25m以上泳げる子どもと大人を対象に行つた。

夏休み特別期間を前にした土・日曜日に「集まれ小学生 !! ビッグサタデースペシャル」を行った。「ビッグサタデー」は、土曜日の午前中に行っている小学4年生以上を対象としたスポーツプログラムであるが、“スペシャル”では小学1年生からとし、ダブルダッチ（2本の縄を回してとぶ、大縄跳び）を取り上げた。外部から、プロのグループを講師に招いた。一見、難しそうに見えるが、縄に入るコツや跳び方を教わると、思ったより早くマスターでき、参加者は跳ぶ楽しさを味わっていたようだ。

JリーグFC東京とコラボレーションして行う、サッカーフェスティバルも、恒例となった。本年度は10月12・13日の2日間体育室で開催。サッカーは根強い人気があるので毎年大盛況であったが、本年度は少ない印象を受けた。原因の一つとして、いくつかの小学校の運動会に重なってしまい、毎年参加しているのに残念だという声が聞かれた。

3. まとめ

生涯スポーツとして“水泳”があげられるケースが多いようだ。水泳は一度覚えたら、そう簡単に忘れる事はない。歳を重ねても、マスターズ大会に出るくらいの泳力があり、タイムを更新するレベルの人たちにとっては、競技スポーツの領域ですらある。

水泳を長く生涯の友とする裏には「泳げる」「水泳は楽しい」という水泳に対する自信や想いがなければならない。大人になってから泳げるようになり、楽しくて毎日プールに通い、ついにはドーバー海峡を渡った年配の人はたくさんいる。

しかし、水泳だけが生涯スポーツではないと考える。サッカー、ラグビーなどの球技スポーツでも、高齢者の愛好家が楽しんでいるクラブはたくさんある。ただ、大人になってから出会ったスポーツを、生涯の友にするのはなかなか困難といえる。子どもの時、何かスポーツを経験し、楽しかった思い出が一つでもあれば、大人になって、種目が違っても再びスポーツを行うことになったとき、スムーズにその世界に入っていけるのではないだろうか。

体育事業部では、子どもたちが大人になって“生涯スポーツ”を考えるとき、「あれなら昔やったことがある」「あれなら自信がある」と言えるように、講座・一般来館児・者活動にかかわらず、さまざまな運動・スポーツを子どもたちに体験させたいと考えている。

平成 20 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	土曜日 13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:00	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル(タオル・水着)各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。 (プール)
体育室一般利用	土曜日 14:00～15:00 日曜日・祝日 14:00～15:00 16:00～17:00	第1日曜日：フライングディスク(14時)、サッカー(16時)／第2日曜日：ドッジボール(14時)、ユニホック(16時)／第3日曜日：卓球／第4日曜日：サッカー(14時)、ドッジボール(16時)／第5日曜日：ユニホック(14時)、フライングディスク(16時)。土曜日は、日曜日の14時の種目。卓球は終日卓球の自由利用(混み合う場合は各グループ20分交代で利用)。日曜日14時と16時の2回、土曜日14時に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクのフリースローイング。利用時間は土曜日が13時30分～16時、日曜日が10時～17時。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこ。(体育室)
体力測定	土曜日 14:00／15:00 日曜日・祝日 11:00／13:00 ／14:00／15:00／16:00	8種目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、小学生以上は男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は1回100円。 (健康開発室)
ビッグサタデー	土曜日 10:30～11:45	小学4年生以上を対象としたプログラム。クリケット、タグラグビー、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどの種目を2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム(試合)の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。 (体育室)
ファミリー アドベンチャー	5.18 11.16 H 21.3.22	身の回りにあるいろいろな“冒険”を家族で楽しむ野外プログラム。参加家族がふれあいながら、自然のなかの不思議を発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした“冒険”にチャレンジ。参加費=500～2,000円(1人)。 <input type="checkbox"/> 5月18日=パークアドベンチャー～なつかしのザリガニ釣りに挑戦!! (水元公園=東京都) <input type="checkbox"/> 8月10日=川遊びアドベンチャー～思いっきり川遊び (伊奈キャンプ場=東京都) ※荒天のため中止 <input type="checkbox"/> 11月16日=浅草タウンアドベンチャー～クイズハイキングに挑戦! (東京都) <input type="checkbox"/> 平成21年3月22日=パークアドベンチャー～写真オリエンテーリングに挑戦 (柏の葉公園=千葉県)
一輪車に乗ってみよう	6.15 13:30～14:15 14:45～15:30 16:00～16:45	小学校でかくれた人気の一輪車。経験がなくても乗れるように、基礎から乗り方を学んだ。指導は、(財)一輪車協会公認インストラクターの成田貴子さん。 (体育室)
ハンガリーの子どもたちと遊ぼう～スポーツ鬼ごっこで汗を流そう～	6.29 14:00～15:00 16:00～17:00	ハンガリー大使館に呼びかけ、日本にいるハンガリーの子どもたちと一緒にスポーツ鬼ごっこで汗を流した。鬼ごっこの中には、音楽事業部の協力を得て、ハンガリーの音楽などを演奏。ロビーには民俗衣装や、ハンガリーを紹介する写真パネルを展示。 (体育室)
It's スノーケリング	7.13 10:00～12:00	スノーケリングの正しい知識のもとで、安全に楽しく体験してもらうことにより、スノーケリングの魅力を知ってもらおうと、日本スノーケリング連盟の協力で実施。講師は、渡辺昭夫さん。 (プール)
元気いっぱいみんなで 体を動かそう！ (ラジオ体操 80周年)	9.23 10:30～11:45	ラジオ体操80周年にちなんで、NHKテレビ体操の講師・西川佳克さん(ピアノ:吉沢遥さん)を招き、ラジオ体操やいろいろな体操を体験。 (体育室)

名 称	日 時	内 容
ブラジルフェスタ		2008年は、日本人ブラジル移住100周年。日本ブラジル交流プログラムを実施した。
Vamos! Futebol! ～サッカーやろうぜ！～	10.12 FC東京のコーチとサッカーを楽しんじゃおう！ 10:30/13:00/14:25/ 16:10 10.13 とことんサッカー！ 10:30/11:20/13:15/ 14:00/14:50/15:35/ 16:25	12日は、来館児・者を対象にFC東京コーチによるサッカークリニック「FC東京のコーチとサッカーをたのしんじゃおう！」を開催。午前中は幼児をもつ親子を中心に、午後は小学生を対象に学年で分けて行った。13日は「とことんサッカー」。一日中、試合形式でサッカーを楽しんだ。 (体育室)
Vamos! カポエイラ	10.19 親子であそぼう！ブラジルあそび 11:00／15:00 カポエイラ 13:30／15:30	“Vamos”は、ブラジルの言葉で“○○しよう”という意味。カポエイラは、ダンスの要素も併せ持つブラジルの格闘技。「カポエイラ」では、在日ブラジル人のリマ・ウィルソン・ロペルトさんほかの指導で、カポエイラを体験。「親子であそぼう！ブラジルあそび」では、上智大学ポルトガル語講師のニウタ・ドス・サントス・ジアス・清水さんを招き、ブラジルの手遊び・歌遊びを楽しんだ。 (体育室)
親子DEばちゃばちゃ	10.31 10:30～11:30	「親子水泳」「ばちゃばちゃファミリースイム」のコースが人気を集めている。受講希望者が多く、キャンセル待ちをしている人も多い。そうした家族を対象に、一日体験コースを行った。1・2歳親子50組が参加。 (プール)
第21回水泳記録会	12.7 13:00～17:00	水泳講座生の記録会。25m完泳できる講座生が対象だが、完泳できない講座生も参加できる「チャレンジ25」も設けた。エントリー(1人2種目=1,000円)を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児33人、小・中学生114人参加。 (プール)
第21回新体操発表会	H21.3.20 13:30～16:00	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1年間の成果を発揮し、家族の前で演技を発表した。今年のテーマは「Discover」——発見する、見いだす、気づくというイメージで演技を構成し、披露した。 (体育室)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 春の大運動会～楽に楽し く勝つ方法～	4.29、5.3～6 13:00～14:00/14:30～15:30 /16:00～17:00	毎日3種目の運動会団体種目をチーム対抗戦にして実施する。必勝法やコツを伝えてレベルアップをはかった。 (体育室)
〈〃〉 パパもママもうごいて あそぼっ！	4.29、5.3～6 11:00～12:00	親子で組体操や身近な道具で楽しむ運動やゲームを行った。 (体育室)
〈夏休み〉 ビッグサタデー スペシャル	7.19・20 10:30～11:45	全館プログラム「はじまる夏休み！あつまれ小学生！！」の一環として、土曜日プログラム「ビッグサタデー」のスペシャル版を実施。19日はユニホック、20日はフライングディスク。 (体育室)
〈〃〉 オリンピックへの道～ いろいろなスポーツに チャレンジ～	7.19～8.31 14:00～15:00/16:00～17:00	オリンピック種目を中心に、北京オリンピックの新競技やニュースポーツ種目に焦点をあてた。スポーツを楽しむだけではなく、スポーツの知識をレクチャーするなど身近に感じられるよう工夫した。 (体育室)
トランポリン	8.9・10 11:00～12:00/13:30～14:30 /15:30～16:30	毎年行っている人気プログラム。競技用トランポリンを使用して、技の習得をした。指導は、日本トランポリン協会。 (体育室)
〈〃〉 体力を はかってみよう！	7.19～8.31 11:00/14:00/15:00/16:00 (日・月曜日は13:00の回あり)	身長、体重、握力、垂直跳び、肺活量、立位体前屈、反復横跳び、閉眼片足立ちの8種目を測定。1回100円。 (健康開発室)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 夏はプールだ！！	7.19～8.31 10:30～17:00	18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル（タオル・水着）各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。（プール）
〈 〃 〉 ちびっこプール	7.19～8.31 10:30～16:30	屋上に仮設プール（13.6×5m、水深60cm）を設置、一般利用。利用料200円、レンタル（タオル・水着）各200円。（屋上遊園）
〈 〃 〉 It's ライフセービング ～たのしい夏にするために～	7.21 10:00～12:00	海の安全についての学習や着衣泳を実践。先着予約制。参加費500円。協力：日本ライフセービング協会。（プール）
〈開館記念〉 親子DEスイミング	10.25 10:26、11.1・2 10:30～17:00 11.3 13:30～17:00	プール一般利用。一部にフロアを敷いて水深を浅くした幼児専用スペースを設置した。（プール）
〈 〃 〉 親子DEスポーツ	10.25・26 14:00～15:00／16:00～17:00	親子DEサッカー（幼児から学童対象／14時の回）。親子DEドッジボール（幼児から学童対象／16時の回）。いずれの回も、子どものみの参加可。（体育室）
〈 〃 〉 赤ちゃん大集合		全館事業「赤ちゃん大集合」の一環として、乳幼児親子を対象プログラムを実施。（体育室）
ごろごろハイハイ	10.29 10:30～11:00	ハイハイするぐらいの子どもを対象に、親子で体操・手遊び。
たつちたつちタッタッタッ	10.29 11:10～11:40	伝い歩きするぐらいの子どもを対象に、親子で体操・手遊び。
てくてくピョンピョン	10.29 13:30～14:00	ひとり歩きできるぐらいの子どもを対象に、親子で体操・手遊び。
It's a ベビーワールド	10.29 14:10～15:00	自由遊びのスペース。体育と保育のスタッフが親子遊びのアドバイス。
〈 〃 〉 親子DEパター	10.30・31 13:30～17:00	家族、友達と一緒にパター・ゴルフ。用具を用意してあるので、時間中は自由に楽しめる。（体育室）
〈 〃 〉 親子DEぱちゃぱちゃ	10.31 10:30～11:30	1・2歳児と親。水慣れ、水遊びなど。事前申し込み。40組まで。参加費1組1,000円。（プール）
〈 〃 〉 親子DEスポーツ デラックス	11.1～3 11:00～11:40／14:00～15:00 ／16:00～17:00	11時の回は、「親子DEあそぼ！」（親子でおにごっこや体操）。14時の回は「親子DE運動会」（運動会の種目に挑戦）。16時の回は、「親子DEスポーツ」（スポーツおにごっこやサッカーなどに挑戦）を開催。14時と16時の回は、子どものみの参加も可。（体育室）
〈冬休み〉 冬だ！あったか スポーツ大集合	12.25～27、H21.1.3～7 14:00～15:00／16:00～17:00	グラウンドで行われるウインターフィールド（サッカー、ラグビーなど）を楽しみ、温かくなることをねらいとする。（体育室）
〈 〃 〉 HOT！ホット？ ブレイクダンス	12.28 14:00～15:00／16:00～17:00	外部講師を招いてブレイクダンス。いつもは気がつかない、体のいろいろな部分を動かして大胆に踊ることを目的とした。（体育室）
〈春休み〉 ～めざめよ～ 親子力	3.25～4.7 11:00～12:00	幼児と親を対象に、親子体操を中心に行う。（体育室）
〈 〃 〉 ～めざめよ～ からだ力・スポーツ力	3.25～4.7 14:00～15:00／16:00～17:00	体のいたるところにある“力”や“能力”を、運動やスポーツを楽しみながら引き出すことをねらいとした。（体育室）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

※講座回数＝1・2期13回、3期9回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子水泳 A	(組) 1・2歳児 と親 (30)	(組) ① 30 ② 33 ③ 28	水曜日 10:00～11:00 (全35回)	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料＝1・2期各29,000円、3期20,000円。
" B	" (〃)	① 34 ② 34 ③ 32	土曜日 10:00～11:00 (全35回)	
幼児水泳 A	(人) 3・4歳児 (50)	(人) ① 29 ② 38 ③ 27	木曜日 14:00～15:00 (全35回)	単に泳法の修得だけでなく、水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期各22,500円、3期15,500円。
" B	4・5歳児 (60)	① 59 ② 57 ③ 59	木曜日 15:00～16:00 (全35回)	
" C	" (〃)	① 24 ② 32 ③ 37	金曜日 14:30～15:30 (全35回)	
" D	3～5歳児 (50)	① 49 ② 49 ③ 50	火曜日 14:30～15:30 (全35回)	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期各22,500円、3期15,500円。
" E	" (〃)	① 40 ② 39 ③ 50	水曜日 13:30～14:30 (全35回)	
幼児体育 A	3・4歳児 (40)	① 26 ② 32 ③ 27	水曜日 14:30～15:30 (全35回)	たくさんの友だちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しみながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料＝1・2期各20,500円、3期14,000円。
" B	4・5歳児 (40)	① 29 ② 25 ③ 25	火曜日 15:00～16:00 (全35回)	「幼児体育A」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料＝1・2期各20,500円、3期14,000円。
" C	" (〃)	① 20 ② 16 ③ 14	木曜日 15:00～16:00 (全35回)	



元気いっぱい、みんなで体を動かそう！



It's スノーケリング

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生水泳 A	(人) 小1～6 (60)	(人) ① 26 ② 30 ③ 28	水曜日 15:00～16:00 (全 35 回)	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4 泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10 級～1 級)。次への目標としている。 受講料 = 1・2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。
〃 B	〃 (〃)	① 45 ② 43 ③ 35	火曜日 16:00～17:00 (全 35 回)	10 級 顔つけ もぐり 息こらえ ボビング 水なれ 9 級 伏し浮き 背浮き 板キック ボディーイメージ 1 8 級 伏し浮きキック 背浮きキック ボディーイメージ 2 7 級 ノーブレクロール バックキック ボディーイメージ 3 6 級 クロール・バック (12.5) プレスト・バタフライ (キック) 5 級 クロール・バック (25) プレスト・バタフライ (リズム) 4 級 クロール・バック (50) プレスト・バタフライ (呼吸) 3 級 クロール・プレスト (タイム) 個人メドレー 2 級 個人メドレー (100) (タイム) 1 級 個人メドレー (200) (タイム) ※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の 2 講座の受講ができる。 受講料 = 1・2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円 (2 コース合計)。
〃 C	〃 (〃)	① 49 ② 39 ③ 32	水曜日 // (全 35 回)	
〃 D	〃 (〃)	① 31 ② 29 ③ 26	金曜日 15:30～16:30 (全 35 回)	
〃 E	〃 (〃)	① 53 ② 41 ③ 34	木曜日 16:00～17:00 (全 35 回)	
小中学生水泳 A	小2～中3 (40)	① 8 ② 6 ③ 7	火曜日 17:00～18:00 (全 35 回)	
〃 B	〃 (〃)	① 47 ② 45 ③ 43	木曜日 // (全 35 回)	
シニア スイミング	小1～高3 (30)	① 36 ② 28 ③ 34	火・水曜日 16:30～18:00 (全 70 回)	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4 泳法とも、自己記録の向上をめざす。指導者の推薦が必要。受講料 = 1・2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。 ※「シニアスイミングフレッシュ」の時間帯にも練習することができる。
シニアスイミング フレッシュ	小3～中3 (30)	① 32 ② 31 ③ 26	金曜日 16:30～18:00 (全 35 回)	小学 3 年生以上で泳ぎが不得意な子どものクラス。クロールで 25 m 以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90 分の集中的な練習で上達の度合いが大きかった。受講料 = 1・2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。
小学生体育 A	小1～6 (30)	① 30 ② 29 ③ 21	火曜日 16:00～17:00 (全 35 回)	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身につける。 受講料 = 1・2 期各 17,000 円、3 期 11,000 円。 ※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の 2 講座の受講ができる。 受講料 = 1・2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円 (2 コース合計)。
〃 B	〃 (〃)	① 31 ② 22 ③ 20	木曜日 // (全 35 回)	
ジュニア新体操	小1～3 の 女子 (35)	① 20 ② 20 ③ 22	水・金曜日 15:30～17:00 (全 70 回)	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初步を指導。 受講料 = 1・2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円。
シニア新体操	小4～中3 の女子 (35)	① 27 ② 25 ③ 21	水・金曜日 16:30～18:00 (全 70 回)	「ジュニア新体操」から一步進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料 = 1・2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円。
手足の不自由な子 の水泳	小1～中3 (15)	① 11 ② 11 ③ 10	土曜日 17:00～18:00 (全 35 回)	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料 = 1・2 期各 17,500 円、3 期 12,000 円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室 (太りすぎクラス)	(組) 太りすぎの 小学生とそ の親 (20)	(組) ① 22 ② 21 ③ 20	土曜日 14:00～17:00 (全 33 回)	小児保健部との協力事業。医師、栄養士による健康・栄養のチェック、体育指導者による体力チェック——3 者が協力してトータルな活動を行う。 受講料 = 1・2 期各 24,000 円、3 期 18,000 円。

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダイナミック・ヘルス・クラブ (D.H.C.)	(人) 成人 メンバー ビジター 法人	(人) 年間延べ 5,541 390 96 合計 6,027	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18 歳以上の大人的ためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金 100% オフ、会費 20% オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金 0 円、年会費 50,000 円、4 か月会費 20,000 円、月会費 5,500 円、利用料(利用の都度) 300 円。利用パス券(月 3,000 円、4 か月 11,000 円)、ビジター 1,500 円。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18 歳以上 の女性 (150)	① 45 ② 51 ③ 48	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング 3 コース、リズム＆ストレッチ 1 コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は 6 回分の追加クーポン券を発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも 4 班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から 4 泳法を身につけることを目標に健康作り。「リズム＆ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。受講料 = 1・2 期各 22,500 円 (13 回分)、3 期 15,500 円 (9 回分)。クーポン券 (6 回) 5,000 円。
マタニティ・スイ ミング	妊娠 16 週 以降の妊婦	年間延べ 233	火・木曜日 11:00～12:00	小児保健部との協力事業。水泳プログラムをとおして、妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後に健康チェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。出産や子育てにかんするレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。受講料 13,000 円 (月 7 回)、入会金 10,000 円。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子のすくすく ランド	(組) おすわりの できる乳児 と母親 (20)	(組) ① 28 ② 28 ③ 26	金曜日 10:00～11:00 (全 29 回)	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェイプアップも。受講料 = 1・2 期各 24,500 円、3 期 22,000 円。
幼児・母親体育 A	1・2 歳児 と母親 (30)	① 36 ② 30 ③ 33	火曜日 13:30～14:30 (全 29 回)	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身につける。受講料 = 1・2 期各 20,400 円、3 期 18,000 円。
〃 B	2・3 歳児 と母親 (30)	① 31 ② 33 ③ 33	水曜日 11:00～12:00 (全 29 回)	
ばちゃんばちゃん ファミリースイム	1・2 歳児 と父母、 祖父母 (30)	① 22 ② 26 ③ 20	金曜日 10:00～11:00 (全 29 回)	1 歳から始まる水泳のビギナークラス。父母、祖父母のうち 2 人と幼児の組み合わせで参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。受講料 = 1・2 期各 26,500 円、3 期 23,500 円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みこども集中水泳講習会 A	(組) 小1～中3 (50)	(組) 50	7.21～25 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。受講料=8,000円。
" B	4・5歳児 (40)	40	7.21～25 10:30～11:30	
" C	小1～中3 (50)	50	8.17～21 9:30～10:30	
" D	4・5歳児 (40)	40	8.17～21 10:30～11:30	
ガンバ 2008	小1～3 (30)	30	8.17～21 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身につける、体操の苦手な子どものための5日間連続の体操教室。受講料=9,000円。
春休みこども集中水泳講習会 A	小1～中3 (50)	50	H21.4.1～5 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。受講料=8,000円。
" B	4・5歳児 (40)	40	H21.4.1～5 10:30～11:30	
成人水泳集中講習会	18歳以上 (月20)	延べ 96	水・金曜日 18:30～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。受講料=10,000円(毎月7回)。
こども一日ドック	小1～中3 (10)	14	7.26 12:00～17:30	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。



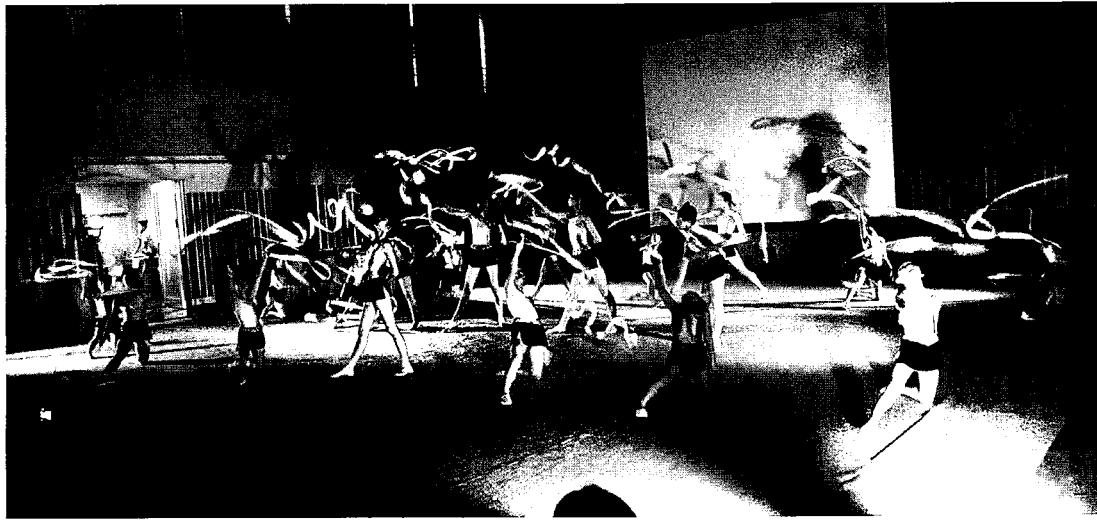
親子 DE ぱちゃぱちゃ



第21回水泳記録会

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
スポーツキャンプ	7.28～31	大自然に囲まれたニュー・グリーンピア津南でテニスや球技などのスポーツやトレーニングをとおして、全力を出した爽快感、充実感を味わえるキャンプ。自分の体の感覚やバランスをしっかりと感じ、体力的にも、精神的にも成長することを目的とした。 (新潟県：ニュー・グリーンピア津南)
新体操夏合宿	8.3～6	緑深い矢祭町の自然に囲まれた環境のなかで、地域の人たちの協力も得て、伸び伸びと楽しく、充実したプログラムを行うことができた。今回は初めて、滝を見ながらの山登りにも挑戦した。講座生 24 人、OG2 人、スタッフ 4 人の計 30 人が参加。 (福島県：東白河郡ユーパル矢祭)
健康スポーツ教室～太りすぎクラス～夏合宿	8.18～20	週 1 回 1 時間の講座とは別に、長時間運動を続けることで体を動かす楽しさを改めて知ることが目的。2 泊 3 日のキャンプのなかで、登山や野外炊事などに挑戦し、食と運動の両面から自分自身を意識できるプログラムを実施した。 (東京都：山のふるさと村)
チャレンジキャンプ	8.27～30	“何にでも挑戦しよう！”が合言葉の低学年体験キャンプ。石割山登山がメインプログラムであったが、雨天のため中止。室内でのゲーム大会をおおめに行なった。小学 1 ～ 3 年生 44 人が参加。 (山梨県：東京 YMCA 山中湖センター)
スキースクール パート 1 1 期 〃 2 期	12.26～29 H21.1.4～7	1 期はスキーレッスンに最適な北志賀高原よませスキー場（長野県）。2 期はファミリー向けゲレンデで安心して楽しめるニュー・グリーンピア津南（新潟県）。2 期は新学期が始まる前なので、往復の疲労の軽減をはかるため新幹線を利用。2 期は中学生のみスノーボードのレッスンあり。小学 2 年生～中学 3 年生が対象。1 期は 44 人、2 期は 49 人参加。
スキースクール パート 2	3.27～30	小学 1 ～ 3 年生の低学年が対象のスキースクール。パート 1 と異なり、スキーのみならず「班対抗雪合戦」「雪上運動会」などクリエーション的なプログラムが多く含まれている。低学年対象のキャンプなので、時間に余裕をもって行動。レッスン時間も考慮した。今回は、エコロジーについて話をしたり、実践をしてみた。41 人が参加。 (新潟県：ニュー・グリーンピア津南)



第 21 回新体操発表会



ブラジルフェスタ～Vamos! カポエイラ

3. その他

〈動く子どもの城〉

名 称	日 時	内 容
親子ふれあい体操 “1・2・3”	6.17・18	午前中は「親子ふれあい体操1・2・3」。84組の親子が参加。0～3歳前後と年齢幅が広いため、みんなで楽しめる鬼ごっこやパラバルーンを行った。さらに、月齢にあわせたスキンシップ体操を実施した。午後の指導者研修会には60人が参加。基本的な運動や身近な道具を使っての運動を紹介。質疑応答を行った。 (宮城県気仙沼市立赤岩児童館)
すくすくスキンシップ	6.22・23	子育てを豊かに楽しく行うことを目的に、ふれあいの方法を指導。午前中は23組の母子が参加し実技。午後は、指導者に、講座のビデオを見せながら、指導方法のポイントを具体的に伝えた。参加23人。 (新潟県長岡市多世代交流館になにーな)
身近な道具でスポーツ あそび	7.9・10	浮かせて遊ぶ新聞紙、跳ばないなわ、力を使うタオルなど、身近な道具を使った運動遊びを紹介。さらに、参加者が遊びを考えて発表。10種類の遊びのプランが出され、プログラムを考えるきっかけになったのではないか。参加24人。(名古屋市とだがわ子どもランド)
親子ふれあい体操 “1・2・3”	9.5・6	子育て支援センター職員、保育士および児童厚生員向けの研修では、2人組になり実技。指導のポイントを伝えながら、親子運動を数種類紹介。38人参加。46組の親子を対象に行った「親子ふれあい体操1・2・3」では、動物模倣遊びなどをを行い、最後にパラバルーンに挑戦した。 (山形県鶴岡市子育て支援センター)
身近な道具でスポーツ あそび	9.20	稚内市東地区の児童館が合同で行う祭りのなかで「身近な道具でスポーツあそび」を実施。幼児から学童まで約300人が参加。スペースの関係で、走る要素がある運動は避けた。夕食後の指導者研修会には、26人が参加。 (北海道稚内市東地区活動拠点センター)
親子ふれあい体操 “1・2・3”	10.30・31	午前中は、親子70組72人を対象に「親子ふれあい体操1・2・3」。親の体を使ったアスレチック、親子で協力しながらする体操、タオルやパラバルーンを使った遊びを行った。午後は、午前中のプログラムを中心に、鬼ごっこやフライングディスクを使った遊びを加えて、指導者講習。 (山形県酒田市児童センター)
すくすくスキンシップ	11.10	午前中は「お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ」。27組の母子が参加。6か月から2歳半までの子どもたちが手遊び歌、ふれあい体操などを楽しんだ。午後は指導者研修会。ほとんどの参加者が、午前中の実技指導を手伝っていたので、実践のイメージをもちつつ、質疑応答を中心に研修を実施。参加20人。 (埼玉県所沢市立児童館)
おにごっこで体力づくり	11.19	午前中は、「子どもたちの体力は今……」の講習会を実施。子どもたちの現状、体力低下の原因、運動の必要性を講義。午後は、身近な道具を使ったスポーツ遊びの紹介など。鬼ごっここの理論について解説し、実践した。また、グループ分けして、新しい鬼ごっこ作りにも挑戦した。主催は、山梨県福祉保健部児童家庭課。 (山梨県立青少年センター)
身近な道具でスポーツ あそび	H21.2.7、9	市川市中央こども館で、事前予約者と当日の利用者を集めて「身近な道具でスポーツあそび」を実施。後日、指導者研修会を実施。会場のつごうで、走る種目の実技指導はできなかった。タオル、新聞紙を使う種目を多く紹介した。 (千葉県市川市中央こども館)

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
乳幼児の運動遊びと関わり方	10.6	新潟市総合福祉社会館
スポーツレクリエーション教室	6.22／11.18／H21.2.17	東京都大田区立南雪谷児童館
すくすく広場育児教室	6.18／11.22	東京都三鷹市子ども家庭支援センター
秋田県児童館等連絡協議会	7.11	秋田県大館市中央公民館

プレイ事業部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

プレイ事業部の活動は、さまざまな〈あそび〉のプログラムをとおして、子どものより良い成長発達を願い、次のような考え方で活動をすすめた。

①子どもの発達年齢や遊びの種類を考慮した、遊び環境の整備 ②さまざまな児童文化財を素材にしたプログラムの提供 ③子ども同士の交流を促進するプログラムの開発、提供——この3つの基本機能に時代や社会のニーズに合わせた内容を加え、〈あそび〉が〈まなび〉につながることを念頭に置きながら、年間のプログラム活動を構成した。

活動スペースは、屋内の広い遊び空間であるプレイホールを中心とし、屋上游園やパソコンルームと幅広く、さまざまな遊びのコーナーとプログラムを用意した。また、夏休みと冬休みの特別期間には、自然のなかでのキャンプ活動も実施するなど、多くの子どもたちが一緒にになって、心から遊びを楽しめるように活動をすすめた。

2. プログラム活動

(ア) 一般来館児・者向けプログラム

平常期間に定期的に行っている「週間事業」と、子どもたちに伝えていきたい日本の伝統行事“歳時記”に合わせて行う「季節行事」、さらに、“家庭での家族遊びへの提案プログラム”として「ファミリープレイタイム」を開催した。

「週間事業」は水曜日から金曜日に、毎日異なる内容で開催。人形劇、影絵、紙芝居などを週替わりで行う「み

んなのにこにこ広場」(水曜日)、週ごとに作品を変えて口承で折り方を指導する「おりがみあそび広場」(木曜日)——いずれもボランティアが中心となった、児童文化財を素材にした活動。「金曜開店！あそびやさん」(金曜日)は、小さな部品のものや、手先を使ったり試行錯誤できるブロックなど、普段とは異なるおもちゃを週替わりに用意した。

「季節行事」は、日本の歳時記にあわせて、お正月、節分、ひなまつり、七夕のプログラムを実施した。ボランティアの協力も得て、本来の由来を伝承することはもちろん、親子やその時に出会った友だち、スタッフなどと体験を共有することで、子どもが心豊かに育っていくことを願って実施している。

「ファミリープレイタイム」は、“親子・家族で遊ぶ”ことをテーマに、工作やゲーム大会、言葉遊びなど、親子や子ども同士の交流が深まるものなど、“家族遊び”的提案プログラムとして実施。親子・家族で参加し、子どもと大人がかかわり合い、一緒に楽しむことができる場面は、貴重な機会となっている。

(イ) 講座・グループ活動・野外活動など

「ユースクラブ」「キッズクラブ」の2つの講座を実施した。どちらもメンバーの多くが前年度からの継続者であり、クラブへの帰属意識も学年が上がるにつれて強くなっている。上級生から下級生へ、クラブの活動方針や雰囲気を伝えていくことが多く、メンバー同士の働きかけをどのような形で支援していくかが、本年度の大きな活動方針となった。

「キッズクラブ」は、小学1・2年生のころから継続

して参加してきた子どもたちの多くが、最上級生の 4 年生となることをふまえて、リーダーシップをとりながら下級生とともに活動していくように、早い時期から働きかけた。4 年生たちがまとまるには、多くの時間がかかったが、最後にその成果を、下級生たちに見せることができた。

「ユースクラブ」では、活動内容を決める企画会議を行なう際、最上級生の中学生 3 年生がリーダーシップをとっている。しかし、多くが高校受験のため、十分に参加できない状況であり、2 期後半までのプログラムはスタッフ側が提案し、実施していく形をとらざるを得なかつた。改めて、中学生 3 年生の存在の大さを感じた 1 年であった。

「グループ活動」は、保育所・幼稚園・学校向けの活動である。“ごっこ遊び”“劇遊び”などのさまざまなプログラムをとおして、豊かな心をはぐくむと同時に、グループの子ども同士が、仲間意識を感じられるようになることを、主たるねらいとしている。「劇遊び 忍者修行道場」20 回、「みんなであそぼうパペットランド」10 回、「こどもの城オリンピック」8 回、「劇遊び 森へいこう」5 回、「みんないっしょに」5 回の計 48 回の活動を行なった。

本年度は、オリンピックイヤーであったこともあり、「こどもの城オリンピック」の希望が多く、実施回数が増えた。子どもたちにオリンピックのイメージが残っていることもあり、“オリンピックごっこ”に汗をながし、仲間に声援を送っていた。

また、毎年参加している団体からは、新しいプログラムの要望が寄せられている。一般活動や〈動くこどもの城〉などの実績から、新しいプログラム開発を検討していきたい。

夏休み、冬休み特別期間には「野外活動」も実施した。初の試みとして、「ちびっこ冒険団」に高校生ボランティア L.I.T. の女子 5 人の参加があった。小 1 ~ 3 の参加者にとっては身近なお姉さんで、とても慕われていた。高校生たちは、子どもたちの可愛さ、純粹さを体いっぱいに感じながらも、生活やプログラムの準備やサポートをする機会も多く、ボランティアの役割に気づくきっかけにもなっていた。また、高校生が一生懸命に取り組む姿に、大学生や社会人ボランティア多くの刺激を受けた。高校生の参加はキャンプにとって多くの効果があった。

ここ数年、ボランティア確保の厳しい状況が課題となっている。新たな世代を取り込むことで、新しい組織作りも視野に入れながら、次年度のボランティア確保について考えていきたい。

小学校では、平成 23 年度からの学習指導要領の改訂に伴い、1 週間程度の自然体験活動、集団宿泊活動を開けるよう、環境の整備が行われている。自立心や意欲に欠ける青少年の増加が問題とされるなか、直接体験の不足、希薄な対人関係、生活習慣の乱れなどがその原因として考えられると想われる、その対応策として体験活動の必要性が高まっている現状がある。今後さらに野外活動の意味・意義の確認やプログラム開発、ボランティア養成などを、積極的に取り組む必要性を感じている。

3. 「はてな？」を楽しむ ～科学遊び サタデー・ラボラトリー～

「サタデー・ラボラトリー」は、学校の完全週 5 日制の実施をきっかけに、土曜日の小学生以上の子どもたち向けのプログラムとして開始し、7 年目を迎えた。ラボラトリー（研究所）の名前のとおり、科学遊びを中心に行なうプログラムで、毎回テーマを替えて、遊びながら物事の不思議さや「こうしたらどうなるかな？」という工夫や試行錯誤を楽しむことをねらいとした。

取り上げるプログラムは大きく 2 種類。一つは“科学・実験的なもの”、もう一つが“実体験するもの”である。

“科学・実験的なもの”的プログラムとしては、「あぶりだし」「磁石」「やじろべえ」「ポンポン船」などを実施した。

代表的なプログラムとして「あったかいぞ！ カイロを作ろう」がある。市販の簡易カイロは、鉄がさびるときに放出する酸化熱を利用している。材料は、鉄粉と食塩水など。材料をはかりで計量して、和紙の封筒に入れると手順で作成する。ただのカイロ作りの遊びでなく、実験として楽しめるように、温度計と時間ごとに温度が自由に記入できるグラフを用意した。道具に気づいた子どもたちがカイロの温度を測り、グラフに記入し始めると、まわりの子どももまねし始める。すると、カイロによって、温度の上がる早さや、出せる最高温度が違うことに気づきはじめるのである。

鉄粉と食塩水の比率によって、温度のあがり方に違いが出ることを伝えると、子どもたちは「こうしたらどうなるかな？」と考えながら、比率を変えて何度もカイロを作っては実験を楽しむのである。

もう一つのテーマ、“実体験するもの”では、「紙を漉く」「縄をなう」「火おこし」「ご飯を炊こう」などを実施した。

「ご飯を炊こう」では、炊飯器を使わずに、鍋でご飯を炊く体験をした。子どもたちに向けた説明では、火加減のことや、炊きあがりの見極め方を伝え、「炊きあがったら自分で判断して火を消すこと」と、スタッフが炊

きあがりの瞬間を教えないことを念押しした。炊き始めた子どもたちは、真剣そのもの。鍋と時計を交互に見て、火の様子や湯気の出具合を観察する。炊きあがりの時間が近づくと、焦げの臭いがしないか鼻を近づけ、湯気を凝視するなど、驚くほどの集中力で鍋に臨む姿が見られた。そして、ふたを開けた瞬間、鍋のなかの炊きあがったご飯を見た子どもから、「やったー」の声があがつた。

今、子どもたちの身の回りには、さまざまな電化製品があふれている。例えば、電子レンジ。電波で食品のなかの水の分子を激しく振動させることで、食品を温めるという仕組みの機械である。しかし、その仕組みを知らないでも、食品を温めるには、ボタン一つ押せばすんてしまう。まきや炭の火で調理していた時代から比べると大変便利になった。反面、火加減を調整するための観察能力や、火を調整する技術などが失われている。

他にも、仕組みを知らずにその機能だけ利用している機械が、たくさんあるのが現代である。さらに機械も、機能が複雑化して、一般人にとって完全にブラックボックス化している。しかし、そこには、科学的な仕組みやそれを利用してきた、先人たちの工夫や知恵がこめられているのである。サタデー・ラボラトリーでは、科学的な仕組みにふれて、不思議だと感じてもらうことを大切にしてプログラムを構成した。

本年度は、通常実施の35回に加え、夏休み特別期間の「はじまる夏休み！あつまれ小学生!!」のなかで「サタデー・ラボラトリーまつり」を5日間実施、さらに2月にも「集まれ小学生」のなかで「サタデー・ラボラトリースペシャル」を2日間実施した。

「集まれ小学生」は、前年度から実施しているプログラム。サタデー・ラボラトリーのほかに、「ビッグサタデー」(体育事業部)、「ポコ・ア・ポコ土曜音楽俱楽部」(音楽事業部)、「クリエイティブコーナー」(造形事業部)という、土曜日を中心に実施している小学生向けプログラムの特別版を集めたものである。統一のポスターやちらしを制作。新たに〈発見カード〉という、小学生向けプログラム共通で、通年使える“スタンプカード”的使用も開始した。

これらの小学生向けプログラムのほとんどが、当初は学校の完全週5日制にともなう、土曜日対応策として開始されたが、土曜日の休日も完全に定着した今、土曜日のみが小学生にとって魅力ある〔子どもの城〕という状態に留まるのではなく、小学生がいつきても楽しい〔こ

サタデー・ラボラトリー「ご飯を炊こう」



どもの城〕となるよう土・日曜日で平均化をはかるなど、小学生プログラムの再構築も必要となっている。

4.まとめ

本年度、「遊びと学びのワークショップ～くらやみディスカバリー～」を夏休み特別期間プログラムとして実施した。暗やみの体験と、光の遊びをテーマにした活動で、多くの参加者を得て実施することができた。

このプログラムは、真っ暗な空間が必要なため、光を遮断しやすい、コンピュータプレイルームを使用することにした。そのため、コンピュータプレイルームのプログラムを、プレイホールの一角に一時的に移設した。施設のさまざまな活用という点と、今後の新たなプログラムの可能性を広げることができた活動となった。

年度の後半には、小学校4年生以上の子どものための遊び場である「高学年コーナー」を「小中学生コーナー」として対象年齢を広げ、新たな遊び場所としてオープンさせた。ビリヤードに似たバンパーや、サッカーゲームのほか、今までなかったオセロや将棋などのテーブルゲームも用意した。小学校1年生から利用できるように対象年齢を引き下げた結果、今まで以上に多くの子どもたちや親子でにぎわう場所となった。

ここ数年、プレイホールにおいても、乳幼児親子を含めた幼児の利用割合が増加していること、さらに、プレイ事業部の〈動く子どもの城〉のプログラムとして、乳幼児親子のための「ぽかぽか広場」をスタートさせたことなど、対象年齢の幅が広がった年でもあった。

今後も、遊び場の設備やプログラム内容を、上手に見直しながら、より多くの利用者に、魅力的な活動を提供できるように考えたい。

平成20年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

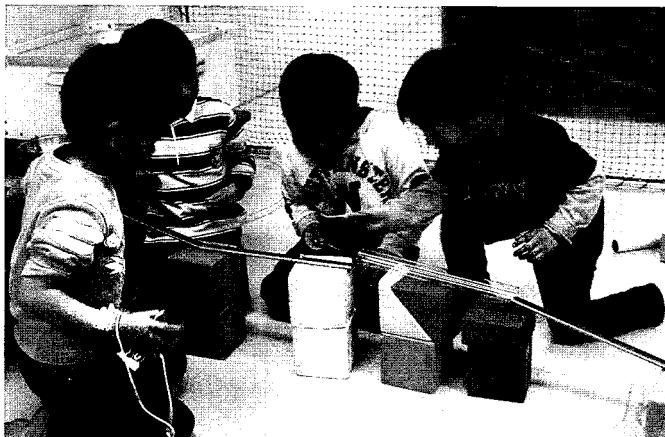
名 称	日 時	内 容
みんなのにこにこ広場	水曜日 15:00～15:30	人形劇・紙芝居・影絵を週替わりで上演。いずれも女性ボランティアが協力。小さい子どもはお母さんの横に座り歌と一緒に口ずさみ、幼児は客席の前に集まってじっと聞き入っていた。毎週楽しみに、時間に合わせて来る子どももいる。 (プレイホール)
おりがみあそび広場	木曜日 14:30～15:30	折り紙の折り方を伝えることをとおして、子どもと子ども、親と子のコミュニケーションの場になることがねらい。女性ボランティアが協力。月ごとにテーマを設け、折るものを選んだ。常連の子どもたちが増え、3期ごろから会場準備の手伝いをしてくれる子ができて、子どもと一緒に広場を作っていくことができた。また、教わった折り紙を、自分よりも小さな子や大人に教える姿もあり、広場の一員として愛着を持って参加してくれたようだ。本年度のテーマは次のとおり。4・7・1月「季節にちなんだもの」、9・10月「乗り物」、11・12月「食べ物」、2月「動物」、それ以外の月は「遊べる折り紙」。 (プレイホール)
金曜開店！ あそびやさん	金曜日 開館時間中	つみき、ブロック、バランスゲームなど、期ごとに3～4種類のおもちゃを週替わりで体験してもらった。 1期=無限つみき／モノブロック／バランスゲーム（サルも木からおちる、ロバの荷物運び、荷物積み） 2期=ドミノ／組合せ（動物ドミノ、Me Too）／汽車／さかなつり 3期=ぶい（つみき）／こま／モノブロック (プレイホール)
おはなし人形広場	日曜日 15:00～15:30	月1～2回、プロやアマチュアの劇団による人形劇やパネルシアターの公演。会場をプレイホールに移して2年目。利用者にも定着してきている。時間になると、幼児～小学校低学年を中心に大勢の親子が集まり、おはなしの世界を楽しんでいる。遊び場と直結するオープンスペースで出入りがいつでもできるからか、乳幼児も親子で気軽に見ていけるようだ。終演後に、演者が見送りいでてくると「ありがとう」「たのしかったよ」と声をかける子どもたちもいて、人形劇を身近に感じてもらうことができた。劇団公演回数は21回。 (プレイホール)
サタデー・ラボラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受け付け時間)	小学生以上を対象に、科学遊び・映像遊びを中心とした直接体験を重視したプログラム。AV事業部と共同で毎週異なったプログラムを実施。44ページ参照。 (プレイホールほか)
ファミリー プレイタイム		親子・家族で参加してもらうプログラム。いろいろな遊びを親子と一緒に体験し、遊びの楽しさや家族の交わり、大切さを改めて感じてもらうことが目的。 (プレイホール)
親子でチャレンジ ゲーム	5.18 12:30～16:00	「つみきつみ」「ボールうつし」「めくってポン」「ふわふわうかし」「空中ブランコ」「ぐるーりひとりたび」の6つのチャレンジゲームを実施。
まゆ玉コロコロ	6.29 12:30～16:00	ビー玉とアルミホイルをつかってコロコロ転がるまゆ玉を作り、作ったものでいろいろなコースを転がして遊んだ。
野菜スタンプで カードをつくろう	9.15 12:30～16:00	にんじん、オクラ、ピーマンなどの野菜をスタンプにして、カードを制作した。敬老の日にちなんで、おじいちゃん・おばあちゃんへの手紙としても提案。
みつけてあそぼう	10.26 12:30～16:00	プレイホールに隠してある、のりもの・動物・数字を探すプログラム。好きな課題を選んで、見本と同じのりものの絵を探したり、見つけた数字でダイヤル錠を開けたりした。
もじであそぼう	H21.3.20 12:30～16:00	「お店やさん」にならんでいる品物を5つ考えて、文字チップ（ひらがなが1文字ずつ切り離してあるマグネットチップ）を並べる。OKがると、「もじの町カード」（道路と店の絵が並んだ絵のカード。つなげると地図になる）がもらえる。

名 称	日 時	内 容
〈七夕〉 天までとどけ ねがいごと	7.3・4 7.5・6 (受け付け時間)	13:00～16:00 11:00～16:00 本年度は、仙台七夕飾りの「くす玉・吹流し」飾りを紹介し、その飾りにヒントを得たワークショップを行った。ユニット立体折り紙で小さなくす玉を作り、願いごとの短冊を通して笹竹や七夕の紹介パネルコーナーに飾り、キラキラゆれる短冊の下で過ごせるようにした。また、大きなくす玉飾りをつくり、プレイホールの入口からワークショップの会場までをつないだ。参加:614人(4日間)。 (プレイホール)
ハンスオン広場 「発見！体験！プレイホール」	11.22～24 (受け付け時間)	11:00～16:00 過去にプレイホールで行った3つのプログラムを同時に実施。「おしろマーケット」は、お店屋さんと買い物をする人に分かれ、ままととの食べ物やお菓子の空き箱などを使った買い物ごっこ。「空気砲バンバン」は、的あてだけでなく、サッカーやボウリングなど、空気砲を使ったさまざまな遊びを楽しんだ。今回新たに試みとして、〈カブラ〉という同じ形をした、たくさんの積み木で遊ぶ「つむつむワールド」を行い、集まった子どもたちで共同作品を作るワークショップを実施した。どのプログラムも連日多くの参加者があった。 (プレイホール)
〈節分〉 節分会大まめまき大会	H21.1.31・2.1 (受け付け時間)	15:30～16:30 恒例の豆まき大会。節分の由来を参加劇仕立てで紹介し、子どもたちと一緒に豆まきを行った。怖さを克服して、スタッフやボランティアがふんする鬼に一生懸命豆を投げたり、鬼が降参した姿を達成感あふれる様子で見る姿は、この季節行事の大切さを感じさせる場面である。参加者には、お手伝い役をやって出てくれた年男年女の子どもから福豆が配られた。参加:281人(1月31日)、343人(2月1日)。 (プレイホール)
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり ～プレイホールでひな めぐり～	2.28～3.1 3.3 (受け付け時間)	11:00～16:00 12:30～16:00 日本の季節行事として、ひなまつりの由来を伝える。本年度は、「ひな壇」に焦点をあてた。遊びは2種類。おひなさま・お内裏さま、三人官女、五人囃子の10人に折り紙や千代紙で着物を着せる「ひな壇カード作り」と、11問のひな壇にちなんだクイズを楽しむ「ひなまつりクイズ」。7段飾りのひな壇と、つるしひな(女性ボランティア・布おもちゃグループが制作)を飾った。参加:636人(3日間)。 (プレイホール)
サタデー・ラボラトリー スペシャル「発見！音の 不思議」	2.14・15 (受け付け時間)	12:30～16:30 全館事業「集まれ小学生」のなかの1プログラムとして、AV事業部と共同で実施した。 (プレイホール)
第43回パンパード大会	3.22 小学生の部 中・高生の部 (受け付け時間)	10:00～12:30 14:00～15:00 プレイホールの小中学生コーナーにある遊具“パンパー”的大会。小中学生コーナーに集う子どもたちのさらなる交流促進をめざして実施した。小学生の部10人、中高生の部4人が参加し、パンパーをとおして楽しいひとときを過ごした。 (プレイホール)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ゴールデンウイーク 人形劇フェア	4.26・27、29 ワークショップ 11:00～16:00 (受け付け時間) 人形劇+キッズ劇団上演 ①11:30 ②13:30 ③15:00	大学にある児童文化研究会などのサークルのネットワーク「じゃんぐるじむ」の学生とそのOB・OGなどで構成されている「パパットマーケット」の協力を得て、「人形を“つくる”、作った人形で“あそぶ”、人形劇を“みる”」催しを実施した。「作ってあそぼう」では、口がパクパク動く発泡球を使った「パクパク人形」と「紙パック人形」を制作。人形が完成し、三々五々集まってきた子どもたちは、自由な発想でおしゃべりを楽しみながら、自然とお話の世界を作り出していた。「わくわくパパットショー」と題した人形劇の公演は、子どもたちが作ったものと同じ形の人形が登場するとあって、人形劇をより身近に感じたり、お話の世界により入り込みたりしたようだ。事前に集まってきた子どもたちが人形劇の練習をし、発表する「キッズ人形劇団」の活動は、2年目となり、子どもたちの自由な発想に指導にあたった学生も一緒に楽しんでいる姿が多く見られた。 (研修室)
〈 〃 〉 こどもの城風雲録 ～暗黒神凱羅の野望～	5.3～6 (受け付け時間)	11:00～16:00 正義の忍者になって【こどもの城】に現れた魔物を倒そう——物語の世界で遊ぶゲーム大会。忍者になるための修業ゲーム、技に磨きをかけるための武者修行の旅、そして映像によって演出された魔物との対決の3部で構成。子ども同士の直接交流をはかるために、子ども自身が師範となって道場を開き、ほかの子どもに修業させるというシステムを取り入れた。ボランティア・企画研修部・AV事業部と協同で実施。 (ふしげが丘、Bスタジオ)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 サタデー・ラボラトリー まつり	7.19～23 13:00～16:00	「ニットに挑戦～リンリンせみ」(19日)、「3面ソーマトロープ」(20日)、「スーパー糸電話」(21日)、「空飛ぶおもちゃストローフライヤー&紙トンボ」(22日)、「空飛ぶおもちゃストローフライヤー&浮羽ウイング」(23日)に加え、「クイズ100問答えてラリー」(19～23日)を行った。また幼児コーナーとして、夏向けの絵柄の用紙を加えた「ソーマトロープ」を実施。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 くらやみディスカバリー	8.18～27 11:00～17:00 (受け付け時間) お話会 14:00～14:30 パズル de ミッション 16:30～17:00	暗闇を感じる遊び、暗闇でこそ楽しい遊びがテーマ。暗闇にするために、プレイホール奥のコンピュータプレイルームを主な会場とした。常時遊べる、畜光・螢光の作用を利用した手作りの「光るコマ」、手影絵などで遊べる「影絵」、懐中電灯とレンズなどを利用した手作り投影機で絵を大きく写すという「写し絵」、暗闇で光る「ペンダント作り」。集って遊ぶ、ブラックパネルシアターを中心としたお話会「わいわいシアター」、来館児がその場でチームを作り暗い部屋に散らばったパズルの破片を協力して元に戻すという「パズル de ミッション」を実施。子どもも大人も非日常の空間と遊びを楽しんでいた。 (プレイホール)
〈 〃 〉 第42回パンパー大会	8.30 小学生の部 10:00～13:15 中・高生の部 14:00～15:30	プレイホールの高学年(現・小中学生)コーナーにある遊具“パンパー”的大会。小中学生コーナーに集う子どもたちのさらなる交流促進をめざして実施した。小学生の部9人、中高生の部6人が参加。夏休みということもあり、大会前に練習に通う姿も見られ、大会以外のところでも交流している姿も見られた。 (プレイホール)
〈開館記念〉 わくわくパペットランド	11.1～3 12:30～16:30 (受け付け時間)	小さなフライパン、しゃもじ、たわし、布団たたきなど、身近な生活用品に目玉をつけて“表情”をもった簡単な人形で遊んだ。作るコーナーは、目玉をつけることを中心にし、装飾はあらかじめ準備するなど簡略化した。遊ぶことに重点を置き、遊びコーナーを“家族で過ごす家”に設定。段ボール箱や低い小さめのテーブル、布などを家具に見立て、簡単な舞台も設置した。遊んでいる人も見ることができるよう、舞台をビデオカメラで撮影し、モニターに映し出した。参加者：子ども245人、大人179人(3日間)。 (プレイホール)
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉 ～目出田一家のお正月～	H21.1.3 1.4～7 13:00～16:00 11:00～16:00 (受け付け時間)	世代を超えて家族や友だちと交流しながら、のんびりお正月を楽しめるような温かいイベントをめざした。室内では、あやとり、かるた、すごろく、おはじき、べーごま、めんこなど、室外では、空中で回すこまのディアボロと缶ごまのコーナーを設置。各コーナーにスタッフ・ボランティアを配置し、来館児・者の交流の促進、遊びを伝承する役割を担った。1日1回16時から、大勢で行うかるた大会「遊びの新年会」を開催。家庭では体験することのできないダイナミックなかかるたゲーム3種類を行った。ボランティアとの共同プログラム。参加：約800人(5日間)。「遊びの新年会」参加：約100人(5日間)。 (プレイホール・屋上遊園)
〈春休み〉 コロリン大作戦	3.25～4.5 開館時間中	玉転がしコース専用の積み木や転がるおもちゃで遊ぶ「コロリンコースで遊ぼう」と、紙筒やハンガー、菜箸など身の回りのいろいろな素材をどう組み合わせればビー玉が転がるか工夫する「コロリンコースを作ろう」の2コーナーを設けた。小学生の来館が多い時期だけに、友だち・家族でコース作りに熱中する姿が多く、どちらのコーナーにも力作ができていた。土・日曜日の夕方は、「コロリンコース作り大会」を「コロリンコースを作ろう」コーナーで開催。決められた高さのスタートから床に着くまで、ビー玉が長い時間転がっているコースを作るというテーマで、グループ対抗試合を行った。距離を長く取れないという制約のなかで、制限時間内でコースを組み、床になかなか着かない工夫をした。子どもたちのアイデアに驚かされた。遊びをとおして創意工夫する楽しさを感じてもらった。 (プレイホール)



コロリン大作戦

〈パソコンルーム〉

名 称	日 時	内 容
デコプレート	4.23～5.11	文字デザインソフトを用いて、パソコンで文字装飾をした。自分でデザインした文字やイラストを印刷し、パネル板にはりあわせて、ドアプレートやネームプレートなどの実用品を作成。できあがった作品を手に、部屋に飾るのを楽しみにしていた。
うつしトルトルなぞってアート	5.13～6.9	ペントタブレットを使用して、写真をなぞって書く、写し絵遊び。今回は「とれとれハイポーズ！」。人間の体の形をなぞるプログラムとした。野球選手がスイングしている写真などはなぞるのが難しく、コツをつかむまでに時間を使っていた。できあがりを見るとかなり迫力のある作品となり、うれしそうに持ち帰る姿があった。
ネイチャーケイズ	6.10～7.13	パソコンの鳥と花の図鑑を使って、色や形、大きさといった特徴から、それぞれの名前を調べるプログラム。クイズ形式の問題に、全問正解をめざして一生懸命取り組んでいた。親も子どもと一緒に問題を解いている姿が見られ、親子の会話もはずんでいた。
ジャングル☆カメラ	7.15～8.8	ジャングルの風景写真に、動物や植物などの写真をはりつけて、自分のイメージするジャングルの写真を作るコラージュ遊び。カラフルな花をたくさん使ったり、実際にはいない動物をはりつけたりして思い思いに楽しんでいた。
マジックピクチャー	8.9～9.17	あらかじめ用意した写真を使い、画像処理ソフトを使って色調を変えたり、画面をゆがめたり、絵画風にしたりして作品を作った。色や描画タッチを変えることで不思議な作品に仕上がり、子どもたちもいろいろな機能を試す様子がみられた。
ジオラ街つく	9.18～10.21	パソコンで壁や窓を自由にアレンジしてデザインを楽しみ、プリントアウトしたものを工作して、ビルを作るプログラム。完成したビルは、パソコンルームに設置したジオラマに建ててみんなで街作りを楽しんだ。
パソコンことばあそび の A★B★C	10.22～11.30	パソコンとしりとり対決をしたり、複数の言葉を聞き分けたり、5つの言葉遊び（しりとり、アナグラム、4 Wあそび、暗号解読、聞き分けクイズ）を実施。文字を覚えたての子どもも、しりとりや文字の並べ替えをするアナグラムを大人と一緒に楽しんでいた。
ミニクリスマスツリー をつくろう	12.2～25	クリスマスツリーをパソコンでデザインし、季節の飾りを自分で作る楽しさを体験。ツリーの形は3種類を準備。自分の家や部屋に飾ることを想像しながら、たくさんのクリスマス飾りのイラストのなかから1つ1つ選ぶことを楽しんでいた。イラストの大きさや飾る位置などを迷っている姿もあり、友だち同士や親子で相談しながら仕上げている子もいた。
わくわくカレンダー 2009	12.26～H21.2.3	マークやイラスト、文字情報を自分で選び、デザインしながらオリジナルカレンダーを作った。壁掛け式と卓上式の2種類用意し、パソコンの楽しさだけでなくクラフトを楽しむ要素も加えた。「昨年も作りました」「カレンダーの時期だと思ってきました」など、リピーターも多く、どんなデザインにしようかと楽しんでいる様子があった。
パソコンミュージック を楽しもう！	2.4～3.10	音楽ソフトを使い、さまざまな曲の音符を入力して、再生して楽しむプログラム。音色の変化も楽しめ、絵を描くように自由に譜面を作って聞こえる音を楽しんだり、知っている曲を丹念に入力したりするなどしていた。
もりもり！ おべんと BOX	3.11～4.26	おにぎり、サンドイッチ、から揚げ、たまご焼きなど、いろいろな食べ物の写真を弁当箱の台紙にはりつけて「夢のお弁当」を作った。好きな食べ物だけをのせたり、野菜・肉・ごはんとバランスよくのせたりと、さまざまな弁当ができあがった。どの具材が好きか、彩りはどうかなど、幼児から大人まで会話が広がっている様子がみられた。

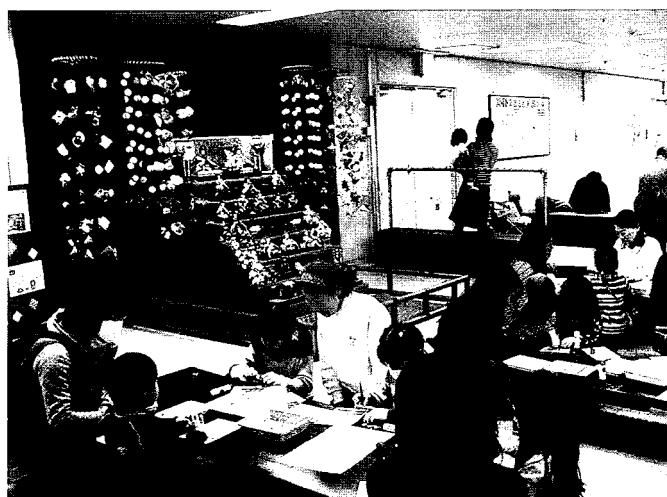


デコプレート

〈サタデー・ラボラトリー〉

名 称	日 時	内 容
あぶりだしのふしき	4.12	果物や野菜の汁などいろいろな液体であぶり出し。参加：71 人。 (担当：プレイ事業部)
4コマまんが道場	4.19	4つの場面で構成する「4コマまんが」。セリフを考えて、ふきだしに記入するプログラムも開催。作品はりだしてみんなが読めるようにした。参加：39 人。 (担当：AV 事業部)
ピンホールカメラをつくろう	5.10	針穴があいただけのカメラ、「ピンホールカメラ」を紙工作で作り、カメラの仕組みを体験した。参加：48 人。 (担当：AV 事業部)
のこぎりをひこう	5.17／10.25	丸太を最後まで自分の力で切ることに挑戦。切ったものをペンで装飾したり、メモ стандドに工作した。参加：5月 17 日 = 34 人、10月 25 日 = 36 人。 (担当：プレイ事業部)
君の絵がぐるぐる動く!! 「驚き盤」をつくろう	5.24／H21.2.21	映画発明以前に存在した視覚がん具、「驚き盤」を制作。絵の苦手な参加者向けに見本や塗り絵も用意した。参加：5月 24 日 = 38 人、2月 21 日 = 45 人。 (担当：AV 事業部)
磁石の不思議	5.31／H21.3.7	磁石の不思議さが分かる、見てさわれる展示と、電磁石作りを実施。参加：5月 31 日 = 55 人、3月 7 日 = 64 人。 (担当：プレイ事業部)
砂糖大変身	6.7	カルメ焼き作りをとおして砂糖の変化を見た。参加：64 人。 (担当：プレイ事業部)
紙パペット・アニメを作ろう	6.14	紙コップで作った人形を、アニメ撮影して動かす。関節付きの紙人形を立たせて、アニメ撮影する小 4 以上のコーナーも併設。参加：29 人。 (担当：AV 事業部)
空気砲で遊ぼう	6.21	ダンボール箱を組み立て、穴をあけて科学おもちゃの空気砲を作つて遊んだ。参加：59 人。 (担当：プレイ事業部)
スチームパワーだ！ 進めポンポン船	6.28	アルミ管と木の板を材料に、ロウソクの炎を動力源とする科学おもちゃ「ポンポン船」を作つた。参加：61 人。 (担当：プレイ事業部)
ばらばらマンガをつくろう！	7.5	絵がアニメのように動いて見えるばらばらまんがを作る。絵が苦手な参加者用に塗り絵も用意した。用紙を新しくしてサイズを統一した。参加：38 人。 (担当：AV 事業部)
混虫（まぜむし）工場	7.12／9.20／H21.1.24	[こどもの城] オリジナルペーパークラフト「混虫(まぜむし)工場」シリーズから、簡略化したカブトムシ、クワガタムシ、ショウワロウバッタ、アゲハチョウ、スズメバチ、オオハサミムシ、サソリなどを制作。参加：7月 12 日 = 58 人、9月 20 日 = 40 人、1月 24 日 = 14 人。 (担当：AV 事業部)
音をかこう	9.6	透明なシートに图形を描いて、それを光学録音の方式で再生。再生には懐中電灯と太陽電池を使用した。参加：68 人。 (担当：AV 事業部)
体験！車いす	9.13	車いすに乗つて館内を移動する体験と、車いすコースで「曲がり方」「段差越え」などの基本操作の体験をした。参加：50 人。 (担当：プレイ事業部)
不思議な動きのやじろべえ	9.27	針金と重りで、自由自在に形がかえられる「やじろべえ」を作つた。参加：33 人。 (担当：プレイ事業部)
赤青アニメに挑戦！	10.4	赤と青のフィルターを交互にとおして見ると、絵が動いて見える 2 コマアニメを作る。参加：26 人。 (担当：AV 事業部)
ゾートロープを作ろう	10.11	12か所のスリットのあいたドラムを回転させ、なかに入れた絵をスリットからのぞくと絵が動いて見える視覚がん具を制作。参加：66 人。 (担当：AV 事業部)
縄をなう	10.18	カラフルな平テープを使って「縄ない」にチャレンジ。参加：26 人。 (担当：プレイ事業部)
ご飯を炊こう	11.8	炊飯器などの機械を使わずに、鍋を使ってご飯を炊くことに挑戦した。参加：23 人。 (担当：プレイ事業部)
ニットに挑戦！	11.15／H21.1.31	身近な材料で作った編み機を使い、鈴入りのきのこをかたどったマスコットや干支の丑のマスコットを制作。参加：11月 15 日 = 46 人、1月 31 日 = 26 人。 (担当：AV 事業部)

名 称	日 時	内 容
光のふしき	11.22	懐中電灯の光を動かし、デジタルカメラのバルブ撮影モードで長時間露光して空中に絵を描く。参加：19人。 (担当：AV事業部)
おし葉カードを作ろう	11.29	電子レンジで葉を乾燥させ、おし葉カードを作成した。参加：45人。(担当：プレイ事業部)
モアレにチャレンジ！	12.6	モアレ現象を利用した、動きのあるはり絵を作成。クリスマスにちなんでクリスマツツリーのモアレ絵を作成した。参加：40人。 (担当：AV事業部)
火おこし	12.13	舞切り式火おこし器を使って、マッチやライターを使わない火おこしに挑戦。参加：12人。 (担当：プレイ事業部)
ろうそく工房	12.20	じんに少しづつロウをつけていく製法でロウソク作りを楽しんだ。参加：32人。 (担当：プレイ事業部)
あったかいぞ！カイロをつくろう	H21.1.17	鉄粉と塩水をおもな材料にしてカイロを制作。作ったカイロがどのように温度変化するか実験を楽しんだ。参加：57人。 (担当：プレイ事業部)
ふわりふわり〈浮羽ウイング〉	2.7	発泡スチロールを薄切りにした“浮羽ペーパー”で、空気に浮かぶようにして飛ぶ〈浮羽ウイング〉を作って楽しんだ。参加：45人。 (担当：プレイ事業部)
発見！音のふしき	2.14・15	展示コーナーでは音が聞こえる不思議や伝わる仕組みなどを体験。ワークショップコーナーは「スーパー糸電話」「音を描く」「逆回転でしゃべろう！」の3つ。参加：46人（14日）、49人（15日）。 (プレイ・AV事業部共同)
色のふしき	2.28	光の三原色（赤・青・緑）が印刷された紙でコマを作り、黒く塗りつぶした丸いOHPシートのマスクをかけて、色の変わら仕組みを体験した。参加：26人。 (担当：AV事業部)
逆回転でしゃべろう！	3.14	逆回転再生して正しく聞こえるよう、言葉を一度ローマ字に書いてそれを逆向きに読む。これをパソコンで録音・逆再生した。ビデオカメラを使って、動作も逆にする体験も試みた。参加：21人。 (担当：AV事業部)



みんなでひなまつり～プレイホールでひなめぐり



ハンズオン広場「発見！体験！プレイホール」～おしろマーケット

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
キッズクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 30 ② 30 ③ 30	隔週土曜日 15:00～17:00 (原則) (全17回)	①家庭や学校では体験できない活動を行う ②地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす ③子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、創造性・自発性・協調性を養うこと、を目的とした「あそび」のクラブ。本年度は、最上級生の4年生が10人。例年に比べ多い年であった。活動への参加性が高く、活発である一方、個性的なメンバーがそろったせいもあり、まとまりに欠ける面もあった。最後のプログラム(パーティー)実施に際しては、互いの気持ちをくみ取ろうという姿勢がみられ、まとまったかたちで締めくくることができた。外での活動を含め、さまざまなプログラムが展開できた。1・2期は6回、3期は5回。受講料=1・2期10,000円、3期8,500円。
ユースクラブ	小5～中3 (40)	① 38 ② 34 ③ 33	隔週日曜日 13:30～15:30 (原則) (全17回)	小学5年生～中学3年生の「あそび」のクラブ。10代前半の心の成長期に集団活動をとおし、豊かな人間形成をはかるのがねらい。①いろいろな活動をとおし、さまざまな直接体験をする ②仲間をとおし人間関係を学ぶ ③計画から実施をとおし夢を実現する、の3つを目的とする。継続して参加するメンバーが多く、上級生が下級生の面倒を自然にみたり、仲間同士が盛んに交流したりしている。クラブの活動方針を考える、意見交換や企画会議にも積極的に取り組んでいる。遊びとして、さまざまなジャンルを取り上げている。具体的には「仲間と一緒に取り組んで楽しいこと」を基準にしている。1・2期は6回、3期は5回。受講料=1・2期10,000円、3期8,500円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生パソコン教室スペシャル ～ロボットプログラミング入門～	(人) 小4～6 (15)	(人) 12	8.22～25 (4日間連続) 10:15～12:45	子ども向け用のプログラミング言語LOGO(ロゴ)で、コンピュータープログラミングの初步を学んだ上で、ブロックを組み立てて作ったロボットをうまく動かすためのプログラムを作る。グループごとに作ったロボットを操作し、設定されたコースをはみ出さずに進んだり、オーバルコースを一周して所要時間を競うゲームなどを行った。受講料=7,500円。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ちびっこ冒険団 2008	7.28～31 (3泊4日)	小学1～3年生のための宿営キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と「何をして遊ぼうか」「どうやって遊ぼうか」などを相談したり、協力しあうなかで、他者との関係性を学んでいたり、協調性や社会性を習得していくことを大きなねらいとしている。本年度は雨天が続いたため、館内で過ごすことが多かったが、その分子ども同士、リーダーと子どもたちが向き合う機会が多く、人間関係が密になった。参加：67人、L.I.T. 5人、ボランティア21人、職員3人。参加費39,000円。 (福島県：国立那須甲子青少年自然の家)
フェローシップ キャンプ 2008	8.2～6 (4泊5日)	小学4～6年生のためのキャンプ。基本は宿営とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にビバークする。小グループごとによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的の中心に考えて実施している。本年度は、森を探検し、川の始まりをさがしてくる「ワンダートレッキング」をメインの活動とし、自然を豊かに感じ仲間とともに楽しみながらさまざまな体験を楽しんだ。参加：35人、ボランティア11人、職員3人。参加費46,000円。 (福島県：国立那須甲子青少年自然の家)
ゆきんこ冒険団 2008	12.25～28 (3泊4日)	小学1～3年生のための宿営キャンプ。冬の自然を感じ、そのなかで遊ぶことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度は降雪量が心配されたが、現地到着と同時に降りだした雪はやむことがなく、雪遊びを存分に楽しむことができた。参加：63人、ボランティア19人、職員4人。参加費39,000円。 (福島県：国立那須甲子青少年自然の家)

3. その他

〈動く子どもの城〉

名 称	日 時	内 容
ぽかぽか広場 身近なもので遊ぼう	5.21 プログラム実施／研修会	主に0歳から2歳までの乳幼児親子を対象に、広場型のプログラム「身近なもので遊ぼう」を午前中に実施。靴下や広告ちらしなどを使ったごっこ遊びを取り入れながら、親同士のコミュニケーションをはかれるように設定。参加50組。午後は子育てサークルを実施している親、幼稚園、保育所の職員を対象に、午前中の活動を例に「ぽかぽか広場」の考え方や実施ポイントを実技実習。参加：28人。主催は福岡県岡垣町こども未来館。
レクリエーションゲーム 大会の演出プラン 忍者マスター決定戦	10.17・18 研修会 10.18 プログラム実施	長野県駒ヶ根市子ども交流センターの児童厚生員向けの研修会として実施すると共に、同市の子ども交流センター4館の交流事業として、学童保育に通う子どもたちを対象に、交流促進を目的としたレクリエーションゲーム大会「忍者マスター決定戦」を実施した。研修会参加：14人。プログラム参加：99人。主催は長野県駒ヶ根市子ども交流センター。
ぽかぽか広場 身近なもので遊ぼう	10.27 プログラム実施／研修会	主に0歳から2歳までの乳幼児親子を対象に、広場型のプログラム「身近なもので遊ぼう」を午前中に実施。靴下や広告ちらしなどを使ったごっこ遊びを取り入れながら、親同士のコミュニケーションをはかれるように設定。参加50組。午後は子育てサークルを実施しているお母さん、幼稚園、保育所の職員を対象に、午前中の活動を例に「ぽかぽか広場」の考え方や実施ポイントを実技実習。参加：40人。主催は埼玉県富士見市児童活動センター。
パソコンあそびのワークショップ	11.6～9 研修会 11.7～9 プログラム実施	地域情報化の推進を図る「地域ICT未来フェスタ2008 in徳島」の県出展ブースの1つとして、徳島県子どもみらい課の要請を受け、徳島県子育て支援センター「みらい」に協力するかたちで実施。コンピューターや情報通信技術の展示が中心のイベントのなかで、唯一といってよい子ども向けの参加・体験型の遊びのブース。「メカメカロボット研究所」と「魔法のグラフィックス」の2つのプログラムを実施。研修会は、イベントに協力するボランティアや児童厚生員向けに実技講習を行った。参加：20人。主催は徳島県子育て支援センター「みらい」。
レクリエーションゲーム 大会の演出プラン 忍者マスター決定戦	11.13 研修会	山口県内の児童厚生員向けの研修会。レクリエーションゲーム大会「忍者マスター決定戦」を体験した後、魔法使いをテーマにプログラムを企画するワークショップを行う。参加：78人。主催は山口県児童センター。
みんなであそぼう！ パペットランド	H21.2.21 プログラム実施／研修会	福島県川内村健康福祉部で実施している「子育て支援事業」活動の一環で、3歳～小学2年生の子どもとその親を対象に実施。身近なものを利用し、親子遊びの楽しさを体験してもらうのが目的。紙コップで口がパクパク動くネズミの人形を親子で工作し、買い物ごっこ・サーカスごっこ・ダンスごっこなど、思い思いにねずみを動かして遊んだ。最後に参加劇「おむすびころりん」を実施。参加人数17組（大人20人、子ども27人）。午後は福祉課職員・民生児童委員・保育士・ボランティアなど子育て支援事業に携わる方を対象に、制作や進行のポイントなどを実技研修。参加：26人。主催は福島県川内村健康福祉部。



フェローシップキャンプ2008

ゆきんこ冒険団 2008



□キッズクラブの活動プログラム一覧□

日 時	プロ グラム 名	内 容
4.19	ウェルカムキッズ！みんなで楽しくあそぼうよ！	新メンバーを加え、ジャンケンゲームやクイズ大会、名前カード交換ゲームなどで親睦をはかった。
5.10	こどもの城を遊びつくそう！	館内をまわり、クイズや協力ゲームなどの課題をグループごとにといて、ポイントを競い合った。
5.24	あそびチャレンジ！陣取り合戦	【こどもの城】の外周路で、鬼ごっこやバッカンなどの路地裏遊びを行った。
6.7	あそびチャレンジ！ボールゲーム	屋上遊園で、2チームに分かれてドッジボール。
6.21	くっきんぐ～大作戦！だんごでゴー	あんこと黒ゴマが入った白玉だんご作りに挑戦。上手においしくできあがった。
7.5	ウォーターゲーム 2008	恒例の水鉄砲合戦！天気が良くてぬれても気持ちがよかった。ゲームのあとはすいか割りを楽しんだ。
9.6	行こうあそぼう代々木公園！	代々木公園に行って陣取りゲーム。広い場所でおもいっきり体を動かして遊んだ。
9.27	キッズ探検隊！	【こどもの城】周辺を「キッズクラブ」の文字をお題に写真を撮って、グループごとに発表しあった。
10.11	キッズ・ザ・運動会	ピンポン玉とラケットのスプーン(?)リレーなど、室内でおもしろい種目の運動会。
10.25	おもしろゲームで遊ぼう！	カードをめくって描かれたものの真似をしながら走るリレーゲームなど、ゆかいなゲームを屋上で。
11.8	秋の遠足 2008！	電車に乗っていも掘り遠足へ、大きなもの収穫に大興奮。
12.6	冬だねほっとにクッキング～!!	餃子作りにチャレンジ！皮も手作り、グループごとに協力しておいしい餃子ができた。
H21.1.10	新春、キッズかるたあそぼうよ！	春をお題に文章と絵を自分たちで考えて書いた、オリジナルかるたを作って遊んだ。
1.24	キッズ・ザ・ゲーム大会！	ゲーム大会のつもりが、担当スタッフが悪者にさらわれるという事件が発生。子どもたちはリーダーとともに足取りをしたり、無事に救出に成功した。
2.7	キッズでチャレンジ、麺の達人！	ちょっと難しい料理に挑戦。麺から作る手打ちラーメンを作った。
3.7	ドッジボール！	2度目のドッジボールは4年生がリーダーシップをとり、ルールを決め、ルール説明も行った。
3.7・8	最後までたくさんたくさん遊ぼうよ！	7日は、城の周辺で「ビデオしりとり」、閉館後の館内で「暗闇なんだーコール」などを行い、プレイホールに宿泊。翌日は代々木公園で遊び、最後は4年生を送るパーティーで1年間をしめくくった。

□ユースクラブの活動プログラム一覧□

日 時	プロ グラム 名	内 容
4.20	はじめて。これがユースだ！ゲーム大会	4つのグループに分かれ、「新聞宝探し」など、新聞紙を使ったグループ対抗ゲームを楽しむ。
5.11	デジカメ・アニマルハンティング	街に出て、動物を探しデジカメで撮影。絵や置物などの造形物、さらには名前（文字）も可。
5.25	雨にも負けず・クッキンぐ～！	ホットケーキミックスを使ったおやつ作り。クレープや生春巻き風のおやつなど、班ごとに工夫。
6.8	日和田山ハイキング&巾着田で川遊び	ハイキング。急な岩山を登り、日和田山に登頂したのち、巾着田で簡単野外炊事と川遊びを行う。
6.29	ピックリ・ドッキリ・ムービー	同じものでも、手前のものが大きく写るというカメラの性質を用いて、トリックムービーを作る。
7.13	カレーのねはナシにする？そぞぞ！代々木でクマ狩り	渋谷区上原社会教育館の料理室を借りて「ナンとカレー作り」と、代々木公園でフィールドゲーム。
9.7	代々木＆2期作戦会議	代々木公園でフィールドゲーム。戦い方に工夫が見られるようになった。後半は2期の企画会議。
9.28	餃子三段活用	蒸す・煮る・焼くの三つの調理方法で餃子を作る。形を金魚型に包むなど、工夫を凝らした。
10.12	ここはどこ？フォト・オリエンテーリング	課題写真と同じ場所を撮影し、設問（オブジェなどの吹き出しにセリフを入れるなど）に答える。
11.9	2期後半の作戦会議／ユースクラブの今後を考える会	2期後半の企画会議。期待するところ、ユースクラブらしさなどを自由にディスカッションする。
11.30	大きい公園で＜ひたすら＞遊ぼう in こどもの国	こどもの国（横浜市）で活動。午前は班ごとに自由に遊ぶ。昼食時に全員集合して活動報告。午後は全員で遊びを考え、実行する。
12.14	クリスマスパーティー&2期のまとめ	遠出の予定が雨のため、館内での活動に。あらためて企画会議をし、パーティーをすることに。
H21.1.11	代々木で缶けり＆3期作戦会議	代々木公園で「缶けり」や「クマ狩り」などのフィールドゲームを行う。
1.25	Sケンにチャレンジ&ちょっとあったかいもん食べよう	以前から「やってみたい」という声が多かったSケンを行う。激しいぶつかり合いに、はじめは戸惑う姿もあったが、さまざまに作戦を立てられるようになる。
2.8	遠くの街探検「鎌倉で有名人を探せ」	鎌倉へ出かけ、班ごとに「有名人」を探す。銅像や看板など、写真を撮りながら街を探検した。
2.22	最終回の作戦会議	年度最終回の企画会議。中3のメンバーが中心となり話し合い。最終回は宿泊をして、とことんあそびこむことに決定。
3.14・15	最後はユースらしくとことんあそびこむ！	「最後の活動は自分たちらしく楽しく過ごす」ということをモットーに、【こどもの城】に宿泊しながら、年度の中で楽しかったさまざまな遊びを行った。

造形事業部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかにはぐくんでいくよう、①新しい視点で素材を探求して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ ②そのままでは素材になりにくい、音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感覚を新しくするワークショップ ③造形活動の基本となる“素材と道具と技法”的関係を分かりやすく理解できるように視覚化したワークショップ—この3つを軸に活動を展開している。それぞれのワークショップを1～3年間継続し、それらを順次くりかえしながらスタジオを運営している。

ワークショップの構成要素である〈展示・体験・制作〉という基本コンセプトを効果的に実施するため、ワークショップのテーマに応じて環境設定を行い、子どもたちが自主的に活動にかかわるようにした。

本年度は、夏休み特別期間まで「オープンスタジオ～からくりと造形」、10月からは新しいテーマ「やってみよう！つくってみよう！—造形野菜畑」を実施した。

(ア) 一般来館児・者へのワークショップ

平常期間は「やってみよう！つくってみよう！」と題し、夏休み特別期間までのプログラムステップとして「からくりと造形」を実施した。10月からは、野菜や果物などの「食材」をテーマに、2～3週間単位でプログラムを実施、次年度の夏休み特別期間へのステップとした。また、季節のなかにある共通のイメージをテーマにした「こども歳時記」も開催した。

(イ) 講座・クラブ

講座・クラブ活動では、より参加しやすいように、「こどもクリエイティブクラブ～ゆかいな造形」「同～親子でアート」「同～ハンズワーク」の対象年齢を変更した。その他のコースも、開始時間を遅くするなど、参加しやすいようにした。

徐々に効果が現れてきたのか、全体的に受講者数が増えてきた。対象年齢や開始時間を繰り下げたことにともなう時間数の変化などで、実施プログラムの内容を再構築しなければならなかったが、何よりも参加人数が増えたことでクラブ全体に活気が出てきた。

(ウ) グループ活動

「かげをうつそう」「木をつくろう」「粘土でジャングル旅行」「竹体験」を実施した。実施回数は、前年度より8件少ない31件だった。なかでも「かげをうつそう」「粘土でジャングル旅行」の利用が多かった。前年度に引き



グループ活動「木をつくろう」

続き、小学校からの申し込みで「竹体験」も実施回数が多かった。

養護学校や仲良し学級は、前年度より 3 件多い 6 件を受け入れた。スタジオ活動で実施した「粘土で鍋料理をつくろう」をアレンジしたプログラムも実施し、一般活動との連携もとれた。

本年度で 4 年目になるが、実技研修として、高校の保育科の利用もあった。前年度と同様、「粘土でジャングル旅行」を実施した。低年齢児や多人数のグループの申し込みもあり、さまざまな団体のニーズに合わせたプログラムを引き続き検討していくことが課題である。

2. オープンスタジオ～からくりと造形～

造形スタジオでは、素材と積極的にかかわりながら展開していく『素材との出会い展』、光や音など素材以外の領域から造形を考える『造形発見展』、そして素材、技法、道具の密接なかかわり合いを、一つのテーマのもとで具体的な制作を通じて体験する『オープンスタジオ』の 3 つの大きなテーマを、順次実施している。

平成 19 年秋から 20 年秋にかけて実施した『オープンスタジオ』では、〈からくり〉をテーマとした。〈からくり〉=〈ものを動かすしくみや機構〉をとおして、見えない力（エネルギー）の移動、そして変化する形態を具体的な制作をとおして楽しむ場とした。子どもたちが〈からくり〉のメカニズムを学び、体験しながら、自分で操作する動きとは異なる動きに変化する形態を発見し、そういう〈からくり〉を制作していくことで、創造する心をはぐくむ場をめざした。

私たちの身の回りを注意して見渡すと、簡単なものから大掛かりなものまで、意外と〈からくり〉の機構を使ったものが多いことに気がつく。例えば、バネとロック機構を用いたノック式ボールペン、テコの原理を用いた爪切りや栓抜き、歯車の原理のドアノブや時計、車のエンジンにはカムとクラランク構造などの〈からくり〉があ



『オープンスタジオ～からくりと造形』

る。いずれも、ある特定の動きが〈からくり〉を使うことによって、新たな動きや違う現象などを生み出すものである。

〈からくり〉の遊び的要素を造形表現としてとらえなおし、自分で作った物のある部分を押す、引っぱる、たたく、転がすなどすることによって、全体もしくは一部がユーモラスな動きをしたり、思いもかけない部分が動いたり、不思議な音を発してみたりと、子どもたちが自分で作った物で遊ぶ、または構造を理解して遊ぶプログラム開発をめざした。

プログラムで用いる造形素材については、紙、金属、木、竹の 4 種類を主に取り上げ（ゴムやプラスチック等、他の素材も併用しつつ）、それぞれの素材が持つ特性を生かした〈からくり〉の構造を考えていった。

春休み特別期間には、〈からくり〉の要素として「カム」「テコ」「クラanke」「プーリー」「リンク装置」の 5 つの機構を取り上げ、それぞれの大型展示物を設置して、子どもたちを〈からくり〉の世界へと導いた。5 つの機構を大型化することによって、子どもたち自身が体全体を使って、遊びながら〈からくり〉の世界を体験し、制作の場へと導く展示体験コーナーである。

夏休み特別期間においても、引き続きこれら 5 つの〈からくり〉の機構を取り上げ、今までの活動を整理、整頓した「展示」「体験」「制作」のワークショップ活動を実施した。造形スタジオ全体を「からくり村の夏祭り」という設定にし、お祭り風の屋台を出現させた。屋台では、5 つの「からくり」機構をそれぞれに展示・体験できるようにし、気軽に触って動かすことのできる環境を整えたうえで、子どもたちを制作の場にいざなった。

子どもたちがテーマに入り込みやすいように、スタジオ全体の案内役として、“からくりくん”というイメージキャラクターを制作。小さな子どもから大人までが、親しみやすい環境を整えた。スタジオ内には、〈からくり〉の展示・体験ができる屋台のほか、受付やクリエイティブコーナー、夏休み造形教室なども屋台風の構えにし、合計 10 の屋台が親子コーナーを取り囲むようにした。スタジオ内外のさまざまなコーナー（からくり機構の説明や遊び方の説明など）で、“からくりくん”を活躍させた。

〈からくり〉の展示・体験ができる 5 つの屋台は、お祭りの屋台らしく、食べ物屋、ゲーム屋、お面屋、ペット屋、おもちゃ屋さんを選び、それぞれの機構と組み合わせた。「カム」の食べ物屋では、レバーを動かすと、発泡スチロールのポップコーンが、フライパンの上をポンポンと弾けるものや、裏表をひっくり返しながら焼けるたい焼き、木でできたたこ焼きをクルクルと回しなが

ら焼けるものを設置。「テコ」のゲーム屋では、レバーを下げるとき、穴の中からキノコやモグラ、ヘビなどがひょっこりと顔を出すもので、同じものを探す神経衰弱ゲームを楽しめるようにした。「クランク」のお面屋では、クランクレバーを回すと耳が動く木のウサギや、目がクルクルと動いて表情が変わる陶器でできた宇宙人など、5点を展示。「ブーリー」のペット屋では、レバーを回すと透明カラービニールでできた金魚や、羊毛を縮毛させて作ったカラー・ヒヨコが、それぞれの箱の中をクルクルと動き回る仕掛けを展示了。そして「リンク装置」のおもちゃ屋さんでは、レバーを左右に動かすと、金属（銅）でできたカブトムシとクワガタムシが、けんかをするように動くものや、張り子のイノシシが縄引きをするものなど、5点を展示了。

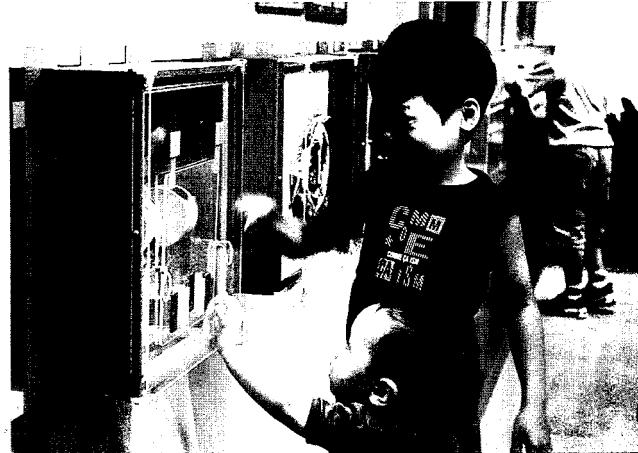
子どもたちがこれらの展示・体験コーナーに、より積極的にかかわるように、スタジオマップを制作して配布した。マップの裏面には、各機構がどういうものか理解できるように、簡単な図解入り説明を添付した。期間中、このマップを手にした親子連れや子ども同士が、展示物の動きを真剣に見ながら、散策する姿も多く見受けられた。

制作のコーナーでは、5つの〈からくり〉機構を取り入れたプログラムを6プログラム（親子コーナー、クリエイティブコーナーで各3プログラム）実施した。楽しみながら作る子ども、苦労して細かく作り上げる子どもなどさまざまだった。できあがった作品が動いた瞬間、どの子どもの顔も、一様にうれしそうな表情になっていた。

その他に、小学生以上を対象にした「からくりワークショップ」（時間45分／定員10人）を3回実施した。5つの〈からくり〉の機構を、体で体験できるワークショップで、「テコ」の原理を利用して大人を持ち上げてみたり、「カム」や「クランク」など、展示・体験コーナーと同じ〈からくり〉機構を、自分たちで組み立てて動きを確認したりしながら、発見したことをワークシートに記入していく。さまざまな実験をしながら進めていったためか、参加した子どもたちも〈からくり〉の仕組みが理解できた様子で、終了後は、保護者に動きの説明をしていた子どもも見受けられた。

これらの活動をとおして、子どもたちがものの動きの

〈からくり〉 機構の展示・体験



しくみを遊びのなかで発見、制作しながら、創造する心をはぐくんでくれる場となるよう、願ってやまない。

3. まとめ

平成19年秋から新たに取り組んだ『オープンスタジオ』では、造形活動の基本となる素材と道具、そして、それぞれにかかわる技法の関係性をわかりやすく提示したワークショップを開催した。

ここ10年間は、夏休み特別期間に実施していた『素材との出会い展』と『造形発見展』へのステップの中間段階として、春休み特別期間に小規模な形で『オープンスタジオ』を開催してきた。しかし、本年度から3年間、年度ごとにテーマを変えて、夏休み特別期間に集約できるように『オープンスタジオ』を実施することにした。これは『オープンスタジオ』が造形スタジオの活動の基本となるワークショップであり、また、[こどもの城]が開館して20数年が経って、あらためてスタジオの活動を検証しながら、新たなテーマを模索していく方法と考えたからである。

10月からは、次年度の夏休み特別期間の『オープンスタジオ—造形菜園』に向けて、プログラムステップを開始した。

本年度も外部との協力活動を積極的に行なった。前年度末から本年度にかけて、各地で「ムナーリ生誕100年事業」があり、開館から23年間継続してきた「ブルーノ・ムナーリ巡回キット」などを中心とした普及活動について、多方面から問い合わせや協力要請があった。今後も継続した普及活動を実施して行きたい。

平成 20 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
やってみよう！ つくってみよう！ 「からくりと造形」	4.9～20、5.6～6.15、 7.8～18、9.4～10.5 開館時間中	夏休み特別期間プログラム「からくりと造形」に向け、〈からくり〉の遊び的要素を造形表現としてとらえなおし、自分で作ったもののある部分を押す、引っ張る、たたく、転がす、などによって、ユーモラスな動きをする、思いもかけない部分が動くなど、自分で作ったものの構造を理解して遊ぶワークショップ活動を実施、展開した。
やってみよう！ つくってみよう！	10.7～30、11.5～30、 H21.2.4～15、3.4～15 開館時間中	春休み特別期間プログラム「やってみよう！つくってみよう！——造形野菜畑」、平成 21 年夏休み特別期間プログラム「オープンスタジオ—造形菜園」に向け、野菜や果物の色、形、手触りなど造形的な要素を素材、道具、技法の関係から活動を考えるワークショップ活動を実施、展開した。

こども歳時記

端午の節句	4.22～5.5 開館時間中	「からくりと造形」と連動し、特に鯉のうろこ模様に着目した展示構成とプログラムを実施した。いろいろな模様をした鯉のぼりと雲を全体に展示することで、さわやかな空をイメージした。〈からくり〉機構を持った体験物として、スタジオ入り口では、回すことで形や模様を変えることができる鯉のぼり、スタジオ内では「ブーリー」や、日本の伝統がん具である「板返し」の機構を使った鯉のぼりを設置した。また模様カードを引っ掛けたり、マグネットを付け替えたりすることで、鯉のぼりのうろこを飾ることができるコーナーも設けた。例年どおり、端午の節句にちなんだ全国各地の伝統的な民芸品と、民芸品を図案化して描いたタペストリーも展示了。
七夕	6.16～7.7 開館時間中	親子コーナー「七夕ミルキーロープ」、クリエイティブコーナー「天の川バランスわたり」は、〈からくり〉の“動き”をテーマに、織姫と彦星の出会いを視覚化したプログラム。スタジオ壁面には、織姫と彦星を大きく展示し、天井からはプログラムの誘導役として綱渡りをする織姫と彦星をつるした。星やかささぎもダイナミックに装飾することで、天の川のイメージを盛り上げた。
クリスマス	12.2～25 開館時間中	「クリスマスの食」をテーマに、展示構成とプログラムを実施した。スタジオ入り口には、巨大なクリスマスケーキを展示し、誘導役とした。スタジオには“食べ物”的プレゼントを抱えたサンタとトナカイを展示し、全体に皿にのったごちそうをイメージさせる装飾をした。天井からは紙で作ったさまざまなごちそうをつるし、クリスマスの楽しい雰囲気を演出した。親子コーナー「クリスマスごちそうハット」をかぶって、パーティーテーブルの一部に変身できるコーナーも設置した。
お正月	12.26～H21.1.12 開館時間中	引き続き“食”をテーマにした展示構成とプログラムを実施した。親子コーナー「おせちべこ」は、色紙で作った頭や体に、「お節料理」の写真をコピーしたもので飾り付けをする干支の丑。展示では、スタジオ入り口に巨大ベコを飾り、お節の由来についても紹介した。また、干支の丑に変身できる衣装や、布で制作したお節の具を重箱に入れて遊べる体験コーナーも設置した。前年度と同様に、正月や干支にちなんだ民芸品も展示了。3階ロビーにも全国各地の凧を天井に飾り、スロープにはその習わしの説明パネルを展示了。
節分	1.14～2.3 開館時間中	スタジオ入口には、張り子で制作した大小さまざまな鬼や、紙や布で作ったマスクや豆、こん棒などを飾り節分にぎやかな雰囲気を出した。スタジオ内の体験コーナーでは、ハンドルを回すと帶状になった布が回転して、鬼の表情が変わる遊べるオブジェや、ミラーに自分の顔を映すと鬼に変身できるなどのコーナーも設置した。
桃の節句	2.17～3.3 開館時間中	“食べ物”をテーマに、親子コーナーでは「はまぐりコロリびな」。印刷されたハマグリの写真を 2 枚合わせたなかに、紙で制作したおひな様を飾った。スタジオ壁面には、紙と布で制作したはまぐり型のおひな様や、紙で作ったひな壇も展示。桃の節句にちなんだ「ひしもち」「ひなあられ」などの節句料理の由来を説明した文章の掲示や、桃の節句にちなんだ全国各地の伝統的な民芸品と、民芸品を図案化したタペストリーも展示了。前年度に引き続き、プレイ事業部、音楽事業部との 3 事業部合同で、桃の節句行事を取り上げたちらしを作成した。

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 造形発見展 「からくりと造形」	7.21～9.2 開館時間中	日常のなかで使われている「カム」「テコ」「クランク」など、力の移動や変化などに用いられる〈からくり〉をテーマとした造形活動を実施した。〈からくり〉の機構を通じて、見えない力（エネルギー）の移動、変化する形態を具体的な制作をとおして楽しむ場とした。子どもたちが〈からくり〉（機構）のメカニズムを学び、体験しながら、自分で操作する動きとは異なる動きに変化する形態を発見し、そういう〈からくり〉を制作していくことで、創造する心をはぐくむワークショップを開催した。
〈開館記念〉 第 23 回造形スタジオ展	11.1～24 開館時間中	開館記念行事にあわせて、毎年実施している展示の 23 回目。平成 19 年 11 月～平成 20 年 10 月までの 1 年間に実施したプログラムと活動を見渡すことができる、造形スタジオ活動のダイジェスト版。「からくりと造形」「造形野菜畠」「こども歳時記」のプログラム作品と、「夏休み造形教室」「こどもクリエイティブコーナー」の各コースを、作品と活動風景写真で紹介した。
〈 〃 〉 第 15 回親子体験 ワークショップ	11.1～3 開館時間中	親と子がそれぞれに制作し、積極的にプログラムにかかわることができるワークショップ。プログラムは野菜のコピーをコラージュした「ベジタブルマスク」を実施した。親子で思い思いの野菜に変身した。
〈春休み〉 やってみよう！ つくってみよう！ 「からくりであそぼう」	H20.3.25～4.6 開館時間中	次年度の夏休み特別期間「オープンスタジオ～造形菜園」に向けた活動の第一ステップ。紙と金属といった“やわらかい”“かたい”という対照的な素材をテーマに、構成を行った。体験コーナーでは紙の畑で野菜を植える体験、金属でできた野菜の面をつけて野菜に変身したり、紙と金属の素材の特性を遊びながら体験できるようにした。プログラムは「あれこれおやさい」（親子一般）と「たんきんおやさい」（新小 4 ～）。

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ クレイワーク ～土の冒険～	(人) 小1～中3 (16)	(人) ① 13 ② 10 ③ 9	火曜日 16:15～17:30	「まるめる」「のばす」「たたく」などの技法や道具を使いながら、粘土をさまざまな形態へと変化させていく。粘土の可塑性を体験すること、子どもたちの表現力を養うこと目的としたクラブである。1期は「かたまりからの形の変化～球～ひも～」をテーマに、手に収まらないくらいの大きなかたまりや、小さなかたまりの粘土で、球を作る体験をした。球の表面をつまみ出して形を変える、球の中身をくり抜くほか、象がんや磨きなどの技法も体験。その後、球からヒモへと形を変化させることも体験。ヒモをつないで「木」、リングをつなぎ合わせたオブジェなどを制作した。2期は「板からの変化」。こねて立方体にした粘土を、たたら板と切り糸を使って板状に切った〈たたら〉を使って、筒状に丸めた花瓶や、板状のものを細かく切って作ったブロックを組み立てて城を制作。板からの形の変化を楽しんだ。3期は、「ひもからの変化」。「動物園を作ろう」を実施した。ひも状にした粘土を、渦巻き状にして動物園の台座、いろいろな太さのひもを組み立てて動物を制作した。1年をとおして、かたまりの土を目的の形へと変化させることを楽しみながら、粘土の素材性をそれぞれが体験していった。受講料= 1期(11回)28,500円、2期(10回)26,000円、3期(8回) 21,000円。各期ごとに焼成費8,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ ゆかいな造形 ～素材の楽しみ～	(人) 小1～2 (16) (人) 小3～中3 (16)	(人) ① 5 ② 6 ③ 5 (人) ① 20 ② 20 ③ 19	水曜日 14:45～16:00 〃 16:15～17:30	布や木、金属、紙などのさまざまな素材を用い、素材に見合った道具を使い分けて、遊びを通じてより深い造形体験することを基本としている。「造形四季めぐり」というテーマで、日本の季節行事や風物などと造形活動を結びつけた活動を行った。1期には、長さ5mほどのビニールの鯉のぼり（共同制作）や、透明樹脂で固めた田んぼのなかの新種の生物などを制作。2期は収穫の秋にちなんで、さまざまな素材で秋の食べ物—木を切って作る秋刀魚や樹脂粘土で形作る栗、発泡スチロールから削り出したキノコなどを制作。収穫したものは、木と竹で作った特製バスケットに入れて持ち帰った。3期には、ピューターという金属の鋳物の鬼や、羊毛を縮絨させて作る野菜形のひな人形など、さまざま表現活動を行った。子どもたちは、さまざまな素材や道具、技法に接し、造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見い出していた。受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(13回) 33,500円、3期(8回) 21,000円。
〃 親子でアート ～わくわくワーク～	(組) 4・5歳児 と親 (10)	(組) ① 10 ② 7 ③ 10	木曜日 15:30～16:30	親子で協力しての制作、親と子がそれぞれに制作という方法を適宜取り入れ、造形活動をとおした新しい親子のかかわり方、大人と子どもの関係を見つめ直すコース。身近にある材料・素材にふれながら、新しい触感や視覚覚を発見・体験。色紙をミキサーにかけて作る紙粘土、自分の指を石膏型取りしたオブジェ、羊の原毛からのフェルト作り、アルミ板を打ち出して作るスプーン、親子が一緒に入れるぐらい大きな風呂敷など、さまざまなプログラムを体験。日常見慣れたものの変化、特殊な素材の触感や質感、工具の使い方などを親子ともども楽しんだ。「クリスマス」や「節分」など、季節行事にあわせたプログラムも実施し、季節感を満喫した。ゆったりとまわりの親子とふれあい、互いに刺激しあいながら制作に励み、さまざまな場面で親と子、大人と子どもの温かい関係が自然に出現した。受講料＝1期(11回) 34,000円、2期(13回) 40,000円、3期(9回) 28,000円。
〃 絵本の世界へ～イメージする楽しみ～	(人) 小1～中3 (16)	(人) ① 7 ② 4 ③ 7	金曜日 16:15～17:30	製本された本だけでなく、さまざまな素材や技法、描画材の体験をとおし、“おはなし”を表現する造形力を養うことが目的。子どものなかにある想像力をさらに広げるきっかけ作りをめざした。「食」(特に野菜、果物)をテーマにプログラムを展開。1期は、野菜や果物の色や形を生かしたカラージュ表現や投影遊び、シルクスクリーンプリントを実施。羊毛を縮絨することでオリジナルの果物も制作。これらの制作物が登場する4ページの本にまとめた。2期は、地面の上と下の世界を平面と立体、2つの視点から表現した造形物を張り子の技法で形成し、野菜の断面写真で装飾した照明器具、シリコンで作ったクリスマスケーキに自分の写真を合成した本など、2つ以上の場面で構成された造形物を制作。3期は、野菜に変身するかぶり物を制作し、それを身に着けてポーズを決めて撮影。変身した自分をジオラマに登場させ、動かしながらおはなしや空間を変えて遊ぶことができるジオラマ型絵本を表現。1年の集大成として世界に1つしかない絵本を制作した。受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(13回) 33,500円、3期(9回) 23,500円。
〃 ハンズワーク～創造探検～	小3～高3 (16)	① 11 ② 11 ③ 14	土曜日 16:00～17:30	素材、技法、道具などについて、より良い知識を蓄積し、造形表現の力を養うための、小学3年生以上の高学年向けコース。プログラムの内容と素材にあわせ、専用の道具から電動工具までを積極的に使用。適切な工具を選択し使用することで、子どもたちは素材の持つ性質や特徴にふれると同時に、工具の仕組みと利便性を体感する。段ボールと垂木を組み合わせた動物の椅子、溶かした合金を石膏型に流し込む文鎮、羊毛を縮絨してフェルトの帽子に仕上げたり、銅板から皿を打出した後、ガスバーナーで熱しながら錫を定着させる錫引きの皿、発泡スチロール素材のオブジェなど、さまざまな素材と技法にふれ、制作を楽しんだ。危険の伴う工具や制作過程を、各自が個々に、あるいは協力して慎重に進めることで、他者への気配りや社会とのかかわりを自然と身につけていっているようだ。受講料＝1期(11回) 28,500円、2期(13回) 33,500円、3期(9回) 23,500円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
大人のための造形表現教室	(人)児童の福祉、文化、教育活動にかかわっている人、児童の造形教育、表現教育に興味のある人(25)	(人) ① 30 ② 22 ③ 18	木曜日 19:00 ~ 20:30	児童の造形教育の新しい方法論を開拓した、ブルーノ・ムナーリの造形思考を柱に、造形スタジオで行った子どものためのワークショップ「アートとあそぼう」をはじめとしたさまざまなプログラムをとおして、造形表現とは何かを体験していく講座。造形スタジオのプログラムやブルーノ・ムナーリのワークショップなど幅広い活動を行った。継続者が多い講座である。受講料=1期(8回)17,000円、2期(12回)25,000円、3期(9回)19,000円。講師は、岩崎清・元こどもの城造形事業部長(ギャラリーTOM副館長)／武蔵野美術大学講師。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み造形教室 A からくり大サーカス	(人)小3~高3 (1日コース / 5日間 計 75)	(人) 延べ 75	7.28 ~ 8.1 10:10 ~ 16:40	自分で作ったキャラクターが綱渡りをしたり、台の上をクルクルと回ったり、ジャンプ台から飛んで火の輪をくぐったりする、にぎやかなサーカス小屋。「クランク」や「ブーリー」など、いろいろな〈からくり〉の機構を組み合わせて、自分だけのサーカス団を作る。受講料=5,000円。
〃 B リンクーロボ	〃	延べ 60	8.4 ~ 8 10:10 ~ 16:40	木と金属を組み合わせて作る“からくり人形”。たくさんの関節でつながれた手足を持つ「リンクーロボ」は、つまみを回すと、まるで生命を吹き込まれたように、ゆっくりと立ち上がりったり、手を動かしたりする、「リンク」機構を使ったアナログ・ロボット。受講料=5,000円。
〃 C 回転! ブーリー灯	〃	延べ 64	8.11 ~ 15 10:10 ~ 16:40	作った飾りが手前のスクリーンにはクッキリと、そして反対側の壁には大きく映し出される幻想的な回り灯ろう。「ブーリー」の機構を使って、動かしながら投影することができる。受講料=5,000円。
〃 D とびだせ! クランク・ランド	〃	延べ 36	8.18 ~ 22 10:10 ~ 16:40	たくさんの飾りがついた、不思議なボックス。ひとたびつまみを回すと、今までの静けさはどこへやら! それぞれの飾りが、あちらこちらにピヨコピヨコとにぎやかに動き出す。「クランク」機構を使った楽しいボックス。受講料=5,000円。
〃 E おさんぽアニマル	小3~高3 (半日コース / 5日間 計 150)	延べ 61	8.25 ~ 29 10:10 ~ 12:40 14:00 ~ 16:30	リードを持って歩くと、頭としっぽがヒヨコヒヨコと出たり入ったりするユーモラスなペット。中の機構は、「ゼネバストップ」という、時計などによく使われるからくり機構を利用。受講料=3,000円。



夏休み造形教室「からくり大サーカス」



こどもクリエイティブクラブ「親子でアート」

3. その他

〈動く子どもの城〉

名 称	日 時	内 容
造形ワークショップ展 「見て、触って、感じて、作る楽しみ」	11.24～12.14（展示） 11.25（研修会）	研修会で実施するプログラムを含め、身近な素材を使ったプログラム 8 点を、活動の記録写真とプログラムサンプルで構成した作品パネルとして展示。20 年度第 2 回手作りおもちゃ講習会として実施した研修会では、いろいろな素材を張り合わせるコラージュ技法や物の凸凹をクーピーなどでこすりだして表現するフロッタージュ技法などを実施。参加者 26 人。 (青森県子ども家庭支援センター・アピオあおもり)
造形ワークショップ展 「素材ア・ラ・カルト」	12.3～21（展示） 12.14（研修会）	研修会では、小さな子どもから参加できるプログラム「マペット」と「グルクルン」、そして小学校の高学年からを対象にしたプログラム「おどりびな」を実施。参加 32 人。展示では、紙や木など身近な素材を使ったプログラム 10 点をパネル化して展示。 (入間市立中央公民館、キッズ・アート・ギャラリー委員会／入間市立二本木公民館)
ぽかぽか広場 「つくって遊ぼう」	H21.1.30	造形スタジオで実施してきた親子プログラムのなかから、特に 1～2 歳児に対応した触覚体験、素材体験を中心とした「マペット」「あれこれおやさい」、そして動きのある「竹のぼり」で構成した。研修会では、実施プログラムがどのような環境で生まれ、子どもたちが体験していくか、スタジオの様子を紹介しながら理解してもらい、環境と子どもに携わる大人の重要性を伝えた。参加 30 人。 (社会福祉法人神戸市西区社会福祉協議会・神戸市長坂学童保育コーナー)
造形ワークショップ展 「素材ア・ラ・カルト」	3.17～4.6	大分市ではじめての「造形ワークショップ展」と実技研修。会場は児童館ではなく、アートプラザという 400m ² ある展示空間。プログラム 57 点、写真パネル 60 枚、その他の展示物——最大規模の「造形ワークショップ展」となった。実技研修では「マペット」「あれこれおやさい」「たけのぼり」「さまざまなかたち」を紹介した。大分市近郊の児童館や関連施設の職員など含め 52 人が参加。〔子どもの城〕と児童館、児童館と地域の施設、地域の施設と行政とを連携させて実施するテストケースとなった。 (大分アートプラザ)

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
ブルーノ・ムナーリ展 ※ワークショップ	7.12～8.13 7.21	07 年（平成 19 年）に生誕 100 年を迎えたブルーノ・ムナーリの「子どもの城コレクション」を中心とした作品展。公開ワークショップでは、「木をつくろう」を実施。川崎市市民ミュージアムのスタッフを対象に、事前にレクチャーを行った。同スタッフが、会期前に市内の小学校で出前ワークショップ、会期中は市民ミュージアムでのワークショップも実施した。 (川崎市市民ミュージアム)
特別企画 「鉄はうたう vol.7～世界口琴大会の歩み展」	9.23～10.13	枠と振動弁からなる、ごく単純な構造ながら、世界中のさまざまな民族がもつ口琴を紹介する 7 回目になる展示。84 年にアメリカ・アイオワ市で開催された第 1 回世界口琴大会から 06 年オランダで開催された第 5 回大会までのポスター、Tシャツなどの資料と世界の口琴の展示。10 月 3 日にコンサート「口琴とバグパイプの夕べ」も開催。主催は、造形事業部、日本口琴協会。 (造形スタジオ)
平成 20 年度中央区児童館指導員実務研修会	12.3	中央区児童館職員の造形実技研修。主に紙を中心とした親子プログラム——「マペット」「シンリンクリスマス」「竹のぼり」などを実施。参加：50 人。 (東京都中央区堀留児童館)
堀留町児童館 「工作教室」	H21.2.4	児童館に集まる学童を対象とした教室。「グッズぐつ」を実施。 (東京都中央区堀留児童館)
平成 20 年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業 「森のワークショップ」	2.8	福井市の金津創作の森で、地域の子どもと保護者を対象とした「考える」「つくる」「はなす」をキーワードにした研修会とワークショップを実施。造形スタジオの活動の紹介をするレクチャーと色ラシャ紙で作る「森の生き物になろう」を実施。参加：20 組。 (福井県・金津創作の森)

平成 20 年度プログラム一覧表

1. 親子コーナー

名 称	内 容	容
か ら く り と 造 形	グルクルン	3 つに切ったストローに、アルミ線を組み合わせて飾る。つまみをグルグル回すと、飾りがクルクルと回りだす。
	パタリンク	両面の色が違うラシャ紙の帯と竹ひごを組み合わせて、パタパタと動くおもちゃを作る。
	糸クルルン	たこ糸を引っ張ると、飾りがクルルン！と回る、からくりおもちゃ。
	カムパッタン	紙で作ったたまご型の「カム」を箱の中に組み込み、飾りつける。軸を回すと、ふたがパッタンパッタンと開閉し、飾りも上下に動く。
	テコビッキー	たこ糸を引っ張ったりゆるめたりすると、「テコ」の原理でラシャ紙が開いたり閉じたりする。
	ぴょこリンク	竹ひごと輪ゴム、ストローを使って傘の動きの仕組みを作り、自由に飾り付ける。ストローを上下に動かすと、飾りがピヨコピヨコと動く。
	バネリーナ	ケント紙の帯をバネ状に巻いたものを台紙に止め、飾り付ける。ケント紙の帯の先についた飾りを引っ張って離すと、バネの力でクルンと踊るように動く。
	リンクリンク	厚紙の帯と厚手のラシャ紙の帯を、マジックハンドのように組み合わせて飾り付けをする。手元を動かすと、「リンク装置」の機構で全体が伸びたり縮んだりしながら動く。
造 形 菜 園	あれこれおやさい	丸める・切る・ちぎる・もむ、などの紙の技法を使って、好きな野菜や果物を作る。
	メクール	布の皮をめくると中身が見える野菜や果物を作る。
	デコボコ菜	凸凹している素材を紙にはって、野菜や果物の形を作る。その上にアルミホイルをのせてやさしくこすると、野菜の形や模様が浮かび上がってくる。
	ビニール菜	カラービニールとエアパッキンを使って、みんなの好きな野菜や果物を作る。
	スタンプ菜	クリップ、輪ゴムなど身近な素材を版にしたスタンプを紙に押して、野菜や果物の模様を作る。
	イベント「ねんど DE なべ料理をつくろう！」	「鍋料理」には、どんな具材が入っているか想像しながら、粘土でいろいろな野菜や魚の具を作る。みんなで作った具材をひとつのお鍋に入れたら、「粘土で作る鍋料理」の完成。
	イベント「不思議な植物を作って飾ろう！」	紙で作った実や葉っぱを、麻ひもで作った枝につけて、不思議な植物を作る。完成した作品は、春休み特別期間中、造形スタジオの展示の一部にした。
こ ど も 歳 時 記	端午の節句 「コイパタバターン」	3 枚重ねたケント紙に切り込みを入れ、魚やさまざまな模様のコピー、そして色紙などを、それぞれのページにはあっていく。ページをめくると、次々と模様が変わることのができる。
	七夕 「七夕ミルキーロープ」	両手で持った糸を斜めに傾けると、自分で作った七夕の飾りが、ゆっくりと糸をたどってすべり出す。
	クリスマス 「クリスマスごちそうハット」	紙でクリスマスのごちそうを作つて紙皿に盛りつける。完成すると、かぶれる帽子になる。
	〃 「イベント」 「造形スタジオのクリスマスクッキーにみんなでかざりつけをしよう」	紙でイチゴやクリームを作つて、造形スタジオのクリスマスクッキーに飾り付けをする。
	お正月 「お正月おせちベコ」	紙を筒状にして、干支の「牛」の顔と体を作る。体の模様は、おせち料理の写真でかざる。
	節分 「でんでんオニ」	段ボールや紙で作る紙のでんでんだいこ。たいこの部分には、紙で鬼の顔の飾りをする。完成したら音を鳴らして遊べる。
	桃の節句 「まぐりコロリひな」	はまぐりの写真が印刷してある 2 枚の色紙で、合わせ貝を作つたら、なかにまゆ玉のようにコロッとしたおひな様を紙で作つて飾り付ける。
そ の 他	ファミリーウィーク 「ベジタブルマスク」	色ラシャ紙に、いろいろな野菜のコピーをコラージュして作る、たのしいお面。

2. クリエイティブコーナー

名 称	内 容
からくりと造形	か プーリーブーリー(竹ver) 片方の竹を回すと「プーリーベルト」の機構で、反対側の竹と飾りがクルクルと回り出す。(新小3以上、1時間30分)
	ら カムカタカタ 紙で作った四角い枠のなかに、たまご型に切った紙の「カム」を組み込んで、飾り付ける。つまみを回すと、飾りが回りながら上下に動く。(小3以上、1時間)
	く カムカムパッタン カムパッタン つまみを回すと、「カム」の機構により、フタがパッタンパッタンと音をたてながら、飾りとともに上下する。(小3以上、1時間30分)
	り 弓クルン 平竹で作った弓を左右に動かすと、飾りがクルクルと回る。弓錐式という、火起こしの原理を使った〈からくり〉おもちゃ。(小3以上、1時間)
	と テコピヨコリ ふたを引っ張ると、「テコ」の原理で中の飾りがピヨッコリと起き上がる、竹を使ったおもちゃ。(小3以上、1時間)
	形 リンクリル 4枚のベニヤ板を井桁に組んで「リンク装置」を作り飾り付け。ユーモラスな動きのおもちゃ。(小3以上、1時間30分)
	メタニヨール アルミ板を打ち出してドーム状にしたものに、色とりどりの針金を〈からくり〉とともに組み込み、飾り付ける。つまみを動かすと、アルミのドームから出ている針金と飾りが動き出す。(小3以上、1時間30分)
	クランキーウェーブ ハンドルを回すと、4つの飾りがウェーブをするように出たり入ったりする〈からくり〉おもちゃ。(小3以上、1時間30分)
	ブーリーブーリー(紙管ver.) 片方の紙管を回すと「ブーリー」の機構で、反対側の紙管と飾りがクルクルと回り出す。(小3以上、1時間30分)
	クニヤンク つまみを回すと、飾りがクニヤクニヤとユーモラスに動き始める、「クランク」仕掛けのおもちゃ。(小3以上、1時間30分)
造形 菜園	くるくるクランク 軸をくるくると回すと、自分で作った飾りが行ったり来たりする。(小3以上、1時間30分)
	イベント「からくりワークショップ」 「カム」や「クランク」など、5つの〈からくり〉の機構を身体で体験できるミニワークショップ。(小1以上、1時間)
	さしこみ一葉 野菜の形に切った段ボールと色紙を組み合わせて、立体的な野菜を作る。(小3以上、1時間)
	ぬいぬいおやさい 透ける布を2枚縫い合わせ、中に布をつめて好きな野菜や果物を作る。柔らかく優しい手触りの野菜ができる。(小3以上、1時間30分)
	たんきんおやさい 金属の板を「切る」「たたく」「もようをつける」などの技法で形を変化させ、自分の好きな野菜や果物を作る。(小3以上、1時間30分)
歳時記	とれたてかたおし やさい 石やボルト、ナットなどを粘土に押し当てへこませて、野菜の形の雌型を作る。そこに水で溶いた石膏を流し込み、硬化させると、レリーフ状の野菜の石膏板作品となる。(小2以上、1時間30分)
	こね口ウ！お野菜 湯せんをして溶かした口ウをこねて、好きな野菜や果物を作る。(小3以上、1時間30分)
	端午の節句 「クルクルもようDEコイ」 のこぎりとドリルを使って加工した木の板を、四角い枠状に組み立て、なかに模様をつけたロール状の紙を組み込んだら、全体を飾る。つまみを回すと、模様がクルクルと動き出す。(小3以上、1時間30分)
	七夕 「天の川バランスわたり」 持ち手を回すと、天の川に見立てたアルミ線の上を、左右に別れた飾りが中央に向かって動き出す。(小3以上、1時間)
その他	クリスマス 「クリスマスろうルケーキ」 いろいろな布をスポンジシートにはって波ダンボールとともに巻き、溶けた口ウをかけると、おいしそうな「ろうルケーキ」の完成。(小3以上、1時間30分)
	お正月 「ペーパーおせち」 紙を「丸める」「切る」「折る」などして、おせちの重箱と具を作る。紙で作るお節料理。(小3以上、1時間30分)
	節分 「節分魔目たいこ」 テープのしんを2つつなげて鬼の顔と体を作り、それぞれのしんの中に豆を入れてふさぎ、全体を飾る。持ち手をゆらすとなかの豆が動いて音が鳴る。(小2以上、1時間30分)
その他	桃の節句 「ひなの実」 発砲スチロール球に羊毛を巻いて、石鹼水でこすってフェルト化させる。乾いたら中の球を取り出し、植物の実のようなおひな様の飾りを作る。(小3以上、1時間30分)
	その他 「ファミリーウィーク 「ベジカラージュ」 野菜がコピーしてある透明シートを組み合わせて、動く生き物を作る。完成すると影絵のように形をうつして遊べる。(小3以上、1時間)

音楽事業部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

音楽事業部の活動は、音楽ロビーを一般活動の拠点とし、スタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場とするという形を基本としている。音楽ロビーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、[こどもの城]のなかでも、なくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを、子どもたちに伝えることができるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。

一般利用の平常期間については、平日は 1 日 1 回の音楽遊びのメインイベントを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは、特に親子のスキンシップがはかれる、オリジナルの歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなど。1 回 30 分のプログラムの流れで、「動」と「静」のメリハリをつけたプログラム構成をしている。

日曜日・祝日は、11 時 30 分から 17 時まで、プログラムが 9 本組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「音楽広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「めずらし楽器にチャレンジ」、管楽器や打楽器などによる編成でリズミカルな楽曲を演奏する「Oshiro Band ミニライブ」——自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、親子で音楽を遊べるスペースとなっている。

スタジオの一般来館事業の核となるのが、B スタジオで行っている「わいわいスタジオ」である。世界各地の民族音楽などを定期的に取り上げたり、手作り楽器のワークショップを開催するなど、来館する親子にさまざまな音楽体験の場を提供している。

特別期間の催しは、特に来館児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においたプログラムを実施し、多人数異年齢の来館児・者に幅広い音楽体験の場を提供している。夏休み特別期間は、インドネシアやアフリカの楽器をベースにした「親子で作ろう！手作り楽器のワークショップ」を実施した。

講座・クラブについては、ほかでは体験できない音楽活動をめざして、邦楽・民族音楽系なども含むユニークなラインアップで運営している。

グループ活動は、個々の参加団体の要望にフレキシブルに対応できる、柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。



あそび day キャンプ Dance[E] プロジェクト

2. 音楽ロビーの活動から

(ア) うたってハッピー たなばたスペシャル

通常の歌のコンサート「うたってハッピー」を、『七夕スペシャル・参加型』という設定で実施した。子どもたちは髪に星の飾りをつけ、〈たなばたダンサーズ〉としてステージ上で歌い踊る。前年度、桃の節句に同様の設定で“ひな祭りスペシャル”を行った。その時との違いは、女の子だけでなく誰でもステージにあがることができるところである。

ステージは、ひな祭りの時には低いステージ（平台）を2枚並べた簡易なものだったが、今回はその後ろにさらに高いステージを2枚並べ、段差のあるステージにした。多くの子どもたちがステージにあがめることができるようになり、保護者の見守る位置から子どもたちの顔がよく見えるようになった。さらに、星空をイメージして多数の星やモールをステージ両脇の屏風に飾り、雰囲気を演出した。子どもが身につけた“星の髪飾り”は、金や銀の折り紙を星型に切り、ラミネートフィルムで加工してヘアピンをつけた手作りのものである。

歌のコンサートの中盤、ステージにあがむ子どもたちを募る。“星の髪飾り”をつけた子どもたちは、まず『たなばたさま』の歌を全員で大合唱する。その後、よく知っている歌に合わせて3曲踊る、という構成にした。

「うたってハッピー」の“参加型”では、ステージ上の子どもたちから見やすい場所に、〈ガイドになるスタッフ〉が一人待機。そのスタッフがリードして、歌い踊ることによって、子どもたちは模倣することができる。ステージの上でとまどいを感じている子どもたちも、〈ガイド〉の存在によって一緒に体を揺らしたり、元気に歌い踊ることができる。子どもたちの動きもそろい、一体感ができるという効果もある。もちろんスタッフと全く同じである必要はないが、自由に踊ることに慣れていない子どもたちに偶然居合わせた子どもたちが、気軽にステージにあがって踊りを楽しむことができる。

振り付けは、手をのばして振ったり、足踏みをしたり——という身体の動きをふんだんに取り入れたり、ポンポンやシェイカー（ペットボトルにBB弾を入れたもの）を小道具として使用し、華やかさやかわいらしさを演出した。子どもたちがより楽しめるように工夫した。

子どもたちが主役としてステージに立つイベントに、前年度から本格的に取り組み始めた。そのなかで改めて感じることは、多くの人に注目されることや音楽に合わせて踊ることに、抵抗感を感じる子どもが意外に少ないとことである。もちろん恥ずかしさがある子どももいる

が、最初は照れて、親にうながされ仕方なくステージに立っているような子どもも、大勢の仲間と一緒にすると少し積極的な気持ちになるようだ。

子ども同士が意識し、刺激し合うことでエネルギーが膨れ上がり、そのエネルギーに乗せられ、楽しい時間を共有していた。それを優しい目で見守る保護者も、一体となって、音楽ロビーの温かい空間を作ってくれたようだ。

(イ) あそびでつくる家族の WA

本年度の開館記念・ファミリーウィークの活動で、最も大切にしたことは、“家族であそぶ”“家族が他の家族とかかわって遊ぶ”である。これらを強調するために“WA(輪)”というキーワードを設け、表記も“輪”や“わ”ではなく、“WA”と書くことにした。

音楽ロビーのプログラムは、乳幼児対象の親子遊びもあるが、“スタッフ対子ども”が主流である。近年の傾向として、特に特別期間（春休み・夏休みなど）では、“子どもたち一人ひとりが主役”となるものが多く、大人の積極的な参加をうながすことは少ない。従って、今回の“家族”というテーマは新しい取り組みとなった。

プログラムは、大きく分けて3つの内容で構成した。

最初の遊びは、家族内の“WA”を意識したオリジナル曲『まるとまる』に合わせて展開する。始めは指と指を合わせて小さな“WA”、次に腕を使って顔の大きさの“WA”、最後には家族みんなで手をつないで、特大の“WA”を作る。曲調が変わったところで、家族みんなで手を合わせてパチパチならず、くすぐりあう、といったスキンシップを大切にした動作を織り込む。これらの動きをテンポよく繰り返すたびに、親も子も笑顔がはじけ、歓声があがっていた。

次の遊びは、子どもたちにはおなじみの「じゃんけん列車」。じゃんけんをきっかけに“他の家族”とつながる。そして、さまざまな年齢や構成の家族同士の“WA”が自然と広がる。「じゃんけん列車」のルールを理解できないような年齢の子どもたちも、楽しそうにつながっていく様子はほほえましかった。この部分は、スタッフの1人の「自分が子どものころに〔こどもの城〕でじゃんけん列車をして楽しかった」という思い出から実現したものである。

最後の遊びは、音楽ロビーにいる全員で“WA”を作る。遊びを発展させる道具として全長20m余のゴムの輪を用いた。髪に飾るシュシュと同様の作りで、カラフルな色で華やかに仕上げた。この遊びでも『WA！』というオリジナル曲を用いた。前半は、全員でゴムの輪を持ち、曲に合わせて簡単な振りを楽しむ。次にゴムの輪を

を利用して伸びたり縮んだり、跳んだりくぐったりする。さらに大人が高い位置でゴムの輪を持ち、子どもがジャンプをして輪にタッチする、という動きも取り入れて遊んだ。後半は全員で輪を持ち、ぐるぐると回る。ここまでともに遊んできた、たくさんの家族の“WA”には、自然と一体感が生まれ、大人も子どもも笑顔があふれていた。

子どもたちを年齢で分けるために、ゴムの輪を2つ用意した。音楽ロビーには、幅広い年齢層の子どもたちが集まるため、体の大きさや身体能力に大きな差がある。そのなかでプログラムを展開し、充実感や達成感を得てもらうには、このような配慮が不可欠である。今回は、〈0～3歳〉と〈4歳以上〉というグループ分けをした。それぞれの輪で、年齢に応じた動きを展開することができ、生き生きと活発に遊ぶ姿が見られた。

乳幼児や学童を対象とした遊び場で、そこに居合わせた家族同士が、一緒になって遊べるプログラムは貴重である。なかには、初対面の家族同士が一緒に遊ぶ（活動する）ことに抵抗感を覚えたり、恥ずかしがる人も少なくない。私たちは、多くの人が“楽しさ”を共感できる“場”と“きっかけ”を作ることを大切にしたいと考えている。

今回のプログラムでは、“段階を踏むこと”と“道具を使うこと”で、家族同士が抵抗なく協力して遊べるよう工夫した。初めて出会った人たちが、互いの家族の様子や子どもたちそれぞれの成長段階を見て、新たに発見したり感じることが多いようだ。

今後も出会いを大切に、人と人との“WA”をつなぎ、家族の枠を超えて、幅広い年齢層が楽しく遊び、大きな“WA”になれるプログラムを作り続けていきたい。

3. その他の活動から

(ア) 合唱団夏期広島合宿／トワ・エ・モワとの交流公演

こどもの城児童合唱団と混声合唱団は、毎年夏休みを利用して、全国各地で合宿と公演を行っている。本年度は、かねてから交流がある、おばあちゃんコーラス「トワ・エ・モワ」の皆さんとの再会と、平和についてもう一度みんなで考える機会を持つとう！という意気込みで、広島県に決定した。広島県内4都市（府中市、竹原市、大竹市、東広島市）を訪ねて、公演を行った。

府中市と東広島市では、市内の小学生や保育所の子どもたちと、歌をとおして交流を行った。竹原市では市政50周年を記念して特別公演が行われ、『竹原市歌』や『竹原音頭』を披露し、多くの拍手をいただいた。大竹市ではこの合宿の一番の目的である、「トワ・エ・モワ」の

あそびでつくる家族の WA



皆さんとのジョイントコンサートが、大勢の聴衆を集めて行われた。

「トワ・エ・モワ」は、平均年齢73歳のおばあちゃんコーラスグループで、原爆の体験をとおし、平和の尊さを歌にのせて伝えている、素晴らしい合唱団である。戦争を知らない世代の子どもたちが、「トワ・エ・モワ」の皆さんから学ぶことの大きさは、言葉にできないほどのものがある。

「トワ・エ・モワ」との出会いは23年前の〔こどもの城〕開館記念公演にさかのぼる。その日から今回で6度目の交流になる。世代や地域を超えた出会いは、聴く人だけでなく、公演に参加した合唱団員のみんなに感動を与えた。このような出会いが提供できるように、今後も活動を続けていきたいと改めて感じた。

(イ) 〈動くこどもの城〉ばかばか広場 音楽であそぼう！

平成19年度（07年度）から、〈動くこどもの城〉事業のプログラムの一つとして、「乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム～ばかばか広場 音楽であそぼう～」がスタートした。新規プログラムの立ち上げにあたり、準備から実施まで、保育研究開発部と共同で作業を行った。

このプログラムに求められるのは、〈広場〉作りである。会場に親子が立ち寄った際、いつものんびりとリラックスして過ごすことができるような心地よい〈居場所＝広場〉—“親と子”“親と親”そして“親子と親子”を〈つないでいく場所＝広場〉である。〈広場〉作りのためのエッセンスとして、保育スタッフと音楽スタッフが、それぞれ〔こどもの城〕で培ったノウハウを持ち寄ってプログラムを構成することとした。

プログラムは、平成19年と20年に合計10か所で実施した。開催場所は、都内各地から山形県、岐阜県、八丈島と全国津々浦々である。対象は、0～3歳の乳幼児の親子。集まった親子は20～150組、会場の広さも児

童館の小さな部屋から、公民館の大ホールまでとさまざまであった。開催時間は午前中の90分間。じゅうたんやマットを敷きつめ、音のできるおもちゃ、牛乳パックの積み木、ままごとセットなどを多数準備した。午後は、開催団体およびその近隣施設の指導者（保育士や児童厚生委員）との研修会を行った。

2年間の試行錯誤のなかで、最も留意した点は「90分の時間内に〈プログラム〉をどの程度織り交ぜていくか」ということである。保育スタッフは「親と親のコミュニケーション・タイム」の形で、親子が円座を作り、スタッフが子育てにまつわるインタビューを行ったり、月齢・年齢に応じた成長の話などを展開した。

音楽スタッフは、音楽ロビーで培ってきた親子でふれあう音楽遊びを中心に、楽器演奏の鑑賞やわらべうたや童謡を親子で口ずさむ時間も取り入れた。

このような〈プログラム〉を実施する時間に対して、〈ノンプログラム〉—会場の親子が自由に遊び、おしゃべりをする時間をどう配分するかという、構成に苦慮した。

私たちは、開催団体および参加の親子に対して「できる限り楽しい時間を提供していきたい」という考えから〈プログラム〉中心の構成を組む。しかし一方で、「親子でゆったりと過ごせる広場」という趣旨から、「プログラムは少なめにして、ノンプログラムの時間を中心には」という指摘を受けた。参加する親子からは、「楽しいプログラムがいっぱいだろう」という、期待の眼差しがある。実際、音楽に合わせた手遊びや親子のスキンシップはとても好評であり、保育スタッフの行う、育児にまつわるインタビューやフリートーキングでも、親の積極的な参加が見られた。

このような状況をふまえて、保育スタッフとともに改善点を洗い出した。互いのノウハウを確認しながら、毎回改良して活動を行い、臨機応変に対応しつつ、協力しながら活動をすすめていくという、連携体制を確立することができた。結果として〈プログラム〉と〈ノンプログラム〉の時間をうまく配分し、さらに〈プログラム〉の中身も、保育と音楽とで半々とするという形に仕上がった。音楽と保育スタッフで行う「ぽかぽか広場 音楽であそぼう！」として、完成度の高いものを作りあげることができた。

しかし結果として、音楽スタッフの行う“親子の音楽遊び”的部分は少なくなっていました。プログラムの名称は「ぽかぽか広場 音楽であそぼう」である。集まってくれる親子・児童館職員から「音楽遊びの部分が少ない」という指摘を受けることとなった。音楽スタッフにとつても不本意であるが、保育スタッフにとつても困惑する事態となった。

保育スタッフとも相談のうえ、本年度からは、音楽と保育で行う「ぽかぽか広場」は、「音楽であそぼう」から「親子であそぼう」に名称を変更した。

乳幼児向けの音楽遊びはニーズが高く、音楽事業部として、たくさんのノウハウを持っている分野である。今後は、親同士の仲間作り・広場作りが望まれる場合は「ぽかぽか広場」、親子の音楽遊びを中心に望む場合は、新プログラムを実施することとした。新プログラムは、音楽事業部単独で実施。音楽遊びをふんだんに取り入れ、音楽ロビーで培ってきた内容を最大限に生かしていく。平成21年度からは、この新プログラムの立ち上げに尽力していきたい。

乳幼児の親子のスキンシップに、音楽遊びはとても効果的なエッセンスとなる。さまざまなニーズのなかで、求められる形を、常に高水準で提供していくことができるよう、今後も研鑽を重ねていきたい。

4.まとめ

本年度も新プログラムの開発に力を入れ、成果が得られた。今後も【こどもの城】ならではのオリジナルプログラムの研究を続け実践していきたい。

開館以来開講してきた「パーカッション・アンサンブル」の講座を、本年度いっぱいで閉講とした。経済状況の影響などもあってか、受講者数が伸び悩む講座がいくつかあり、今後も、講座運営の方法の見直しを進めていかなければならない。

短期講座やワークショップのニーズは、非常に高いので、そのような形に移行していくものも、検討しなければならない。夏休み特別期間の短期講座についても、本年度は定員に達するまで時間がかかり、かつての勢いは無くなってきた。来年度にむけて、メニューと規模など再考し、ニーズに応えられるものをめざして取り組んでいきたい。

平成 20 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなでライブ!	火曜日 15:00 ~ 15:30	子どもたちがよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむなかで、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。幅広い年齢層に対応するプログラム作りに取り組んだ。 (音楽ロビー)
赤ちゃん特等席 ぱぶりんパラダイス	火～金曜日 開館時間中 (催し開催時を除く)	0～1歳児と保護者のコーナー。赤ちゃんを囲んで初対面の母親同士が自然と交流をもてる場になっている。 (音楽ロビー)
うたってハッピー	火曜日 14:30 ~ 15:00 16:30 ~ 17:00 水・金曜日 14:00 ~ 14:30 16:00 ~ 16:30 木曜日 14:00 ~ 14:30 土曜日 11:30 ~ 12:00 13:00 ~ 13:30 日曜日・祝日 11:30 ~ 12:00 13:00 ~ 13:30 15:00 ~ 15:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなどのリクエストが多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。土・日曜日・祝日には、午前中から実施している。早い時間帯に来館する幼児と保護者には特に好評であった。(音楽ロビー)
ストリートオルガン やってみよう!	火曜日 13:30 ~ 14:00 16:00 ~ 16:30 水曜日 13:30 ~ 14:00 15:30 ~ 16:00 木曜日 16:00 ~ 16:30 金曜日 13:30 ~ 14:00 16:30 ~ 17:00 土曜日 12:30 ~ 13:00 日曜日 12:15 ~ 13:00 16:30 ~ 17:00	ロビー常設のオランダ式手回しオルガン。親子、兄弟、友だち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。 (音楽ロビー)
すいよう パチパチパーク	水曜日 14:30 ~ 15:00	歌遊び、手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、ブラジルなどの音楽を聴かせる観賞型プログラムを実施。観賞型プログラムにも、使用した楽器にふれたり、スタッフと演奏する参加部分も設け、子どもと一緒に音楽を感じ合えるイベントを行っている。 (音楽ロビー)
なにがでるかな? うきうきタイム	木曜日 13:45 ~ 14:00	15分間の手遊び系のショートプログラム。 (音楽ロビー)
木曜なかよし広場	木曜日 14:30 ~ 15:00	スタッフの個性を生かしながら、乳幼児から親子で気軽に楽しめるプログラム構成に努めている。内容は、遊び歌、パネルシアター、絵本、簡単なダンスなどが中心。(音楽ロビー)
みんなの楽器屋さん	木曜日 15:30 ~ 16:00	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。スタッフが「楽器屋」の店長・店員に扮するという〈あそび〉の演出をしている。活動には女性ボランティアも参加。演奏のみならず、楽器体験時のサポート役としても活躍。年に2回は「ボランティア・スペシャルプログラム」として、女性ボランティアのみでプログラムを開催。 (音楽ロビー)
みかんちゃんズの オバオバサンバ!	金曜日 15:00 ~ 15:30	女性ボランティア中心の活動。サンバのリズムに合わせて体を動かす「サンバ新聞」というプログラムに取り組んだ。ボランティアメンバーの一人ひとりが、プログラムリーダーとしてスキルアップをはかり、活動を支えてくれている。 (音楽ロビー)
音楽あそびマーケット	土曜日 13:30 ~ 14:00	パネルシアター、紙芝居、絵本に音楽を組み合わせて楽しんでもらう鑑賞型の活動と、手遊び、音楽遊びという参加型の活動を組み合わせた。土曜日であることから、幅広い年齢層に楽しんでもらえる内容を心がけた。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
宅配！ミュージックボックス	土曜日 14:00～14:30	演奏を聴く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおして、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。時間になると宅配ボックスが届き、その中に紹介する楽器や音楽のヒントが入ってる——という設定。国・地域や楽器の素材、奏法など、さまざまな角度から楽器を紹介した。 (音楽ロビー)
ポコ・ア・ポコ 土曜音楽俱楽部	土曜日 14:30～15:20	高学年向けの楽器体験コーナー。1期は「箏」、2期は「三味線」、3期は「インドネシアのガムラン」を取り上げた。どの楽器も、参加した子ども同士あるいはスタッフと合奏することで、みんなで演奏する楽しさを伝えられるようにした。2月14・15日には体育・AV・プレイ事業部と企画研修部の共同で、小学生プログラムのスペシャル企画を実施。音楽事業部は、日本の箏とアフリカの太鼓で参加した。 (音楽ロビー)
みんなであそぼう！ 音楽広場	日曜日・祝日 13:30～14:00	担当職員一人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えたバラエティー豊かなプログラム（「わいわいスタジオ」のある日は実施しない）。 (音楽ロビー)
Oshiro Band ミニライブ	日曜日・祝日 14:45～15:00 16:00～16:30 ※「みんなであそぼう！音楽広場」がないとき 13:55～14:15	ボルカ・テキーラ・トルコ行進曲など、リズミカルな楽曲をマリンバ、ギター、トランペット、バイオリンなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する。オリジナルアレンジの新曲に挑戦してレパートリーを増やしている。 (音楽ロビー)
めずらしい楽器に チャレンジ	日曜日・祝日 14:00～14:30 ※「みんなであそぼう！音楽広場」がないとき 14:15～14:45	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特長をわかりやすく紹介。コンサート終了後は使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらう。 (音楽ロビー)
わいわいスタジオ	日曜日・祝日（ほぼ隔週） 13:30～14:00 15:30～16:00	演奏者を招いたコンサートの企画と、身近な材料を使って手作りで楽器を作るワークショップの2種がある。ワークショップは、フィルムケースを利用した鳥笛作り。小学生対象のプログラムと幼児も参加できるプログラムがある。コンサートは「フラメンコ」「草笛」「ア・カペラ」、音楽スタッフのグループ「モーモーず」が出演。子ども参加コーナーや楽器紹介などをプログラムに盛り込み、多くの親子に楽しんでもらった。 (Bスタジオ)
うたってハッピー 七夕スペシャル	7.5・6 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30 ※15:00は7.6のみ	「うたってハッピー」のプログラムのなかに、子どもたちがステージに上がって歌い、踊る場面を設けたスペシャル版。 (音楽ロビー)
ドキドキッズ オンステージ	H21.3.1、8、15、21、22	音楽事業部講座・クラブ発表会をかねる、一般来館児・者向けのコンサート。 <input type="checkbox"/> ひらけリズム・ムービングのとびら（リズム・ムービング、リズム・ムービング＆パークション）= H21.3.1／12:30／Bスタジオ <input type="checkbox"/> 集まれ！タイコのなかまたち（パークション・アンサンブル） = 3.1／15:30／Bスタジオ <input type="checkbox"/> サンバ・フェスティバル（レッツ・プレイ・サンバ初級、レッツ・プレイ・サンバ） = 3.8／13:30／音楽ロビー <input type="checkbox"/> ジャワ島のガムランと踊り（ガムラン講座）= 3.15／13:50／音楽ロビー <input type="checkbox"/> 花のお江戸の助六太鼓（和太鼓グループ）= 3.21／13:30、15:30／Bスタジオ <input type="checkbox"/> 三味線三昧（三味線）= 3.22／13:30、15:30／Bスタジオ

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 スマッシュ！インドネシア！ マリきた！ ダンスじゃらんじゃらん	4.26・27・29、5.3・4 13:30～14:00	インドネシアのバリ島のガムラン楽器の生演奏に合わせてダンス。子どもたちは衣装を身につけ、扇子を持ち、インドネシアの踊りをモチーフにした動きを展開。鳥・風・花・太陽などのカテゴリーをテーマにして振り付けをし、歩きながら踊る。“じゃらんじゃらん”とはインドネシア語でさんばの意味。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 スマッシュ！インドネシア！ インドネシア楽器にチャレンジ	5.3 14:00～14:30 15:20～16:00	インドネシアの竹の楽器アンクルンと青銅の楽器ガムランを、それぞれアンサンブル形式で簡易合奏を体験。年齢別のグループに分かれて合奏し、3歳以下は保護者も合奏に參加した。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 おんがくであそぼう！ ガドガドコンサート	5.5・6 13:00～13:30 15:00～15:30	前年度まで青山円形劇場で行われてきた6人編成のバンドの公演。劇場公演と違い、子どもたちそれぞれが音楽ロビーにある楽器を持って参加。リズム遊び、手遊び、ダンス、民族楽器紹介、ジャグリングなど多彩な内容を展開。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 うたってハッピー！	4.26・27・29、5.3～6 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30	平常期間と同じ。5月5・6日は、11時30分の回のみ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ストリートオルガン やってみよう！	4.26・27・29、5.3～6 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライブ	〃 13:45～14:00 16:10～16:30	平常期間と同じ。5月5・6日は、16時10分の回のみ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	〃 13:00～17:00	0～3歳の幼児と親がゆっくりと音のできるおもちゃ〔音具〕で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむためのスペース。大勢の親子に利用された。 (Aスタジオ)
〈夏休み〉 ストリートオルガンやってみよう！	7.19～8.31 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 Viva! おんがく！ スーパーあそびまつり！	7.21～8.7 14:00～14:30	歌遊び、リズム遊び、パネルシアター、ダンスとバラエティに富んだ内容で実施。スタッフによる日替わりプログラム。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 夏のごいっしょライブ！	7.19～8.10 11:30～12:00 15:00～15:30 8.11～24 11:30～12:00 15:30～16:00 8.25～31 11:30～12:00 14:00～14:30 15:00～15:30	バンド形式による弾き語り。歌の演奏は子どもたち、親子にとって、大変人気のあるプログラムであることから、夏休み特別期間中とおして実施した。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器に チャレンジ！	7.19～8.24 13:45～14:30 8.25～31 13:00～13:30 15:30～16:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。定番の楽器紹介に加え、「親子でつくろう手作り楽器のワークショップ」受講生による演奏も行った。8月25日からは「めずらし楽器にチャレンジ！スペシャル」。1日に2回、内容を変えて実施。宿題に役立ててもらおうと、期間前から演目の予定表を配布したり、参加者には楽器のイラストと解説を書いた「オリジナル楽器ガイド」をプレゼントした。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライブ	7.19～8.10 12:55～13:30 14:40～15:00 16:10～16:30 8.11～24 12:55～13:30 14:30～15:00 16:10～16:30 8.25～31 13:45～14:00 14:45～15:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 かがやけ！音楽あそびの祭典！ ピコピコオリンピック！	8.11～24 13:10～13:30 14:45～15:00	オリンピックイヤーにちなんで、オリンピックをモチーフにしたオリジナルの音楽遊び——旗を使ったムーブメントやクイズ大会などを日替りで実施。バラエティーに富んだ内容となった。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 あそびday キャンプ Dance [E] プロジェクト	8.7・8 10:30～16:00	小学生以上を対象としたダンスプログラム。本年度は2日間コース。オリジナルの曲にヒップホップを基調とした振り付けで、子どもたちが考えた振りも取り入れた。8日には音楽ロビーのステージで生バンドをバックに来館児・者に向けて練習の成果を披露した。 (Aスタジオ・音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 ゆったり親子のおんがく園	7.22～8.5 13:00～17:00	児童福祉週間特別期間と同じ。 (Aスタジオ)
〈開館記念〉 うたってファミリー みんなの ^お 家謡ショー	11.1～3 13:15～14:00 15:15～16:00	家族にエントリーしてもらい、生バンドの伴奏に合わせてステージで歌を披露。1回につき8組の家族がエントリーした。AV事業部の協力により、館内テレビで生放送された。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 あそびでつくる 家族の WA	〃 14:00～14:30	家族のふれあいをテーマに、親子いっしょになって遊ぶ音楽遊びプログラム。輪(WA)にちなんだオリジナルの遊びをいくつか考案し、ゴム紐などのアイテムも活用した。 (音楽ロビー)
〈冬休み〉 わいわいスタジオ クリスマススペシャル	12.21・23 13:30～14:00 15:30～16:00	21日は音楽スタッフによる「モーモーずのようこそクリスマス」。新キャラクターのふくろうも登場。23日は新企画「たのしムーチョ ラテン音楽でクリスマス」。クリスマスソングや童謡などをラテンミュージックにアレンジして演奏。出演は、フォックススタイルグラス+。
〈 〃 〉 うたってハッピー	12.25～28、H21.1.3～7 11:30～12:00 13:00～13:30 14:40～15:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ストリートオルガン やってみよう!	〃 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライヴ	〃 14:20～15:00 16:10～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器にチャレンジ	〃 15:10～15:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆく年くる年 おすすめダンス ワンツースリー！	12.25～H21.1.7 13:30～14:00	音楽スタッフが選んだ、オリジナルダンスプログラムのベスト3を再演。「PON PON ダンス～たぬきのポンちゃんと踊ろう！」(12月26・27日、1月5日)、「爆裂まつり～和太鼓に合わせて元気に踊ろう！」(12月25日、1月3・6日)、「マリきた！ダンスじゃらんじゃらん～パリ島の音楽に合わせて踊ろう」(12月28日、1月4・7日)。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	H21.1.3～7 13:00～17:00	児童福祉週間特別期間と同じ。 (Aスタジオ)
〈春休み〉 みんなであそぼう！ 春らんまん！ 歌うかどには友きたる！	3.25～4.6 13:30～14:00	アフリカの太鼓をベースにしたリズム遊びやパネルシアター、インドネシアの踊りなど、各スタッフが得意分野の音楽遊びを日替わりで展開。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 新小3からの お箏ワークショップ	3.25～30 13:00～13:50 15:00～15:50	新小学3年生以上を対象としたお箏の体験ワークショップ。各回10人定員。40～50分間の内容にした。じっくりと自分で取り組む姿が印象的であった。電話での優先予約枠(5人)を設けた。約90人が参加。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 うたってハッピー	12.25～28、H21.1.3～7 11:30～12:00 13:00～13:30 14:40～15:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ストリートオルガン やってみよう!	〃 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライヴ	〃 14:20～15:00 16:10～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器にチャレンジ	〃 15:10～15:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
「」 ゆったり親子のおんがく園	4.1~5 13:00~17:00	児童福祉週間特別期間と同じ。 (Aスタジオ)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
リズム・ムービング	(人) 3~5歳児 (20)	(人) ① 17 ② 18 ③ 17	火曜日 15:30~16:20 (全32回)	身の回りのことからリズムを感じさせ、感覚を振り動かし、創造性をはぐくむ。コンガ、ボンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを演奏できるオルフ楽器を使用。受講料=1期 20,500円、2期 17,500円、3期 15,500円。
リズム・ムービング &パーカッション	小1~3 (15)	① 11 ② 8 ③ 7	火曜日 16:30~17:20 (全32回)	リズムによる自己表現を行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一步踏み込んだ指導を行う。受講料=1期 20,500円、2期 17,500円、3期 15,500円。
パーカッション・ アンサンブル	小4~高3 (15)	① 5 ② 5 ③ 5	火曜日 17:30~19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い、演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちのはじけるようなリズム感を表現する。受講料=1期 20,500円、2期 17,500円、3期 15,500円。
みんなで楽しい リトミック I	(組) 3歳児と親 (20)	(組) ① 21 ② 21 ③ 18	水曜日 14:00~15:00 (全32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおして親子のコミュニケーションをはかり、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことをめざしている。受講料=1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。
II	4歳児と親 (20)	① 21 ② 21 ③ 20	水曜日 15:00~16:00 (全32回)	初級(I)でつちかってきた、感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達をうながす。受講料=1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。
III	5歳児と親 (20)	① 18 ② 19 ③ 19	水曜日 16:00~17:00 (全32回)	就学を控えるころになると子どもの感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。ここでは生き生きと目を輝かせて、音楽を楽しみながら学ぶ。受講料=1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。
おんがく大好き ミュージック・パーク ～ダウン症児のための 楽しいリトミック I	(組) ダウン症の 2歳6か月 ～6歳児と 親 (10)	(組) ① 10 ② 10 ③ 9	木曜日 15:00~16:15 (全29回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って、無理なく楽しみながら療育の手助けをすることをめざす。また音楽での保護者の心身開放も目的の一つとして活動を行っている。受講料=1期 20,000円、2期 20,000円、3期 18,000円。
II	小1~6 (10)	① 10 ② 10 ③ 10	木曜日 16:30~17:45 (全29回)	
和太鼓グループ	(人) 小3~高3 (12)	(人) ① 13 ② 13 ③ 12	土曜日 14:30~15:30 (全32回)	湯島に伝わる「助六太鼓」のコース。太太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。受講料=1期 19,000円、2期 20,500円、3期 15,500円。
レッツ・プレイ・ サンバ I ～演奏とステップ～	小1~3 (10)	① 10 ② 10 ③ 9	土曜日 13:00~14:00 (全15回)	低学年向け初級講座は、サンバ楽器を使った演奏と踊り(ステップ)を指導。“サンバ”とおして、音楽の楽しさや仲間と演奏する楽しさ、音楽に合わせて身体を動かす楽しさを感じてもらう。受講料=各期 7,000円。
レッツ・プレイ・ サンバ II	小4~高3 (10)	① 15 ② 14 ③ 13	土曜日 15:30~17:00 (全15回)	ブラジルの独特的な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。対象年齢を引き上げたため、より高度で力強い演奏を展開している。受講料=各期 7,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
合唱講座	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 35 ② 34 ③ 34	土曜日 14:00～15:30 (全 32 回)	遊ぶことをとおして、無理なく体を動かしたり、声を出したりすることを体验する。体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期 19,000 円、2期 20,500 円、3期 15,500 円。
こどもの城児童合唱団 I	小2～3 (合唱講座修了者・40)	① 45 ② 45 ③ 43	土曜日 15:30～17:30 (全 32 回)	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音乐性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体验し、総合プログラムを展開。 受講料＝1期 19,000 円、2期 20,500 円、3期 15,500 円。
〃 II	小4～中3 (合唱講座修了者・80)	① 129 ② 125 ③ 122	土曜日 17:00～19:00 (全 32 回)	
混声合唱 ～こどもに聞かせるおとなのコーラス～	高校生以上 (40)	① 78 ② 76 ③ 72	土曜日 19:30～21:00 (全 32 回)	子どもたちに、豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは高校生から社会人と幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料＝1期 19,000 円、2期 20,500 円、3期 15,500 円。
三味線 A (初心者)	小2～高3 (12)	① 11 ② 10 ③ 11	日曜日 10:00～11:30 (全 32 回)	初心者にも取り組みやすく工夫したカリキュラムで実施している。年度末には B スタジオで一般来館児・者に向けてコンサートを行った。受講生による来館児・者への体験コーナーも好評。 受講料＝1期 19,000 円、2期 20,500 円、3期 15,500 円。
〃 B (経験者)	小2～高3 (12)	① 5 ② 6 ③ 6	日曜日 11:30～12:45 (全 32 回)	
ガムラン講座	小1～高3 (15)	① 8 ② 8 ③ 9	日曜日 13:30～15:00 (全 32 回)	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者と継続者のクラス。さまざまな音楽的な要素が潜在し、アンサンブルすることでその特異さが分かる民族音楽。受講料＝1期 19,000 円、2期 20,500 円、3期 15,500 円。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんがく星みつけた～就園前のリトミック～	(組) 2歳児と親 (30)	(組) ① 29 ② 32 ③ 28	木曜日 10:30～11:30 (1・2期 10回、3期 9回)	就園前の幼児と保護者が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。親子でスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1・2期 17,000 円、3期 15,500 円。

こどもたちからのサウンドメッセージ（青山円形劇場）



ドキドキッズオンステージ～集まれ！タイコのなかまたち

〈短期講習会〉

名 称		対象・定員	受講数	日 時	内 容
親 子 で 作 ろ う ！ 手 作 り 樂 器 の ワ ー ク シ ョ ッ プ	竹の木琴?! " ガンバン "	(人) 小1～高3 ※小4以上は 子どもだけ の参加も可 (計48)	(人) 計 38	8.12. 29 13:00～16:00	ジャワ島のガンバンは、木琴に似た竹製の楽器。“ドレミファ……”の聞きなれた音階と独特な民族音階の両方が楽しめる。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ = 4,900円。 (Bスタジオ)
	アフリカ・セネガルの太鼓 " ジエンベ "	" (計90)	計 92	8.13. 16. 31 13:00～16:00	「講義」+「製作」+「合奏」のワークショップ。子どもが演奏しやすい小型のジェンベを作った。セネガル出身のパーカッショニスト、ワガン・ンジャエローズさんによる合奏指導も前年度以上の白熱ぶりであった。8年目を迎えた大人気プログラム。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ = 4,900円。 (Bスタジオ)
	ベトナム式の " 口琴(コウキン) "	" (計50)	計 50	8.15. 30 13:00～16:00	世界各国、さまざまな地域で使われている小さな楽器。その音色は人々を楽しませてくれる。半開きのくちびるにあて、指ではじいて中央の弁を振動させると、口腔や頭に共鳴して音が出るユニークな楽器。“宇宙人のような声が出せる”と紹介。受講料=親子ペア 5,800円、子どものみ = 2,900円。 (Bスタジオ)
	竹のリコーダー ^{リコーダー} " スリン "	" (計50)	計 50	8.19. 27 13:00～16:00	インドネシアの6穴のたて笛・スリンは、インドネシアの多くの地域で演奏され、ジャワ島のガムラン音楽にも使われている。細い棒を竹筒の中でスライドさせて鳥の鳴き声をまねできる、スライドホイッスルも製作。7年目のプログラム。受講料=親子ペア 5,800円、子どものみ = 2,900円。 (Bスタジオ)
	ブラジルのサンバ楽器 " タンボリン "	" (25)	21	8.20 13:00～16:00	リオのカーニバルで有名なサンバの楽器・タンボリン(小型の太鼓)を親子それぞれで作成。できあがったタンボリンと他のサンバ楽器による“合奏”により、一段と気分は盛り上がった。演奏指導に力を入れたコースになっている。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ = 4,900円。 (Bスタジオ)
	竹のハンドベル " アンクルン "	" (30)	21	8.21 13:00～16:00	“竹のハンドベル”ともいわれ、多人数で演奏するほど魅力を發揮する楽器。完成したアンクルンを持って、スタジオ内で演奏(発表会)を行い、保護者に披露。受講料=親子ペア 5,800円、子どものみ = 2,900円。 (Bスタジオ)
	BIG アンクルン	(組) 小1～高3 の親子ペア (6)	(組) 8	8.23 11:00～16:00	8台1オクターブを親子2人で作るコース。作りなれると楽しそうに作業する親子は、職人顔負けであった。受講料=親子ペア 15,000円。 (Bスタジオ)
	リピーターのため の もっとやりた い “ ジエンベ ”	(人) 小1～高3 ※小4以上は 子どもだけ の参加も可 (15)	(人) 23	8.26 13:00～16:00	[こどもの城] のワークショップでジェンベを作った人を対象にしたコース。“マイ・ジェンベ”を持参し、ワガン・ンジャエローズさんのパワフルな指導で、演奏技術を高める。質問コーナーを設けるなど、講師と親睦をはかりながら進めた。受講料=親子ペア 5,000円、子どものみ = 2,500円。 (Bスタジオ)
	トーキングドラム “ タマ ”	" (30)	30	8.24 13:00～16:00	太鼓の胴にたくさんのひもが張られていて、ひもをコントロールすることで音程が変化し、しゃべっているかのような音を表現できる。西アフリカのウォロフ族に伝わる奏法をワガン・ンジャエローズさんに指導してもらう。受講料=親子ペア 9,800円、子どものみ = 4,900円。 (Bスタジオ)
	大人のための手作り楽器 “ アンクルン ”	指導者・一 般 (30)	12	8.17 13:00～16:00	大人(指導者・一般)のためのコース。本年度は、インドネシアの竹の楽器「アンクルン」を作った。制作をとおして、子どもたちに民族楽器を指導する方法を解説。受講料 = 4,000円。 (Bスタジオ)
感じる心を育てる		" (80)	48	11.23 13:30～16:00	日本ダウン症協会理事長の玉井邦夫大正大学教授を招いて、障害児教育について講演。事前に募集した質問に対し、回答してもらう。ワークショップでは「おんがく大好きミュージックパーク～ダウン症児のための楽しいリトミック」の講座内容の紹介も行った。6回目。協力:日本ダウン症協会。 (Bスタジオ)

3. その他

〈動く子どもの城〉

名 称	日 時	内 容
ばかばか広場「音楽で遊ぼう」	6.5、6.30、10.28・29、12.4	東京都世田谷区赤ちゃんサロン「大きな栗の木の下で」(6月5日)、大阪府門真市門真市民プラザ(6月30日)、東京都八丈島子供家庭支援センター(10月28・29日)、岡山市久保東児童館(12月4日)。
おはなしおんがくパンパカパーン	11.30	熊本県菊陽町。
おはなしコンサート	H21.2.7	新潟県燕市児童研修館「子どもの森」。

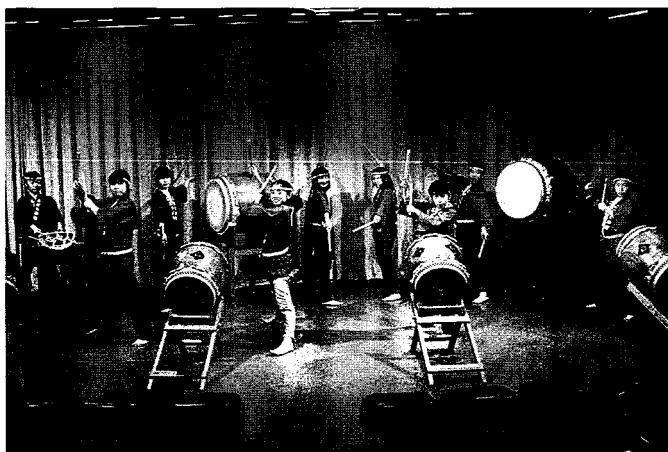
〈その他〉

名 称	日 時	内 容
子どもの城児童合唱団 夏季合宿(広島県)	8.21～27 岩手県	兼ねてから交流のある広島のおばあちゃんグループ「トワ・エ・モア」との合同コンサート・交流会のほか、平和祈念公園での平和学習や府中市POM、似島少年自然の家での活動を行った。府中学園、竹原市民会館、サントピア大竹、あきつ世代間交流センターで公演。
こどもたちからのサウンドメッセージ～合唱団、みんなで楽しいリトミック、おんがく大好きミュージックパーク合同コンサート	H21.3.14・15	合唱講座、合唱団Ⅰ・Ⅱ、混声合唱の270人が出演する「Favorite Song・心の故郷」(3月14日14:00と17:00、15日の17:30)、合唱講座、合唱団Ⅰ・Ⅱ、混声合唱、おかあさんもいっしょリトミックⅠ・Ⅱ・Ⅲ、おんがく大好きミュージックパーク320人が出演する「みんな音楽家」(15日13:00と15:00)のコンサートを行った。(青山円形劇場)



ドキドキッズオンステージ～サンバ・フェスティバル

ドキドキッズオンステージ～花のお江戸の助六太鼓



ドキドキッズオンステージ～三味線三昧



ドキドキッズオンステージ～ジャワ島のガムランと踊り



A (オーディオ・ビジュアル)V 事業部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

本来、映像の世界は大きな広がりと奥深さを持つものである。しかし、日常の子どもと映像のかかわりを眺めた場合、そのほとんどが一方的に内容・対象を定めて送られてくるテレビ放送の視聴に偏りがちである。そこで A V 事業部では、“子どもたちの知的好奇心や創造性を刺激し、豊かな感性や知識をはぐくむこと”を大きな目標に掲げ〈みる〉〈しる・つくる〉活動を展開している。

□ 〈みる〉活動□

「ビデオライブラリー」には 35 のブースが設置され、趣味・教養・娯楽等々、さまざまな映像作品が約 23,000 タイトル登録されている。ここでは、子どもたち自らが作品を選び、家族やグループ単位で自由に視聴できる。

「子どもの城映画劇場」や「おもしろビデオ館」などの上映プログラムでは、子どもたちに見せたい優良作品をスタッフが厳選して、大画面で上映している。より深い次元で鑑賞してもらいたいと願い、作品の背景や見所などを事前に解説する構成としている。

□ 〈しる・つくる〉活動□

映像=見る存在と思われがちである。しかし、映像を自己表現や情報伝達の手段ととらえた場合、非常に優れた媒体といえる。この点に着目し映像に〈しる・つくる〉という側面からアプローチする取り組みを「不思議な映像実験室」の名称で行っている。

簡単な映像作品を作るワークショップを実施するほか、子どもたちの映像に対する“不思議”を積極的に取り上げている。例えば、“何で映画は動いて見えるの” “レンズがなくても写真は写るの”などである。これらの素

朴な疑問に対しては、視覚がん具やピンホールカメラ作りのワークショップを通じ、無理なく“不思議”を解き明かせるようなプログラム構成を心がけている。

ビデオライブラリー、上映プログラム、不思議な映像実験室が 3 本柱となり、AV 事業部の活動を支えている。

2. 乳幼児親子のための新プログラム

本年度の新規事業として、映像を使った“親子遊び” 「映像であそぼう！」の実施と、「親子の ZOO っと広場」の設置を行った。近年、乳幼児の利用者が増加傾向にあるということと、本年度から全館で実施された乳幼児対策にあわせたものである。

これまで学童期の子どもたちが中心であったが、幅広い年齢層への事業展開と乳幼児対策の必然性を踏まえ、新たな試みとしてこれらの事業の展開をすることにした。



ビデオ動物園 親子の ZOO っと広場スペシャル

(ア) 「映像であそぼう！」から「なかよし映像広場」へ

乳幼児対策として何をすべきか、内容を模索した末、新たに実施したプログラムは、映像を見ながら森の中を探検したり、動物のまねっこをしたりする—映像を通じて疑似体験する“親子遊び”である。

子どもたちは、車に見立てた親の膝の上に座り、大きな映像にあわせて、道を走ることから始まる。くねくね曲がる道があつたり、でこぼこ道があつたりする。この映像は、スタッフが実際に山道を車で走り、撮影を行い、より現実味のあるものを作った。

森に到着すると、そこにはさまざまな動物がいる。子どもたちは、スクリーンに映し出された動物の動きを見ながら、まねっこをする。動物の映像には、ガイドとなるような動物のイラストを入れた。子どもたちは、スクリーンを見ながら、自由に動く。大きく体を動かしたり、マットの上に寝そべったりとさまざまである。

大切なのは、動きに決まりを設けないことである。子どもたちが、動物の動きの一つひとつを観察し、親子でふれあい、自由に表現することを大切にした。例えば、象。一緒にマットの上を歩いたり、大きな耳や長い鼻を作ったり、とさまざまである。“親と遊びたい”“子どもにしてあげたい”と言った、親子の間の想いを大切にしながら実施している。

全館的に実施した、夏休み特別期間の乳幼児対策プログラム、開館記念ファミリーウィーク、春休み特別期間の「親子のZOOっと広場スペシャル」のなかの特別プログラムとして実施した。

今後は、さらに試行錯誤を重ねて映像の種類を増やし、プログラムを充実させていきたいと考えている。映像を使った“親子遊び”「映像であそぼう！」は、来年度から「なかよし映像広場」と改称して、定期的に実施



不思議な映像実験室

していくことにした。映像を使った“親子遊び”が、[こどもの城] だけではなく、全国の児童館、そして広くは、家庭でも簡単に楽しめるものにしていきたいと考えている。

(イ) 「親子のZOOっと広場」

なぜ“広場”なのか、乳幼児対策の実施にあたり、スタッフが“親子”を知り、より身近に接する必要があると感じたからである。実施にあたっては、コンセプトが必要であり、ハード面(環境設定)とソフト面(具体的な内容)の両面からとらえた。

場所はビデオライブラリー内のスペースを利用した。マットを敷き、親子がゆったり過ごせる環境設定を行った。“親子”が安心して利用できるように、おもちゃの衛生面や誤飲などの危険性にも注意を払った。

おもちゃについて、以下の点を意識した。
 ①動かせるおもちゃ
 ②視覚・聴覚で楽しむことができるおもちゃ
 ③いつまでも遊びたいと思うおもちゃ
 ④質が良く“温もり”を感じるおもちゃの4点である。

おもちゃメーカー数社にコンタクトを取り、そのなかから木のおもちゃのメーカーである、プラントイ社におもちゃを提供してもらった。プルトイやプッシュトイをはじめとし、知育がん具、音具、動物のぬいぐるみなどを置いた。さまざまなおもちゃを置くことで、たくさんの子どもたちに遊んでもらいたいと考えた。

ソフト面では、“親子”に着目し、“親子で過ごす”“親子で遊ぶ”ことを意識した。乳幼児期は、多くの経験が必要な大切な時期である。特に親とのスキンシップはとても大切だ。“親”と“子”がこの広場でふれあい、遊びを通じて、いろいろなことを感じ合えるように考えた。また、子ども同士のつながり、親同士のコミュニケーションがはかれる広場作りを意識した。“多くの親子が楽しめる広場”“何度も来たくなる広場”をコンセプトとし、実施した。

“広場”的な名前は、親子で“ずっと”遊びたい、親子が“ZOO(=動くおもちゃ)”と遊べる—この2つから、「親子のZOOっと広場」とした。

まず試験的に実施し、年齢層や利用時間の調査を行った。そこから平常期間の平日(火～金曜日)に実施することを決めた。

11月の開館記念ファミリーウィーク特別期間には、Bスタジオの半面を使い、また春休み特別期間にはAスタジオを使い、拡大版となる「親子のZOOっと広場スペシャル」を実施した。

今後は、平常期間の“広場”を維持するとともに、内容充実をはかり、より良い展開をめざしていきたい。あ

お城テレビスタジオ



わせて、特別期間などでは、拡大版などを実施し、さまざまな親子にとっての“広場”作りをめざしていきたいと考えている。

3. その他の活動

(ア) パソコンを使ったビデオライブラリー視聴促進活動

ビデオライブラリーでは、定期的に各種特集を組み、収蔵ビデオソフトの視聴促進活動をしている。特に、季節休みなどの特別期間には、テーマにあわせたカタログやポップの制作に加え、各種展示や、ライブゲーム大会、そしてゲーム用のPCの設置などを行っている。

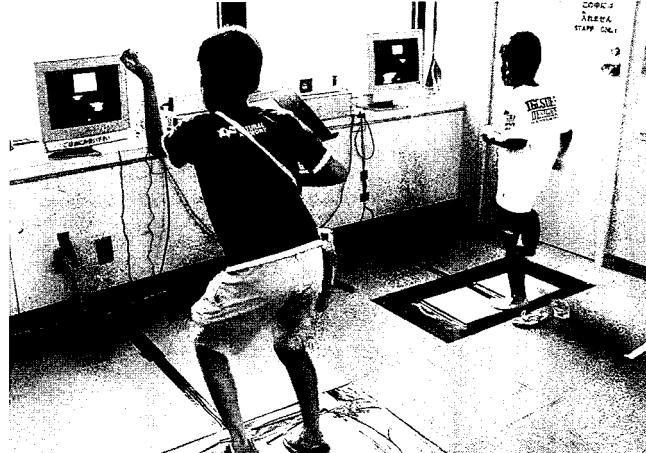
PC用ゲームは、スタッフの自主制作。大予算でつくられた市販のPCゲームなどにはおよばないが、設置や運用の仕方を工夫すれば、効果的に使うことができる。

特集で使うPCゲームは、なるべく多くの人が参加できるよう、その種類と設置台数を多くして、1ゲームあたりのプレイ所要時間を短くしている。

夏休み特別期間の特集「ビデオリンピック」では、“聖火ランナーに挑戦”“国旗クイズ”“オリンピッククイズ”的3つのゲームを設置し、プレイ時間をそれぞれ3分程度に収めた。冬休み特別期間の特集「おめでタウン」の“えと爺おみくじ”“お正月カードゲーム”“福笑い”、春休み特別期間の特集「妖怪ライブラリー」の“妖怪クイズ”“妖怪カードゲーム”なども同様である。

「聖火ランナーに挑戦」では、マラソンでオリンピックの開催地・北京をめざす。プレイヤーがPC前に設置されたマットスイッチ上で走りつづけると、モニターのなかの風景が、次々と移り変わっていく。設置台数は2台。PCゲームは、造形物などと違い、同じセットを容易に増やせるのが利点だ。さらに、設定ひとつでゲームの難易度も簡単に変えられる。このときは、一方を小学生用、もう片方を幼児用にした。後者は、少ない歩数で目的を達成することができるように設定してある。

みんなで決めよう！ビデオリンピック



PCゲームは、汎用性を考慮して開発する。特にクイズ、カード、パズルなどは、PCゲームが起動時に読み込む文字・画像のデータ部分を入れ替えると、まったく別種のPCゲームのようになる。ただし、ゲームの構造は同じなので、見かけは違っても内容に新鮮味がなくなってしまう。そこで近年は、汎用性の高いPCゲームと、開発に手間がかかる一点もののPCゲームを、組み合わせて設置するようにしている。“聖火ランナー”“えと爺おみくじ”“福笑い”が、この一点ものにあたる。

“えと爺おみくじ”では、音センサーが子どもの手打ちを感じると、仙人の“えと爺”がおみくじを発行する。“福笑い”では、実写人物の動き回る目・鼻・口を顔のベースに打ち落とし、できあがり具合を判定する。

一部のPCゲームは、クリアするとパスワードが発行され、コレクションカードをもらえるようにした。このカードは、PCゲーム以外の課題（ビデオソフトの感想文を書くなど）をクリアしてももらえるもの。カードを集めると、カードバトル大会などのライブゲームにも参加できるようになる。

特集の他のイベントときめ細かくリンクできるのも、自主制作PCゲームの利点である。

(イ) 映像の活用（館内外の記録、PR映像の作成など）

利用者への遊びのプログラム提供のほかに、館内のテレビ放送システムを使った情報発信や全館事業の映像記録などを行っている。

【こどもの城】では、地上波のアナログテレビ放送信号を受信した後、マスターントロール室で各チャンネルのレベル調整を行い、全館に有線放送している。各フロアの壁掛けテレビをはじめ、オフィスのテレビ、ホテルのテレビもこの信号でテレビを受像している。

信号送出の際、マスターントロール室では【こどもの城】独自の映像を、空いている5チャンネルや11チャンネルなどを使って放送している。開館当初は、5チ

チャンネルには館内の施設案内やイメージ映像、11 チャンネルにはコンピュータグラフィクス (CG) を使った文字情報で催し案内を放送していた。

日曜日・祝日と、特別期間には、5 チャンネルを使って「マック TV こどもの城情報局」という名称で、館内の催しを取材・放送していた。しかし、事業の見直しで「マック TV こどもの城情報局」を平成 3 年に休止。11 チャンネルの CG 放送は、平成 6 年に同様の理由から終了。この後数年は、施設案内とイメージ映像のみを放送していた。平成 10 年に自動車・オートバイメーカーの本田技研工業㈱と提携したプログラム「発見 !! バイクワールド」の実施を期に、催し案内の館内テレビ放送を再開した。

館内放送の再開とその継続については、事業規模の拡大や予算の増額というのではなく、より簡易なスタイルにするという形で対応している。実施中の催しを取材するのではなく、事前に選んで各部担当者に紹介してもらう形で映像素材を作成している。

イベントそのものを取材していないため、物足りなさもあるが、限られたスタッフで作業をするための方法である。他部の催し開催中は、AV 事業部も催しを行っていることが多く、取材するための別のスタッフが必要になってしまうからだ。事前に取材・作成して、当該期間中に繰り返し放送することで、省力化している。

放送期間は、利用者の多い特別期間に絞っている。この形で放送を再開して、本年度で 10 年目となる。今後は平常期間の日曜日・祝日なども、催し案内の放送を行えるよう工夫していく。

この他、AV 事業部では、全館イベントの映像記録、グループ活動などのプログラム紹介ビデオ、青山劇場・青山円形劇場の公演の映像収録、B スタジオで行われるコンサートの館内テレビへの中継・収録も行っている。

本年度は、開館記念ファミリーウィーク特別期間に行われた、音楽ロビーでのコンサートを館内テレビで中継した。4 階ロビーに仮設のマルチカメラ中継ブースを作り、館内のアンテナ線をさかのぼって映像をマスター コントロール室に送る“逆送システム”を使って放送。館内の仮設ブースからの、逆送システムを使ったマルチカメラ放送は、開館以来初の試みであった。

4.まとめ

〔こどもの城〕は近年、乳幼児の利用が大変多くなってきた。これに伴い、全体として乳幼児への取り組みも検討されはじめることとなった。

A V 事業部の事業の性質から、乳幼児については受け入れがなかなか難しいのではないかと、内外から言われている。難しいながらも何かできないかということで、映像を使った乳幼児向けの遊びを試験的に始めてみた。まだまだ初步の段階ではあるが、乳幼児向けの活動「映像であそぼう！」などで、手ごたえを感じることができた。試行錯誤の連続ではあったが、大きな意味を持つ 1 年であった。

今後、乳幼児の特性や反応、与える影響やプログラムの意味など、あらゆる点を吟味・研究しながら、乳幼児対応の可能性を探っていきたい。そして、A V (Audio & Visual) の特性である、視覚と聴覚を最大限に活用したプログラムの具体的開発へとつなげたい。

毎年恒例となった、N ゲージ模型を使った鉄道イベントや科学的な工作、そして「サタデー・ラボラトリー」などの活動は、本年度も引き続き行った。これらの取り組みは、科学離れが叫ばれる昨今の学童を対象としたものである。これらの活動も、今後新たな試みを加え、子どもたちにとって、より楽しく興味の持てるものとしていきたい。

平成 20 年度活動一覧表

1. 一般利用

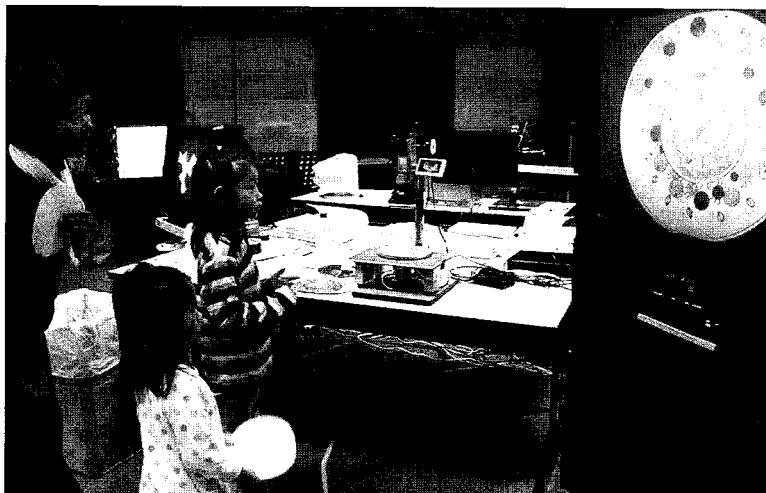
〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
ビデオライブラリー 自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなど、幅広いジャンルにわたるビデオソフトを 23,000 タイトル以上所蔵するビデオの図書館。利用者は、ビデオライブラリー内に設置された 35 のブース（小部屋）で好みのソフトを視聴できる。 (ビデオライブラリー)
おもしろビデオ館	金曜日 15:30～16:00	ビデオライブラリーにある上映可能なビデオソフトから、テーマを決めて選び、上映。作品に興味を持ってもらうため、上映のあとに手作りの絵本を作っている。 (Bスタジオ)
サタデー・ラボラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受付時間)	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。クラフト、科学遊び、映像遊びなどを週がわりで実施。同一プログラムでも改良を加え、内容の向上をはかっている。プレイ事業部と共に。 (プレイホールほか)
不思議な映像実験室	土曜日 15:30～17:30	2枚の絵を描いて作るアニメおもちゃ「くるくるアニメ」と、表と裏の絵が重なって見える「ソーマトロープ」を実施。ソーマトロープは、季節に合わせた用紙を充実させた。ボランティアスタッフによる簡単な視覚がん具の展示コーナーも併設。 (音楽ロビー)
不思議な映像実験室	日曜日・祝日（月 1・2回） 11:00～17:30	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ（視覚がん具）の展示とワークショップを行った。展示と幼児向けの「くるくるアニメ」コーナーは、随時参加できるようにしてある。ワークショップは、時間枠を決めて実施。「ソーマトロープ」(11時30分～12時30分)、「フィルムに絵を描こう」(13時30分～14時30分)、「ばたばたアニメをつくろう」(15時30分～16時30分)を実施した。 (Bスタジオ)
子どもの城映画劇場 カナダのアニメーション	日曜日・祝日（月 1・2回）	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」収蔵の NFBC のアニメーション作品を上映(11時35分、13時35分、14時35分、15時35分)。 (Bスタジオ)
館内放送テレビ中継録画	日曜日・祝日、特別期間	Bスタジオで実施される音楽事業部担当「わいわいスタジオ」などを館内のテレビへ中継および録画。特別期間には、「子ども活動エリア」の催し物案を中心とした映像情報の作成・送出も行った。 (Bスタジオ・映像調整室)
GO! GO! ヴィーケル (第 33～37 回)	4.1～6 (第 33 回) 6.7～15 (第 34 回) 9.27・28 (第 35 回) 12.13～23 (第 36 回) H21.1.10・11 (第 37 回)	鉄道以外に、車のおもちゃで遊ぶことができるようになってしまったことでもない、「走れ！キャッスルトレイン」から「GO! GO! ヴィーケル」に名称を変更した。第 33・34・36 回は「子ども鉄道模型運転会」で、N ゲージの鉄道模型の運転体験ができるプログラム。第 36 回は、クリスマスにあわせて、折り紙のツリーでジオラマの飾り付けをした。第 35・37 回は「ミニバージョン」。鉄道のおもちゃと車のおもちゃで遊ぶができるようにした。 (フリーホール)
秋まつり 「屋上映画上映会」	9.20・21	秋まつりのイベントの一つとして、屋上ふしきが丘からビデオライブラリー・造形スタジオの壁面につるした白いシートに 16mm 映画の上映を行った。21 日は降雨のため上映は中止。 (屋上ふしきが丘)
おもしろビデオ館 クリスマスアニメスペシャル	12.7	『レドルフ赤鼻のトナカイ』『フロステー・ザ・スノーマン』の 2 作品を交互に上映。『レドルフ赤鼻のトナカイ』は 55 分と上映時間が長いが、来場した子どもたちの多くは最後まで鑑賞していった。ビデオレーベル・MUKU とのタイアップ企画。 (Bスタジオ)
ドルッチャドリーム ドリームメイク	H21.1.14・15	全館プログラム「ドルッチャドリーム」のなかで、子どもたちのアイデアを基にした“お化粧プログラム”を担当。来館した子どもにスタッフの子どもがメイクをし、最後に写真を撮る。ネイルコーナー・メイクコーナー・ヘアメイクコーナー・コサージュコーナーと分けて好きなコーナーから始められるようにした。 (音楽ロビー)
集まれ小学生！発見！ サタデー・ラボラトリー スペシャル	2.14・15	「みる、きく、つたわる 音のふしき」を実施。いろいろな展示や体験コーナーで音が聞こえる不思議や伝わる仕組みを体験できるプログラム。ワークショップは、紙コップスピーカー、効果音に挑戦、紙ホイッスルを実施。展示コーナーでは、新しく、「音のフレネルレンズ」「音の骨伝導」を加えた。 (プレイホール)

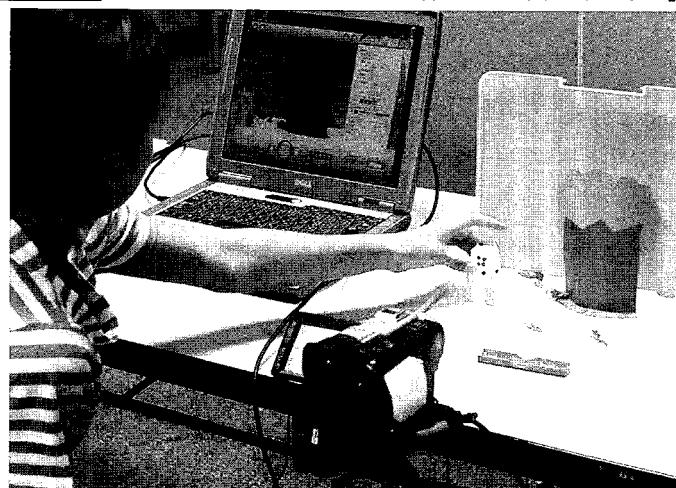
〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 不思議な映像実験室	4.26・27	平常期間と同じ。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 ビデオライブラリー 花特集	4.26～5.6	いろいろな植物の花や葉を知るために、生花やポスター形式の展示で植物を紹介し、クイズやカードゲームを使った遊びも行った。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 おもしろビデオ館スペシャル 人形アニメーション MUKU 劇場	4.29	人形を少しづつ動かす“コマ撮り”で撮影した人形アニメーションを特集。『ノディ』『のばらの村の物語』を上映した。ビデオレベル・MUKUとのタイアップ企画。(Bスタジオ)
〈 〃 〉 こどもの城風雲録 暗黒神凱羅の野望	5.3～6	企画研修部とプレイ事業部のプログラム。Bスタジオが最終決戦会場となつたため音響・照明などを担当した。 (Bスタジオ)
〈夏休み〉 サタデー・ラボラトリーまつり	7.19～23	「ニットに挑戦～リンリンせみ」(19日)、「3面ソーマトロープ」(20日)、「スーパー糸電話」(21日)、「空飛ぶおもちゃ ストローフライヤー&紙トンボ」(22日)、「空飛ぶおもちゃ ストローフライヤー&浮羽ウイング」(23日)に加え、「クイズ 100問答えてラリー」(19～23日)を行つた。また幼児コーナーとして、夏向けの絵柄の用紙を加えた「ソーマトロープ」を実施。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 ビデオライブラリー みんなで決めよう！ ビデオリンピック	7.21～8.31	オリエンピックイヤーにちなんで、いろいろなジャンルの作品別に金銀銅を決め、視聴促進活動につなげた。視聴作品の感想を記入したり、ライブラリー内に設置された PC ゲームなどでカードを集め。また映像機器を使ったゲーム大会——「めざせゴールド！メディアスリート大会」も実施した。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 お城テレビスタジオ	7.26～8.10	前年度の開館記念特別期間「お城 TV ニュースキャスター」で実施した「お天気予報コーナー」「ニュースキャスター体験コーナー」に加え、ディレイで音声が遅れて聞こえる「衛星中継コーナー」「驚き盤の塗り絵コーナー」を設置。ゆったりとアニメ制作体験ができる「驚き盤の塗り絵コーナー」も人気があった。 (Bスタジオ)
〈 〃 〉 不思議な映像実験室	8.12～20、22～31	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ（視覚がん具）の展示と、「くるくるアニメ」コーナーを実施した。スタジオの奥では夏休み短期講習会を実施。 (Aスタジオ)
〈開館記念〉 わたしたちからのメッセージ	10.25～11.3	自分の夢、親への気持ち、今の気持ち、または 10 年後を想像したメッセージを文章や絵に込めて、カプセルに詰めるコーナー「カプセルにこめて」(10月 25 日～11月 3 日)をビデオライブラリーに設置。スタッフが突撃インタビューして、子どもたちの夢を語ってもらい、その映像を館内のテレビに流す「夢をのせて」(10月 25 ～ 31 日)を行つた。 (ビデオライブラリーほか)
〈 〃 〉 ビデオ動物園 親子の ZOO っと広場スペシャル	10.29	「赤ちゃん大集合」に合わせて、ビデオライブラリーの各ブースを映像動物園にした。動物おもちゃのコーナーも設置。また、プラントイ社の協力を得て、通常の「広場」のコーナーを拡大し、たくさんのおもちゃを並べて実施した。 (ビデオライブラリー)
〈 〃 〉 お城テレビスタジオ	11.1～3	「天気予報コーナー」「ニュースキャスター体験コーナー」に加え、11時 30 分、12 時 45 分、14 時 45 分の 3 回「突撃インタビュー」を行つた。子どもたちが他の子どもにインタビューをする様子を、館内テレビで放送した。音楽ロビーの「うたってファミリー」の館内中継も行つた。 (Bスタジオほか)

名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 ビデオライブラリー クリスマス特集～クリスマスをキラリ！彩ろう！	12.1～25	クリスマス関連のビデオの視聴促進活動。クリスマスをいろいろなリースを作る「ディスクリースをつくろう！」を13時30分と15時に実施。幼児からでも作ることのできるものにし、身の回りにある使わなくなった映像機材を材料に実施。（ビデオライブラリー）
〈　〃　〉 〃 正月特集～映像広場おめでタウン	H21.1.3～7	正月にちなんだビデオの視聴促進活動。「おめでタウン」と称し正月にちなんだPCのゲームコーナー（福笑いや占い）を設置。「メガすごろく大会」を13時45分と15時15分に実施した。（ビデオライブラリー）
〈　〃　〉 アニメフェスタ 2009 vol.1	1.3～7	アニメーションの仕組みを体験できるプログラム。「円盤アニメにチャレンジ」「三角形のダンスにチャレンジ」「ビーズゲームにチャレンジ」「紙コップで丑アニメにチャレンジ」の4コーナーと映画フィルムの展示なども行った。（Bスタジオ）
〈春休み〉 ビデオ動物園 親子のZOOっと広場スペシャル	3.25～31	通常の「広場」の拡大版。ドールハウスなどの展示も行った。3月27～29、31日の14時30分には「映像であそぼう！」を実施。映像や照明を使った親子遊びを行った。（ビデオライブラリー）
〈　〃　〉 妖怪ライブラリー第一章 妖怪に出会おう！	3.25～4.5	「妖怪」（お化けや怖い話など）にちなんだビデオの視聴促進活動。『ゲゲゲの鬼太郎』『悪魔くん』など水木しげる作品の妖怪を中心にパネルやジオラマの展示、映像を使った「妖怪ゲーム」などを設置。（株水木プロから原画（複製）を借用して展示。（ビデオライブラリー）
〈　〃　〉 ジャイアント・ライト・サーカス	3.31～4.1	オランダの幻灯パフォーマンスグループ「ミュージスコープ」と日本の写し絵劇団「劇団みんわ座」公演の技術協力を実施。主催は、企画研修部。（Bスタジオ）
〈　〃　〉 おもしろビデオ館スペシャル 人形アニメーション MUKU劇場	4.2～5	上映の間隔を15分程度に設定し、途中会場を閉めずに連続して上映した。『ノディ』『ピーター・コットンテール』『のばらの村のものがたり』を上映。ビデオレーベル・MUKUとのタイアップ企画。（Bスタジオ）



アニメフェスタ 2009 vol.1

夏休み映像・科学ワークショップ
「君もパペットアニメーター」

2. 講座・クラブなど

〈短期講習会〉

名 称		対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み 映 像 ・ 科 学 ワ ク シ ョ ッ プ	君もパペット アニメーター	(人) 小1～高3 (2日間＝ 1回／日＝ 計 20)	(人) 計 21	7.26・27 13:00～16:00	紙コップをベースとした人形を作り、撮影ステージに立てて、パソコンで撮影してアニメ作品を作る。資料集のDVDと冊子付き。受講料＝2,000円。 (Bスタジオ)
	天体望遠鏡工 作教室	小4～高3 (4日間＝ 2回／日＝ 計 96)	計 72	8.1～4 ① 13:00～14:45 ② 15:30～17:15	塩化ビニールパイプやボール紙など、身近な材料を使って天体観察用望遠鏡“マックロースコープ”を作る。受講料＝2,300円。 (Bスタジオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験!」 キノーラ	小1～高3 (4日間＝ 2回／日＝ 計 96)	計 96	8.6～9 ① 13:00～15:00 ② 15:30～17:30	ぱらぱらマンガを、アニメのように連続して見ることができる装置、キノーラを制作。装置を組み立て、15～30枚の動く絵を描いてセットする。受講料＝2,100円。 (Bスタジオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験!」 ムービーミエ ール	小3～高3 (1日間＝ 2回／日＝ 計 24)	計 24	8.12 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	35mm 映画フィルムを動かしてみる、簡易フィルムビューアーを制作。ムービーミエール本体の組み立てと、ピエロがパントマイムをする白黒映画フィルムへのダイレクトペイントを体験。受講料＝2,800円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験!」 ヘリオシネグ ラフ	小1～高3 (2日間＝ 2回／日＝ 計 48)	計 49	8.14・15 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	スリットのあいた円盤ごしに、動画の描かれた円盤をのぞくと、絵が動いて見える視覚がん具を制作。円盤はネジで固定してあるので、交換できる。受講料＝2,100円。 (Aスタジオ)
	いきもの図鑑	小1～高3 (3日間＝ 2回／日＝ 計 72)	計 53	8.17～19 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	オリジナルペーパークラフトで“いきもの”を再現する。「ヘラクレスオオカブトムシ」を制作。「コノハムシ」「オオカマキリ」「ブルーモルフォチョウ」などの、おまけ型紙付き。受講料＝1,800円。 (Aスタジオ)
	ペーパーマリ オネット混虫	小4～高3 (1日間＝ 2回／日＝ 計 24)	計 2	8.20 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	「クワガタムシ」の形をした空想の虫、「混虫（まぜむし）」のあやつり人形を作る。上面のデザインは交換し、「ロボクワガタ」「ヘラクレスクワガタ」などに変身できる。受講料＝1,800円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ 「映画のしくみを体験!」 プラクシノス cope	小1～高3 (4日間＝ 2回／日＝ 計 96)	計 97	8.22～25 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	映画が発明される前にあった視覚がん具、プラクシノスコープを制作。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵がアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。受講料＝2,400円。 (Aスタジオ)
	アニメーショ ンキットを作 ろう	小1～高3 (4日間＝ 2回／日＝ 計 96)	計 49	8.27～30 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	売店で販売している「つくるキット」を組み立てる講座。工作が苦手な子どもも「つくるキット」を楽しめるよう、組み立ての難易度が高い「ゾートロープ」を中心に行き工作指導。受講料＝2,100円。 (Aスタジオ)

3. その他

〈動く子どもの城〉

名 称	日 時	内 容
不思議な映像実験室	9.12	「ソーマトロープ」「くるくるアニメ」「驚き版」を紹介。見本用や予備として持参した各種用紙を、持ち帰りたいと希望する受講者も多く、大好評であった。(富山県こどもみらい館)
"	H21.1.22	「ソーマトロープ」と「驚き盤」を紹介して欲しいとの要望。2枚の絵を描く視覚がん具「くるくるアニメ」と「ソーマトロープ」の違いを説明するために、「くるくるアニメ」を加え、3つの視覚がん具を紹介。(茨城県立こどもの城)

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
保谷こもれびホール アニメ教室	8.4・5	視覚がん具作りの初級コース、紙コップ人形アニメを作る中級コースを開催。 (東京都西東京市保谷こもれびホール)
川崎市アートセンター 「アニメ1日教室」	8.25・26	視覚がん具作りの動く絵コース、紙コップ人形アニメを作る人形コースを実施。 (神奈川県川崎市アートセンター)
新潟県児童厚生員講習会「児童文化財活用法」	11.6・7	児童厚生員や指導者を対象とした講習会で「子どもの城」での映像プログラムを実施。 (新潟県こども自然王国)
日野市中央公民館アニメ教室	12.26・27	紙コップ人形や切り絵などを使って、アニメ作りを体験するワークショップを実施。 (東京都日野市中央公民館)
児童健全育成推進財団 「子ども映画祭」	H21.2.18	(財) 児童健全育成推進財団平成20年度「子ども映画祭」上映の観察、指導。アニメ『レミーのおいしいレストラン』を上映。 (千葉県市川市元中山児童ホーム)
"	2.21	同上。映画『ピッピ南の島へ』を上映。 (愛知県名古屋市上飯田児童館)
"	2.24	同上。映画『カワウソ親子の冒険』を上映。 (佐賀県川副町児童館)
川崎市アートセンター 「アニメ1日教室」	3.26	ぱたぱたアニメと紙コップ人形のアニメを作るワークショップを実施。 (神奈川県川崎市アートセンター)
愛知県児童総合センター 「アニメフィルム実験室」	3.27～29	映画フィルムに絵や模様を描いて抽象的な映像をスクリーンに映し出すワークショップ。 指導者向け講習も実施。 (愛知県児童総合センター)



夏休み映像・科学ワークショップ「ムービーミエール」

〈映像記録〉

名 称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年	講座などをビデオ取材し、ソフト化して参加者に販売。体育事業部「母と子のすくすくランド」(Part 1～3)の3本。同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの各特別期間	[子どもの城] の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。体育事業部「チャレンジキャンプ 2008」「スキースクール」(Part 1～1期、同一2期およびPart 2)／プレイ事業部「ちびっこ冒険団 2008」「フェローシップキャンプ 2008」「ゆきんこ冒険団 2008」／企画研修部「ジュニア・アウトドア・スクール 2008」「ジュニアスプリングキャンプ 2009」。 上記作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	青山劇場・青山円形劇場の公演・講座発表会をビデオ収録し、編集してビデオライブラリーで公開。さらに一部を出演者などに販売。 ◎青山劇場 = 「セブン・ダミーズ・ブルース」。 ◎青山円形劇場 = 「子どもの城マタニティ・コンサート」「月猫えほん音楽会 2008」「子どもの城・キリン・ファミリーオペレッタ タントさんのふしげなレストラン 3」など。 青山劇場・青山円形劇場を合せて、13本を収録。青山劇場・青山円形劇場のカメラ不調により、収録本数は前年度より半減した。

保育研究 開発部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

本年度も“子ども家庭支援プログラム”を3つの事業に分けて行った。保育事業（「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」）、一般来館児・者事業（「親子工房」「よちよちクラブ」「1・2歳児の遊び場」）および研修事業（「保育セミナー」「家庭支援の理論と実践」「子育て支援のニュースレターの発行」）である。

さらに、本年度から全館事業の一つである乳幼児プログラム「ぽかぽか広場」にも携わった。

本年度は、保育事業の中で行っている「親子教室」では、父親参加の様子を、「保育クラブ」「幼児グループ」のプログラムでは、さまざまな興味関心を広げるべく行っているテーマ活動のプログラムからみえた、子どもの姿を紹介をする。

2. 3つの保育事業

(ア) 親子教室

「親子教室」は、講座形式で行っている1歳児の親子を対象にした、子育て支援プログラム。親子遊びを中心に、小児科医師や臨床心理士などの専門家を交えて、ディスカッションを行ったり、親同士の交流・情報交換・意見交換などを含め、10回のプログラムで構成されている。うち4回は、父親も参加する家族プログラム。本年度は、家族（父親を含む）と一緒に遊びながら子育ての楽しさを感じられるように、父親も参加して楽しめる家族プログラムの充実に力をいれた。

親子教室の応募理由には、例年同様の理由（①近所に

同年齢の子どもがいない ②母親同士の交流・話せる場がほしい ③各方面の専門家の意見が聞ける）のほかに、“父親の参加プログラムがあること”が多くあげられた。この父親参加プログラムについては、母親からの希望も多い。

父親の大半は、休みの日は家族で出かけたり、家で子どもと遊んだりしている。しかし、他の家族と一緒に遊びの時間を持つことは少ないようだ。父親の参加率が70%を超えて考えると、父親が子育てを楽しむだけではなく、いろいろな家族の子育てにふれることで、視野の広がりを持てるようなプログラムの必要性を感じ、父親を交えた家族プログラムの充実をはかっていった。

プログラムのねらいとして、①プログラムの過程を親子で楽しめること ②親が参加して楽しめること、他の家族との交流ができること ③親自身が子ども時代に戻れるもの——を設定。そして、以下の父親参加プログラムを実施した。



親子でかくれんぼ（「親子教室」から）

「小麦粉粘土遊び」(2家族一緒に、粉から粘土を作る)／「七夕飾り」(短冊に願い事を書き、父親が網や提灯、母親が輪つなぎや三角つなぎなどを作る)／「劇ごっこ：おおきなかぶ」(父親が面を、母親がかぶを作る)／「ゲーム：親子でバスケット」(椅子取りゲームの家族版)／「親子でかくれんぼ」(父親が隠れ家を作り、家族でかくれんぼをする)

どれも両親と子どもが一緒に遊ぶプログラムである。父親のなかには作ることが苦手な人もいるが、子どもが要求するものを必死で作ったり、恥ずかしい思いでいっぱいになりながらも役になりきったり、真剣にゲームに参加したりする姿などが見られた。

母親は、我が子を育てる過程で他の子どもと出会い、ふれあう機会があるので慣れているが、父親は我が子以外の子どもとふれあうことに慣れていない。はじめは戸惑いながらも、他の子どもと一緒に遊ぶ姿を起点に、他の家族との交流へと、輪が広がっていた。

母親は家族で参加でき、あらためて家族で過ごす時間を楽しめたようだ。

子どもは、他児とかかわりのなかで初めての経験を広げていき、母親は今までの育児不安を解消し、父親は家族で参加したことをとおして、子育ての楽しさへつながっていったのではないかと感じた。

「親子教室」参加の感想は次のとおりであった。

【母親が感じた子どもの変化】

子どもが習った手遊びや歌を家で歌うようになった／言葉が増えた／手洗いや食事のあいさつなどの習慣を知り、自分から始めた／人見知りをしなくなった

【母親の変化】

皆同じ悩みを持っていることがわかり、気持ちが楽になった／母親同士のつながりができ、心に余裕ができるよ

「家族」ってどんな存在？——「親子教室」参加者

「親子教室」参加者に、講座最終日に、“父親は母親へ”“母親は父親へ”向けて、家族とはどんな存在であるかを一言で表現してもらった。突然の問いかけではあるが、どの参加者も回答に躊躇することなく、自然に個々の思いを言葉にしていた。ふだん、言葉にして伝えることはなくても、子育てをとおして家族のことを考えている、思いやりが感じられる言葉の数々である。

□父親からのメッセージ□

絆／笑顔／心のつながり／やすらぎ／帰りたくなる場所／行動の原動力／お互いを理解し、成長できる場／支えあうチーム・最後まで守るもの／本音を言える仲間／足らない所を補い合うもの／エンターテイメント

□母親からのメッセージ□

支え／宝物／共同作業／大切なもの／心のよりどころ／幸せのかたち／わがままを言える間柄／喜び・譲り合い／楽しい運命共同体／喜びも悲しみも一緒に分かちあえるかけがえのない場所

うになった／子育てに対して前向きになれた
【父親の変化】

集団のなかにいる我が子の様子がわかった／我が子と一緒に歌ったり工作をしたりして、子どもとの時間が楽しめるようになった／最初はかなり戸惑いがあったが、他の家族とも出会い、他の父親を見て、自分ももっと努力しようと思った

(イ) 保育クラブ

「保育クラブ」は、会員制保育の形態をとっている。年齢によって保育時間の違いがあり、2歳児は3時間保育と4時間保育、3～5歳児は4時間保育と6時間保育を行っている。表現活動や運動活動、年間行事など、子どもが成長する上で経験してほしいものを、年齢に合わせて1年間かけて行っている。

1日の保育内容は、遊びの時間（自由遊び、テーマ活動）、給食、集まり。フリー予約保育などで利用する子どもたちも、安定して保育に参加できるように、ほぼ同じ時間の流れで保育を進めている。

遊びの時間には、自由遊び（個別に遊べる遊び）とテーマ活動（クラス全員が同じテーマのもとに活動する）を設けている。前者は、好きな遊びを選択できる時間で、個人の自己充実感を高めることを、目的の一つにしている。後者は、個人の未経験分野で子どもの経験の幅を広げるとともに、ダイナミックな集団活動に取り組むことで得られる、個人の予想を超えた遊びの広がりに喜んだり驚いたりすることができる。その過程ではぐくんだ、友だちとのやりとりから得られた集団経験は、人とかかわったことで得られた充実感・満足感になる。クラスのメンバーが同時に、その感覚を経験できることを目的の一つにしている。

本年度は、テーマ活動のなかから、子どもたちが意欲的に取り組んだ活動と、子どもらしい自由な発想で展開したプログラムを紹介する。

■ 2歳児の保育 ■

家庭から離れて初めてさまざまな集団遊びと出会い、楽しさを知り始める時期なので、家庭育児では体験できないダイナミックな集団遊びを取り入れた。遊びの選定は、自然に遊びだしてしまうような、遊びとの出会いを大切に考えている。

《絵の具遊び（かくれんぼ）》

ねらい：色の美しさ、色が混ざる際の変色の様子、変化する際の不思議さや、おもしろさを感じることができるよう回を重ね、じっくりと楽しめるように行う（絵の具遊び）。あわせて、色のなかにかくれた形のおもしろさを発見する（かくれんぼ）。

【フィンガーペインティング】

①視覚を楽しむ導入：色ってなあに

色が変化する様子を描いている絵本『あおくんときいろちゃん』(レオ・レオ二作、藤田圭雄訳／至光社)を見せ、色は混ざり合うことで変化することを知らせ、色に興味を持たせた。

②触覚を楽しむ導入：砂場遊び 手形取り

母親と一緒に手形をとり、絵の具が手のひらにつく感触を経験した。同時期に砂場遊びを行い、手に砂がつく感触も経験し、手を汚して遊ぶ経験を多く取り入れ、フィンガーペインティングにつなげていった。

③視覚を楽しむ1：1色目

子どもたちの目の前で、白い紙の上にのりを混ぜた絵の具を1色垂らすと、初めて見た光景にびっくりし、絵の具が“垂れたこと”そのことに驚き、その様子をずっと目で追い、「わあー！」という歓声があがつた。次に、のりを入れてべトべトとした絵の具を保育者が、“触った”ことにまた驚き、衝撃を感じた様子だった。

④触覚を楽しむ：触る

すばやく、のりが混ざった絵の具のなかに手を入れ、ベタベタ、ヌルヌルとした感触を楽しむ子、手のひら全体に絵の具をつけたり、絵の具のヌルヌルとした滑りの良い感触を楽しむ子、反対に手を後ろにまわして触ることを拒む子、じっと見て楽しむ子——反応はさまざまだった。

⑤視覚を楽しむ2：2色目

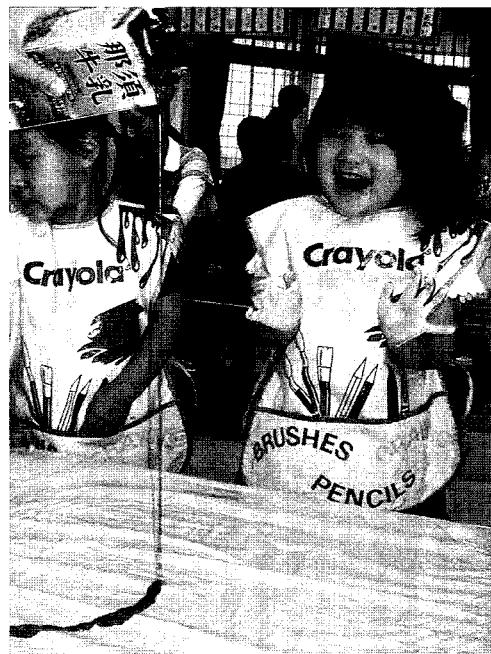
さらに、子どもの目の前で2色目を垂らした。また、一瞬、子どもたちは衝撃を受けていた。すぐに触りだし、混ざりあう色の変化にすばやく気がつき、目を「ハッ」と輝かせて見入る子もいれば、反対に色の変化に気が付かない子もいた。子どもによっては、次第にひじや髪の毛にまで絵の具が付くくらいに、ダイナミックに身体を使って遊ぶ姿が見られた。

⑥友だちと一緒に経験する

はじめは、絵の具に触ることを嫌がった子どもも、



偶然にできたデザインをみつける（「フィンガーペインティング」）



視覚を楽しむ：2色目（「フィンガーペインティング」から）

保育者や友だちの楽しげな様子を見て、勇気を出して触わってみたり、不本意ながら手に飛んできた絵の具に驚きつつも、それがきっかけで自分から触れるようになったりする子どももいた。

⑦視覚を楽しむ3：色の変化

のばした絵の具の上を、指でグルグルと円を描いていくうちに、少しずつ色が混ざり合い「みどりになった！」「ピンクだあ」と、色が変化していく様子に目を輝かせていた。

⑧視覚を楽しむ4：偶然できたデザインをみつける（かくれんぼ）

絵の具を触る指に少し力を入れると、線が浮きてきて、その線を電車の線路に見立てて、長く引いたり、波線を描いたり、渦巻きを作ったりと子ども一人ひとりがそれぞれに楽しんでいた。

⑨視覚を楽しむ5：模様が浮き出る

その模様を布に写しつづいた。すぐにでもその布を触りたい様子だったが、10を数えながらじっと我慢して待った。布を絵の具からはがすと、「わあ！きれい！」と思わず歓声をあげて、作品のできあがりを喜んでいた。布に写しつづいた柄は、きれいな絵柄となって浮かびあがつた。

【額縁づくり】

①導入

“かくれんぼ”がテーマの絵本を読み聞かせ、かくれんぼ遊びは楽しいことを知らせた。次に、活動に使用する道具を紹介。1人1枚のダンボール(18cm×18cm)。「ダンボールの茶色い所がなくなるように塗ろうね」と保育者が声をかけながら、塗り方の見本を見せる。「ここがまだだよ」「こっちもだね」と、塗り残しを見つけて

思い思いに話し始め、活動に関心を示し始めた。

②道具を使う1：筆で色塗り

実際に塗ってみる。ダンボールの端からていねいに塗る子、文字を書くように塗る子、真ん中ばかり塗る子など、思い思いに好きな場所から、好きな描き方で塗り始めた。“筆を使って塗りつぶす”という作業は、初めて筆を持つ子どもにとっては、少し技術的に難しい子もいたが、塗っているうちにだんだんと筆づかいがうまくなり、きれいに塗り終わったダンボールを見て、みんな満足そうだった。

③道具を使う2：スタンプで色づけ、模様づけ。模様みつけた（かくれんぼ）

自分の塗った段ボールへ、スタンプで模様をつけた。模様つけに使ったスタンプは、乳酸菌飲料の容器とコルク。保育者が、乳酸菌飲料の容器口の部分をスタンプに見立てて、金色のアクリル絵の具（スタンプ台）をつけて紙に押しかせて、子どもたちに見せると「まるいね」「おつきさまみたい」と、スタンプ遊びに興味津々。同様に、コルク（ワイン栓）をスタンプに見立てて紙に押しかせて、見せると、「たいようみたいだね」「ミッキーみたい」と、スタンプの形から想像するさまざまなもの（見立て）について話していた。

子どもたちがスタンプを押してデザインした模様は、実にさまざまだった。一つひとつていねいに押して作品を作っていく子、電車をイメージして1列にスタンプを押していく子、乳酸菌飲料の容器で押した輪型模様のなかに丸型模様のコルクを押していく子——とにかくスタンプ遊びが楽しくて何度も何度も押す子どもたち。どの子どもも自分のイメージを持ちながら、スタンプの模様つけを楽しんだ。

④額縁作りに繋ぐ：母親と一緒に木の実の飾りつけ

最後は、保護者（主に母親）と一緒にスタンプでデザインをしたダンボールの上に、木の実をのせて飾りつけをした。どんぐり・まつぼっくり・からまつ・椿の実・はんのきの実など、いろいろな木の実のなかから、親子

で好きな木の実を選び、ボンドではりつけた。

この額縁のなかに「かくれんぼ」の要素を保育者が付け加えた。保育者がダンボール板の中央を四角く、くりぬき、子どもたちが作った輪ゴムスタンプの絵柄が隠れるように、扉をつけた。この「額縁」は、さまざまな遊びの工程を重ねて完成した作品になった。

【活動をとおして】

保育室併設の観察室から、フィンガーペイントイングの活動を見ていた母親の感想には「これは家では絶対にできない（壁などが汚れるから）。絵の具遊びを取り入れてくれてうれしい」という声や、別の母親からはこの活動中、絵の具に触れない我が子の横にいた子どもが、我が子に絵の具をベットリとつけた様子を見て、「このように、自然に子ども同士がかかわることはうれしい。子ども同士だからこそ、我が子も泣いて怒ったりしないのでしょうか」と、集団保育のなかでの子ども同士のかかわりを見て、率直な感想を述べてくれた。

《絵の具遊び》《かくれんぼ》とともに、子どもたちは絵の具で色づけをした作品のなかに色の美しさ、色が混ざる際の変色の様子、変化する際の不思議さやおもしろさを感じていた。また、偶然にできたデザインを別のものに見立てて、まるで絵が“かくれんぼ”をしているかのように感じながら見つけることを楽しんでいた。

できあがった作品を見上げる子どもたちの顔は、充実感に満ち、みんな凜々しかった。

■3～5歳児の保育■

入室から退室まで、ほぼ3～5歳児が一緒に過ごしている。保育内容によっては年齢別、経験別に行い、積み重ねる経験を大切に考えている。

本年度は都会で暮らす子どもたちが、自然を身近に感じることが少ない環境のなかで成長していくことを考え、あえて自然に生きる生き物に目をむける機会となるように活動した。「幼児グループ」（4・5歳児）の年間テーマ活動「森」に合わせて、保育クラブの主に3歳児の活動も、異年齢児混合保育の活動として、テーマを共有し、活動展開の機会を多く持ち、積み重ねて活動を行った。

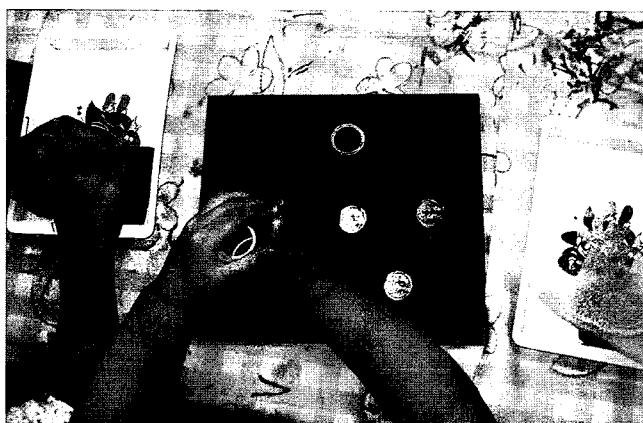
《ぼくたちのもり》

ねらい：自然を身近に感じることができるように、樹木を絵で再現してみる。

①イメージづくり

1学期から絵本『もりのなか』（マリー・ホール・エツツ作／福音館書店）を繰り返し読み、森にいるようなイメージ広げ、大きく長い布（約1.6m×10m）を使って「自分たちの森を作ろう！」と活動を始めた。

②観察：樹木を触り、生木の木肌を観察する



スタンプで色づけ、模様づけ（「額縁作り」）

樹木に触れることの少ない子どもたちは、木肌の凹凸の手触りや模様に驚きの声をあげ、実際、木を塗りつぶそうとする子どももいた。

③実物大の樹木を写し取る：丸太（木材）の木肌をこすり出す

保育室へ実物の丸太を運ぶと、顔を近づけ体中をクレヨンだらけにしながら、フロッタージュ（こすりだしの技法）し、樹木の木肌を写し取った。写し取ることに夢中になっていた子どももいた。保育者の「森にある木は生きているんだよ」という話を聞き、目の前にある木も生きているのかと、木に耳を近づけ、確かめる子どもの姿もあった。クレヨンを数色使い、フロッタージュで仕上げた絵を、立木のように立ち上げて見てみると、色の混ざり具合が本物の樹木のような味わいを出していた。

④森の風景を制作：大きな紙に森を再現する（樹木、きのこなど）

活動終盤は、公園へ遠足に出かけ、木だけでなく“きのこ、枝、どんぐり、葉っぱ”などを見つけた。より一層、森作りの意欲が増し、一人ひとりの作りたいもののイメージを膨らませていた。

図鑑を見ながら、森作りにかんする細かな制作を楽しんだ。葉を三角形につなげてちょうどよにしたり、植物や生き物をイメージしたものを切り紙にしたりして、森作りを楽しんでいた。きのこ・石コロ・ミミズ——一つひとつの出会いが、作品と結び合っていった。

【活動をとおして】

年齢によって興味・関心や技術にも差があるが、一緒に活動に取り組むことにより、3歳児も年上の子どもの活動を目にして、刺激を受け、また子ども同士のかかわりが互いの成長の糧となっていました。

7日間かけて制作した《ぼくたちのもり》をとおして、自然が子どもたちにとって身近なものになっていった。

●3～5歳児の延長保育

「エコロジー」の考え方を遊びのスパイスとして、テーマ活動に取り入れた。物を大切にしてほしいという保育者の思いから始めたものであり、身の回りのものを大切に思う気持ちが、子どもたちに芽生えることをねらいにおいた。

テーマ活動《七色の廃材で虹の家に》をすすめていくうちに、物を大切にする気持ちがみられるようになり、みんなで作り上げた「虹の家」は、子どもたちが積極的にかかわる遊びの小道具の一つとして、ごっこ遊びでよく使用するようになった。

《七色の廃材で虹の家に》

ねらい：身の回りのものを大切に思う気持ちが、子ども

写し取った木肌を大きな紙にはりつけて森を再現する



たちに芽生えるように、身近な廃材の再利用に取り組んだ。具体的には、色集めに着目して廃材集めをし、再活用をする。

①廃材を集める：廃材の色分け

赤・橙・黄・黄緑・緑・青・紫という、虹の色に分けて廃材を集めた。ダンボールを廃材で飾って、自由に組み合わせて遊べる「虹色の家を作ろう」と子どもたちに投げかけた。廃材を使ったのは、ふだんなら捨ててしまうものでも、工夫することでできな遊び道具になることを感じてほしいという、保育者の思いからである。

②段ボール板にボンドを塗り、廃材をはりつける（1色）

ダンボールに、同系色の廃材をはりつけていった。細かいパーツを手に取りながら、「これ、私のおうちから持ってきたお菓子の袋だよ」と会話を楽しみながら、はりつける子もいれば、ダンボール一面をどんどん埋めつくしていく作業に没頭する子もあり、それぞれに楽しみを見い出していた。

③段ボール板にボンドを塗り、廃材をはりつける（7色）

あらかじめダンボールに線を引いておき、その枠内に収まるように色別のパーツをはりつけ、虹の七色をグラデーションにしていった。枠からはみ出てしまうパーツを手にすると「先生、はみ出しちゃいそうだからハサミで切ってもいい？」と自分で考えて、工夫してはってい



廃材をはりつける（7色）（「七色の廃材で虹の家に」）

さまざまに形を変える“虹の家”（「七色の廃材で虹の家に」）



く姿が見られた。できあがると「キレイだね！」と元が廃材であることも忘れて、見とれている子どももいた。

④遊び方を知り、遊ぶ

ダンボールの四隅に開けた穴にロープを通して、結んでつなげた。友だち同士助け合ってダンボール板を支え、一生懸命結んだ。囲いができると「ここはお風呂ね、ここはご飯を食べるところ」などと、どんどん遊びのイメージを広げていった。

「虹の家」は、その日によってレストランになったり、電車遊びのトンネルになったり、時にはテーブルになったりと、子どものイメージによって形を変えていく、いちばんのお気に入りの小道具となった。

【活動をとおして】

まだまだ、リサイクル活動は生活の一部分の取り組みではあるが、子どものころから物を見つめる目を広げ、自分ができるエコロジー活動に取り組む、きっかけになればと思う。

(ウ) 幼児グループ

本年度は《森》をテーマに設定し、保育活動を実施した。大きな紙に森を制作した造形活動に続いて、森のなかにある《森のおみせやさんづくり》をとおして、活動中の友だちとのかかわりを大切にした。

《森のおみせやさんづくり》

ねらい：自然に接したり、親しむ機会が少ない都心の保育環境のなかで、子どもたちが自然の持つ不思議さ・豊かさ・偉大さを感じ、想像力を豊かに働かせ、活動をとおして友だちと「ともに」「かかわる」ことを大切に考えていく。

①お店屋さんってどんなもの？：役割を知る

絵本『もりのなか』（マリー・ホール・エット作／福音館書店）を1期から繰り返し読み、イメージを膨らませていった。年長の5歳児はそのストーリーを元に、9月にお泊り保育を実施した。

「絵本『もりのなか』で、先生の大好きなシーンがあるんだ！それはね、動物たちがテーブルを囲んで食べ物を食べているところ……」と絵本の1ページを見せ、「こんなふうに、アイスやさんやお菓子やさんがあったらしいね。森のお店屋さんがあったらしいと思わない？」と問うと「やってみたー！」という声があがった。

②なりたいお店屋さんについての意見を出し合う

どんな店？の問いかけに、洋服屋、ケーキ屋、虫屋、お菓子屋、ドーナツ屋、団子屋、自動販売機屋、プリンセス・ドレス屋、いろいろなもの屋（デパートのような）など、アイデアがどんどん出てきた。

そこで、「お店を開くこと」はどういうことか、社会の仕組み的な内容にも触れてみた。一人ではできない（友だち）、お店にはさまざまな役割の人がいて力を合わせてること（協力）、困った時には話し合うこと（相談）、というように「お店」にはさまざまな役割がある事を伝えた。

③店舗を決める(4店舗)

いろいろ出た店舗案のなかから、多数決で4店舗に絞りこむことにした。家庭でもよく考えてきて「〇〇したい！」といい、やる気が出でている様子だった。

④自分のやりたい店舗に分かれ、イメージの共有

全体で出店店舗を決め、イメージしたものを絵にしてみた。それぞれ自分のやりたい店を選び、売る商品のイメージを店舗ごとに集まつたメンバーで出し合つた。だれ一人として「やりたくない」という声は出ず、「やったー！」という声ばかり。既に、店のネーミングを考えていたり、絵を描いてイメージをふくらませている子どももいた。発想は豊かで、楽しいイメージを描くことができた。

⑤「店長ってどんな人？」と話し合う

初めての話し合い。「店長ってどんな人だと思う？」というテーマで質問を投げかけ、話し合いで必要な“感じたことや考えたこと”があるときは、手をあげて発言するというルールを伝えた。普段、手をあげて発言することが少ない子どもも、「店長は、一番上手に作れる人！」と発言したり、皆の意見を聞いて考えた後に「恐い人が入ってきた時にみんなを助けてあげられる人！」と発言する子も出た。店長になる人は「自分でなくても、この子ならできるなと思う人に（推薦）お願いしてもいいんだよ」と言うと、「〇〇くんがいいと思う！」と他の子どものパーソナリティを認めたり、店長をしたい子が大勢いると、「1番目・2番目・3番目…」と順番に店長を決める姿も見られた。

⑥店舗ごとに商品作り、担当外の店作りを協力する

商品作りに取りかかった。たくさん並んだ商品作りの

材料となる素材を見て、朝から期待する子どもたち。商品作り1日目は、まだ商品を形にすることが難しく、毛糸と綿を詰めただけで“完成”だったり、土台から作りあげるのが困難な姿も見られた。

「森のおみせやさん」のオープンの日時を伝え、「お客様が買いたくなるようなものを考えよう!」「森の恵み(自然物)を使って作ろう!」と発信し、できあがった作品を「○○ちゃんはこんな所を工夫しているね」と紹介していくなかで、より良い商品を作ろうと互いがよい刺激を受けていた。

2~3週間の制作期間中、集中できずに途中で投げ出したくなる気持ちも出ていたが、「もう、やりたくない」という声は不思議となく、新しい材料に興味を持ちながら、必要なものを“考えて作る”ことも意識して、商品作りに励む姿が見られた。一つの作品を作り終わると、力つきで「もう、できない!(考えられない)」という子どもいたが、保育者がイメージを聞いて引き出していくと、再度イメージが膨らんで、もう一つ作ってみようという気持ちになった。

また、後半は自分たちの店だけでなく、違うお店の商品作りも楽しむようになってきた。

⑦店(商品ケース・看板含む)・お金・財布作り

オープンまで1週間にになり、いよいよ商品を陳列する棚作り(子どもたちはショーウィンドーと呼ぶ)を始めた。大きなダンボール箱を組み立て、糊をはり、どんどん半紙をはり合わせた。

店長会議を行い、ショーケースが必要だということを相談し、下書きをし、形を考えた後に取り組んだ。大きなダンボール箱を目の前に、「ここがレジを置く場所で……」「カフェコーナーも作りたいな」と、試行錯誤しながら、考えて組み立てている姿も見られた。大きな箱に糊をつけて、張り子にする作業は大変だったが、オープンの日程に合わせるために、3歳児にもショーウィンドーの葉っぱはり(代々木公園の遠足で集めたもの)、葉っぱ型のお札切り、財布作りとたくさん手助けしてもらった。

準備の最終段階は、看板作りとお財布作り。看板作りは、まず設計図を書き、どんな看板にしたいかを店ごとに考えた。「私が書きたい!」「私も!」と主張しあう場面もあったが、「Aくんは商品を作ってね」「私は看板を作るから」と、割り振りする姿も見られるようになった。

オープンの2日前の活動は看板作り、商品作り。役割分担をし、「商品足りるかな」と、オープンに向けてみんなが同じ目的を持って商品作りに精を出した。

「森のおみせやさん」



子ども同士が「ともに」「かかわり」ながら、手先を使うこと、考えあうこと、協力することなど、子どもの成長に欠かせない要素がふんだんにあり、3~5歳児という異年齢混合の活動のなかで、兄弟の少ない現代においては、家庭では不足しがちな、子ども同士のかかわりのなかで成長しあう姿を見ることができた。

⑧おみせやさんオープン: 買い物ごっこをする

「森のおみせやさん」開店当日は、保護者に買い物客として参加してもらった。日数を重ね、相談して作り上げたお店屋さんで、はりきって売っていた子どもたちは、みんな生き生きとした日の輝きで活動していた。その姿が印象的だった。

3.まとめ

「親子教室」では、従来の講義に加え、大人が子どもとともに他の家族と一緒に遊ぶ楽しさを、遊びをとおして経験できた。「保育クラブ」「幼児グループ」では、テーマ活動の展開の様子と、そこで見せた子どもの姿をまとめた。

テーマ活動では、2歳児が絵の具活動をとおして感じた新鮮な衝撃は、自然に気持ちと体を動かす活動へと結びついた。3~5歳児保育では、友だちと一緒に同じテーマ活動に時間をかけて取り組んだことで、友だちの良さを見つけ、意見を出し合い、認めあうことができるようになっていった。テーマ活動をとおして、友だちとかわる力が育っていった。

テーマ活動の内容の選定は、年齢によってさまざまだが、子どもたちがいまだ経験をしたことのない感覚や、まだ知らない社会の役割などについて、体験をとおしることで、物事を理解し考える幅を広げるきっかけとなるように、今後とも子どもの気持ちに響くテーマ活動開発に努めたい。

平成 20 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
親子遠足	10.30	「保育クラブ」「幼児グループ」の 2 ~ 5 歳児の家族プログラム。家族同士の交流をはかるのがねらい。春は雨天のため中止。秋のみ実施した。代々木公園(渋谷区)でゲームや自然物を使った制作を行った。「葉っぱジャン・ケン・ポン!」「仲間探しゲーム」「ネックレス作り」「歌」で楽しんだ。父子が交流する姿が見られた。参加親子 44 組。
保育活動展	H21.2.1 ~ 15	テーマは「こどももようパート VI」。「幼児グループ」を中心に「保育クラブ」の 2 ~ 5 歳児の保育活動をさまざまな絵や協同制作、作り物、写真などで紹介している。本年度の「幼児グループ」と「保育クラブ」3 歳児の保育活動は、「森」をテーマに展開。松ぼっくりやどんぐりなどを、ひのきの板にのせてはる構成遊び《木の実のアート》、絵の具をのせた葉っぱを板の上に置いてローラーでコロコロ押さえた《葉っぱの型押し》、木の表面を「こすりだし(フロッタージュ)」して森の絵を描いた《ぼくのもり》、お泊まり保育で出かけた《もりへの探検》、森の中にこんなお店があつたらいいなということから始まった《もりのおみせやさん》。さらに、長いロール状のタイベック紙に思いっきりに描いた《海の生き物》や幼児グループの《等身大の自分像》を展示した。延長保育は、おやつの時間の手作りの様子を写真で展示。カラフルな廃材で共同制作した《虹の家》、毛糸で作った《アクリルたわし》、新聞紙で作った《新聞王子・新聞姫からのメッセージ》を展示した。本年度は、保護者の協力を得てさまざまな葉っぱを取り口に飾り、一本の大きな木を制作。(ギャラリー)
よちよちクラブ	6.9、7.14、9.8、10.20、 11.24、12.1、H21.1.12、2.9 (土曜日) 11:00 ~ 12:00 13:30 ~ 14:30	一般来館の 1・2 歳児の親子のための子育て支援プログラム。年間 7 回。親子 334 組が参加。定着したプログラムになった。本年度は、手作りおもちゃ作りを毎回取り入れた。「こんなにゆとりのある時間はなかなかつくれない」と参加した母親。母親同士が話をしている間に、子どもが 1 人で遊ぶ姿を見て、親自身にも、子どもにも楽しい時間となったようだ。父親も、「子ども時代に戻った」「こういう場は初めて、デビューの日です」とうれしそうに話す姿も見られた。これを機会に、「親子教室」「保育クラブ」に引き続き参加する親子もいる。予約制だが、当日参加可。(保育室 1)
保育室の一般開放	土・日曜日、祝日 10:00 ~ 17:00	1・2 歳児のためのおもちゃや絵本を用意して、[こどもの城] に来館する親子に遊べる場を提供した。定期的に遊びに来る親子もいる。こどもの城ボランティアグループが定期的に絵本の読み語りを行っている。(保育室 2)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 よちよちクラブ拡大版	5.3 ~ 5 10:00 ~ 17:00	館内の低年齢児向けのプログラムや親子で遊べるスペースを増やすため、特別期間中に来館する 1・2 歳児の親子を対象に、企画研修部、小児保健部と合同で「バブバブベビータウン」の一つとして通常の「よちよちクラブ」を拡大して行った。1・2 歳児の親子に魅力的な環境になるように工夫した。内容は通常行っている手遊び、作り物、パネルシアターなどを行った。時間は 10 時から 17 時まで。親子はゆったりとおもちゃで遊んだり、保育スタッフの出し物を楽しんだ。本年度も都内をはじめ近県から遊びに来ていた、乳児連れの家族にとって、館内の催しに参加した後の休憩室にもなっていた。3 日間約 400 人の親子(祖父母、兄弟含む)が参加。(研修室)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工房 「親子で作る'08系スケルトンDEエコ・カー」	8.23・24 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	ペットボトルを使った、ゴム動力のおもちゃを親子で制作。作ったおもちゃを実際に動かし、レースをして楽しんだ。広報の段階から問い合わせがあり、ソーラーカー作りと思った参加者がいたぐらいに、「エコ・カー」に関心が高かった。2日間344人が参加。(保育室1)
〈 〃 〉 小中学生保育体験プログラム	7.22～8.29 10:00～14:00 14:00～16:00	「幼児グループ」修了児の小学5年生～中学3年生に声を掛け、小中学生が幼児と触れ合う機会を提供した。事前にアンケートを行って参加者の個性を把握し、保育の中で生かせるように保育者が援助した。そうすることで、保育を体験するなかで幼児から必要とされることに喜びを感じ、自己肯定感を持てたようだ。また、保護者に行った事後のアンケートには、幼児期を振り返りながら、参加者自身の個性や良さを再認識するきっかけになったという意見があった。高校生になっても参加したいという意見もあり、来年度の検討事項。参加者は20人、活動延べ人数は35人。(保育室1・2ほか)
〈開館記念〉 よちよちクラブ	11.1～3 10:30～12:00 13:30～15:00	年々1歳児の参加が多くなっている。毎回ゆったりと和やかな雰囲気のなか、乳幼児の遊び場がありうれしいとの声が聞かれた。対象は、1歳から2歳11ヶ月。(保育室1)
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10:00～17:00	[こどもの城]に来館する1～2歳児の親子がおもちゃなどで自由に遊べる場の提供。(保育室2)

2. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児グループ	(人) 4歳児(11) 5歳児(11)	(人) 10 11	火～金曜日 10:00～14:00	[こどもの城]を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に3歳児が曜日別に加わり、異年齢児保育となる。多様な人間関係を体験するため、チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部との連携プログラムも行う。本年は自然に目をむけ春から「森」をテーマにさまざまな活動を展開。保育活動展がその発表の場になった。「保育クラブ」に運動している。保育料41,000円、給食費4,800円(いずれも月額)。延長保育を希望する家庭が多い(別途保育料)。
保育クラブ	2～5歳児	14 9 14 6 (1日あたり)	月～金曜日(2歳児) 10:00～13:00 10:00～14:00 火～金曜日(3～5歳児) 10:00～14:00 10:00～16:00	登録をして使う会員制の保育。登録数は436人。会員サービスには次の3つがある。保育プログラムは、①異年齢児混合保育(2歳児・3～5歳児)：2歳児保育は定期保育(週1回利用)とフリー予約保育。3～5歳児保育は定期保育(週1または2回利用)とフリー予約保育、その他から延長保育を実施。②チーム保育(各保育者の持ち味を生かす)③保育ボランティア(小5～社会人)の参加—などの特徴がある。家族プログラムは「親子遠足(春・秋)」「親子工房」など。情報提供プログラムでは「保育クラブ通信(おやとこ)」年4回発行、小児保健部と連携しての「健康診断(春・秋)」など。ほかに[こどもの城]の入館もできることを伝えた。 入会金15,000円、年会費5,000円。保育料、2歳1,350円(1時間)、3歳児以上1,000円(1時間)。給食代600円、おやつ代200円(1回)。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子教室 43期 44期 45期	(組) 1歳児親子 (各期16)	(組) 15 17 12	月曜日ほか 10:00～13:00(月) 10:00～12:00(土・日) (全10回。月曜日6回、土曜日4回)	親子遊びを中心に、子育ての楽しさを両親で体験するプログラム。保育者が援助するなど、父親参加プログラムの充実に努めた。医学、心理発達にかんする講義、栄養士などからのアドバイス。父親(家族)の参加4回を含む。受講料40,500円。

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子育て支援の理論と実践 第1回 " 第2回 " 第3回	(人) 子育て相談担当者など (各回50)	(人) 34 42 49	6.14 10.18 H21.1.17 10:00 ~ 16:30 " " "	前年度から名称と開催形式を変え、1日コースで年3回開催。今日的なテーマや問題を取り上げ、各回ごとにテーマを替えた。受講料各7,000円。各回のテーマと講師は以下のとおり（敬称略）。 第1回「子どもの発達特徴をめぐって～親と子への支援のあり方を考える～」（倭文真智子東京都墨田児童相談所） 第2回「『育てにくい子』を育てる保護者への支援～ペアレンツ・トレーニングの活用」（藤井和子まめの木クリニック） 第3回「家族を支えるということは」（山崎美貴子神奈川県立保健福祉大学） ※監修は、山崎美貴子、倭文真智子。
第22回子どもの城保育セミナー「子どもの育ち・社会の育ちパートIV～子どもの最善の利益を支える子育て支援～」	保育関係者など (80)	36	8.9 8.10 10:00 ~ 17:00 10:00 ~ 15:00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などが対象。今回は子どもの育ちと環境に視点をおき、さまざまな角度から検証することにした。受講料は13,000円。各日のテーマと講師は以下のとおり（敬称略）。 1日目＝基調講演「地球環境と世界の子どもたち」（絵本作家・真珠まりこ） シンポジウム「子どもを取り巻く環境と子どもの育ち」（シンポジスト：梶忍世田谷区北沢総合支所管理栄養士・安藤朗子日本子ども家庭総合研究所臨床心理士・中村裕こどもの城体育事業部／司会：木辺高敏こどもの城広報部） 2日目＝分科会①「地域の中の子育て資源となるために」（助言者：小川清美東横学園女子短期大学） 同②「子どもの生活と食事」（助言者：斎藤由紀成瀬くりの家保育園・柴田伸子成瀬くりの家保育園・太田百合子子どもの城小児保健部） 同③「相談の中に見られる親の姿・子どもの姿」（助言者：鈴木宏子東京都教育相談センター）

3. その他

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
虐待について	8.23	保育所内で虐待につながる子どものかかわりについて保育士とロールプレイをとおして意見交換をして学ぶ。参加者20人。主催：社会福祉法人こざくら保育園。
親子遊び	9.24	母子保健推進委員向けに、1・2歳児親子遊びの紹介。主催は、宇都宮市野木町役場健康福祉課健康増進係。

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
子育て支援のニュースレターの発行	第31(通巻47)号=7.25 第32(通巻48)号=12.1 第33(通巻49)号=H21.2.20	行政、経済界、利用者にかんする情報および子育てをめぐる情報、「家庭支援の理論と実践」研修会の内容の概要を紹介。本年度は、保育所保育指針の改定を目前にひかえた行政・現場などの動きをはじめ、各地の実践などを中心に取り上げた。児童福祉施設の果たす役割の大きさを実感させられるとの読者の声。他に前年度から「子どもの城」で行っている各事業部の活動の紹介や、活動をとおして見られる最近の親子の様子なども紹介している。主な配布先は、子育て支援にかかわる実践者、研究者、大学など年間購読を希望する個人および団体。その他見学者、関係所管課に無料配布。年間購読料2,000円（郵送費、印刷代一部負担金）。

小児保健部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

小児保健部は、子どもの健康の問題に取り組み、乳幼児の子育て支援を行うことを中心に活動している。予約制の診療を行っている小児科の「小児保健クリニック」をはじめとして、その内容は整理すると下記のように分けられる。

- ①「小児保健クリニック」での診療・相談
- ②グループで行う講座や催し（“子どもの肥満改善”や“保護者の子育て支援”など）
- ③“子育て支援”的現場にかかわる専門職への啓発活動
- ④活動の成果をまとめための研究

スタッフは、医療・心理の専門職で、各職種がチームを組んでさまざまな活動にかかわっている。

本年度は、前年度に引き続き、乳幼児の子育て支援活動に発展がみられた。

〔子どもの城〕の平日の開館時間に合わせて、午後 0 時半から 2 時まで行っていた「赤ちゃんサロン」を、ゆっくりすごせるように、午前 11 時から午後 2 時までの時間帯にひろげた。〔子どもの城〕には、一般来館児・者向けの常設の乳幼児コーナーはないので、「赤ちゃんサロン」の時は 4 階の音楽ロビーを使用している。同時に多くの乳幼児親子が訪れても、安心な広さがあり、窓からの光が入って明るい場所である。乳幼児向けには、床にキルティングの敷物を敷き、座って過ごせるようにして、おもちゃを並べている。

さらに本年度は、4 階と 2 階に座卓の食事コーナーを設けた。それにより、親の昼食や子どもの離乳食を持参

する人が増えた。「赤ちゃんサロン」会場で過ごした後、食事コーナーで昼食をとり、また戻ってきて終了時まで会場で過ごしていく。参加者は、親同士でゆったりと会話を楽しんだり、子どもの遊ぶ様子につきあつたりしている。

開催時間が定着するにつれて、入場する時間帯が一時に集中しなくなり、会場も大混雑して困るということがなくなってきた。本年度の参加者の総数は合計 3,722 人にのぼり、前年より 432 人増加した。

「赤ちゃんサロン」を知った経路として、友人同士の口コミが多いのは、例年どおりである。なかには友人と会場で待ち合わせている人もいる。小児科医・保健師・管理栄養士・臨床心理士など、小児保健のスタッフが子育ての相談にのるほか、女性ボランティア 3~5 人の参加も定着し、母親たちの間をつないだり、子どもたちと遊んだりという役割を果たしている。父親・祖母・妊娠婦なども毎回数人の参加がみられる。

本年度は、「赤ちゃんサロン」と並行して、2 歳 11 か月までを対象とする、「ぽかぽか広場」のシミュレーションも始まり、継続して来館する親子と職員が顔見知りになる機会も増えたように思われる。さらに定員 10 組のグループで行っている、小児保健部の「季節の離乳食」や「親子のほっとタイム」(短期講習会)に繰り返し参加する人も多くなった。落ち着いた雰囲気のなかでゆっくり交流を楽しみ、子育ての参考になる知識も学びたいという親が多いことが感じられた。

そこで、夏休み特別期間の子育て支援の一環として、「赤ちゃんほっとタイム～夏休み子育て学習会」(定員 30 組、有料) を 11 階会議室で開催した。午前 11 時か

ら午後3時までの間に、管理栄養士と小児科医師の話、自由な相談の時間を設けたのである。1歳半までの乳幼児親子には、時間が長いのではないかと思われたが、定員ちょうどどの参加者が、昼食をはさんで最後まで、のんびりと過ごしていったのは印象的であった。

以前から、長い時間安心して過ごせる乳幼児親子のための居場所が、「子どもの城」のなかにも望まれていた。本年度は改めて、そこで人とふれあうことや子育てのヒントを得ることが、親たちの不安の解消や子育ての楽しさにつながることが痛感された。

2. 診療・相談活動

本年度の小児保健クリニックの診療・相談の統計は、表1に示した。診療・相談の総件数は、前年の2,506件から2,192件へと、314件減少した。しかし、新規の来所件数は、265件から273件へと8件の増加となっている。

新規が増えたのは、公費の乳幼児健康診査（以下健診）。6か月・9か月・1歳半）が、81件から115件へと34件（42.0%）増え、特に初めて健診に来所した件数が56件から86件へと30件（53.6%）も増加したことによる。一方、健康保険による医師の診療が157件減少したこと、特に再診の件数が減っているのは、肥満などの理由で継続の栄養相談を受ける人が減ったことも関係しているだろう。心理・発達相談も、987件から794件と193件減少したが、ダウン症療育相談は横ばいとなっている。

新規来所者の居住地域別内訳（表2）は、東京都在住

【新規来所者の診療・相談内容内訳】（表4）

内 容		件数 (%)
発達の相談（疑いも言む）	精神遅滞	19 (6.9)
	言語発達遅滞	17 (6.2)
	学習障害・注意欠陥多動性障害	17 (6.2)
	自閉症・自閉的傾向（広汎性発達障害）	15 (5.5)
	ダウン症、その他先天異常	5 (1.8)
	小 計	73 (26.6)
	情緒障害・情緒不安	30 (11.0)
	神経症（強迫神経症・恐怖症など）	10 (3.7)
	育児不安	4 (1.5)
	不登園・不登校	4 (1.5)
情緒・行動面の相談	集団不適応	3 (1.1)
	小 計	51 (18.8)
	肥満（心理的な問題含む）	15 (5.5)
	起立性調節障害	4 (1.5)
	摂食障害	3 (1.1)
	心身症（脱毛・チック・吃音など）	11 (4.0)
	その他身体疾患（低身長・アレルギー疾患など）	5 (1.8)
	小 計	38 (13.9)
	合 計	162 (59.3)
健 診	乳幼児健康診査（公費）	86 (31.5)
	健康診断（自費）	25 (9.2)
合 計		111 (40.7)
総 計		273 (100)

の人の割合が80%前後で大きな変化はない。渋谷・港・世田谷の上位3区は変わらないが、杉並区が減って新宿区が5位になった。近隣では川崎市・横浜市を含む神奈川県が多いが、新しい交通機関の開通によるものか埼

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】（表1）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H211月	2月	3月	合 計
診 療	105	95	103	95	72	81	101	109	81	110	90	109	1,151
健 康 診 査（公費）	10	9	7	6	12	10	10	7	12	8	5	19	115
健 康 診 査（自費）	0	20	7	7	2	0	2	1	2	0	1	0	42
育 児・健 康 相 談	1	1	0	1	1	0	0	2	3	0	0	0	9
心 理・発 達 相 談	66	62	64	59	59	60	59	64	79	61	73	88	794
ダ ウ ナ 症 療 育 相 談	7	5	7	11	8	5	3	7	10	8	5	5	81
合 計	189	192	188	179	154	156	175	190	187	187	174	221	2,192
内 訳	初 診（新規）	23	32	26	28	25	10	27	27	23	13	14	273
	再 診	166	160	162	151	129	146	148	163	164	174	160	1,919

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】（表2）

居住地域	渋谷区	港 区	世田谷区	目黒区	新宿区	その他の区部	市郡部	小 計	神奈川県	埼玉県	千葉県	その他の	小 計	合 計
人 (%)	71 (26.0)	29 (10.6)	26 (9.5)	9 (3.3)	7 (2.6)	67 (24.5)	17 (6.2)	226 (82.7)	22 (8.1)	15 (5.5)	7 (2.6)	3 (1.1)	47 (17.3)	273 (100)

【小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳】（表3）

年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12～17歳	18歳以上	合 計
人 (%)	56 (20.5)	40 (14.7)	18 (6.6)	18 (6.6)	24 (8.8)	12 (4.4)	19 (6.9)	16 (5.9)	18 (6.6)	11 (4.0)	16 (5.9)	8 (2.9)	15 (5.5)	2 (0.7)	273 (100)

玉県からの受診が増えている。海外在住の子どもが一時帰国時に診療・相談に訪れるケースも数件みられる。

新規来所者の年齢の内訳(表3)では、公費の健診の増加に伴い、0歳児が前年より23件(69.7%)増え、1・2・4・6歳も増加した。3・5歳は減少し、7歳以上12歳までは、計18件(20.2%)減っている。全体としては小学生が減り、乳幼児が増加したのが目立っている。

診療・相談内容別(表4)では、「発達についての相談」は、全体で6件(7.6%)減っているが、あまり変わらないといえよう。しかし内訳をみると、精神遅滞や言語発達遅滞の順位があがり、軽度発達障害として注目されている注意欠陥多動性障害は5件増え、自閉症・自閉的傾向(広汎性発達障害)は9件減っているなどの細かい変動はある。「情緒・行動面の相談」は17件(25.0%)減少している。特に不登校が16件から4件へと減っているのは、学校現場などで初期の対応がいきわたってきたためであろう。「身体的・心身症的な相談」は全体では横ばいだが、肥満が減り、起立性調節障害や摂食障害が目立っていた。

統計的みると、乳幼児健康診査の件数が増加しただけでなく、診療・相談でも、2歳代で発達の遅れが心配などの理由で、乳幼児の受診が多くなっている。一方、全体的な印象として、離婚・再婚・内縁関係など家庭環境の変化で、子どもを取り巻く人間関係が複雑なケースが増えていること、家族の形態は安定していても、1～2歳から習いごとや塾に多く通い、自発的な情緒表現や、自然な親子関係が形成されにくいうことがあげられる。現在の社会の変化を感じさせる現象である。

3. 季節の離乳食（短期講習会）

小児保健部で行う「赤ちゃんサロン」や「健診」などで、母親からの離乳食についての相談が多い。そこで、離乳食を取り巻く環境の変化や「季節の離乳食」講座の変遷などを振り返り、今後の離乳期における食生活支援のあり方を考えたい。

【子育ての不安が高まる時】

乳幼児の食環境・生活環境は、この10年間で大きく変わった。「乳幼児栄養調査」(平成17年度)によると、最近の母親の授乳や食事についての不安は月齢とともに推移し、出産直後をピークに減少し、生後4～6か月で再び増加、1歳前後でまた高くなる傾向がある。これは、離乳食を開始する時期や、子ども自身の食べ方に悩む時期と一致する。

離乳期の乳児を持つ母親にとって、育児上の悩みごとの上位にあがるのが離乳食である。適量がわからない、作り方がわからない、味や材料の選び方がわからない、

どうしたら良いのかわからない、これで順調なのか不安になる、食事作りが苦手、赤ちゃんの食事はどんなものか全く分からぬなど、月齢ごとにすぐにでも解決したい質問がたくさんある。

そのような母親には、離乳の基本的な部分を伝えるだけでは不安は取り除けない。「だし汁は、なぜ昆布やかつおなのか。しいたけのだしは使ったらいけないのか」「最初に与えるものは、かぼちゃからではいけないのか」といった母親の素朴な疑問に具体的に答えて、離乳食作りの自信を少しでもつけてもらう必要がある。

【離乳食指導の変遷】

食環境の変化に伴い、最近では「食育」が大きく取り上げられるようになった。子どもたちのなかには、食べることが楽しいと思わない子、食べる意欲のない子が増えているという実情がある。母親が「何グラムあげるべきか」にどらわれるあまり神経質になり、全部を食べさせようと無理強いし、イライラして虐待のような接し方になることがある。母親のこのようなかかわり方は、子どもにとって食事時間を苦痛で怖いものにし、食欲を減退させるだけでなく、後々まで母子関係に悪影響を及ぼしていくことになりやすい。

食をめぐるさまざまな問題が論じられるなか、平成17年に「食育基本法」が施行され、平成18年に「食育推進計画」が示された。さらに、最近では離乳食指導の改定も行われた。

「改定離乳の基本」(平成7年度・厚生省=当時)は、10年以上にわたり、保健所・保健センター・病院・保育所などにおいて実施してきた。平成19年4月に改定され、「授乳・離乳の支援ガイド」と名称を替えた。改定には「平成17年度乳幼児栄養調査結果」(厚生労働省)の離乳における悩みの変化、離乳開始・完了時期の推移、ベビーフードの使用状況などの移り変わりも参考にして、検討されている。

これまでの「指導」型ではなく、「支援」することで、不安などが強い母親たちを安心させるために、取りまとめられたものである。

「授乳・離乳の支援ガイド」で、大きく変わった点を以下にまとめる。

①これまでの指導は、「めやす」でありながら、数値にあてはめてしまいがちな傾向があった。母乳やミルクの回数についても、個人差があるので記載が削除され、個人の成長曲線と照らし合わせながら、個人個人に合わせる支援ガイドとした。

②離乳の初期・中期・後期・完了期という段階的な分け方をなくし、目安となる月齢を示した。

③離乳の開始前に、果汁を与える必要性のないことが

保健室での応急処置

[こどもの城]の館内で起きたけがなどの応急処置は、児童保健クリニックの保健室で看護師・保健師が行っています。子どもたちがたくさん、遊びに来ているわけですから、どうしても擦り傷、切り傷、打撲などのけがが起きるのです。なかには、自宅で起きたやけどや来館する途中の駅での転倒など、館外のけがの手当を求めて来る方もいます。

軽いけがに関しては、各事業部でも各々対応していますが、保健室を訪れるのは年間 200 件くらいなので、来館児・者数からするとそれほど多いわけではありません。

けがをした時に、親同士のトラブルが持ち込まれることもあります。困るのは、保健室の前で親同士が、どちらが悪いのかを正そうするあまり、言い争いになることです。そうするときがをした子どもは、もっと不安になり心配顔になってきます。子どもは大人の対処の仕方をよく見ています。もう少し大人も冷静になり、お互いさまという気持ちを感じとれる、寛容な姿を見せてあげたいものです。

幼児などの小さい子どもたちは、ちょっとしたけがでも「テープをはってほしい」「湿布をはほしい」と言っています。あまり必要がなさそうでも、何らかの処置や手当をすることで、安心してまた遊びに戻ることができます。家庭でも「痛かったね」「よくがんばったね」といたわり、手当すると安心感につながることと同じです。

明記された。ただし、離乳食開始前でも、便秘の場合は与えてもかまわない。

④離乳の開始は、そしやく機能、消化機能などの発達から、従来の「生後 5 か月になったころ」から「生後 5、6 か月ごろ」に遅くし、完了の時期も幅が広がるとともに「18 か月ごろまで」と緩やかな表現がとられた。

⑤「この時期は、あまり肥満の心配はいらない」とされていたが、生活習慣病予防の観点からも、胎児期から食習慣の基礎を培うことも重要である、ことが明記された。

⑥食べ方の目安、成長の目安が追加された。

今まででは、どちらかといえば「何を何グラム」といった栄養学が中心であった。少子化により、他の人の子育てを知ることも、乳児にふれる機会もないまま母親になる人が増えて、マニュアルにとらわれ、グラム数にこだわる傾向があった。それが、母親の不安をより増強させることになっていたので「子どもが楽しく食べる」というポイントがおかれたのである。

【母親が望む「離乳食講座】

離乳食の悩みを一つひとつ解決していくためには、一方的な講義形式ではなく、同じ子育てをしている母親のグループを作り、互いの悩みを聞きあうことが大切である

ここではよくある応急処置の一例をあげてみます。

頭部の打撲でおでこの場合は、たんこぶがみるみるうちに腫れてきて、本人より周りが驚きます。冷やすことがいちばんですから、氷と少しの水をビニール袋に入れて冷やしたり、保冷剤をガーゼに包んで当てたり、冷却シートを小さく切ってはったりします。その後、腫れは数日かけて消失しますが、当日より 2~3 日後の方が見た目には悪化したように見えます。目の周りまで内出血が広がり赤黒くなることもあるからです。けがをした時は、今後起こることを予測して伝えると安心につながります。また、症状が悪化した時は病院を受診することも伝えます。手足の捻挫などでは帰宅してから痛みが強くなり、実は骨折ということもあります。

[こどもの城]の保健室は病院と違い、いつも医師の診察が受けられるわけではなく、検査もできません。あくまでも応急処置に限られてしまいます。けがなどの場合、病院を受診するかしないかの判断を行うことが一番の役割ともいえます。急いで受診が必要と思われる場合は、近隣の医療機関を探し連絡をとります。ご本人の自宅の近くを探すこともありますが、家族と相談して決めます。土・日曜日の利用者が多いので、週末に開いている医療機関を探すのに時間を要することもしばしばあります。私たちは、けがをして不安になった子どもたちや家族が、安心して家路についていただけるように心がけています。

ともあれ、遊びに来た人たちが[こどもの城]で楽しい思い出を作つて無事に帰れる事をいつも願っています。

(看護師 梅田幸恵)

と考えている。

平成 12 年度に始めた「季節の離乳食」は、年 4 回、生後 5~12 か月児をもつ（主に）母親が対象であった。平成 19 年度からは、年 9 回、対象を「離乳・授乳の支援ガイド」に沿つて生後 5~18 か月とした。

講習会の内容は、子どもの食べる機能の発達を伝え、子育て中の母親が手軽にできる、離乳食作りの実演や食材の紹介を行うことである。特に母親たちとの話し合いにより、支援者のアドバイスを皆で共有しあうことを重視している。子育ての本音を知ることにより、私たち支援者も実際の相談に生かしていくと考える。

調理に不慣れな母親たちへの支援で必要なのは、離乳食作りは手軽であることを教えることである。具体的には、すりおろしなどの作り方、大人の食事からの取り分け方法、旬の食材や乾物・缶詰の利用方法、ホームフリージングの方法や使用方法、市販のベビーフードの使い方などを伝えている。

平成 16~20 年度の 5 年間に参加した母親からのアンケートを集計し、最近の離乳食についての悩みや母親が望む援助の方法についてまとめた。対象者は、計 36 回に参加した延べ 391 組、アンケート回収は 377 組（回収率 96.4%）であった。

【「季節の離乳食」カテゴリー別参加理由】(表5) N=337(複数回答)

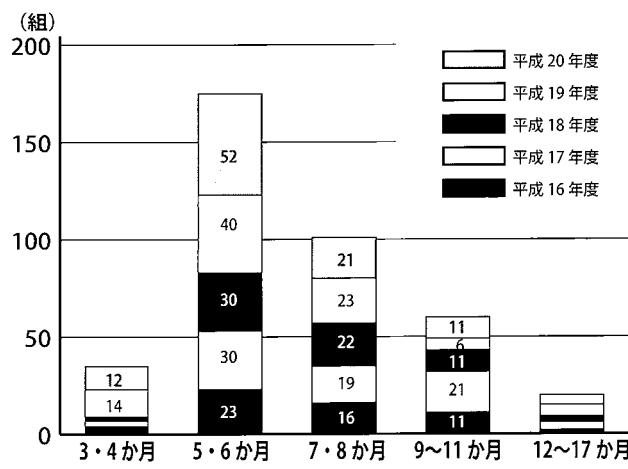
カテゴリー	全体(%)	3・4か月	5・6か月	7・8か月	9～11か月	12～17か月
知識を得たい	108 (25.7)	10	85	8	1	4
おいしい食事を作りたい	73 (17.4)	1	16	50	6	
情報を得たい	58 (13.8)	16	42			
レパートリーを増やしたい	48 (11.4)		15		26	7
具体的に知りたい	46 (11.0)	2	18	12	13	1
疑問点を確認したい	23 (5.5)	2	1	7	7	6
母親と交流したい	19 (4.5)		11	6	2	
友人を友人を作りたい	9 (2.1)	1	7	1		
子どもの城に来たかった	8 (1.9)		6	2		
他の講習会参加後	7 (1.7)		3	2	2	
栄養について知りたい	6 (1.4)	1			5	
食べさせ方	5 (1.2)				4	1
食事作りが苦手	4 (1.0)				4	
アレルギー対応	3 (0.7)		2		1	
乳児への食育	3 (0.7)	1		1		1
合 計	420 (100)	34	206	89	71	20

参加者は、生後3か月～17か月児をもつ母親と、まれに祖母や父。図1にあるように、生後5・6か月児を持つ母親(44.8%)が最も多く、次に7・8か月児を持つ母親(25.8%)が多かった。

参加理由(表5)を全体でみると、知識を得たい、手作りでおいしい食事を作りたい、情報を得たい、レパートリーを増やしたいなどの順であった。

悩みや心配(表6)は、全体でみると、適量が分からぬ、食物アレルギーの不安や対応、メニューがマンネリ化、与える時間やタイミングがわからないことなどが多かった。食物アレルギーについては、離乳食開始ごろに極端に不安が高いため、その時期には十分対処する必要がある。マンネリ化に悩む母親は、簡単な食事作りのヒントやテクニックをたくさん必要としていた。

離乳食という共通のテーマで、母親同士がさまざまな意見や悩みを聞くことが、子育てに楽しく向かうための



【「季節の離乳食」カテゴリー別離乳食の悩み・心配】(表6) N=337(複数回答)

カテゴリー	全体(%)	3・4か月	5・6か月	7・8か月	9～11か月	12～17か月
適量が分からない	164 (28.1)	1	77	53	24	9
食物アレルギーが心配	71 (12.2)	10	38	11	11	1
メニューがマンネリ化	61 (10.4)	4	24	17	11	5
与える時間・タイミング	57 (9.8)	5	27	15	10	
子どもの食行動	51 (8.7)		9	15	20	7
親が不安	38 (6.5)		32	3	2	1
具体的な与え方	36 (6.1)	3	12	11	9	1
味付けのしかた	19 (3.3)		3	8	5	3
栄養素に気をつけるには	18 (3.1)		6	7	5	
食べていいものの見極め	18 (3.1)	4	11	3		
食材の選びから	15 (2.6)		11		2	2
食べ物の安全性	10 (1.7)		1	4	4	1
食べさせる環境	9 (1.5)	1	4	2	2	
時間がなくて作れない	4 (0.7)		1	3		
その他	13 (2.2)		5	6	1	1
合 計	584 (100)	28	261	158	106	31

刺激になっていると思われる。今後も、親のニーズに合わせた講習会としての充実をはかっていきたい。

4.まとめ

本年度は、一般来館の乳幼児親子を対象とした「赤ちゃんサロン」の時間帯を、平日の午前11時開始にひろげ、「子どもの城」での子育て支援活動を一步前進させることができた。そこから、初めて子育てをする親たちが、人とのふれあいのなかで子育てについて学びたいと思っていることが、あらためて感じられた。

それを反映して参加者の多かった「季節の離乳食」(短期講習会)を今回詳述した。これまで身近に乳児と接した経験も乏しく、調理や食物の知識も豊富でない母親たちが、子どもとの楽しい食生活をスタートさせることは、楽しい親子関係を形成する最初のステップである。

小児保健クリニックの診療・相談や乳幼児健康診査でも、乳幼児の受診が増加したが、これも早期からの子育ての不安を解消するのに大切なものであろう。子どもの健全な育ちをはかるには、こうした最初からの地道な対応が必要である。

診療や相談で出会う現代の子どもたちの問題は、発達障害もあり、家庭環境に起因する心理的な問題の複雑さもあり、複合的な視点からとらえていくことが重要である。しかし根本には、親子の出会いや人との関係の形成という大きな網が必要ではないだろうか。本年度はそれを教えられる1年であったし、これからも小児保健の基本を大切にしつつ、「子どもの城」という遊び場のある環境での子育て支援を進めていきたい。

平成 20 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
小児保健クリニック (診療・相談) 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理・発達相談 ダウントラウト相談	休館日を除く毎日 9:30 ~ 17:00 木曜日・金曜日 (各月 1 回)	診療・相談は予約制。小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が診療・相談にあたる (週 2 回小児精神科・月 1 回小児耳鼻科を含む)。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は、相談料 1 回 5,000 円。心理・発達相談は、担当者 1 人の場合 1 回 50 分 5,000 円、医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ 7,000 円、専門相談のダウントラウト相談は、相談料 8,000 円。 専門医師が担当。 (小児保健クリニック)
赤ちゃんサロン	火曜日 (年 18 回) 11:00 ~ 14:00	対象は 3 ~ 18 か月の乳幼児とその保護者、妊娠、親たちが自由に交流 (井戸端会議) し、赤ちゃんたちがふれあう場。本年度から、乳幼児と親向けの活動を拡大するにあたり、開始時間を開館前の午前 11 時に早めた。小児科医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士が加わり子育ての相談も行う。本年度は延べ 3,722 人が参加。入館券対応。 (音楽ロビー)
第 23 回マタニティ・コンサート	7.6 15:00 ~ 17:00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときをすごしてもらい、出産を迎えるという主旨のコンサート。バイオリンの儀絵里子さんとピアノの白石光隆さんの演奏、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。野末源一・山王病院産婦人科医師と巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操なども行った。公募、無料招待。247 人が参加。劇場事業本部との共同事業。 (青山円形劇場)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 バブバブベビータウン 赤ちゃん♡チョコッと相談	4.26・27・29 10:00 ~ 17:00	ゴールデンウイーク特別期間中に、小児保健部、企画研修部、保育研究開発部が共同で実施 (4 月 26 日 ~ 5 月 6 日)。小児保健部は、4 月 26・27・29 日を担当。相談というより、一緒に遊びながら、アドバイスしたりのんびり過ごす場の提供。0 ~ 2 歳児親子対象 (兄弟の入室可)。26 日 26 人、27 日 48 人、29 日 88 人が参加。入館券対応。 (研修室)
〈開館記念〉 第 15 回 赤ちゃん大集合 ～パパママいっしょのスペースだよ～	10.29 10:30 ~ 15:30	対象は 3 か月から 2 歳未満の乳幼児と保護者。小児保健部は研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」会場で「小児科医師の話」や「井戸端会議」「子育て相談」を行う。また 8 階で育児用品関係業者・団体による「情報・展示コーナー」を開催。他の事業部もそれぞれ「みんなで遊ぼうにここにこパーク」「ごろごろハイハイ・たっちたっちタッタッタツ・てくてくピョンピョン」「うたってばづりん・あそんでばづりん」「ビデオどうぶつえん」などを実施した。参加者は 1,086 人 (539 組)。全館行事として実施。入館券対応。 (研修室ほか)

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室 (太りすぎクラス) 第 25 期	(組) 太りすぎの小学生とその親 (20)	(組) ① 20 ② 20 ③ 21	土曜日 14:00 ~ 17:00	太りすぎの改善のために医学指導 (東京女子医科大学東医療センター医師)・栄養指導 (和洋女子大学ほか)・体育指導 (体育スタッフ。水泳と体育を交互に実施) を行う。保護者向けレクチャー (食事、心理、運動の年 3 回)、親子で屋外活動 (代々木公園、清水公園アスレチック: 千葉県野田市、都内駅リーウォーキング～お茶の水から [こどもの城]、の年 3 回)、夏合宿は奥多摩・山のふるさと村 (東京都) へ。体育事業部との共同事業。 受講料 = 1・2 期 (各 12 回) 各 24,000 円、3 期 (9 回) 18,000 円。 (小児保健クリニック/体育室/プールほか)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週 以降の妊婦 (35)	(人) 4月 20 5月 21 6月 23 7月 29 8月 33 9月 27 10月 23 11月 22 12月 18 H21 1月 14 2月 15 3月 15 (計260)	火・木曜日（月7回） 11:00～12:00 ※夏休み特別期間（7.21～8.31）は10:30～11:30 ※H21年1月のみ月6回。	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母親になる人たちの友だち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、日本赤十字社医療センター産科医師、助産師と小児保健スタッフが担当、年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会金10,000円、受講料13,000円(月額)。 (プール)

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
季節の離乳食	(人) 5か月～1歳6か月児の親 (10)	(人) 計 101	金曜日（年9回） 13:30～14:30 ※4.25=14／5.23=11 ／6.27=11／9.12=16 ／10.24=9／11.14=9 ／12.12=5／H21.1.23=17／3.6=9	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫でできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合うなど、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。 受講料2,000円(1回)。 (小児保健部プレイルーム)
親子のほっとタイム～話して聞いて、子育ての悩み解消！～	3か月～1歳6か月児の親 (10)	計 49	金曜日（年6回） 13:30～14:30 ※6.6=8／6.13=13／10.3=8／10.10=6／H21.1.30=2／2.6=12	「からだの健康」「心の発達」の2つのテーマを各3回。親たちのなかに小児保健部のスタッフが加わり、子育ての疑問や悩みなどを話し合う。話をしながら正しい情報を知って、不安を解消し子育ての自信をつけてもらうことが目的。 受講料2,000円(1回)。 (小児保健部プレイルーム)
こども1日ドック	小・中学生 親子 (10)	7	7.23 12:30～17:00	対象は小・中学生。医学と体育の両面からの総合健康診断。小児保健クリニックで診察、尿検査、血圧測定、身体計測、保健相談、食生活相談、性格テストを、体育事業部で体力測定を実施。これらの結果に基づいて診断・指導を行う。受講料10,000円。 (小児保健クリニック／健康開発室)
赤ちゃんほっとタイム 夏休み子育て学習会 〃 冬休み子育て学習会	3か月～1歳6か月児の親 (30) 〃 (10)	31 8.1 8 12.26	11:00～15:00 13:00～15:00	赤ちゃんの健康、栄養、発達、子育てのあれこれを学ぶ、親向けの学習会。夏休み子育て学習会は、「赤ちゃんのからだあれこれ」(小児科医師)、「赤ちゃんの飲むこと・食べること」(管理栄養士)と「子育てQ&A」。食事コーナーも設け、バギーも預かった。冬休み子育て学習会は、小児科医師の話と「子育てQ&A」を実施。受講料1,000円。 (会議室／プレイルーム)

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第23回小児保健セミナー「気になる親へのかかわり方 PART3～上手な話の聴き方・伝え方～」	(人) 保育士・児童厚生員・保健師・看護師・養護教諭など 子育て支援の専門家(100)	(人) 130	11.29 10:00～17:00	親(家族)の心の問題をどうとらえればいいのか、また現場での実際の対応にはどのように気をつけたらよいのかを学び、さらに私たち自身の言葉の話し方をみがくという内容だった。「言葉の聴き方」(小林正幸：東京学芸大学教育実践研究支援センター教授)、「現場での対応」(飯野みか：目黒区子ども家庭支援センター係長)、「親の心の問題への対応」(笠原麻理：国立成育医療センター児童精神科医師)の3氏の講演を行った。受講料7,000円。 (研修室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子育て支援講習会 (第11回／第12回) 「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康0.1.2歳児～」	(人)保育士・栄養士・保健師・看護師など (第11回70) "(第12回50)"	(人)80 70	5.31(第11回) 10:00～17:00 H21.2.13・14(第12回) 10:00～17:00	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「最近の子育ての問題点」のほか、「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「子育て支援の方法と実際」の説明や質疑応答による情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育所、児童館、保健センターなど全国各地から多数参加。どちらのコースも定員を上回る申し込みがあった。第11回(1日)は受講料7,000円、第12回(2日間)は受講料13,000円。 (会議室)
第3回次世代育成支援講習会「思春期の心身の発達を考える」	児童厚生員・保育士・心理相談員・保健師など(50)	28	2.27 10:00～16:30	思春期の子どもの体や心の変化などを理解し、学校や児童館、保育所での援助や指導を考えていく講習会。「思春期の心模様と関わり方」(海野千綱:八王子市教育委員会主幹・前教育センター総合教育相談室室長)、「思春期における体の変化と性」(安達知子:愛育病院産婦人科部長)、「情報交換」。受講料7,000円。 (研修室)

3. その他

〈動く子どもの城〉

名 称	日 時	内 容
ばかばか広場 乳幼児と親のための交流広場	6.19・20 6.25・26 7.4	「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に支援者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行った。午後は職員向けに乳児を持つ親子への子育て支援の方法について研修会を実施した。 6月19・20日=兵庫県西宮市／6月25・26日=山口県岩国市／7月4日=東京都調布市。
子育て支援研修会 「乳幼児の発達と大人のかかわり」	9.8	臨床心理士が、0～2歳の子どもの発達と大人のかかわり方について、保育士、ボランティアなどに講演。千葉県草加市谷塚児童センター。
〃 「乳幼児の健康管理と応急処置」	9.8	看護師が、乳幼児のけがの応急処置や事故防止など、健康管理について実習を含めて講演。名古屋市北区役所。
〃 「乳幼児の発達と大人のかかわり」	H21.2.2	臨床心理士が0～2歳の子どもの発達と大人のかかわり方について、子育て広場のボランティアなどに講演。千葉県ちばコープ。
〃 「乳幼児の食生活」	3.16	管理栄養士が、授乳、離乳食など乳幼児の食生活について基本的な考え方を講演。静岡県豊橋市こども未来館子育てクラブ。



季節の離乳食



赤ちゃんサロン

企画研修部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

企画研修部の本的な業務は、〔子どもの城〕の事業部全体にかかる意思統一、調整、また終了後の総括だが、このほかにも、全館事業や共有スペースを使った催しの実施、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「子どもの城友の会」の運営、外部関連団体との協力事業なども実施した。

ボランティアの活動については、その養成から日常活動のコーディネートまでを担当。夏休み・春休み特別期間の野外活動への参加の調整を行うとともに、高校生の社会参加を目的としたグループ活動「L.I.T.」(Leader In Training)、遊びを媒介にした小・中学生の社会参加のための講座「じょいんクラブ」の運営にあたった。

また、「子どもの城児童厚生員等実技指導講習会」など、指導者向け研修会の企画運営にあたるほか、独立行政法人福祉医療機構の子育て支援基金からの助成を受けた、全国レベルでの子育て支援にかんするモデル事業（助成金事業については「子どもの城から全国へ」=135 ページ=参照）、財團に協力して子育て支援にかんする研修会も実施した。

2. 事業全体のとりまとめ

劇場部門を含めた事業全体のとりまとめでは、「事業計画書」および「事業報告書」の資料作成、事業内容をまとめた小冊子「子どもの城 事業と運営」の年次改訂、特別期間ごとの事業計画のとりまとめを行った。日常的なものでは、週間事業予定表、週末や特別期間の館内掲示用事業予定“デイリー版”などを作成した。今後もこ

うした基本的なことも、正確な情報の記載について細心の注意を払っていきたい。

本年度は、事業計画の段階から特別期間の事業のとりまとめと調整に力を入れて取り組んだ。各部から出た企画を単にまとめるだけでなく、そのなかに一つの方向性を見出せるように、各部との意思疎通をはかるとともに、事業終了後の振り返りにも時間を割いた。来年度以降も、こうした地道な作業を積み重ねるとともに、もう少し長期的な視野に立った事業展開についても、検討をしていきたい。

（ア）来館児・者増をめざして

【繰り返し来館の促進と優待バスの発行】

夏休み特別期間の繰り返し来館を促進するため、期間中、何回でも使用できる「夏休みフリーパス」の販売促進をはかる「夏休みフリーパス わくドキキャンペーン」を実施。特典は、①夏休み 1 週間前の 7 月 12 日から発売し、買った当日から（平日も含めて）使用可とする。②夏休み中に 5 回来館し、5 枚の半券を集めると、年内使える入館招待券を 1 枚プレゼントする、というもの。

優待バス類の発行実績は、「平日ゆうゆうバス」（平日・大人）256 枚（19 年度 271 枚、18 年度 328 枚）、「小・中学生土曜日バス」33 枚（19 年度 37 枚、18 年度 54 枚）、「夏休みフリーパス：ドキドキバス」（子ども）224 枚（19 年度 183 枚、18 年度 143 枚）、「わくわくバス」（大人用）231 枚（19 年度 170 枚、18 年度 133 枚）であった。

【近隣小学校等への働きかけ】

近隣の小学生に、もっと来館してもらう機会をつくる

ため、渋谷区 20 校、港区 19 校の区立小学校開校記念日の全児童招待（渋谷区と港区）を継続して行った。来館率は港区は 4.23%（19 年度 5.48%）と前年度よりも落ち、渋谷区は 5.56%（19 年度 4.35%）とあがっている。

来館率 10%以上の学校が 7 校あり、最高では 32.76% の学校もある。来館率は、その日の曜日などにも左右されるので、数字の落ち込みだけでは安易に判断できない。各学校は、招待券引換券の配布などの手間があるにもかかわらず、好意的に受け取ってくれているので、学校関係者とコミュニケーションをとる方法を探しながら、今後も継続していきたい。

また、本年度は渋谷区の協力で、特別期間の案内ちらしを区立小学校に配布してもらった。

春休み特別期間の新 1 年生招待も継続して実施した。渋谷区・港区の 95 園に約 2,500 枚を配布。全体の来館率は 6.3%（19 年度 4.6%）であった。

夏休み特別期間のちらしは、ディズニー／ピクサーの協賛を受け、渋谷・港・目黒・世田谷の区立小学校の全児童数分のちらしを、学校をとおして送付することができた。

【平常期間の土・日曜日プログラムの強化】

「学校週 5 日制」が定着し、平日の学童期の子どもの利用が減少している現状がある。本年度は前年度からの取り組みを進め、週末に広範囲から幅広い年齢層の子どもたちの、繰り返し来館を促進するきっかけづくりをねらって、平常期間の土・日曜日プログラムを強化した。

前年度から実施している、平常期間の週末に実施した年間 4 回の全館的な特別イベントに加えて、各部門で実施する季節イベントや催し物を調整し、週末には必ずイベントが実施されるように配置した。活動は各部門の特色を生かした事業であるため、内容はバラエティに富むものになった。また、それぞれの事業ごとにねらいや対

象を整理し、魅力ある週末の活動をアピールすることに努めた。

前年度からスタートした 4 つの全館的事業は、本年度も継続して実施し、児童厚生施設でのイベントのモデルとなるべく、さらに内容を深めた。

①「とり十かえっこ」は、子どもたちから実行委員を募集し、自分たちで内容を考え、準備もできるだけ自主的に進める取り組みを実施した。

②「秋まつり」は、縁日スタイルのお祭り。ねらいの一つは、地元還元事業。近隣へ働きかけ、参加を呼びかけた。また来館傾向に合わせて実施時間帯を見直し、前年より 1 時間早い 15 時からの開催とした。

③全館のスタッフのなかから、志願制で企画チームメンバーを募り、子どもの参画について考えた「ドルッチャドリーム」。[こどもの城] で自分の夢を実現することを目的に、事前に募集した子どもたちとともに準備を重ね、さまざまな夢のプログラムを実現した。

④「小学生プログラムスペシャル」は、学童期の子どもたちの来館促進がねらい。土曜日に実施している、小中学生を対象とした活動への、継続的な参加につながるよう、続けて使用できる各部共通の「参加カード」を作成。来館促進をはかる仕掛けを準備した（詳細は各部の項参照）。

それぞれの事業実施時には、多くの来館児・者を迎えることができた。その効果については、まだ評価する準備が十分でなく、正確に把握することができていない。また、「繰り返し来館」という面でも、同様に評価できていない。今後も継続した事業実施や事業拡大、実績についての追跡調査などの取り組みが必要であろうと考えられる。

平日の午前中を利用して、乳幼児と母親を対象とした子育て支援の催しにも取り組んだ。「赤ちゃんサロン」と「ぽかぽか広場」である。

平成 3 年に始まった「赤ちゃんサロン」は、小児保健部が中心になって行ってきた。本年度から開始時間を、12 時 30 分から午前 11 時へと、早めた。事業規模の拡大とともに、女性ボランティアの積極的なかかわり、ベビーカーの預かりや休憩スペースの確保など、プログラム周辺のサポートを全館をあげて行った。

「赤ちゃんサロン」の拡大版である、年に一度のイベント「赤ちゃん大集合」は、10 月 29 日に実施した。例年と同様に、各部門はそれぞれのスペースで乳幼児と母親向けのプログラムを実施した（小児保健部の項参照）。

「赤ちゃんサロン」の対象者より少し年長の世代を含めた、3 歳未満児と母親を対象とした「ぽかぽか広場」を子育て支援プログラムのシミュレーションとして、本



ぽかぽか広場

年度から開始した。立案の段階から事業本部、保育研究開発部を中心としたプロジェクトチームをつくり、対応した。

【特別期間への対応】

従来と同様に、来館児・者の増加する時期に合わせて、ギャラリーや青山円形劇場などのスペースを使ったプログラムを実施。さまざまな体験ができる企画を増やし、多くの子どもたちのニーズにこたえる努力をした。企業や外部関連団体と協力したり協賛を得るなど、催しの質を上げる努力もした。

(イ) グループ活動

155 団体 3,187 人(前年度実績 169 団体 3,332 人)を受け入れた。件数、利用者ともに依然として高い水準を維持している。内訳を見ると、全体の 3 分の 2 が未就学の児童、残りが小学生と特別支援学級や特別支援学校。一般の中学生の参加がなく、高校生が 1 件であった。

中高生の参加件数が少ない傾向が、依然として続いている。一方で、職業教育、職場体験の一環で〔子どもの城〕を利用したいとの需要があり、この年代への対応は、単にグループ活動のなかだけで取り組むのではなく、ほかの受け入れ方法とトータルで検討を続けていきたい。

これまで、プログラムと自由遊びをつなぐ案内、プログラム実施に先立った下見・打ち合わせなどを、ていねいに行っていたが、事業全体のバランスをみながら、できるものは簡略化し、事業全体の効率化につとめたい。

(ウ) 動く子どもの城

※「子どもの城から全国へ」(135 ~ 143 ページ) 参照。

(エ) 子どもの城友の会

「子どもの城友の会」は、家族単位で入会してもらい、〔子どもの城〕の施設を積極的に利用し、さまざまな催しに参加してもらう会員組織。一般の催しへの優待や、友の会独自の催しを行った。

会員のための会報「子どもの城友の会通信」を年 12 回発行し、「子どもの城ニュース」、講座募集や催しのちらしなどとあわせ、会員あてに毎月 1 回発送。平成 21 年 3 月で通巻 144 号となった。

年度末での会員数は、965 家族(前年度 956 家族)とほぼ横ばい。新規入会のキャンペーンを行ったり、入会を継続してもらえるよう、友の会限定のイベント、劇場事業部・外部団体と連携した公演への招待・優待の機会を増やすなどの努力を続けている。

友の会会員限定のワークショップ「おそなえ餅づくり」

子どもの城友の会「おそなえ餅づくり」



り」「タペストリーづくり」は 3 年目の活動。今後も、特別感のある催しであると同時に、会員同士が交流できるあたたかな催しを提供できるよう努力したい。

会員には、モニターとしても新しい企画に参加してもらったり、口コミで外部にアピールしてもらえるよう、工夫を重ねたい。

3. ボランティアの活動と養成

〔子どもの城〕には、施設内で専門スタッフとともに、子どもの健全育成活動を行う、登録制の「子どもの城ボランティア」のシステムがある。ボランティアを養成し、活動に参画してもらうために、本年度も次のような事業を行った。

(ア) ボランティアの活動

本年度は、延べ人数で年間 6,861 人のボランティアが〔子どもの城〕で活動した。平成 18 年度 7,685 人、19 年度 7,269 人と、過去 2 年間に比較すると減少傾向にある。学生を中心とした、青年層のライフスタイルの変化が大きな要因と考えられるが、それでも月平均で延べ 500 人以上がさまざまな事業に協力。事業運営には欠かせない存在であることがわかる。

特に近年、各部門からボランティアの要請が増える傾向にあり、ボランティアが活動することの効果への認識が、高まっていることが分かる。今後、活動人数の増加に向けたアプローチもさることながら、より質の高い、効果的なボランティア活動が各部門で行われるようコーディネートしていく必要があるだろう。

【日常活動】

〔子どもの城〕の平常期間に各事業部で行われている事業に協力する活動。本年度は、体育、プレイ、音楽、AV、保育、造形、小児保健の各事業部で活動を行った。平日は女性ボランティアが中心で、土・日曜日、祝日は

青年ボランティアが中心になって活動した。

中心的に活動していた青年ボランティアの大学生が、卒業の年を迎えると、そのメンバーが行っていた活動が休止状態となってしまった。世代交代をしながらグループを継続させていく、青年ボランティアの活動形態のありかたに、課題が残った。

【特別期間活動】

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、夏休みなどの特別期間中に実施する活動。主にプレイ事業部、企画研修部スタッフとともに、約2か月前から数人のボランティアがプロジェクトチームを編成し、企画、準備、実践までのすべてのプロセスにかかわった。

本年度は特に、冬休み特別期間の活動に協力するボランティアの確保に苦慮した。大学のカリキュラムの変更で、1月5日から学校が始まるケースが多く、小中学校の冬休み期間に合わせた日程とあわなくなってしまったのが要因だ。今後、この期間の協同事業のありかたを再考する必要がある。

【野外活動】

体育、プレイ、企画研修の各事業部のキャンプ活動に参加した。キャンプは24時間生活をともにするため、普段の活動ではうかがえない子どもの一面に接することができる。子どもにとっても、身近な目標としてのボランティアと長時間ふれあうことができる。

本年度は、高校生ボランティアL.I.T.が、プレイ事業部の「ちびっこ冒険団」に初めて参加した。毎年希望者が「ジュニア・アウトドア・スクール」などに参加していたが、体験の幅を広げるために、対象年齢の違うキャンプへ参加することも必要と考え、プレイ事業部と協議し実現。4人が参加した。

また、企画研修部では、「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリング・キャンプ」を実施し、多くのボランティアリーダーの協力を得た。

〈ジュニア・アウトドア・スクール〉

本年度の新しい試みは、女性ボランティアの積極的な参加を募ったこと。1週間という長期の、しかもすべてテント泊というキャンプ形態のため、50代以上が中心の女性ボランティアにとっては、体力的にハードルの高い活動。例年、声をかけるものの参加ではなく、スタッフもそれが当たり前という気持ちがあった。

しかし大学のカリキュラムの変更に伴い、青年ボランティアの参加が減少し、ボランティアの確保に苦慮するなかで、積極的に女性ボランティアへの声かけを試みた。1週間すべての参加ではなく、前半か後半、それぞれ3泊4日の日程と、食事作りのサポートという明確な役割を設定したところ、4人の女性ボランティアが名

乗りをあげてくれた。

キャンプでは、炊事経験を十分に発揮して、細やかな配慮のある食事係として大活躍してくれた。「食事作り」という、機能面においての活躍もさることながら、50代～60代という世代の人が参加することで、より豊かな人間関係や、新たな視点をキャンプ運営にもたらしてくれたことも大きな成果として挙げられる。

〈ジュニア・スプリング・キャンプ〉

17人の高校生ボランティアL.I.T.が参加した。毎年10人以上が参加するが、本年度は過去最大の参加となった。小学生のころからキャンプに参加してL.I.T.になったメンバーばかりではなく、L.I.T.になって初めてキャンプに参加する積極的なメンバーがいたためだ。日常的な活動のなかで培われるグループの雰囲気が、意欲的な姿勢を促したのだと考えられる。

キャンプにおける彼らの役割を2つ設定した。青年ボランティアとともに、子どもたちのグループを担当する班付L.I.T.と物品やプログラムを担当する本部付L.I.T.。それに加え、子どもたちの参画プログラム『プログラムX』の企画運営も大切な役割の1つだった。

高校生がキャンプのなかで果たす役割は大きい。若さと楽しさに満ちあふれる言動は、子どもたちがキャンプの魅力を感じる大きな要素だと言える。「高校になったらL.I.T.になりたい」と、キャンプに初めて参加した小学生が、保護者にそう話すケースが過去何度もある。キャンプ中のL.I.T.の姿が魅力的に映っているのだろう。

子どもたちがキャンプを魅力と感じる要素を、「自然」「プログラム」「人」と3つのカテゴリーに分けるとしたら、L.I.T.が「人」の魅力を大きくふくらませているのは間違いないだろう。モデル不在と言われる現代社会にとって、身近に憧れの存在としてL.I.T.のいる価値は大きい。

〈その他のキャンプへの参加〉

各事業部から活動依頼を受けて、下記の野外活動に多くのボランティアが参加した。

チャレンジキャンプ（体育事業部）／ちびっこ冒険団／フェローシップキャンプ／ゆきんこ冒険団（以上、プレイ事業部）

【代表者会】

青年ボランティア各期の代表者、1～3人で構成される組織。全体の活性化をめざし、ボランティア同士の交流会、学習会、機関誌の発行などを実行する、ボランティアのセルフヘルプ活動。月1回第2土曜日に、定期会議を行っている。

本年度は、34人のメンバーで構成。「たくさん集まれるべあい しろう！ いっしょにつくる 代表者会～ボラ

ンティアやそれぞれの活動に役立つような代表者会にしたい～」をテーマに、意欲的に活動を展開した。

(イ) ボランティアの養成

【子どもの城】の施設ボランティアとして活動を希望する人を対象に、本年度は大学生以上（社会人を含む）の青年層を対象とした講習会を2回実施した。

前年度からの継続者を含め、平成21年3月末までの登録数は、青年ボランティア257人、女性ボランティア90人の合計347人となった。年間延べ6,863人が意欲的に活動を行っている。

【ボランティア講習会】

58期講習会は、前年度の56期の反省を生かし、土曜日集中型の講習をやめ、従来の形に戻して実施。広報活動の遅れもあるが、参加は11人という少数。宿泊研修は、参加者が集まりやすいように、金曜日の午後5時集合として実施。同世代の学生が多くなったことで、メンバー同士の交流が密になり、キャンプや日常活動への参加に結びついていったことが評価される。

59期講習会は、現在登録中の学生に呼びかけ、新たに大学ボランティアセンターなどに案内を配布した。近年少なかった大学1・2年生の学生の参加が多く、活気ある雰囲気で講習会が行われた。

講習会で取り上げた「遊びのプログラムを考える」活動が、そのまま、春休み特別期間イベントの企画として具体化。「春満開！カモン!! みんなであそんじゃ王国」は、59期生を中心となって準備、運営を行った。春休み特別期間は、平日の活動でかつ大学が始まるため、学生がかかわることが少なかった。59期生だけで運営する形になったことで、メンバー同士の結束も強まった。また、春のキャンプ活動でも、先輩ボランティアとともに準備段階から積極的ににかかわり、よい活動へと結びついていった。

本年度の「ボランティア講習会」への応募は少なかったが、修了後に登録して活動へ結びつく例が多かった。同世代で話しやすい雰囲気で活動に入れたことや、新しいメンバーを受け入れる、先輩ボランティアのていねいな対応が実を結んだのではないかと推測される。

「女性ボランティア講習会」は、隔年開催のため、本年度は実施していない。

【ボランティアグレードアップ講習会】

野外活動の技術講習を目的としたものを、6月と平成21年2月に実施した。ここ数年、グレードアップ講習会への参加者が減少している。当初は、野外活動技術のグレードアップに重きを置いた“トレーニングキャンプ”と位置づけていたが、野外活動に興味を持つボラン

ティアの減少に伴い、企画研修部主催の2つのキャンプのトレーニングに、性格付けが変更された。参加対象が、キャンプに参加するボランティア10数人となり、必然的に参加者減少へつながっていった。

グレードアップ講習会の位置づけを再考し、より多くのボランティアが積極的に参加できるよう、取り組みをはじめる必要がある。

4. 講座・クラブ

【社会福祉講座 じょいんクラブ】

小5～中1の6人が受講。新規3人、継続3人。新規参加者は、【子どもの城】の夏・春のキャンプ経験者と言うこともあり、メンバー同士の関係性は初めからよかったです。

クラブ初参加の中学生が、活動についてなれていないことから、グループ活動のアイデアなどはスタッフから働きかける形をとった。館外活動は、千葉県市川こども文化ステーション主催の「ミニいちかわ」（子どもたち自身がつくる子どものまち）の体験を行った。大人が入ることができない、子どもの街での仕事体験や遊び体験をとおして、メンバーのかかわりが密になった。中学生が当日欠席だったことが残念であった。

メンバー同士の協力を実験的に実証する「グループワークトレーニング」では、コミュニケーションを使って課題を解くワークショップで、個々の個性を生かして小学生が一緒にになって課題をとき、達成感のある活動となった。

子どもたちが企画するワークショップについて、冬合宿の時に企画会議。来館児・者が館内を巡りながら、ポイントで手話や車いす体験、アイマスクを使ったゲームに挑戦する「エンジョインタカラリー」を実施した。

課題は、受講生の減少である。本年度は6人だったた



エンジョインタカラリー

め、欠席者があると話し合いや企画決定などが子どもたち自身でしにくくなる。そのため、ボランティアリーダーも一緒に考え、作るかわりが多くなった。最終回の活動は、みんなで力を合わせ、準備・実施ができたが、やはりもう少し参加者を増やす努力をしたい。

【L.I.T. の活動】

L.I.T. (Leader In Training) は、高校生の社会参加活動プログラム。前年度の9月から継続しているメンバーの活動が8月で終了し、9月から新しいメンバーを迎えて活動を行った。

1年間のまとめの活動として、“横丁のお祭”をイメージしたテーマパーク「みんなでつくろう！ふえすたまランド」(ふえすたま＝“フェスタ”と“まつり”を組み合わせた造語) の企画・運営を行った。

6月から準備活動。特にこの活動では、高校生自らが次のような目標を立てた。

①子ども同士・子どもと L.I.T. など、不特定多数かつ異年齢の人とのかかわりが数多く持てる機会とする。

②子どもたちが“遊び”を提供する側に立ち、L.I.T. とアイデアや意見を共有しながら、プログラムを作り上げていくことによる達成感を味わう機会を持つ。

③主体的に参加する子どもが、個性を発揮できる場を設け、自己肯定感を醸成できる機会とする。

こうした目標をもとに実施した本番では、参加した子どもたちのエネルギーあふれる行動に振り回されながらも、非常に純粋でストレートな遊びに対する意欲に、子どもが持っている可能性を感じたようだった。

修了式では、一年間の感想を次のように述べている。

- ・子どもと接することで、学校では学べないことを学ぶことができた。子どもが好きという、同じ気持ちを持った人が集まって、共通点をもって1つのことをやっていくことで、充実した時間を過ごすことができた。
- ・以前から L.I.T. に憧れていた。あっという間の1年だった。活動をとおして多くのものを吸収できた。それによって、また多くのことに気付かされた。最後のプログ

ラムは、皆の団結力があったからこそできたと思う。

・学校ではダラダラと過ごしてきたが、L.I.T. に入って自分が変われたと思う。

・知らない人たちのなかに入るのは苦手だったが、周りの人の優しさや考え方を聞けたことで、だんだん楽しくなってきた。「皆で考える」ということができた時は大きな達成感を味わえた。

・来るたびにメンバーに溶け込めた。さまざまなプログラムをとおして L.I.T.、リーダー、子どもたちから得られるものがあった。入った時と比べて、今は違う自分になれたと思う。

・どのメンバーを見ても尊敬できる仲間。さまざまな所から集まった人が、それぞれ尊敬しあえるのが良い。

・途中かかわらない時期があって悔しかった。活動に参加する意義や、ほかでは得られない感情をもつことができた。これは、大人になってからでは得られない、「L.I.T. ならでは」のもののような気がする。

5. まとめ

社会情勢の変化や、来館児・者の要望の変化へ、本年度も少しずつだが対応をはかった。

乳幼児を連れた来館者への対応では、「赤ちゃんサロン」を午前中から行うこととした。加えて3歳未満児を対象としたプログラム「ぽかぽか広場」のシミュレーションの実施である。

小中学生が多い土・日曜日の対策のため、全館的事業「ドルッチャドリーム」のようにプロジェクトチームを作って取り組む試み、中高生の職場体験の積極的な受け入れやボランティアの育成にも力を入れた。

いずれも、全館をあげての対応となった。企画研修部に求められるのは、部単独でプログラムを実行する能力よりも、優れた調整能力とコンセンサス作りである。各部門の特性を生かしつつも、全体としてうまく機能していくよう、優れた調整能力を発揮し、各部門が力を発揮できるような環境作りに努めていきたい。

平成 20 年度活動一覧表

1. 一般利用

〈展示・ワークショップなど〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 妖精冒険ものがたり ス パイダーウィックの謎	4.26・27、29、5.3～6 開館時間中	映画『スパイダーウィックの謎』の公開(4月26日)にあわせ、悪い妖精が盗んだ「妖精観察図鑑」のページを探し出し、妖精を観察し、それを完成させた。映画のストーリーやメッセージに沿った構成。パラマウントジャパン(㈱)の協賛。 (ギャラリー)
〈 〃 〉 バブバブベビータウン	4.26・27、29、5.3～6 開館時間中 ※ 5.6のみ担当(16:30まで)	特別期間中に、乳幼児の居場所として設営。前年度よりも、開催時間を延長。4月の3日間は小児保健部、5月3～5日は保育研究開発部、6日は企画研修部(ボランティア)が担当。6日は、ボランティアが在室し、親子にゆったりかかわることができた。手作りのおもちゃが好評。“こども活動エリア”からの移動経路がエレベーターしかない、などの課題はあるが、「居場所」として大切にし、継続していきたい。 (研修室)
〈 〃 〉 こどもフェスティバル	5.3～6 13:30～14:30 15:30～16:30 ※ 3日は15:30の回のみ	家族で気軽に楽しめる、質の高い催しとして、青山円形劇場で毎年実施している。5月3・4日＝「え？え？え？絵！」(人形劇・木ぐつの木)／5日＝「アフリカの熱い風」(アフリカンドリーム)／6日＝「リーダース・シアター“お話がいっぱい”」(楽劇団いちょう座)。 (青山円形劇場)
〈 〃 〉 アイスクリームのプレゼント	5.4 13:00～15:30	5月9日の「アイスクリームの日」にちなんで、来館児・者にアイスクリームをプレゼント。 協力は、(社)日本アイスクリーム協会。 (フリーホール)
〈 〃 〉 マックロー・グリーティング	5.5 開館時間中(3・4回)	「こどもの日」を記念して、子どもたちと握手をしたり記念撮影をし、[こどもの城]をアピール。開館記念、冬休み特別期間にも実施。 (ピロティ、アトリウム、屋上、研修室など)
〈夏休み〉 いらなくないもん！ エコ・アート展	7.19～8.31 開館時間中	藤浩志さん(美術家)と高橋和真さん(パッケージクラフト作家)による、お菓子の空き箱やポリ袋などを使った作品の展示。来館児・者も同じ材料で作品を作るワークショップコーナーも設置。8月3日までは空き箱を使った「花をつくろう」、4日からはビニールやプラスチックを使った「洋服をつくろう」。材料は展示してある“ゴミ”。ゴミ処理ロボットが主人公の映画「WALL・E／ウォーリー」(ディズニー・ピクサー映画)の協賛。 (ギャラリー) 【特別ワークショップ】 「パッケージクラフトで町をつくろう！」(8月20日／年長～小3と保護者ペア／講師：高橋和真さん) 「パッケージクラフトで昆虫を作ろう！」(8月21日／小中学生／講師：高橋和真さん) 「親子でビニプラショー」(8月22日／年長～小3と保護者ペア／講師：藤浩志さん) 「ビニプラショー」(8月23日／小1～17歳／講師：藤浩志さん)
〈 〃 〉 こどもの城 あそび day キャンプ	7.28、31、8.7・8、9、10	野外活動や短期講習会とは違い、じっくり遊びに取り組み、仲間とふれあったり、互いを高めあうことを目的とした、小学生以上の日帰りキャンプ。2年目。活動を楽しむなかで、社会的な成長を期待。前年度は5事業部で6プログラムを展開したが、本年度は2事業部で4プログラムのみ。 「こどもの城でアウトドア～ネイチャーコース～」(7月28日／小1～3／企画研修部) 「こどもの城でアウトドア～ワイルドコース～」(7月31日／小3以上／企画研修部) 「Dance [E] プロジェクト vol.2」(8月7・8日：2日コース／小2～6／音楽事業部) 「レッツ・プレイ・ガムラン 南の島バリ島の音楽」(8月9、10日：いずれか1日／小2～6／音楽事業部)
〈 〃 〉 キンダー・フィルム・ フェスティバル	8.9～12	本年度で16回目となった子どものための映画祭。子どもをテーマにした映画、子ども向きのアニメーションを上映するだけでなく、声優吹き替え、審査員、司会進行、受付といった映画祭進行のすべてに子どもたちが参加した。キンダー・フィルム・フェスティバル実行委員会が主催、[こどもの城]は共催者として催しを支えた。 (青山円形劇場)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 スパイキッズ大作戦	8.30・31 11:00～16:00	スパイになって、[こどもの城]を悪の組織から守るというゲーム。総務・管理部門を含めた全スタッフの協力のもと実施。バーチャルリアリティーの世界で遊ぶことに馴れている子どもたちに、想像することの楽しさ、体を動かして直接体験することの楽しさを感じもらうことと、子どもとスタッフが一体となって“ごっこ遊び”を展開することで、互いに共感し、[こどもの城]がより身近で親しみのある遊び場だと認知してもらうことをめざした。 (4階ロビー、館内)
〈 〃 〉 みんなでつくろう！ ふえすたまランド	8.30・31 11:00～16:30	[こどもの城]の高校生ボランティア L.I.T.による“遊びのお祭り”。高校生による「お化けランド」、だれでも得意なことを発表できる「とくぎをいかせ なんでもショー」、子どもたちと一緒に作って運営する「ゲームやさん」を実施。 (フリーホール)
〈開館記念〉 赤ちゃん大集合	10.29 10:30～17:30	開館記念特別期間恒例の、乳幼児と親を対象にした催し。お母さん同士の語らいの場「赤ちゃんサロンスペシャル」をはじめ、研修室でボランティアが運営する「みんなであそぼうにここにパーク」、体育室では対象年齢別に「ごろごろハイハイ」「たっちたっちタッタッタッ」「てくてくピョンピョン」の3プログラムと「It's a ベビーワールド」を実施。音楽ロビーでは「うたってパブリン」「あそんでパブリン」などのコンサートや手遊び、ビデオライブラリーでは「ビデオどうぶつえん」、プレイホールでは「みんなのにここに広場」で人形劇を上演した。研修室には企業や団体の協賛を得て、情報展示コーナーを開設した。539組の親子が参加。 (研修室ほか)
〈 〃 〉 第 15 回おりがみカーニバル／全国児童館おりがみ作品展	11.1～24 開館時間中	子どもからお年寄りまで幅広く気軽に楽しめる折り紙に、多くの人に親しんでもらうための催し。日本折紙協会と共に、「全国児童館おりがみ作品展」を同時に開催。「たべる」をテーマに 25 館から出品された作品を展示した。関連企画として「おりがみにつくなる講習会」を開催した。 (ギャラリー)
〈冬休み〉 初あそび☆だがしや タイムトラベル	12.25～28、H21.1.3～7、 10～12 開館時間中	昭和 30～40 年代の駄菓子屋の店先にあったおもちゃの展示と、おもちゃで遊べるコーナーを開設。駄菓子屋もオープンし、雰囲気を盛り上げた。本年度は、企画研修部スタッフが、日替りで“遊びコーナー”をオープン。 「作ってかざろうお正月（絵馬づくり）」（12月 25～28 日）／「ちらしであそぼう！」（1月 3～5 日）／「めざせ！お手玉名人」（6・7 日）／「駄菓子屋さんになろう」（10 日 13 時～16 時／小 1～）／「いたずらおもちゃを作ろう !!」（11・12 日）。 (ギャラリー)
〈 〃 〉 新春もちつき大会	1.4 13:00～15:00	日本の風習を子どもたちに伝えていきたいと、毎年行っている伝統行事の一つ。もち米 40 kg を 2 つの臼でつき、ふかしたもち米が臼のなかでつかれてもちになる過程を体験した。参加者には市販の個別包装の切りもちを配布した。約 400 人がきねを持って体験した。毎年、部を超えた多くの職員とボランティアの協力で運営している。 (ピロティ)
〈春休み〉 ニッサンゆかいな絵本 と童話展～ポッケに発見！たからもの～	3.25～4.6 開館時間中	第 24 回ニッサン童話と絵本のグランプリ受賞作品の原画やパネル展示、そのストーリーから広げたテーマで「たからものを見つけたら入れたいポッケ」を作るワークショップを開催。材料は自動車に使用している内装材や緩衝材や紙など。日産自動車の工場から提供を受けた材料にあわせ、包装紙や雑誌、飲料のプラスチック容器、布の端切れなどを「[こどもの城]」内から調達して使用した。会場装飾の一部は、「こどもの城友の会」による手作りタペストリー。今回は、グランプリ受賞者・H@L さんに内装材を使った看板を制作してもらった。協力、日産自動車㈱。 (ギャラリー)
〈 〃 〉 オランダから写し絵と 幻灯機がやってくる！ ジャイアント・ライト・ サークス	3.31・4.1 13:00～14:00 15:30～16:30	オランダからやってきた幻灯機が、日本で独特の発達を遂げて「写し絵」となり、それを再びオランダで発展させた「Musiscoop（ミュージスコープ）」の初来日公演。小さな影絵の人形を投影すると大きなスクリーンでカラフルに踊る、生演奏で楽しむ光のサークス。劇団みんわ座による、江戸うつし絵の友情公演と、友の会特別ワークショップも開催。日本オランダ年事業。AV 事業部と協働。協賛はオランダ王国大使館ほか。 (B スタジオ)
〈 〃 〉 春満開！カモン !! み んなであそんじゃ王国	4.3～5	ボランティアによるスペシャルゲーム大会。さまざまなゲームを時間と場所を変えて展開。体育室（11 時）、ふしげが丘（13 時 30 分と 15 時）、4 階ロビー（16 時 30 分）。 (体育室、屋上ふしげが丘、4 階ロビー)

〈全館をあげての取り組み〉

名 称	日 時	内 容
とり+かえっこ	6.21 13:00～17:00 6.22 11:00～17:00 H21.2.21 13:00～17:00 2.22 11:00～17:00	使わなくなったおもちゃを“バンク”で売り、引き換えたポイントで別のおもちゃが買える遊び。[こどもの城]の特色を出すために、館内のプログラムに参加して遊んだり、「お仕事体験」をするとポイントがもらえ、おもちゃを買える仕組みにした。子ども参画の可能性を検討するため、本年度は〈まち〉の運営やゲームの仕事を担う「子ども実行委員会」を組織。6月は講座生・こどもの城友の会会員の小3以上を対象に事前募集、9人が参加。活動は当日のみ。運営などを担当。2月は近隣の小学校などに告知範囲を広げ、小3以上20人が参加。事前に3回の実行委員会を開催し、ポスター・館内で流すCM作りのほか、ゲームの企画・準備、当日の運営。 (ギャラリー)
秋まつり～みんなで縁日たのしもう！～	9.20・21 15:00～19:00	日曜日対策としての特別イベント。本年度で2回目。縁日・お祭りを[こどもの城]らしくアレンジし、さまざまな世代に楽しんでもらい、今後の来館につなげることが目的。地元の人やこどもの城友の会会員、講座生にも積極的に参加を呼びかけ、日ごろの感謝を表しつつ、より理解を深めてもらえるように努力した。ゲーム・パネルシアター・星空映画会などの[こどもの城]の遊びを生かしたプログラム、講座による和太鼓コンサート、講座卒業生と講師によるサンバ演奏、ジャグリングなどのほか、各部の協力を得て飲食模擬店が並んだ。2日目は雨天で、地下1階フリーホールを中心にサンクンガーデン、プール観覧室に会場を移して実施した。屋上に比べると狭かったが、お祭りらしいにぎわいを保ち、多くの人に楽しんでもらった。 (屋上ふしげが丘・ネット広場／フリーホール・サンクンガーデン・プール観覧室)
ドルッチャ・ドリーム	H21.1.24 13:00～17:00 2.24 11:00～17:00	「子ども参画」のプログラム。「○○をやってみたい！」「○○になってみたい！」という子どもたちの夢をふくらませ、仲間と一緒に遊びのプログラムを考え、自分たちで運営する——夢を形にした。夢を形にしてゲームなどを運営する「ドリーム・チーム」(小学生)と、ドルッチャ・ドリーム全体の企画運営を行う「D・D実行委員会」(中高生)を事前募集し、11月から活動、準備を行った。スタッフの自薦によって結成した「プロジェクトチーム」が全体をコーディネートし、各事業部のスタッフが子どもたちの活動をサポートした。 (音楽ロビー、プレイホール、体育室ほか)
ぽかぽか広場	6.3、7.15、10.21、12.9、 H21.1.27、2.17、3.17 11:00～12:30	3か月～2歳11か月の子どもと保護者のための広場。「赤ちゃんサロン」よりさらに年齢対象をひろげた、自由参加型の広場。シミュレーションとして、火曜日(11時～12時30分)に年7回開催。子どもたちと保護者の交流、子育ての情報交換、幼児の生活や遊びについてのアドバイスなど。各部のショート・プログラムも紹介。入館券対応。延べ1,126組の親子が利用。 (音楽ロビー)

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
おもちゃ図書館マックロー	[こどもの城]の休館日を除く水曜日(延べ49回) 11:00～16:00	障がいのある子どもが気軽に利用できる遊び場として、87年(昭和62年)に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も4人のボランティアを中心に関連された。利用者数はその日によってまちまちだが、年間300人近い利用者があった。「夏休みのお楽しみ会」や「クリスマス会」などの催しを行い、他のおもちゃ図書館との交流もはかった。 (会議室)
アートスケープ2009	H21.2.28～3.8 開館時間中	首都圏のインターナショナルスクール、アメリカンスクール11校と日本校1校の合同美術作品展。600人におよぶ生徒が制作した絵画、版画、素描、立体作品、陶芸、写真などさまざまなジャンルの作品を展示。 (ギャラリー)

2. ボランティアの活動

〈定例活動〉

名 称	日 時	内 容
保育活動 (保育研究開発)	月～金曜日 10:00～16:30	保育スタッフとともに、2歳児クラス、または3～5歳児グループに入り、運営補助。 (保育室ほか)
赤ちゃんサロン (小児保健)	月2回火曜日 11:00～14:00	小児保健スタッフとともに、乳児とその親を対象にした広場事業の運営サポート。 (音楽ロビー)
紙芝居 (プレイ)	第1・3水曜日(練習は毎週) 15:00～15:30	親子を対象に紙芝居を行う。 (プレイホール)
女性人形劇 (プレイ)	第2水曜日(練習は毎木曜日) 15:00～15:30	手作りの人形を使い、脚本から上演までを行う。昔話や音楽に合わせて人形が踊る人形劇を実施。 (プレイホール)
影絵 (プレイ)	第4水曜日(練習は毎火曜日) 15:00～15:30	人形、背景、脚本など手作りで実施。昔話や童謡・唱歌を独自に演出・構成して実施。 (プレイホール)
おりがみあそび広場 (プレイ)	木曜日 14:30～15:30	毎回1～2種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝える。毎月の折り紙の企画も実施。 (プレイホール)
みんなの楽器屋さん (音楽)	木曜日 15:30～16:00	プログラム導入の手遊びや、音楽プログラム「みんなの楽器屋さん」で参加する子どもたちをサポート。年数回、ボランティアが楽器の演奏も実施。 (音楽ロビー)
絵本であそぼっ (企画研修)	金曜日 14:30～15:00	幼児とその親子を対象に、絵本の読みかたりを実施。 (Aスタジオ)
みかんちゃんズの オパオパサンバ(音楽)	金曜日 15:00～15:30	スタッフとともに“サンバ”的リズムを中心に子どもたちと一緒に演奏、プログラム指導を行う。 (音楽ロビー)
布おもちゃ (企画研修)	第2・4金曜日 10:30～15:30	プレイホール幼児コーナーで子どもたちが遊ぶ「抱き人形」を製作。また幼児コーナーの環境作りとして、遊具や装飾の手芸関係の活動を行う。 (ボランティアオフィス)
親子のほっこりタイム (小児保健部)	金曜日(2日×2回:6、10月) 13:30～14:30	小児保健部の講座に、赤ちゃんのサポートに入る。 (小児保健クリニック)
ビッグサタデー(体育)	土曜日 10:30～11:45	小学校4年生以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。バスケット、バレーボール、サッカーなどを実施。 (体育室)
不思議な映像実験室 (AV)	土曜日 15:30～17:30	来館児・者を対象に行う視覚がん具作りのワークショップ(主にくるくるアニメ)の運営補助。 (音楽ロビー)
手足の不自由な子の水泳 (体育)	土曜日 17:00～18:00	講座に参加する子どもたちにボランティアが一对一でつき、水泳の補助。 (プール)
土曜昔あそびの会 (企画研修)	第2・4土曜日 14:00～17:00	来館した子どもたち、その親を対象に、コマや三つ馬などの伝承遊びを実施。 (ふしげが丘ほか)
キッズクラブ(プレイ)	月2回土曜日 15:00～17:00	小学1～4年生を対象に行う年間をとおしたクラブ活動を運営する。プログラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。 (会議室ほか)
こどもの城アドベンチャー (企画研修)	月1～2回土曜日 14:00～17:00	子ども活動エリア全体を使って、与えられたヒントをもとに進んでいく、ウォークラリー形式のゲームを実施する。 (全館)
造形活動 (造形)	日曜日 10:00～17:30	造形プログラムの運営補助。 (造形スタジオ)
ユースクラブ(プレイ)	月2回日曜日 13:30～15:30	小学5年生～中学3年生を対象に行う年間をとおしたクラブ活動を運営。プログラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。 (会議室ほか)

名 称	日 時	内 容
L.I.T.=高校生ボランティア(企画研修)	月2回日曜日 10:00～16:00	[こどもの城]を活動基盤に、年間をとおして高校生が行うボランティア活動を支援する。ボランティアはプログラムを企画、準備、運営する際のアドバイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとして働きを担う。 (会議室ほか)
絵本の読みかたり(企画研修)	第2日曜日 14:00～14:30	保育室の1～2歳児コーナーで実施。お話し会の後、子どもたちに自由に絵本を読んでもらえる時間も実施。 (保育室2)
つくってあそぼう(企画研修)	第3日曜日 14:00～16:30	小学校低学年を対象に、廃品や身の回りの材料を使用して手作りおもちゃのワークショップを行う。手作りおもちゃの開発も独自で行っている。 (フリーホール)
日曜クラブ	月1回日曜日 14:00～17:00	縄跳び、フラフープ、ドッジボール等を実施。七夕、クリスマス、ひなまつりの時期にはクイズ大会も実施。 (ふしげが丘)
青年人形劇(企画研修)	月1回日曜日 11:30～12:30	パネルシアターのグループと合同公演することが多くなった。[こどもの城]のマスコット“マックロー”の棒使い人形を使ったオリジナル人形劇。 (プレイホール)
パネルシアター(企画研修)	月1回日曜日 13:00～14:30	パネルシアターの公演と、パネルを使って遊ぶワークショップ。本年度から、人数が少なくなったため、青年人形劇と合同で公演。一緒にワークショップの運営。 (プレイホール)
ファミリープレイタイム(プレイ)	年数回日曜日 12:30～16:00	親子を対象に、クラフト、遊び、クッキングなどのプログラムを実施。ボランティアは運営のサポートを行う。 (プレイホール)
じょいんクラブ	日曜日(年10回) 13:30～15:30	子どものための社会福祉講座。手話通訳士の講師が進める、手話を中心にしたワークショップの運営補助と子どもたちが考える活動のサポート。 (会議室)
手作り楽器のワークショップ(音楽)	夏休み特別期間(約2週間) 12:00～16:00	4種類程度の手作り楽器のワークショップの運営サポート。4月ごろから事前準備活動。素材の整備を行いつつ、作り方の研修を受けた。 (Bスタジオ)



とり+かえっこ

ドルッチャ・ドリーム



〈特別期間中の活動〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 こどもの城風雲録 ～暗黒神凱羅の野望～	5.3～6	忍者修行のゲームを行い、最後はボスを倒す、ロールプレイングゲーム。プレイ事業とボランティアの共同企画。 (ふしぎが丘)
〈〃〉 あそびのおもちゃ箱	5.3～6	人形劇などの公演系のグループが参加。子どもが演じる「キッズ人形劇団」も実施。 (研修室)
〈夏休み〉 ウォーターランドの戦い 2008	8.15～17	水をテーマにしたゲーム。2つの部族に分かれ、ゲームを行いポイントを競いあった。 (ネット広場)
〈〃〉 いらなくないもん！エコ・アート展 特別ワークショップ	8.20～23	企画研修部スタッフと協同で、ビニールなどの資源ゴミを活用して洋服を作る、特別ワークショップを運営。環境プログラム。 (ギャラリー)
秋まつり	9.20・21	ボランティアはゲームコーナーの運営、パネルシアターの公演、スタッフの運営する屋台のサポートを行った。 (ふしぎが丘)
〈開館記念〉 赤ちゃん大集合	10.29	女性ボランティアは、「みんなであそぼうにこにこパーク」を実施。親子でゆったり遊ぶ手作りおもちゃのスペースを運営。 (研修室)
〈〃〉 あそびが山もり！ドドン村 !!	11.1～3	「ドドン村」の村おこしのために、さまざまなゲームを展開。年間をとおして活動を実施している、さまざまなグループが参加。 (ふしぎが丘)
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉～ 目出田一家のお正月～	H21.1.3～7	屋上遊園では投げごま、ディアボロ、プレイホールでは、べいごま、あやとり、百人一首、カルタ、めんこを実施。プレイ事業との共同企画。 (屋上遊園、プレイホール)
ドルッチャ・ドリーム	1.24・25	全館事業として、スタッフのプロジェクトチームとボランティアが共同で進める。実行委員の小学生、中学生が考えた遊びの企画を運営する。(音楽ロビー、プレイホール、体育室)
〈春休み〉 春満開！カモン !! みんなであそんじゃ王国	4.3～5	さまざまなレクリエーションプログラムを、館内各所で実施した。 (体育室、ふしぎが丘、4階ロビー)
〈特別期間〉 ゆったり親子のおんがく園	児童福祉週間(ゴールデンウイーク)、夏休み、冬休み特別期間	特別期間に設けられる乳幼児とその親子のためのゆったりスペース。音楽事業部担当。主に女性ボランティアを中心に、親子の居場所作りの環境整備を行った。 (Aスタジオ)
プレイ事業部各種活動 (七夕、節分、ひな祭り、バレンタイン大会、くらやみディスカバリー、パペットランド、コロリン大作戦)	通年	プレイ事業部主催の季節行事などのプログラムで、ボランティアは運営のサポートを行う。 (プレイホール)

〈高校生プログラム = L.I.T.(Leader In Training)〉

名 称	日 時	内 容
プログラム準備①	4.13	ポスター制作などの準備活動と“遊び”的シミュレーション。
オーバーナイトハイキング	4.19・20	三浦半島(神奈川県)を一晩で33km歩く。自己の限界にチャレンジ。仲間とはげまし合いながら、共通の目標を達成することによって、他者への理解を深めた。
プログラム準備②	4.27	実現可能なプログラムを取捨選択。スタッフから、L.I.T.の活動に責任を持ってほしいとの苦言。
プログラム準備③	5.6	「昔遊び」「生活体験」のプログラムをシミュレーション。小グループに分かれ、考え方を検討。その後、物品の準備チームと制作チームに分かれ、それぞれの活動する。
「昔であそぼう～昭和にタイムスリップ」実施	5.11	悪天候もあり、参加者数51人と予想を下回る。滞留時間も長くプログラムとしては成果を上げ、「遊び」本来のおもしろさを子どもたちと共有しながら、その魅力を感じることができた。渋谷区立猿楽小学校。
活動の振り返り・今後の活動について	6.8	今の子どもに〈必要なもの〉や、子どもから〈学んだもの〉を挙げながら振り返り。その後、夏のプログラム検討。子どもの世界を大切にし、協力してプログラムを作る場の提供をめざす。
プログラムミーティング①	6.22	「ステージ」「ゲーム」「お化け屋敷」の3つのコーナーを設ける。「ゲーム」は来館児と共に運営。
〃 ②	7.13	子どもの募集形態、会場設定、広報などを検討。鉢山中学校の「お化け屋敷」事前準備を見学。
夏プログラム準備①	7.21	大まかな内容を決定。その後、ポスター・チラシ作り、後日行う館内CM撮影の確認。
「ちびっこ冒険団」参加	7.25～28	希望者が、ボランティアとともにキャンプ活動「ちびっこ冒険団」をサポートする。
夏プログラム準備②	7.27	AV事業部の協力を得て、館内用CM撮影、完成。その後、少人数でも作業可能な作り物を制作。
「ジュニア・アウトドア・スクール2008」参加	8.3～9	希望者が、ボランティアとともにキャンプ活動「ジュニア・アウトドア・スクール2008」をサポートする。
夏プログラム準備③	8.10	引き続き各種制作。完成には程遠い。全体の進行が、3年生から2年生へと徐々に移行。
〃 ④	8.17	〈お化け屋敷〉の制作。全身、絵の具まみれになりながら、短時間にして多くのものを完成。
〃 ⑤	8.24	物品準備の最終回。プログラムの具体的な動き・全体把握は次回へと持ち越しそう。
前日設営・最終確認	8.29	会場設営。小グループ単位で主体的に行動。流れを確認し、明日に備える。
「みんなでつくろう！ふえたまランド」実施	8.30・31	全般的には多くの参加者に恵まれた。来館児のゲームコーナーやステージも、L.I.T.が積極的にサポート。1年間の振り返りを行い解散した。
開校式	9.15	新年度の開校式。一人ひとりに入会の動機や期待感などを聞く面接、親睦レクリエーション。
今後の活動について話し合い	9.28	小グループで話し合い。「タイムトラベル」をテーマにしたプログラムと親睦遠足の実施が決定。
今後のプログラム検討	10.5	親睦遠足の詳細を決定。BBQほか。年末のプログラムは〈春夏秋冬〉をテーマに、実施する。
年末プログラム準備①	10.26	タイトルと全体のテーマを決定。同時に、このプログラムでの主旨を話し合い、統一させた。
〃 ②	11.9	企画書やポスター、看板などを作成。小グループの活動をとおして親睦を深めた。
親睦遠足	11.23	昭和記念公園(立川)へ。親睦を深め、人間関係を考える機会とし、チームワークを養った。
年末プログラム準備③	12.7	4グループに分かれ、準備活動。出欠の連絡がきちんとできず、出席者が把握できていない。
〃 ④	12.14	会場を下見。大まかなレイアウトを決定。各作業をグループに分かれて準備。演奏曲目が決定。
前日準備	12.20	時間をかけ、シミュレーション。子どもへのかかわり方も話題に。目的・目標を再確認。
「ねぼすけチュー太郎」実施	12.21	4つのコーナーと舞台での楽器演奏など、それぞれの個性が光るプログラムとなった。活動の振り返りでは、シミュレーションの大切さに気づかされていた。
合同合宿	H21.1.11・12	子どものための社会福祉講座「じよいんクラブ」との合同合宿。交流も深める機会とした。
今後のプログラム検討	1.18	小グループに分かれてグループ学習を行うことに決定。5チームが希望するテーマで体験学習。
グループ学習①	2.8	調査・学習の具体的な方法を検討。「院内学級」チームは、院内保育の経験があるボランティアにインタビュー。
〃 ②	2.15	チームごとに、具体的に準備活動を進める。進行状況はさまざま。
〃 ③	3.15	「遊び実体験」チームは1回目の体験学習。企画書・依頼文を相談し、作成するグループが多い。
〃 ④	3.22	「遊び実体験」チームは2回目の体験学習。「児童文化」チームは、こどもの城・ボランティアのパネルシアターの公演後に、"絵描き歌"を実施するなど、各グループごとに活動。
「ジュニア・スプリング・キャンプ2009」参加	3.27～31	希望者(17人)が、キャンプ活動「ジュニア・スプリング・キャンプ」に班付L.I.T.として参加。ボランティアとともに班活動を行う。

3. 講座・クラブなど

〈講習会〉

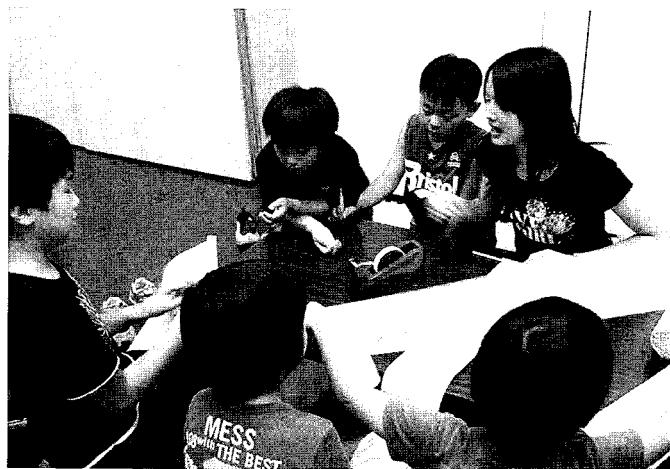
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容	容
じょいんクラブ	(人) 小4～中3 (20)	(人) 6	日曜日 13:30～15:30 (原則)	手話の習得に中野佐世子さん(手話通訳士)を招き、手話の体験学習を行う講座を3回と、子どもたちが主体的に考えるグループ活動を実施。本年度は、千葉県市川文化ステーション主催「ミニいちかわ」の体験を実施。冬は、L.I.T.の高校生と合同合宿、神奈川県三浦ふれあいの村で自然体験活動を実施した。最終回の子ども企画プログラムは、「エンジョイントカラリー」を館内で実施。	受講料=後期(10回) 12,000円。

〈専門指導者向け講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容	容
第58期 ボランティア講習会	(人) 18歳以上 (高校生不可) (30)	(人) 11	5.10～7.8 18:00～20:30 (宿泊研修 5.23～25)	学生9人、社会人2人の計11人が修了。座学はオリエンテーションなどを含め8回。「遊び心を再チェック」(こどもの城・岡野正和)、「施設の風ボランティア活動を考える」(こどもの城・熊澤桂子)、「子どもの心をつかむ表現法」(こどもの城・竹部正人)、「子どもの育ちを支える児童館」(大正大学・西郷泰之さん)、「歌がつなぐ! キャンプの心 子どもの心」(仁平勝巳さん)、「こどもの城ボランティア1・2・3」(熊澤桂子)。5月17・18日には、ボランティア体験実習を。宿泊研修は、神奈川県三浦ふれあいの村。	
ボランティア グレードアップ講習会「夏季野外活動」	こどもの城 ボランティア (30)	9	6.14・15	小4～中3を対象にした「ジュニア・アウトドア・スクール」に参加するボランティアが対象。主な内容は「安全・快適登山術」「ディスクゴルフに挑戦」「野外炊事実習」「ナイトプログラムの開発と実際」「マウンテンバイクの実技」を実施。また、1泊2日のキャンプの運営を、食事、物品、プログラムとそれぞれの係に分かれ運営。本番のキャンプ本部運営の動きをシミュレートした。埼玉県野外活動センター(埼玉県)。	
第59期 ボランティア講習会	18歳以上 (進路決定の 高校生可) (30)	22	H21.2.7～3.3 18:00～20:30 (宿泊研修 2.27～3.1)	高校3年生4人、学生12人、社会人6人の計22人が修了。座学は「遊び心を再チェック! 相互関係を深めるゲームの実際」(こどもの城・岡野正和)、「ここがステキ! 遊びのボランティア」(こどもの城・佐野真一)、「今を生きる子どもたち」(教育ジャーナリスト青木悦さん)、「身近な素材で“遊び”づくり」(佐野真一)、「児童健全育成活動とボランティア」(児童健全育成推進財団・阿南健太郎さん)、「こどもの城ボランティア1・2・3」(岡野正和)。2月14・15日に、ボランティア体験実習。宿泊研修は、神奈川県の足柄ふれあいの村。	
ボランティア グレードアップ講習会「冬季野外活動」	こどもの城 ボランティア (30)	6	2.20～22	小3～中3を対象にした「ジュニア・スプリング・キャンプ」に参加するボランティアが対象。主な内容は「協働から作りだすアクティビティーの実際」「歩くスキーの実際」「雪上プログラム研究」「雪上テント泊実習」「イグルー作りの実際」「夜の雪山体験」など。ボランティア同士の相互関係、相互援助の活性化を目指した。国立妙高青少年自然の家(新潟県)。	

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ジュニア・アウトドア・スクール 2008	8.3～9	<p>小学生 42 人、中学生 33 人、高校生 8 人、ボランティア 25 人、スタッフ 3 人の合計 111 人が参加。6 泊 7 日。幕営。場所は独立行政法人国立花山青少年の家南蔵王野営場(宮城県)。 【主なプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> □いわなまつり=2 日目に実施。いわなを渓流に放ち、つかみ取り。いわなは、その場で一人ひとりがさばいて、炭火で焼いて食べた。 □南蔵王逆縦走～中学生プログラム～=白石スキー場を出発し、不忘山、屏風岳、南屏風岳、刈田岳と標高差 1,000m、10 時間を歩くコース。過酷な道のりにもめげず、全員が踏破。 □チャレンジ沢登り～小学生プログラム～=キャンプ場内を流れる、田代沢の沢登り。腰までかかる深さの川を、男子も女子も声を掛け合って登る。沢登りの後は、小学生だけの野外炊事。みんな生き生きと取り組んだ。 □アウトトリップ=テントサイトから離れ、広大なキャンプ場のどこかで、ドーム型テントを使って班ごと宿泊。天気に恵まれ、満天の星のもと、テントは設営したものあまりの美しさに、そのまま外で宿泊するグループもいた。 □森の仲間の祭典=班ごと屋台を出すお祭り。高校生リーダーと子ども実行委員会「お祭り隊」が中心になって企画、運営。高校生の若さあふれるエネルギーと子どもたちの遊び心が合わさって、充実したプログラムとなった。
ジュニア・スプリング・キャンプ 2009	H21.3.27～31	<p>小学生 45 人、中学生 34 人、高校生 17 人、ボランティア 18 人、スタッフ 3 人の合計 117 人が参加。4 泊 5 日。場所は独立行政法人国立妙高青少年自然の家(新潟県)。 【主なプログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ナイト音のオリエンテーリング=激しく降る雪のなかで実施した、グループ対抗ゲーム。森に隠れたリーダーが出すさまざまな音を聞き分けて、一定時間内にその場所を探す。腰まで埋まる雪に悪戦苦闘。 □グループアクティビティ=班ごとにさまざまな雪上活動。クロスカントリースキー、そり遊び、チューピング、おやつ作り、クラフトなど。 □雪上テント泊=積雪量が少ないために、「イグルーづくり」から変更。設営可能な場所にテントをひろげ、グループごとの独立性を保った。夜半からの雪が、テントに積もり、朝にはすっかり埋もれてしまった。寒さに震えた一晩。自然の移り変わりにみんな感激。 □プログラム X=高校生リーダーと子ども実行委員が中心になって、企画、準備、運営を行った。「人生ゲーム」をテーマに、妙高のフィールドを使って、さまざまなミニゲームを展開。ゲームや株の売り買いで、お金の代わりになる「春」をたくさん集めるのが基本のルール。現代っ子らしいプログラム。



みんなでつくろう！ふえすたまランド（L.I.T.）



あそびが山もり！ドン村 !!

平成20年度「グループ活動」プログラム一覧表

プログラム名		対象年齢	内 容
体 育	すてきな新体操	3歳児～中3	ボール・リング・なわなどの手具を使って楽しく体操する。
	たのしい体育・運動	3歳児～中3	身近な道具を使った運動や、マット・とびばこなどを使ってサーキットなどのゲーム。
	レクリエーション	3歳児～中3	おにごっこやしつぽとり・フライングディスク・パラバルーンを使って楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう！	3歳児～中3	ウォールサッカー(室内サッカー)・ユニホック・タグラグビーなどの球技から選択。
ブ レ イ	劇遊び「森へ行こう」	4歳児～小2	森のお姉さんや木こりと一緒に森の中を探検する、ごっこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	4歳児～小2	悪者忍者の挑戦を受け、忍者修行に挑む、ごっこ遊び。月齢・人数によって内容が変わる。
	みんなであそぼうパペットランド	4歳児～小2	紙コップでネズミの人形を作り、ネズミにちなんだ遊びをしながら、お話の世界で遊ぶ。
	みんなであそぼうパペットランド	3歳児～小2	くつ下でおむしの人形を作り、あおむしになりきって、お話の世界で遊ぶ。
造 形	みんないっしょに	3歳児～小2	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどを組み合わせた「つどいの広場」。
	わくわくオリンピック	4・5歳児	幼児からできるレクリエーションゲームで“オリンピックごっこ”。
	こどもの城オリンピック	小1～	オリンピック種目を愉快にアレンジしたレクリエーションゲーム大会。15人以上。
	パソコンであそぼう	小1～	合成写真や紙飛行機の設計制作など、さまざまな機能を使った5種類の活動から選び体験。
音 楽	かげをうつそう	4歳児～小6	自分の影をブレイングボードに写し取り、その影の中を絵の具でデザインする。
	木をつくろう	4歳児～小6	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る計画の楽しさを知る。
	粘土でジャングル旅行	5歳児～小2	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作りながら、みんなでジャングル旅行。
	竹体験	小1～	日本の伝統的な植物「竹」の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら竹の造形。
音 楽	忍者ってほんとうにいたの？	3～5歳児	子どもたちのイマジネーションによる忍者ごっこ遊び。
	スカーフであそぼう	3～5歳児	スタジオの照明に映えるスカーフで楽しく遊ぶ。
	まつりばやし	3～5歳児	お祭り広場になった音楽スタジオで、楽しく和太鼓をたたく。
	やってみようガムラン	3歳児～	インドネシアの打楽器オーケストラ、ガムランを演奏したり、踊ったりする。
A V	サンバでおどろう	4・5歳児	ブラジルのカーニバル気分でサンバに挑戦。自分で作った楽器を持って踊る。
	たたいてみよう日本の太鼓	4・5歳児	いろいろな種類の和太鼓を思いきり叩いてコンサート。リズムは簡単！
	インドネシア・アンクルン	小1～	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
	めずらし楽器大集合	3歳児～	アフリカ・中国・インドネシア・ブラジルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。
A V	みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”	4歳児～	みんなが描いた2枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメ体験する。
	フィルムに絵を描いてみよう	小2～	透明な映画フィルムに着色して映写すると、スクリーンに楽しい図柄が映し出される。
	ビデオであそぼう	小3～	突撃インタビュー・ビデオでしりとり・伝言ゲーム。ここではみんながカメラマン。
	ピンホールカメラをつくろう	小1～	針穴があいただけのカメラ——ピンホールカメラを作る。
	混虫（ませむし）工場	小1～	昆虫の“ワンピース・ペーパークラフト”を制作。

劇場事業本部



青山劇場舞台機構体験の集い

平成 20 年度の活動

1. はじめに

劇場の運営は、劇場を貸すことと自主（提携）公演を行ふことに大別される。劇場の稼動日数は、青山劇場が使用可能日数 333 日中 298 日、青山円形劇場が使用可能日数 361 日中 331 日と、ほぼフル稼働の状態で、前年度を上回った（公演演目一覧表 p.124 参照）。

しかしながら、前年度も触れたが、青山劇場のコンピューター制御の舞台機構の老朽化に伴い、機構のメンテナンス・更新にかかる費用の負担が重くなり、完全な整備が不可能になりつつある。数年後には近隣に劇場が新設されるとのことなので、顧客離れを防ぐ意味でも、劇場がどのような改修をするのがベストなのか、具体的な検討を急がねばなるまい。

2. 主な自主・提携公演

（ア）青山劇場

■ TAIKO JAPAN 2008 ■

〈太鼓〉は戦後生まれの“もっとも新しい日本の伝統音楽”。古来より、祭りや民俗行事、古典芸能などに用いられてきたが、それ自体が音楽として独立するのは戦後のこと。祭りから離れて一人歩きする民俗の太鼓、新しい感性が生んだ創作の太鼓——その歩みのなかに、時を彩り、多大な影響を与え、今なお生きて胸を打つのが〈太鼓〉。

太鼓の公演は多数あるが、日本の伝統のなかで位置付ける試みや、可能性を模索する公演、また、民俗の太鼓と創作太鼓を横断的に扱っている公演は少ない。太鼓音

楽は、ともすればポップス音楽と同一視されがちだが、単に伝統楽器であるばかりではなく、民俗の伝統の延長線上にある現在を、舞台上に表現することもめざしている。

06年（平成 18 年）から『青山太鼓見聞録』は、東京新聞と浅野太鼓文化研究所が主催する『東京国際和太鼓コンテスト』および『和太鼓カレッジ』と期間を合わせ、『TAIKO JAPAN』という 5 日間の催しとなった。鑑賞と体験、そしてチャレンジ、と太鼓のさまざまな魅力をそろえ、青山劇場と青山円形劇場、[こどもの城] 全体で展開し、参加者の便宜と宣伝などの相乗効果に成果を上げた。音楽事業部とも連携を組み、来館児・者を対象としたワークショップも行い、好評を得た。

◆青山太鼓見聞録〈太鼓の躍動〉

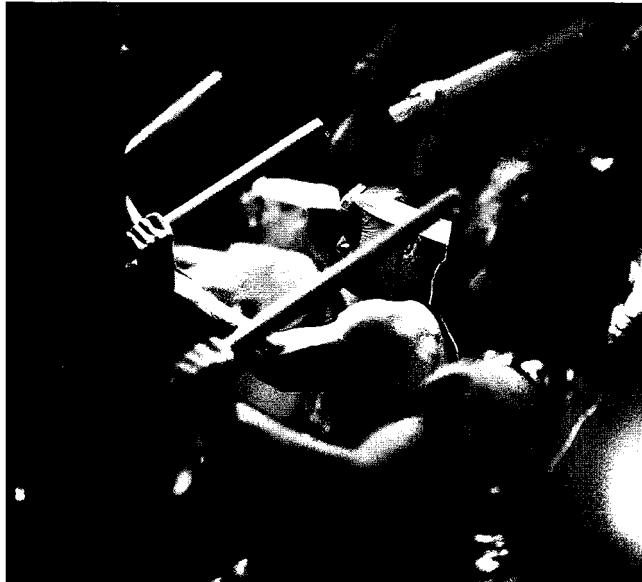
グループの枠を超えて、実力ある太鼓打ちを集めて構成する『青山太鼓見聞録』の第 5 回公演。今回のテーマは、「太鼓の躍動」。古来、太鼓のリズムは神を慰撫し、人々の心を浮き立たせてきた。祭りの場に降臨した神々を「榮やす（はやす）=囃す」ことで、人々もまた一体となって楽しみ、生きる希望の糧としてきたのである。

もっとも古く、とっても新しい「日本の太鼓」。全身全霊の気合いを込めて打ち込み、打ち囃される太鼓の〈躍動美〉を特集した。

日本の太鼓は、全身をバネとして、全霊の気合で打ち込まれる。その刹那、打ち手の肉体は力学的にも理にならなかった美しい姿を見せる。また、聴く者の心を浮き立たせるリズムを刻むとき、打ち手は弾みのある振りで、躍動的にバチをさばく。

そして、日本全国に見られるさまざまな太鼓踊り。笠

青山太鼓見聞録〈太鼓の躍動〉



をかぶるものやさらさらを背負うもの、扇や団扇を持つものなど、身につけた依り代に祖靈たちの魂が宿り、人々と一緒にとなる。その喜びが、優美で躍動的な踊りに結実する。太鼓が心を彈ませ、体も自然と躍るのだ。

祭りの場で打たれ、地域の願いを込めて打ち囃され、そして舞い踊ってきた太鼓と、リズムの多様さと独特的の振りで魅了する創作太鼓から、弾むリズムで躍動的に打ち込まれる太鼓や伝統的な太鼓踊りなどを取り上げた。

□会場□青山劇場

□日時□8月19日 19時開演

□出演□黒川さんざ踊り（岩手の夏を彩るさんざ踊り。強い激しさと幻想的な美しさを見せる）／三宅島芸能同志会（伊豆の三宅島で、地に据えた太鼓を独特の低い構えで打ち込む）／志多ら（奥三河の山深い里で伝統の花祭りを継ぎ、創作にも傑出した活動）／焱太鼓（石川県白山市。しなやかで力強い打ち込み、女性の太鼓の雄）／浅野町子（和太鼓ほか、打楽器で気迫の音を打ち出す。作曲・指導にも定評）／今福優（島根県益田市。第二期鬼太鼓座の大太鼓打ち。石見神楽の名手）／藤本吉利（佐渡島、鼓童の大黒柱。青山太鼓見聞録の精神的支柱とも）

□企画・構成・演出□太鼓見聞録編纂委員会＝浅野昭利（財團法人太鼓文化研究所理事長）、小野晋司（子どもの城劇場事業本部）、平沼仁一（アートウィル、東京打撃団主宰）、茂木仁史（平凡社新書「入門日本の太鼓」著者）

□舞台監督□金子芳浩（ニケステージワークス）

□照明□片田光彦

□音響□武藤一郎（子どもの城劇場事業本部）

□主催□児童育成協会（子どもの城）、財團法人太鼓文化研究所、東京新聞

□助成□平成 20 年度文化芸術振興費補助金（芸術創造

活動重点支援事業)

□協力□鼓童

□制作協力□アートウィル

◆太鼓見聞録外伝〈伊藤多喜雄 & 金子竜太郎、知れば知るほど〉

トークとパフォーマンスで構成する『太鼓見聞録外伝』。今回のテーマは、民謡と太鼓。古典と現代、そして未来への継承へと疾走する、伊藤多喜雄と金子竜太郎による公演。

□会場□青山円形劇場

□日時□8月15日 19時開演

□出演□伊藤多喜雄／金子竜太郎

□舞台監督□田畠祭（ニケステージワークス）

□照明□元木浩一（子どもの城劇場事業本部）

□音響□武藤一郎（子どもの城劇場事業本部）

◆青山☆太鼓の殿堂 追悼〈小口大八、阿修羅の世界〉

組太鼓とセット太鼓を考案、あの鉄筒さえも創作して戦後の太鼓界を牽引してきた小口大八氏は、本年6月27日、不慮の事故で亡くなられた。大きな功績を称え、太鼓の歴史に燐然と輝く名曲演奏と、映像で綴る追悼の公演を行った。

□会場□青山円形劇場

□日時□9月1日 19時開演

□出演・曲目□御諏訪太鼓／古屋邦夫、松枝明美、高林英彦、小口佳澄、山本麻琴、原邦晴、アート・リー「諏訪雷」「勇駒とんばね」「天鳴竜尾大神樂」「飛龍三段がえし」

Special collaboration : 御諏訪太鼓 + 西野 恵（鼓絆）+ 坂田 明（Sax）「阿修羅」「諏訪雷」

◆第7回東京国際和太鼓コンテスト

『東京国際和太鼓コンテスト』は、課題曲と自由曲により、演奏技術ばかりだけでなく、独創性やパフォーマンスとしての表現力などを総合的に競うコンテスト。さまざまな審査員が多角的視点で評価し、各部門の最優秀賞、優秀賞、敢闘賞を決定した。これまでの受賞者からは、プロの演奏家も輩出しており、本年度もレベルの高い舞台となった。

□会場□青山劇場

□日時□8月16日：組太鼓部門青少年の部／17日：大太鼓部門・組太鼓部門一般の部

□審査結果□

大太鼓部門－最優秀賞：加藤拓三／優秀賞：原田嘉子／敢闘賞：竹内文浩／審査員特別賞：塚本鷹

組太鼓部門（青少年の部）＝最優秀賞：心叫太鼓 厚嵐会／優秀賞：讃岐国分寺子供太鼓「彩輝」／敢闘賞：山木屋太鼓クラブ

組太鼓部門（一般の部）＝最優秀賞：サスケ／優秀賞：
北海道くしろ蝦夷太鼓保存会／敢闘賞：和太鼓大元 鼓龍組

□本選出場者（演奏順）□

組太鼓部門青少年の部（16日）

課題曲：細谷一郎作曲「鼓樂響成—組太鼓のための一」
土佐和太鼓文化研究所「一響館」（高知）／転輪太鼓風雲児 風組（愛知）／山木屋太鼓クラブ（福島）／鼓摩の会 和太鼓 和樂（山梨）／心叫太鼓 厚嵐会（北海道）／麗沢瑞浪中学校 太鼓部（岐阜）／北っ子太鼓（高知）／讃岐国分寺子供太鼓「彩輝」（香川）／大和太鼓保存会「鼓天童子」（佐賀）／須恵東中学校太鼓部（福岡）／子不知太鼓（新潟）

大太鼓部門（26日）

課題曲：石井眞木作曲「ビーテッセンス I—大太鼓独奏のための一」

王慶齡（台北）／吉村純一（愛知）／塚本鷹（東京）／原田嘉子（広島）／伊勢竜二（福井）／竹内文浩（埼玉）／加藤拓三（岐阜）／内海いっこう（兵庫）／荒川正輝（千葉）／神谷俊一郎（愛知）／木村善幸（北海道）

組太鼓部門一般の部（26日）

課題曲＝石井眞木「ビーテッセンス II—太鼓合奏のための一」

北海道くしろ蝦夷太鼓保存会（北海道）／海燕（愛知）／明星学園和太鼓部（東京）／和太鼓大元 鼓龍組（東京）／玉川大学芸術学部和太鼓チーム女（東京）／サスケ（石川）／台北慶和館（台北）／五竜太鼓（静岡）／大須太鼓保存会須鼓路（愛知）／玉川大学芸術学部和太鼓チーム男（東京）

□主催□東京新聞・財浅野太鼓文化研究所・財児童育成協会（子どもの城）

□後援□文化庁・国際交流基金

□協力□アートウィル

□協賛□J-POWER 電源開発株・あいおい損害保険株

◆和太鼓カレッジ

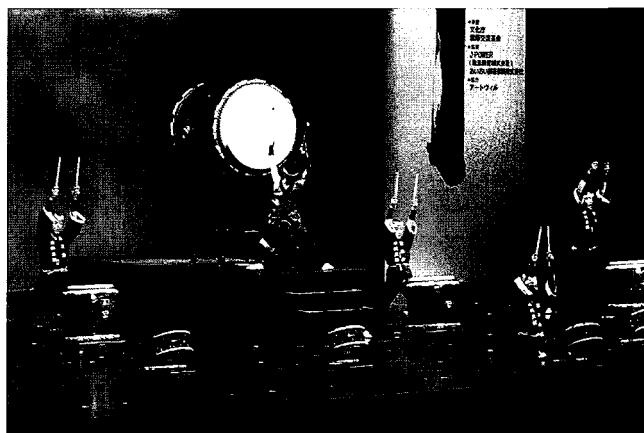
和太鼓、チャッパ、講演、篠笛の講座のほか、親子で参加しミニ太鼓を作る工作教室など、バラエティーに富んだプログラムを、体育室、フリーホール、ピロティなど、[子どもの城]全体で開催した。また、音楽ロビーでは、来館児・者を対象に東京打撃団によるワークショップも開催した。

□日時□8月16～18日

□講師陣□和太鼓＝木下千恵子（炎太鼓）／田川智文、露木一博（東京打撃団）／橋本真由美／松村公彦（和太鼓松村組）／山本綾乃（花鏡） ※五十音順

チャッパ＝村山二朗（東京打撃団）

第7回東京国際和太鼓コンテスト
組太鼓部門（青少年の部）最優秀賞「心叫太鼓 厚嵐会」



講演＝浅野昭利、伊藤多喜雄

篠笛＝村山二朗（東京打撃団）

（イ）青山円形劇場

■青山円形劇場プロデュース HYMNS —ヒムス—■

劇作家・演出家の鈴木勝秀と俳優の佐藤アツヒロが、04年（平成16年）「LYNX—リンクス—」、06年（平成18年）「MYTH—ミス—」に続いて取り組んだ、物語三部作の最終章。三部作の共通テーマは「孤独」。社会を拒絶し、閉じた世界をさまよう主人公をとおして、自分自身と向き合い、極限状態になった時に見えたものを描いた。

都市生活におけるディスコミュニケーションが問題視される昨今、これは物語のなかだけのことではなく、誰の心のなかにもありうること。自分のなかの“閉じていたもの”を“開かれたもの”にすることは、主体的な行為であることを物語をとおして観客に伝えたかった。タイトルの「HYMNS」には“贊美歌”“何かを讃える”という意味がある。

□日時□5月10～25日（18回公演）

□構成・演出□鈴木勝秀

□出演□佐藤アツヒロ 小松和重 みのすけ 永島克

■タカイズミプロジェクト Vol.1 遊機械オフィス×青山円形劇場プロデュース Over The Rainbow……？～アリス的不完全穴ぼこ墜落論～■

遊○機械／全自動シアター解散後、戯曲の創作活動から離れていた高泉淳子が、6年ぶりに取り組んだ新作公演。作・演出・出演の3役を高泉が、舞台美術と衣裳プランをイラストレーターの宇野亜喜良が担い、ワークショップで出会った若い個性的なキャストとともに、新しい芝居を展開した。

今回の高泉の芝居創りのテーマは「想像力」。『不思議の国のアリス』をテキストに、中年になったアリスが、再び穴ぼこに落ちて見つけた、大切なこととは……奇想

Over The Rainbow……？～アリス的不完全穴ぼこ墜落論～



天外な物語を、現実と虚構を交差させながら描いていった。高泉の、芝居創りに対する変わらないことと変わったことが、ほどよくミックスされ、多くの今までのファンと新しい若いファンに、楽しんでもらえる芝居になった。

□日時□7月9～13日（7回公演）

□作・演出□高泉淳子

□美術・衣裳□宇野亜喜良

□出演□高泉淳子、山本光洋、遠藤守哉、大林洋平、羽田謙治、高島玲、眞中幸子

□共催□遊機械オフィス

□助成□平成 20 年度文化振興費補助金（芸術創造活動重点支援事業）

■ TOKYO DANCE TODAY # 3

うず巻 MAKI-NO-UZU-MAKI ■

■ TOKYO DANCE TODAY # 4 あらかじめ■

構成力・演出力のあるアーティストが、レジデンスして作品作りに臨み、完全円形のユニークな空間を生かした、独創的な作品を発表する『TOKYO DANCE TODAY』シリーズ。継続して日本のダンス状況に刺激を与えるながら、作品記録とアーティスト資料を蓄積・発信することで、日本のダンスの潮流を海外に向けても提示していく。今回の作品発表により、フランスのRencontres chorégraphiques internationales de Seine-Saint-Denis（旧バニヨレ振付賞）の最終選考まで森下真樹が残ったことは、成果の一端と言える。小野寺修二作品については、来年度（平成 21 年度）に青山円形劇場での再演と巡演をめざす。演劇、ダンス、音楽、アートの境界を超えて融合し、新たな地平をひらく小野寺修二と森下真樹に国内外からの期待がさらに高まる。

◆うず巻 MAKI-NO-UZU-MAKI

□日時□7月17～19日

小野寺修二／あらかじめ



□構成・演出・振付□森下真樹

□出演□遠田誠（まことクラヴ）、入手杏奈（巻き組ダンサーズ）、三東瑠璃（巻き組ダンサーズ）、北澤雅章（さいたまゴールド・シアター）、森下真樹

□スタッフ□舞台美術：佐々瞬／衣裳：稻村朋子／音楽：イノウエユウジ a.k.a dill／音響：牛川紀政／照明：三浦あさ子／舞台監督：原口佳子（office モリブデン）／宣伝写真：427FOTO／宣伝美術：太田博久（golzopocci）／制作協力：高樹光一郎（ハイウッド）／制作：小野晋司（こどもの城劇場事業本部）

□助成□平成 20 年度文化芸術振興費補助金（芸術創造活動重点支援事業）／TOYOTA 創造空間プロジェクト

◆あらかじめ

□日時□平成 21 年 3 月 26～29 日

□構成・演出□小野寺修二（カンパニーデラシネラ）

□出演□有川マコト、佐藤亮介、藤田桃子、宮下今日子、小野寺修二

□スタッフ□舞台美術：石黒猛／テキスト：小里清（フライヤイル）／衣裳：大野雅代／照明：磯野眞也（アイズ）／音響：田中裕一（サウンドウェッジ）／舞台監督：矢島健／振付協力：勝部ちこ（C.I.co）、鹿島聖子（C.I.co）／リハーサルアシスタント：中村容子／宣伝美術：太田博久（golzopocci）／制作協力：高樹光一郎（ハイウッド）、平岡久美（Dance in Deed!）／制作：小野晋司（こどもの城劇場事業本部）

□助成□平成 20 年度文化芸術振興費補助金（芸術創造活動重点支援事業）

□協力□チャコット（株）

■月猫えほん音楽会 2008 えほん×ジャズ

=めちゃ² 楽しいシアターライブ■

“絵本”と“読み聞かせ”的持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子（小学生）を対象とした招待公

演。大きな月(スクリーン)に絵本を映しながらの読み聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステージを展開した。希望する観客は、フェイス・ペインティングで猫に扮し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向で生の楽しさを演出することに成功した。

近年、“絵本”と“読み聞かせ”的魅力が注目され、いろいろなところで取り上げられている。その理由のひとつには、何かと暗い世相のなかで絵本の持つ美しさと奥深さに人々が改めて目を向けたからであり、親子のコミュニケーション不足が指摘されるなか、絵本の読み聞かせが、それを深めるのに役立つと多くの人が気づいたからではないだろうか。

『月猫えほん音楽会』は、99年(平成11年)に始まり、本年度で10回目となる。絵本の読み聞かせへの関心の高さを示してか、毎回たくさんの応募があり、今回は定員2,100人のところ、前回を上回る約2,347世帯6,324人の応募があった。

□日時 □7月24～27日

□出演 □佐山雅弘(ピアノ)／波多雅子(進行)／本多愛也／パントマイム)／能祖将夫(朗読)
□スタッフ □演出：吉澤耕一／構成：能祖将夫／美術：小竹信節／協力：東京動物園ボランティアーズ
□主催 □財団こども未来財團／財児童育成協会(子どもの城)

■青山演劇 LABO#001 KAKUTA「STAR MAN」■

■青山演劇 LABO#002 グリング「吸血鬼」■

昨今の小劇場界では、注目の若手劇作家が多数おり、所属劇団では魅力的な客演希望を受けたり、大きな演劇賞にノミネートされたりなど、進境著しい人が増えている。その反面客演による出演料の高騰、さらなる公演規模の拡大など、さまざまな劇団内での経済的理由を抱えている。そのため、その活動場所が青山円形劇場よりさらに小規模の劇場に限定され、結果的に青山円形劇場からは、注目若手作家による話題作が生まれないという傾向にある。

青山円形劇場では、『Aoyama First Act』で、未開拓の新たな才能を紹介してきた。そこから一步進めて、人気若手劇作家を抱えながら、さまざまな理由から青山円形劇場の使用を躊躇してきた劇団と提携し、さまざまな興行形態を模索しながら公演を実現し、青山円形劇場を代表する公演を生み出す演劇企画として立ち上げたのが、この『青山演劇 LABO』である。

第一弾は、プロデュース公演『南国プールの熱い砂』

月猫えほん音楽会 2008



で活躍し、その後も岸田國士戯曲賞にノミネートされるなど、進境著しい劇作家、桑原裕子擁する劇団KAKUTAによる『STAR MAN』。今回は、青山円形劇場を都会から離れたキャンプ場に見立て、デビッド・ボウイの楽曲「STAR MAN」をモチーフに、繊細な大人のラブストーリーを作り上げた。

第二弾は、『ウラノス』の演出が記憶に新しい、人気劇作家、青木豪を擁する劇団グリングによる『吸血鬼』。抽象舞台を巧みに使い、80年代にあった東電OL殺人事件をモチーフに、誰しも抱える都会のなかでの孤独感を痛烈に描き出し、マスコミから絶賛を受けた。

今後は、『青山演劇 LABO』というブランド定着させ、『青山円劇カウンシル』(共催)、『Aoyama First Act』(未経験者)とその趣旨により使い分けて、多くの演劇人にチャンスを与え、演劇界を活性化させていきたい。

◆ STAR MAN

□日時 □9月27～10月5日

□作・演出 □桑原裕子
□出演 □桑原裕子、成清正紀、若狭勝也、原扶貴子、高山奈央子、松田昌樹、大枝佳織、横山真二、馬場恒行、青木岳美、内田健介、小堀友里絵
□主催 □KAKUTA

□提携 □財児童育成協会(子どもの城)

◆吸血鬼

□日時 □平成21年3月5～11日

□作・演出 □青木豪
□出演 □杉山文雄、中野英樹、萩原利映、安藤聖、遠藤隆太、高橋理恵子、辰巳智秋、平田敦子、みのすけ
□主催 □グリング
□提携 □財児童育成協会(子どもの城)

■青山円劇カウンシル #2 ~Relation~

ONEOR8 プロデュース「思い出トランプ」■

新進気鋭、今が旬の劇作家と組んで新しい魅力あふれる“円劇”（青山円形劇場×演劇）をプロデュースする青山円劇カウンシルの第二弾。

今回は、向田邦子の名作である同作を、今最も人気のある若手劇作家、ONEOR8 の田村孝裕が脚本化、演出した。主役には人気女優の田中麗奈、その他多彩な実力派の役者たちが集結した。向田邦子生誕 80 周年記念公演、田中麗奈初舞台などの話題で上演前から大評判となり、多数マスコミ媒体の取材を受け、連日大入り満員となつた。

短編集である原作から「大根の月」「だらだら坂」「花の名前」「かわうそ」の 4 作品を取り上げ、それぞれの登場人物を関連づけ、一つの作品にまとめ上げた。たわいない日常会話から、人々の心の揺れをていねいに描き、多くの人から、青山円形劇場上演作品のなかでも記憶に残る傑作として、高い評価を受けた。

この企画は、作品のできばえ、評価と興行的成功の両立、キャスト・スタッフの充実——あらゆる側面から飛躍的な成果をあげることができた。多くの才能の組み合わせが、単なる寄せ集めではなく、あらゆる面で相乗効果を生み出せたことが要因である。また、青山円形劇場が、人気俳優を間近に見ることができる、大劇場にはないプレミアム感のある空間であることに、多方面の人気が気づくきっかけとなった。今後もテレビや映画などで活躍する、人気俳優たちの初舞台に青山円形劇場が選ばれる期待感が高まり、このシリーズへの可能性も広がつた。

次回は、この流れを大切にしつつ、さらに一步進めた活気のある企画にしていきたい。

□日時□ 10 月 8 ~ 19 日



思い出トランプ

□原作□向田邦子

□脚本・演出□田村孝裕 (ONEOR8)

□出演□田中麗奈、根岸季衣、八十田勇一、宮地雅子、弘中麻紀、中島愛子、野本光一郎、恩田隆一、和田ひろこ、富田直美、阿知波悟美、山口良一

□制作□ ONEOR8

□主催□(財)児童育成協会(こどもの城) / ネルケプランニング

■ DANCE-X 08 Dance Exchange Program / Montreal - Seoul - Tokyo ■

02 年(平成 14 年) からスタートした『ダンストリエンナーレトーキョー』 やシアターゼロ(ソウル) と共に製作を行う『日韓ダンスコンタクト』(03 ~ 07 年 : 平成 15 ~ 19 年) など、さまざまなダンス・プロジェクトを通じて、国内外の劇場などとのネットワークと企画の充実を図ってきた。本年度は、モントリオールのタンジアン劇場、ソウルの LIG アートホール、青山円形劇場による、ダンスサーキット『DANCE—X 08』を展開した。

参加振付家は、3 劇場が各国で将来を嘱望される若手振付家を複数組推薦し、合意で決定した。浜口彩子(日本)、メラニー・ドゥメルス(カナダ)、キム・ウンジョン(韓国／ドイツ在住)。この 3 人の振付家と出演ダンサー(デュオ 2 作品、トリオ 1 作品)が、モントリオール(公演 : 10 月 9 ~ 12 日 / 全 4 公演)を皮切りに、ソウル(公演 : 10 月 17 ・ 18 日 / 全 2 公演)を経て、10 月 21 ~ 23 日に青山円形劇場で公演した。

カナダ、韓国、日本の 3 つの劇場が、コンテンポラリーダンスシーンで活躍する、各国アーティストを取り上げ、3 か国をツアーリーして同時発表するという取り組みにより、各国の創造活動が、さらに刺激的で豊かな関係に発展すること、舞台表現の現場が活性化することを目的として開催した。

参加アーティストは、カナダ、韓国、日本と、約 3 週間にわたる連続上演により、作品をより高めることができただけでなく、ほかのアーティストからの芸術的刺激は、将来の創造活動の、大きな糧となったことを確信する。今回のプロジェクトの成功によって、カナダと韓国の文化シーンの重要な位置をしめる、2 つの劇場との信頼関係が築けたことも、大きな成果であり、これからも継続して、ダンス・プロジェクトを共同開催していく計画である。

◆ Meeting you : キム・ウンジョン (韓国)

□振付□ Kim Yun Jung

□出演□ Kim Yun Jung, Ryu Jang Hyun

□スタッフ□セットデザイン:Kim Na Young / 作曲・

サウンドデザイン：Bojan Vuletic／映像：Thomas Achtner／照明：Lee Dong Jin／衣裳：Kim Hye Min／サウンドディレクター：Park Bum Jin

◆ **Les Angles Morts (Dead Angles) : メラニー・ドゥメルス (カナダ)**

□コンセプト・振付 □ Mélanie Demers
□オリジナル音楽 □ Jacques Poulin-Denis
□出演 □ Mélanie Demers、Jacques Poulin-Denis
□スタッフ □ アーティスティックアドバイザー: Boyzie Cekwana／照明: David Perreault Ninacs／衣裳: Mélanie Demers／アディショナル音楽: Alfredo Catalani

◆ **無敵 muteki (invincible) : 浜口彩子 (日本)**

□構成・振付 □ 浜口彩子
□出演・振付協力 □ MILLA、辻田暁、浜口彩子
□スタッフ □ 音楽・演奏：堀越功／照明プラン：片田光彦

□日時 □ 10月 21～23日

□日本公演スタッフ □ 技術監督: David Perreault Ninacs／舞台監督: 原口佳子／音響コーディネート: 武藤一郎(こどもの城劇場事業本部)／照明コーディネート: 元木浩一(こどもの城劇場事業本部)／通訳: 桑原綾子／制作協力: 平岡久美(Dance in Deed!)／プロデューサー: Stéphane Frédéric Labbé(Tangente)、Joh Seong-joo(LIG ART HALL)、小野晋司(こどもの城劇場事業本部)／ディレクター: 高谷静治
□助成 □ 芸術文化振興基金／国際交流基金

■ **青山円形劇場プロデュース**

ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン■

クリスマスの時期を迎えた、老舗のレストランの開店から閉店までを、ショートショートのお芝居とバンドマンの生演奏でつづる音楽劇。役者と音楽家が一体となって創り上げる、しゃれたエンターテインメントショーとして定着し、ついに 20 回目を迎えた。ビジターは 15 周年に来店した羽場裕一、そして日時限定のスペシャルゲストとして 04 年(平成 16 年)に来店した ROLLY が参加し、20 周年のレストランに花を添えた。年末に『ア・ラ・カルト』を観ないと年を越せないと、毎回来店されるお客様も多いこのレストラン。一年の締めくくりの月に口にしたくなる、毎年変わらない、それでいて年を経るごとに深みを増していく、味わいがあるレストランとして、多くのお客様に愛される作品になった。

全 37 ステージが完売し、約 12,500 人を動員した。

大阪公演も、大阪ビジネスパーク円形ホールで 4 ステージを行い、年末の大坂を賑わせた。

□日時 □ 11月 21～26日 (37回公演)

ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン



※大阪ビジネスパーク円形ホール (12月 29～31日 : 4回公演)

□スタッフ □ 演出: 吉澤耕一／構成: 白井晃／台本: 高泉淳子／音楽監督: 中西俊博

□出演 □ 高泉淳子、白井晃、陰山泰+羽場裕一(ゲスト) + ROLLY (special guest 東京の平日と大阪公演出演)、中西俊博 (Violin)、クリス・シルバースタイン (Bass)、竹中俊二 (Guitar)、林正樹 (Piano)

□協賛 □ 富士通(株)、メルシャン(株)

□制作協力 □ 遊機械オフィス

□大阪公演主催 □ 関西テレビ放送／(株)ハートス／サンライズプロモーション大阪

■ **第 21 回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン～コーン姫をさせ！～」■**

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづるお正月恒例のファミリーオペレッタ。[こどもの城] のスタッフで創作するこの作品は、本年度で 21 回目を迎え、大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気を保っている。

本年度は、「タントさんのふしぎなレストラン」シリーズの第 3 弹。お料理と音楽が大好きで、とっても元気なおばあさん“タントさん”と、孫の“むすび”が繰り広げるファンタジー。シリーズとおしてのテーマは、食育。現在、注目されているこの問題を取り入れながら、従来のキリンファミリーオペレッタらしく、親子のコミュニケーションや夢を持つこと、思いやることの大切さを描いた。

温かで楽しい、登場人物たちが繰り広げる童話の世界と、観客参加型の演出により、観客を物語のなかに引き

タントさんのふしぎなレストラン～コーン姫をさがせ！～



込み、子どもだけでなく大人から多くの反響を得ることができた。今後も、現代社会では忘れられがちな心の豊かさ、大きさを感じとれるような良質な舞台作品を作成し、より多くの観客に提供したい。

なお、この作品は、厚生労働省社会保障審議会児童文化賞推薦作品に選定された。

□日時□平成 21 年 1 月 2 ~ 7 日

□スタッフ□脚本：吉村温子／演出：高谷静治

□出演□オペラクリエーション・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、金田・こうのバレエアカデミーほか

□主催□(財)キリン福祉財団／(財)児童育成協会(こどもの城)

■中西俊博 Leapingbow2009

～ Cool Groovin' Best ～ ■

中西俊博が、毎回新しい実験的なことにチャレンジしていくコンサート『Leapingbow』。リズムバンド＆フィドルチームの編成で、硬派なサウンドを聴かせるバンド“Cool Groovin'”の3度目の登場となった。リズムバンド（ドラム、ギター、ベース、ピアノ、バッктラック：固定の若手ミュージシャン）と、5人のフィドルチーム（中西が教えるバイオリン、ビオラの生徒：全員プロ）を従えた11人編成の異色のバンドで、ライブハウスでの活動（青山円形劇場制作）も含め年に数回コンサートを行っている。結成3周年を迎えて、その活動の集大成として、リズム感、グルーヴ感満載の息の合ったステージを展開した。題して“Cool Groovin' Best”。バイオリンとは思えない、厚みのある音は観客を魅了し、バイオリンの常識を超えた新しい感覚のライブになった。

□日時□1月 24・25 日（2回公演）

□スタッフ□演出：吉澤耕一

中西俊博 Leapingbow2009 ～ Cool Groovin' Best ～



□出演□中西俊博 (Violin)、KAGE (Drums)、円山天使 (Guitar)、鳥越啓介 (Bass)、清水絵理子 (Piano)、井内求生 (Keyboard&Program)、島田玲 (Violin)、武内いづみ (Violin)、佐藤桃子 (Violin)、YUI (Violin)、菊地幹代 (Viola)

□協力□ヤマハ(株)

□制作協力□(株)エムアンドビー・デザイン

■青山円形劇場オブジェクトシアター Vol.12

「KOUSKY VI」沢則行 Meets 中西俊博

～ココロがやわらか不思議にうごきだす～ ■

俳優が衝立や幕の後ろに隠れて人形を操る「パペットシアター」に対して、人形に限らず、さまざまな物（＝オブジェクト）、仮面、また俳優自身も役柄として登場し、総合的に作品をつくりあげるのが「オブジェクトシアター」。欧米では「フィギュアシアター」と呼ばれ、もともとチェコやポーランドで生まれ、世界中に広がった新しい舞台様式。

『KOUSKY』とは、断片・部品を意味するチェコ語の複数形。ここでは、チェコを拠点に活躍している人形劇作家・沢則行の小作品集のことで、いくつかの短編作品を中心に構成されている。

今回は例年のレパートリーに加え、沢が17年前にチェコではじめて作った一人芝居『MACBETH』が、中西の〈音〉で新しい命を吹き込まれ、14年ぶりに青山円形劇場で上演された。人形の魔術師・沢則行とバイオリン(音)のファンタジスタ・中西俊博とのコラボレーションが、人形が音楽を、音楽が人形の動きを引き出し、おしゃれで美しい、摩訶不思議な舞台空間を創造した。

□日時□2月 27 ~ 3月 1 日

□出演□沢則行、中西俊博

□作・演出・美術□沢則行

□音楽□中西俊博
 □主催□児童育成協会（子どもの城）
 □助成□平成20年度文化芸術振興費補助金（芸術創造活動重点支援事業）

■ Classical ROLLY 2009 ■

エンターティナー ROLLY による、クラシックをテーマにしたコンサート。昨年まで『ROLLY Glory Rolly』と題して、ジャズを軸にしたコンサートを行ってきた。今回から、新シリーズを展開。メンバーは、音楽監督・バイオリンの中西俊博をはじめとして、初年から変わらずに息の合ったメンバーが集まった。

クラシック音楽は、意識しないとじっくり聞くことのないジャンルだと思うが、初回の今回は、誰もが耳にしたことがある楽曲を取り上げて、ROLLYならではの解釈で歌詞を作り、中西のアレンジで演奏した。

ROLLY と中西が常に意識していることは、ジャンルを意識せずに音楽の魅力を追求し、音楽を楽しむこと。観客は音楽の楽しさ、そしてクラシックのおもしろさをこのバンドの演奏をとおして感じていた。

□日時□3月20～22日（4回公演）

□演出□吉澤耕一

□音楽監督□中西俊博

□出演□ROLLY (Vocal／Guitar)、中西俊博 (Violin)、クリス・シルバースタイン (Bass)、楠均 (Percussion)、林正樹 (Piano)

□共催□SMA プレイヤーズ

3.まとめ

規模こそ違うが、10年20年と継続して実施し、季節もの企画として完全に定着した自主事業になった、『ア・ラ・カルト』『子どもの城・キリン・ファミリーオペレッタ』『月猫えほん音楽会』などは、外部資金の調達（助成金・協賛金）と観客動員の努力が相乗的に機能し、収支的にもバランスの取れたものであった。

現在、これらに続く企画を新しく作りはじめてはいるが、これらの企画が一朝一夕にできたのではなく、10年20年と継続して実施し、定着したという事実を忘れず、地道な努力を続けたい。

今後の“自主公演”を考えると、もちろん動員（収益）が確実に見込める企画にこしたことはないのだが、【子どもの城】として、発信そのものに意義のある企画も先細りさせることなく、上記の演目替わりうるもの自ら継続して企画制作していくことと、【子どもの城】の他事業部や外部との提携により新機軸を打ち出すことによって、固定観念にとらわれない生き生きとした表情豊かな“顔”を持つ劇場をめざしたい。それがバラエティに富んだ貸し劇場のラインナップにもつながると思われる。

また、それを可能にする大切な人的財産の新旧交代を早急に実現させ、来るべき変革の時期に対応したい。

平成 20 年度公演演目一覧表

1. 青山劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
第 7 回東京国際和太鼓コンテスト (東京新聞)	8.15 ~ 17	2	大人 = 2,500 / 中学生以下 = 1,000	2,400	1,627	68.0	
青山太鼓見聞録—太鼓の躍動—	8.18・19	1	S = 4,500 / A = 4,000	1,200	701	58.4	
世界名作映画と青山劇場舞台機構体験の集い	8.25 ~ 28	5	無料 (こどもの城入館券+整理券)	600	291	48.5	
チャリティ 10 周年コンサート～よみがえる 懐かしのうた～ (オフィス・イレブン)	11.8	1	9,000	1,156	983	85.0	
篠原聖一バレエ・リサイタル「DANCE for Life 2008」 (篠原聖一)	12.6・7	1	S = 9,500 (前売 = 9,000) / A = 7,500 (前売 = 7,000) / B = 4,500 (前売 = 4,000)	1,164	1,125	96.6	
Dance Noel 2008 ~クリスマスの贈物 (アートセラピー研究所ダム)	12.22・23	1	1階 = 4,000 / 2階 = 3,500	1,192	869	72.9	
林英哲 2008 SPECIAL (遙[HAL])	12.26 ~ 28	2	6,000	2,142	2,078	97.0	
(自主・提携公演 小計) 7 件		17	13				
〈貸し館〉							
ブーシリーズ EPISODE I 「アマツカゼ～天 つ風～」 (フジテレビ)	4.1 ~ 7	9	S = 9,500 / A = 8,500 / 立見 = 6,000	10,692	10,397	97.2	
YANASE presents 次世代ミュージカル育成 プロジェクト「Broadway Gala Concert 2008」 (フジテレビ)	4.8 ~ 13	3	S = 12,000 / A = 10,000	3,324	2,662	80.1	
富士火災 90 周年記念 秋川雅史リサイタル '08 東京 追加公演 with アンサンブル (東京労音)	4.15 ~ 17	2	6,300	2,376	2,230	93.9	
川井郁子 ハート・ストリングス・コンサー ト 音楽とことばでつづる「愛」と「恋」 (東京労音)	4.18	1	6,000	1,206	971	80.5	
Dr.LEON COMPLETE LIVE 08 (東京労音)	4.19	2	プレミアシート = 10,000 / S = 5,500	2,250	1,894	84.2	
「童神」の心を謳う 山本潤子 & 古謝美佐子 ジョイントコンサート (東京労音)	4.20	1	5,500	1,164	530	45.5	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.21 ~ 5.11	25	S = 8,000 / A = 6,000 / 立見 = 4,000	28,595	23,387	81.8	
劇団 EXILE 第 2 回公演「CROWN 眠らない、 夜の果てに…」 (RUP)	5.13 ~ 26	18	S = 9,500 / A = 8,000 / 立見 = 7,000	20,620	19,041	92.3	
EPONINE presents THE CONVOY SHOW vol.27 「うみわたり」 (サンライズプロモーション東京)	5.30 ~ 6.15	14	S = 8,500 / 立見 = 6,500	16,772	13,073	77.9	
D - BOYS STAGE vol.2 「ラストゲーム」 (ネルケプランニング)	6.17 ~ 27	13	S = 7,000 / A = 6,000 / 立見 = 3,000	15,599	14,484	92.9	
少年隊 PLAYZONE 2008 「Change」 (ヤングコミュニケーション)	7.1 ~ 8.8	35	S = 12,000 / 立見 = 9,000	38,322	37,641	98.2	
ハワイアンミュージック&ダンス in Concert 「The Ho'okipa」 (コハラカンパニー)	8.23	1	S = 8,000 / A = 7,000	1,161	544	46.9	
秋元順子コンサートツアー 2008 ~愛のままで…… (ザ・カンパニー)	8.29・30	2	S = 6,000 / A = 5,000	2,306	2,230	96.7	
春野寿美礼 ファーストストコンサート「My Heart」 (梅田芸術劇場)	9.1 ~ 9	10	S = 10,000 / A = 7,000 / 立見 = 5,000	11,980	10,919	91.1	
~ avex JUKEBOX MUSICAL ~ 「ココロノ カケラ」 (ネルケプランニング)	9.11 ~ 29	16	S = 9,000 / A = 7,500	18,144	13,245	73.0	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
ボーイ・フロム・オズ (フジテレビ)	(日) 10.1 ~ 14	12	SS = 12,000 / S = 11,000 / A = 9,500 / 立見 = 8,000	(人) 14,376	(人) 13,259	(%) 92.2	
ミュージカル「グリース」 (フジテレビ)	10.15 ~ 11.4	20	SS = 11,000 / S = 10,000 / A = 8,500 / 立見 = 8,000	23,960	22,846	95.4	
チャイナ クイック グループ presents ブロードウェイミュージカル「CHICAGO」 (キヨードー東京)	11.10 ~ 16	8	S = 12,500 / A = 10,500 / 立見 = 6,500	9,584	9,302	97.1	
ONE WOMAN SERIES 2008 My Favorite Songs 「島田歌穂 with 島健ポップスオーケストラ」	11.26 ~ 30	2	12,000	2,336	1,834	78.5	
デビュー35周年記念 ダ・カーポ「童謡コンサート～あの日歌った歌～」 (ザ・カンパニー)	12.5	1	5,000	1,170	910	77.8	
名倉ジャズダンススタジオ 第18回公演「CAN'T STOP DANCIN' 2008」 (名倉ジャズダンススタジオ)	12.8 ~ 14	6	S = 7,350 / A = 6,000	6,576	5,989	91.1	
ミュージカル「君に捧げる歌 A Song for you.」 (K-LINKS)	12.15 ~ 18	3	7,000	3,528	2,580	73.1	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」「アニークリスマスコンサート」 (キヨードー東京)	12.20・21	4	S = 5,500 / A = 4,500 / 立見 = 3,000	4,696	4,421	94.1	
RKF MEETING Vol.22 X'mas Special 河村隆一 No Mics, No Speakers Concert 2008 (キヨードー東京)	12.24・25	3	5,250	3,342	3,093	92.5	
早乙女太一 新春特別公演「わらべうた」 (ザ・カンパニー)	H21.1.2 ~ 18	20	8,000	23,120	17,151	74.2	
オアシスと砂漠～Love on The planet～ (ネルケプランニング)	1.19 ~ 25	7	S = 8,000 / A = 7,000	8,092	6,075	75.1	
グリーンフィンガーズ (クオラス)	2.18 ~ 3.10	19	S = 9,500 / A = 8,500 / 立見 = 6,000	22,838	22,683	99.3	
カゴツルベ (クオラス)	3.11 ~ 31	20	S = 9,500 / A = 8,500 / 立見 = 6,000	24,064	22,717	92.3	
(貸し館 小計)	28 件	281	277				
(青山劇場 合計)	35 件	298	290				

2. 青山円形劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
熊谷和徳 - Tap Secret - (キヨードー東京)	4.8・9	2	6,300	650	589	90.6	
* pnish * プロデュース vol.3 「リバースヒストリカ」 (ネルケプランニング)	4.11 ~ 20	11	4,000 (プレビュー公演 3,500)	3,170	2,991	94.4	
* pnish * プロデュース vol.4 「その鉄塔に男たちはいるという」 (ネルケプランニング)	4.21 ~ 5.1	11	4,000	3,554	2,688	75.6	
青山円形劇場プロデュース「HYMNS - ヒムス -」	5.7 ~ 25	18	5,800 (前売 5,500)	5,274	4,539	86.0	
玉川大学芸術学部+青山円形劇場提携公演「Performing Arts Fair 2008 in 青山」 (玉川大学)	6.9 ~ 15	6	一般3,000(前売 2,500) / 学生2,500(前売 2,000)	1,463	1,401	95.8	
タカイズミ プロジェクト Vol.1 遊機械オフィス×青山円形劇場プロデュース「Over The Rainbow……?～アリス的不完全穴ぼこ墜落論～」	7.7 ~ 13	7	5,500	2,076	1,858	89.5	
TOKYO DANCE TODAY #3 「うず巻 MAKI - NO - UZU - MAKI」	7.14 ~ 19	3	3,700	732	521	71.2	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
月猫えほん音楽会 2008～えほん×ジャズ ＝コドモもオトナもめちゃ ² 楽しいシアターライブ	7.23～27	7	入場無料（応募制招待）	2,310	2,180	94.4	
太鼓見聞録外伝〈伊藤多喜雄&金子竜太郎、知れば知るほど〉	8.15	1	3,000	268	134	50.0	
和太鼓カレッジ	8.16・17	4	4,000	150	137	91.3	
Pure BOYS ACT.2 「7 Dummy's Blues」セブン・ダミーズ・ブルース (ケイダッシュステージ)	8.18～27	15	5,500	5,666	5,524	98.0	
SOUKI PANTOMIME - WORKS '08 「LET'S GO HELL！」今度の週末は“三途の川”を渡っちゃおう！(SOUKI)	8.28～31	4	一般4,000／子ども1,000	1,128	790	70.0	
青山☆太鼓の殿堂 追悼 小口大八、阿修羅の世界	9.1	1	3,000	282	193	68.4	
青山演劇 LABO #001 KAKUTA オトコまつり 2008 in Japan STAR MAN」(KAKUTA)	9.23～10.5	9	3,800（前売3,500）／学生3,000	1,808	1,537	85.0	
青山円劇カウンシル #2～Relation～ ONEOR 8 プロデュース公演「思い出トラップ」(ONEOR 8)	10.8～19	13	6,000（前売5,500）	3,958	3,703	93.6	
Dance Exchange Program「DANCE - X08」	10.20～23	3	3,800（前売3,500）	540	246	45.6	
青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト」 ～役者と音楽家のいるレストラン 20th anniversary	11.17～24、 11.25～12.26	37	6,800	12,918	12,008	93.0	
第21回子どもの城 キリン・ファミリー・オペレッタ「タントさんのふしぎなレストラン～コーン姫をさがせ！」	12.27～29、 H21.1.2～7	11	2,800	3,591	2,801	78.0	
中西俊博コンサート Leapingbow 2009 「Cool Groovin' Best」	1.23～25	2	6,000	574	457	79.6	
ユニット・キミホ第2回公演「White Fields」 (ユニット・キミホ)	1.29～2.1	5	5,000（前売4,800）	1,022	816	79.8	
青山円形劇場オブジェクトシアター Vol.12 「KOUSKY VI～沢則行 meets 中西俊博～」	2.26～3.1	4	4,500（前売4,000）	883	755	85.5	
青山演劇 LABO #002 グリング第17回公演 「吸血鬼」(グリング)	3.3～11	9	4,800（前売4,300）	2,321	1,888	81.3	
Classical ROLLY 2009	3.19～22	4	7,000	1,412	1,279	90.6	
TOKYO DANCE TODAY #4「あらかじめ」	3.23～29	4	4,000（前売3,700）	1,194	1,132	94.8	
(自主・提携公演 小計)	24 件	193	191				
〈内部利用〉							
こどもフェスティバル	5.3～6	8	無料（子どもの城入館券+整理券）	—	—	—	企画研修
第23回子どもの城マタニティ・コンサート 「礒絵里子・白石光隆～ヴァイオリンとピアノの音楽絵本」	7.5・6	1	無料（応募制招待）	339	247	72.9	小児保健
第16回キンダー・フィルム・フェスティバル	8.8～12	13	子ども500／おとな700	3,822	1,587	41.5	企画研修
こどもたちからのサウンドメッセージ	3.13～15	5	1,500	1,330	1,133	85.2	音楽
(内部利用 小計)	4 件	14	27				

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
〈貸し館〉		(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
Innerchild vol.14 劇団 10周年記念公演／第一弾「(紙の上の) ユグドラシル」(Innerchild)	4.1～7	7	3,700 (前売 3,500)	1,834	1,672	91.2	
楽舞樂舞ゴーラウンド vol.1 「E KOMO MAI vs 笛吹奈保子」(トウモローハウス)	4.10	1	5,000 (前売 4,500)	261	212	81.2	
J. A. M (ホットスタッフ)	5.2	1	5,000 (前売 4,500)	328	328	100.0	
好色一代男 (アーティストジャパン)	5.26～6.1	8	6,500	2,632	1,672	63.5	
35周年記念企画 vol.1 劇団青い鳥 2008年初夏公演「青い実をたべた -さと子の場合-」(青い鳥創業)	6.2～8	6	5,500 (前売 5,000)／シルバー 4,700／大学生 3,500／小・中・高校生 3,000	1,657	1,388	83.8	
劇団ダンダンブエノ 七味公演「ハイ！ミラクルズ」(劇団タンタン・ブエノ)	6.17～29	12	6,000	3,358	2,894	86.2	
第45回旗野恵美創作舞踊公演「生生 流転」(旗野恵美創作舞踊研究所)	7.3・4	2	4,800 (前売 4,500)	562	451	80.2	
劇団ステージドア 第17回公演「カフェ・イル・マーレ 家族の肖像」(劇団ステージドア)	7.20・21	3	2,500	942	833	88.4	
双数姉妹「サナギネ - 幼年期の終わりに -」(双数姉妹)	7.28～8.3	7	4,000 (前売 3,800)／学生 2,500	2,226	1,300	58.4	
ことばの杜●「読み聞かせ劇場」(LLP ことばの杜)	8.4	1	1,000	314	174	55.4	
ことばの杜●「第3回定期朗読会」(LLP ことばの杜)	8.4	1	4,200	314	216	68.8	
キッズのためのはじめての音楽会～キッズ・ワンダーランド 夏休み 2008～(イープラス)	8.5～7	4	2,800	1,118	824	73.7	
即興演劇集団フリークルーズ Vol.35 本公演 1 [ichi] (フリークルーズ)	9.3	1	4,000 (前売 3,800)	376	322	85.6	
Cent. Force Presents 「SEASONS」(エイベックス)	9.4～7	4	6,725	1,236	971	78.6	
KE KUA 劇場公演 Vol.2 「愛に生きた女神たち～古代ハワイアンの恋愛事情～」(トウモローハウス)	9.8・9	1	4,500 (前売 4,000)	254	217	85.4	
中村ブン・ファーストコンサート「かあさんの下駄」(ザ・カンパニー)	9.10	1	4,000	370	319	86.2	
雅～miyavi～(バックステージプロジェクト)	9.14	2	4,500	780	738	94.6	
朝崎郁恵「Feauring Best」発売記念ライブおぼくり～ええうみ(ホットスタッフ)	9.18	1	5,000	361	317	87.8	
アキコ・カンダ モダンダンス公演「風の追憶」(アキコ・カンダ事務所)	9.19～21	4	5,250	688	561	81.5	
東京探偵団 produce 「Park Park Show～人は見かけにヨロレイヒ～」(東京探偵団)	10.24～26	3	4,500	1,106	807	73.0	
演劇村フェスティバル (ヴィレッジ) 劇団鹿殺し第18回公演「電車は血で走る」	10.27～11.3	8	3,800 (前売 3,500)	1,965	1,673	85.1	
クロムモリブデン「テキサス芝刈機」	11.4～9	6	3,500 (前売 3,200)／学生 2,500 (前売 2,000)／リビーター 1,500	1,398	1,101	78.6	
芝居流通センター デス電所 第18回公演「ヌンチャクトカレフ鉛鉄球」	11.10～16	5	3,300 (前売 3,000)／学生 2,300 (前売 2,000)／高校生以下 1,000	1,398	1,101	78.8	
藤井昭子「地歌 -Jiuta-」(ピクター)	H21.1.8	1	5,000	321	191	59.5	

名 称	日 時	回数	料 金	総 席 数	入場者数	入場率	備 考
花組芝居「泉鏡花の夜叉ヶ池」(花組芝居)	(日) 1.9 ~ 22	17	(円) 平日 4,800 / 土・日・祝日・ 楽日 5,800 / 平日昼夜通し 9,000 / 学生 4,000 ※当日 500 増し	(人) 5,282	(人) 4,246	(%) 80.4	
その夜明け、嘘 (TBS)	2.4 ~ 23	21	7,500	7,571	7,171	94.7	
矢野沙織 Concert Tour 2009 ~Tribute to Billie Holiday~ (キヨードー東京)	2.25	1	5,250	368	285	77.4	
(貸し館 小計)	27 件	124	92				
(青山円形劇場 合計)	55 件	331	310				

3. その他

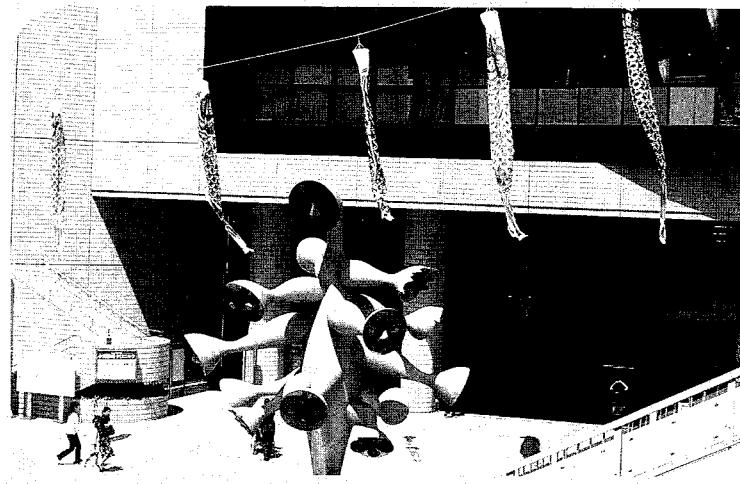
〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー 2008 (APAS) など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第2回 海外で活躍する日本人アーティストから、海外のアート環境を聞こう会	一般 (人) 30	(人) 31	8.12 19:00 ~ 21:00	今津雅晴さん (カンパニー・マリー・シュイナール/カナダ) をゲストに招いたトーク。進行は、JOU。無料。 (B リハーサル室)
和太鼓力レッジ				
肝心要の絃太鼓 (中級編)	〃 40	47	8.16 10:00 ~ 12:30	講師=山本綾乃。受講料 4,000 円。 (青山円形劇場)
講演会/太鼓雑談・雑学	〃 30	15	〃 10:30 ~ 12:30	講師=浅野昭利。無料。 (会議室)
大太鼓を打つ!	〃 30	45	〃 13:00 ~ 15:30	講師=橋本真由美。受講料 4,000 円。 (青山円形劇場)
かつぎ橋太鼓 (中級編)	〃 40	25	〃 16:00 ~ 18:30	講師=田川智文、露木一博 (東京打撃団)。受講料 4,000 円 (青山円形劇場)
篠笛入門講座	〃 40	25	8.17 10:00 ~ 13:00	講師=村山二朗 (東京打撃団)。受講料 5,000 円 (笛持込 3,000 円)。 (会議室)
講演会/12人兄弟末っ子、多喜雄的ポジティブ志向	〃 30	15	〃 14:00 ~ 16:00	講師=伊藤多喜雄。無料。 (会議室)
チャッパの極意	〃 40	46	〃 10:00 ~ 12:00	講師=金子竜太郎。受講料 15,000 円 (楽器持込 4,000 円)。 (体育室)
初心者向けはじめての太鼓	〃 40	35	〃 13:00 ~ 15:00	講師=木下千恵子 (炎太鼓)。受講料 3,000 円。 (体育室)
ミニ太鼓づくり	〃 計 60	計 49	8.16・17 14:00 ~ 15:30	指導=浅野太鼓。受講料 = 4,000 円 (材料費込) (ピロティ)
第3回 海外で活躍する日本人アーティストから、海外のアート環境を聞こう会	〃 30	26	H21.1.23 19:00 ~ 21:00	木野彩子さん (ラッセル・マリファント・カンパニー/イギリス) をゲストに招いたトーク。進行は、JOU。無料。 (B リハーサル室)
オブジェクトシアター・ワークショップ	〃 10	8	3.7 3.8 15:00 ~ 17:00 11:00 ~ 17:00	講師=沢則行。受講料 = 10,000 円 (2 日間。材料費込み)。 (B リハーサル室)

〈青山劇場プロデュースによるツアー公演〉

名 称	期 間	回 数	内 容
月猫えほん音楽会 2008	5.4・5 7.29・30	1 1	滋賀県立芸術劇場びわ湖中ホール (滋賀県) 北九州芸術劇場 中劇場 (福岡県)
タントさんのふしきなレストラン	5.9・10	1	東京都児童会館 (東京都)
デュルシネア・ラングフェルダー公演	9.19 ~ 10.4	6	スパイラルホール (東京都) / 島根県民会館 中ホール (島根県) / 高知県立美術館ホール (高知県) / 長久手町文化の家 森のホール (愛知県) / 金沢21世紀美術館 シアター21 (石川県)
ア・ラ・カルト	12.27 ~ 31	4	大阪ビジネスパーク 円形ホール (大阪府)
デーモン小暮の邦楽維新	H21.3.13・14	1	富士市文化会館ロゼシアター 中ホール (静岡県)

広報部



平成 20 年度の活動

1. はじめに

一般的に、PR(public relations)と宣伝(advertisement)の2つの要素をひとくくりにして“広報”とされることが多い。[子どもの城]の広報部の仕事も、この2つの要素を併せ持っている。[子どもの城]が実現したいことは何か等々、[子どもの城]の主体性に軸足を置いて、PRと宣伝をバランスよく使い分けていくことが重要であると考えている。

PRにしても、宣伝にしてもその手段・方法はさまざまである。闇雲に動けば良いというものではない。

来館児・者が漸減傾向にあるが、それならば“宣伝”すればよい、というのは短絡的すぎる。まず、漸減の原因を突き止めることからはじめる必要がある。原因が[子どもの城]の内にあるのか、外にあるのか、複数の問題が絡み合っているのか—利用者の側に立って考える必要がある。その結果、利用が期待される人はいるし(地域的にも、年齢階層的にも)、活動そのものの評価も高い、しかし知られていないというのであれば、宣伝という手段が有効になる。利用が期待される人が地域的にも、年齢階層的にも少ないということになれば、人を集めの方策(例えば、近郊の幼稚園やスポーツクラブのようにマイクロバスで送迎するなど)などを含めて考える必要がでてくるだろう。

一方、国立の総合児童センターとして、「次の時代を担う児童の健全な育成に資する」という役割がある。実際的には、[子どもの城]での活動をとおして“健全育成”を具体的に推進すると同時に、子どもの周辺にいる大人たちに健全育成の意味、重要性などを伝えていくことが

必要になる。[子どもの城]の活動への理解を深めてもらうことを含めて、重要なPR活動といえる。別の言い方をすれば、[子どもの城]の存在意義を認めてもらい、社会との関係を良好に保つことである。

PR活動の核の一つは「子どもの城ニュース」であり、本年度から毎月1日、年12回発行にし、利用者を含め各方面に配布している。また、マスコミやミニコミなどの各種メディアに情報を提供し、取り上げてもらえるように努めるのもPR活動である。取材への対応もPR活動として原則、広報部が窓口になっている。

ホームページというのは、PRにも宣伝にも使える媒体である。多様な展開が考えられる反面、使い方を明確にしておかないと、どちらつかずの中途半端なものになる可能性ももっている。現時点では、催しもの等の案内情報の提供(宣伝)に焦点をあてて運営している。

限られた予算、限られた人材のなかで効果的な広報活動(PRと宣伝)を行っていくためには、一つの情報を多様に展開していく、情報を共有化するなどの工夫が必要であると考えている。しかし実際は、試行錯誤の連続である。

2. 「子どもの城ニュース」について

開館以来、機関紙「子どもの城ニュース」を発行している。当初は、ブランケット判(一般の新聞紙のサイズ)2ページ(表面4色、裏面1色)で、年6回(偶数月の15日)発行していた。グラフ(写真)中心のPR紙で、活動紹介を中心に編集されていた。平成6年(94年)の国際家族年から、臨時増刊号を年3回発行するようになり、以降は年9回(4、6、7、8、10、11、12、2、3月)に

なり、平成11年(99年)から年11回発行となった。さらに、本年度から年12回の完全月刊化すると同時に、発行日を毎月1日に変更した。

このようなプログラムを行いました、実施しますという“お知らせ”だけではなく、プログラムの背景にあるもの(ねらい、意味、考え方など)を含めて紙面化するよう努めている。[こどもの城]の活動をより深く理解してもらいたい、類似のプログラムとの区別化をはかりたいと考えるからである。

記述にも配慮している。表面は、小学校などで掲示されることも想定して、小学校で教わる漢字の範囲で文章を作るようし、平易な表現を心がけている。裏面は、保護者向けと考えて、常用漢字の範囲で記述している。ささやかな配慮かもしれないが、より多くの人に理解し

てもらうためには、あらゆる場面で作り手側の努力が必要だと考える。“伝えたい気持ち”を忘れてはならないと思う。

3.まとめ

“広報”というのは、広報するもの、広報したいものがあつてはじめて、その役割が生じてくる。その意味では常に脇役である。主役は、健全育成という大義のもとで、ある意図をもって活動を展開し、伝えたいものを持っている[こどもの城]そのものである。

[こどもの城]は何をすべきか、何をしなければならないのか——原点を振り返りながら、広報として何ができるのか、何をしなければならないのか等々を考えていきたい。



平成 20 年度活動一覧表

名 称	日 時	内 容
「子どもの城ニュース」の編集・発行	毎月 1 日発行	<p>本年度から月刊化し、毎月 1 日発行となった。B3 判、表面 4 色、裏面 1 色印刷。各号 25,000 部発行。主な配布先は下記のとおり。</p> <p>都道府県児童館連絡協議会など（3,750 部）／都道府県児童福祉主管課（3,500 部）／子どもの城友の会（約 3,500 部）／渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校（350 部）／渋谷区町会ほか（200 部）／その他・一般来館児・者など（約 13,700 部）</p> <p>◆主な内容◇</p> <p>第 192 号（4 月 1 日号）=子どもの城風雲録 暗黒神凱羅の野望 第 193 号（5 月 1 日号）=子どもの城映画劇場／おもしろビデオ館 見やすく、分かりやすく、楽しい上映会をめざして 第 194 号（6 月 1 日号）=造形スタジオ クリエイティブコーナー のこぎりなどの《道具》を使い、思いを“かたち”に 第 195 号（7 月 1 日号）=はじまる夏休み！あつまれ小学生 第 196 号（8 月 1 日号）=いっぱい遊んで のびのび元気 第 197 号（9 月 1 日号）=【子どもの城】の「親子教室」 お父さんもいっしょに“豊かな子育て”を— 第 198 号（10 月 1 日号）=たべる 全国児童館おりがみ作品展 第 199 号（11 月 1 日号）=【子どもの城】の“遊びのボランティア” 子どもも、自分も、いっしょに楽しむ 第 200 号（12 月 1 日号）=造形スタジオの活動から 季節感じる「子ども歳時記」 第 201 号（平成 21 年 1 月 1 日号）=冬だ！ あったかスポーツ大集合 第 202 号（2 月 1 日号）=【子どもの城】の講座・クラブ 1 年間のしめくくりに“発表会” 第 203 号（3 月 1 日号）=【子どもの城】の「ビデオライブラリー」 楽しみ方いろいろ</p>
【子どもの城】のホームページの運用	通年	催し物情報の提供を中心としたサイトの運営を行っている。月間スケジュール、日替りカレンダー、講座・講習会などの募集案内など。データ更新の頻度はどの程度が適当なのかなど、無理なく継続的に運営していくために検討していくなければならないことは多い。年間、700 万件近いアクセスがある。
「子どもの城写真ニュース」の制作・掲示	毎月 20 日	<p>館内に掲示している A3 判サイズ・カラーの写真ニュース。毎月 20 日に更新。</p> <p>4 月 20 日=第 15 回ニッサンゆかいな絵本と童話展／お筆体验ワークショップ ほか 5 月 20 日=子ども歳時記「端午の節句」／親子遠足（保育）ほか 6 月 20 日=わいわいスタジオ「草笛コンサート」／児童厚生員等実技指導講習会 ほか 7 月 20 日=マタニティコンサート／天までとぞけ ねがいごと（七夕）ほか 8 月 20 日=月猫えほん音楽会／ペーパープレーンファクトリー（パソコンルーム）ほか 9 月 20 日=あそび Day キャンプ 2008／キャッスルアドベンチャー（L.I.T.）ほか 10 月 20 日=秋まつり～みんなで縁日を楽しもう！／サッカーフェスティバル ほか 11 月 20 日=ファミリードルッチャワーカス／全国児童館おりがみ作品展 ほか 12 月 20 日=小児保健セミナー／盲導犬と交流・体験（じよいんクラブ）ほか 平成 21 年 1 月 20 日=新春！もちつき大会／パソコン紙相撲 ほか 2 月 20 日=節分会 大まめまき大会／集まれ小学生！○を発見 ほか 3 月 20 日=【子どもの城】の消防訓練／新体操発表会／ドキドキズオステージ ほか</p>
特別期間のちらしの作成	特別期間開始日の 1 か月前	<p>以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成した。</p> <p>○児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間ちらし（A4 判／4 色×1 色／29,000 部） ○夏休み特別期間ちらし（B4 判 2 つ折り／4 色×1 色／90,000 部） ○冬休み特別期間ちらし（A4 判／1 色×1 色／18,400 部） ○春休み特別期間ちらし（A4 判／4 色×1 色／32,000 部） ※英語版（1 色／簡易印刷）もあわせて作成した。</p>
その他のちらしの作成	通年	講座・クラブの募集ちらし（2 期、3 期、夏休み短期講座／B4 判・A4 判／1 色×1 色）や土曜日プログラムのちらし、月間スケジュールなどを作成した。
平成 21 年度講座・クラブ一覧	H21.1 月	新年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。B4 判 2 ページ（2 色）。277,000 部印刷。一部を新聞折り込み・ポストインちらしとして使用。
子どもの城の案内	H21.3 月	【子どもの城】の案内を増刷。和文 200,000 部、英文 30,000 部。英文は、和文と同様にサイズを縮小した（A3 判→B4 判）。

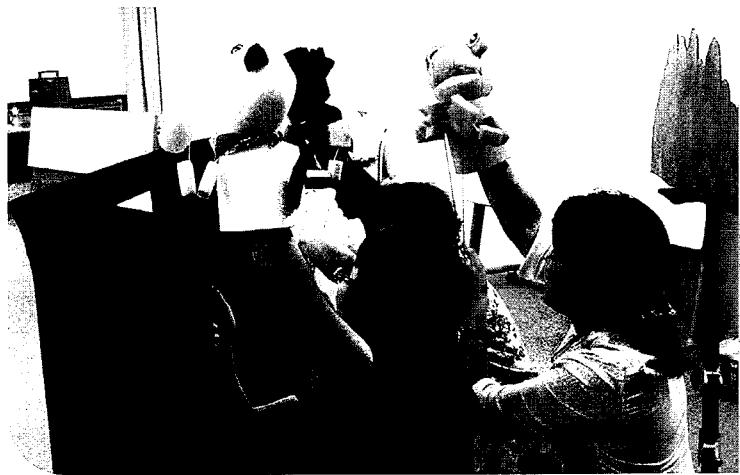
名 称	日 時	内 容
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、特別期間などの時期に、新聞広告をとおして広報した。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞と毎日小学生新聞に定期的に記事広告を特約掲載。
夏休み特別期間のお知らせ	7.5～8.31	朝日新聞（都内版・多摩版・埼玉版・神奈川版：全 5 段ほか）／読売新聞（都内版・多摩多摩版・神奈川版・埼玉版：半 5 段ほか）／毎日新聞（都内版：半 5 段）／埼玉少年少女スポーツ新聞（タブロイド半 2 段）／朝日小学生新聞（半 5 段）／毎日小学生・中学生新聞（タブロイド 3 段）／東京新聞（半 5 段・全 5 段）
冬休み特別期間のお知らせ	12.1～H21.1.1	朝日小学生新聞（全 5 段）／毎日小学生新聞（タブロイド 3 段）／東京新聞（全 5 段）
その他の広告		新聞以外の広告媒体を使って【こどもの城】の催し物の案内を行った。
夏休み特別期間のお知らせ（都営交通とのタイアップ広告）	8.3～9	都営交通とのタイアップ広告。車内つりの記事下スペース（80mm × 515mm）で夏休み特別期間を PR。都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両内に 7 日間にわたり掲出した（約 3,800 枚）。
〃（フリーペーパー「パスモいいかも」）	6.21	関東地方の私鉄共通の IC カード “PASMO” と JR 東日本の “Suica” の相互利用が可能になったことにともない、PASMO 普及のために私鉄各駅にフリーペーパー「パスモいいかも」が置かれている。8 月号（30 万部発行）に夏休み特別期間の案内を掲載。
〃（フリーペーパー「ショッパー」）	7.10	東京メトロ副都心線が 6 月に開通。西武池袋線と東武東上線が相互乗り入れをしているため、埼玉方面から渋谷へのアクセスが向上した。両線の沿線エリアで配布されているフリーペーパー「ショッパー」に夏休み特別期間の案内を出稿。あわせて、入館券の読者プレゼントを実施。多数の応募があった。
〃（ちらしポストイン）	7.19	夏休み特別期間の案内を【こどもの城】周辺地域（渋谷区・目黒区）にポストイン（43,280 部）。
平成 21 年度講座・クラブ受講生募集（新聞折り込みほか）	H21.2.7・10	平成 21 年度開講の全講座・クラブの案内と受講生募集のちらしを【こどもの城】周辺地域（渋谷区・目黒区・港区・世田谷区）の朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・日本経済新聞の朝刊（計 115,600 部）に折り込み広告を実施（10 日）。サンケイリビングのポストイン（179,000 部）も行った（16 日）。本年度は、新聞広告の出稿を取りやめた。
ウェブ	通年	ウェブサイト「エリア毎日」で【こどもの城】の案内および PR を行う。
読者プレゼント	随時	「こどもぴあ」「京王沿線ガイド」「東京新聞」などのメディアの読者プレゼントに入館招待券を提供し、【こどもの城】の案内を掲載してもらった。
取材関係	通年	取材の申し込みがあり、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。新聞 29（26）、テレビ・ラジオ 31（16）、雑誌 56（53）、その他 71（94）で、全体では 187（189）となっている。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。
第 25 回 渋谷スタンプラリー	7.19～8.31	恒例となった「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。UN ギャラリーが参加を取り止め、NHK スタジオパーク、こどもの城、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館の 5 館で共催した。参加者は約 1 万人。
あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿	通年	渋谷・恵比寿・原宿周辺の文化施設が集まり、交流・情報交換を行うと同時に、協力して PR 活動などを行う。NHK スタジオパーク、CC レモンホール、たばこと塩の博物館、トーキョーワンダーサイト渋谷、電力館、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、ギャラリー TOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、こどもの城、UN ギャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、渋谷区ふれあい植物センター、恵比寿麦酒記念館、恵比寿ガーデンプレイス、東京都写真美術館の 19 施設が参加している。11 月 3・4 日には「ふるさと渋谷フェスティバル」に参加して「あ・ら・かるちゃー」を PR した。

3

子どもの城から
全国へ



子どもの城 から全国へ



平成 20 年度の活動

1. はじめに

〔子どもの城〕が開館して 20 年以上経過した現在でも、全国に約 4,700 館ある地域の児童館の活動状況を把握し、必要な情報を提供するナショナルセンターとしての機能の重要性は変わっていない。本年度も、この機能を果たすため、「子どもの城児童厚生員等実技指導講習会」の開催、〈動く子どもの城〉事業の実施、講師派遣や実習生・研修生の受け入れなどを行った。

現在、児童館の課題とされている事柄のうち、〔子どもの城〕という施設のなかだけではなし得ないテーマについて、独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金からの助成を受け、事業に取り組んだ。本年度は、前年度からの継続事業として「児童館における中高生のボランティア活動活性化事業」、新たな取り組みとして「児童館を活用した父親ネットワークづくり事業」を実施した。同様の目的で、厚生労働省と側ども未来財団が主催した「子育てサークル活動者研修事業」にも取り組んだ。

2. 事業の概要

(ア) 児童厚生員等指導者対象の講習会

児童厚生員等実技指導講習会は、児童館で活動する児童厚生員を中心とした、指導者の技能向上のための講習会として位置づけている。公費での参加者が減少し、自費での参加者が増えている現状に対応し、本年度から参加費を改訂した。講習費と宿泊費を分離して、〔子どもの城〕への宿泊を任意とすることで、個人負担の軽減をはかった。

講習の内容は、第 1 回が遊びの専門技術として「つくる」をテーマにした造形活動の具体的な展開例を紹介、第 2・3 回は、これから幅広い児童館のあり方を考え、「乳幼児」と「中高生」をテーマに取り上げた。

このほか、指導者および一般向け講習会「つくって演じる人形劇」「おりがみにつくなる講習会」を開催。人形劇、折り紙といった特に児童館で関心の高い遊びの実際をトピックス的に取り上げた。いずれも日帰りで実施し、気軽に参加できると好評であった。

(イ) 研修生・実習生の受け入れ

大型児童館の初任者研修などとして、研修生 3 人を受け入れた。また、大学・短期大学、専門学校から依頼のあった保育、博物館学などの科目履修を目的とした実習



子どもの城児童厚生員等実技指導講習会

の場として、実習生 16 人を受け入れた。

中学生・高校生については、キャリア教育の一環としての「職場体験」、次世代育成としての「乳幼児とのふれあい体験」などの希望が多い。本年度は、中学生 9 件 23 人、高校生 3 件 48 人を受け入れた。

中学生の要望の多くが、前年度利用校からの引き続きの依頼であり、希望が定着している。特に地元である渋谷区立の中学校は、8 校中 6 校の受け入れを行っている。長期の職場体験（1 週間程度）を行うことが制度化されているため、長期の希望が多い。子どもたちを地域社会全体で育て、広く健全育成を実践する一環として、地域社会のなかの児童厚生施設としての社会的役割の一つのモデルとなるように、[こどもの城] としての独自性を備えた受け入れシステムを、整備していきたいと考えている。

（ウ）講師派遣

地域で開催される、児童健全育成のための研修会や催しのために、[こどもの城] のスタッフが講師として招かれた件数は、149 件であった。講師の派遣は、基本的に職員の勤務時間外に行われているが、[こどもの城] の事業と密接な関係がある。〈動くこどもの城〉には、多くの派遣希望が寄せられるが、派遣件数に限界があり、すべての要望に応じられている訳でない。講師派遣のシステムはこうした需要への対応を補っている。

講師派遣によって、地域固有の子育て支援の需要や優れたプログラム作りのヒントを得るなど、職員各自の技能向上につながるケースも多く、[こどもの城] の新しい事業展開の契機となる場合もある。今後も、他事業とのバランスに考慮しつつ、地域からの派遣要請に応じていきたい。

（エ）動くこどもの城

平成 6 年度から開始、国庫補助金を受けて、全国に約 4,700 館ある児童館に [こどもの城] で実践してきた遊びのプログラムを紹介する事業。児童館が地域社会から求められる、多様なニーズに対応するために活用されている。特に近年、乳幼児をもつ親に対する子育て支援プログラムの需要が高い。本年度も「ぽかぽか広場～乳幼児と親のための交流広場～」を 3 種類実施。各地からの要請も多く、年間の派遣件数の約 4 分の 1 がこのプログラムであった。

〈動くこどもの城〉が、地域児童館への情報の一方通行に終わらず、地域児童館からの情報収集はもとより、地域児童館同士の交流の場としても活用されるよう働きかけ、児童館活性化の一助としたい。

（オ）助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受け、「児童館を活用した父親ネットワークづくり事業」と「児童館における中高生のボランティア活動活性化事業」の 2 事業に取り組んだ。

継続事業（2 年）の 2 年目を迎える「児童館における中高生のボランティア活動活性化事業」では、初年度に実施した全国調査——先駆的活動に取り組んでいる施設などの見学、現状を把握するため行った児童館・自治体を対象としたアンケート調査の結果をふまえ、中高生世代の活動を活性化するための事業を計画・実施した。

具体的な事業は、以下のとおり。

①中高生世代の活動の先駆的事業の実践者や研究者に委嘱して運営委員会を設置し、本事業についての検討を行った。モデル事業の可能性を広げるため、事業の進行とともに経験を生かしたアドバイスをお願いした。

②児童館を核として、中高生世代の社会参加を促進する、モデルプランの実践を行う事業について、全国 5 か所の児童館での実施を計画した。

③中高生世代の社会参加を支えるため、地域で活動する指導者のスキルアップをはかる、ファシリテーター講習会を全国 3 か所で実施した。

これらの活動の成果は、「地域に発進 !! 中高生世代居場所からの 1・2・3」にまとめ、全国に配布。モデル事業では、さまざまな社会的活動へ広がる中高生世代の参加事業の活動事例を紹介した。これらの活動を報告書にまとめることにより、全国に中高生世代活動への取り組みの大切さをアピールし、広げていくことができた。

本年度から 2 年計画で実施する「児童館を活用した父親ネットワークづくり事業」では、父親の子育て参加や、父親の地域活動を推進するために、児童館が拠点としてどのように機能していくべきかについて検討した。

具体的には、全国 6 か所で父親ネットワーク作りのモデル事業を実施した。①「おやじの会」など既存の父親グループと協働してイベントを行い、ネットワークの輪を広げていく事業と、②児童館が主体となって、父親が参加しやすいイベントを実施し、徐々に顔の見える関係性を作っていく事業とに大別できた。

本年度は、父親をネットワーク化するための“きっかけづくり”について、さまざまな面から検討することができたが、「参加から参画へのプロセス」については、まだまだ検証不足であり、継続的に検討していく必要がある。

これらの成果を広く周知するために、1 月には「父親ネットワーク・サミット」を開催したが、多くのメディ

アに取り上げられるなど、大きな成果をあげることができた。

(力) その他の共催事業

平成14年度から厚生労働省・助ども未来財団主催の「子育てサークル活動者研修事業」を委託されている。本年度は、潟上市(秋田県)・前橋市・鳥取市・鹿児島市の4か所で事業を実施した。

研修は、参加者が主体的に学べるように、ワークショップ形式とした。4回連続の講座だったため、徐々に参加者同士の距離が縮み、連絡先を交換するなど、新たな関係を築いた様子だった。また、モデル事業には研修会の参加者も参画し、協力団体を中心とした草の根レベルでのネットワークが築かれたようだ。今後は、この事業

で得られた手法やネットワークを「こどもの城」の事業にも生かしていきたい。

3.まとめ

地域の子育て環境は一様でなく、それぞれの児童館は多様な状況のなかで努力している。こうした児童館からの期待に応えるとともに、センター機能が単に外部への発信だけに終らず、「こどもの城」としての事業の充実、外部への働きかけをとおして得られた情報の、本来事業への還元といった、循環構造のいずれもが機能するように、事業の充実をはかりたい。また、センター機能が、担当する一部の部署だけのものに終わらないように、情報の共有化と全体でのコンセンサス作りに努力していきたい。

平成 20 年度活動一覧表

1. 講座・クラブなど

〈平常期間〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成 20 年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会				
第 1 回 遊びの専門技術 「身近なモノでつくって遊ぶ」	(人) 児童館職員 ほか (50)	(人) 35 (50)	6.4・5	前年度に引き続き〈遊びの専門技術〉を共通のタイトルで開催。実践編として、"つくる"をテーマに多角的に活動実践例を紹介。1 日目は、日本児童遊戯研究所の有木昭久所長を迎へ「身近な素材でつくって遊ぼう!」。おもちゃや身近な素材で作る活動を取り上げ、その技術を伝授。実技というと、新しい種目の紹介が中心になりがちであるが、どう展開し遊びとして継続するかを伝える場となった。2 日目は、市民芸術活動推進委員会の鈴石弘之理事長を迎へ「みんなで遊ぼう! ダイナミックに段ボール」。大きな素材で、ダイナミックに仲間と力を合わせて楽しむことを実感するため、実際の活動を指導者側の視点に立って体験する、ワークショップ形式で学習した。 (研修室)
第 2 回 これからの児童館活動 「乳幼児のひろば事業について考える」	〃 (50)	43	10.22 ~ 24	乳幼児とその保護者の利用の新しい形である〈ひろば事業〉を中心に、乳幼児の児童館利用について、さまざまな角度から学習。1 日目は、「ドロップイン」の考え方を中心に、国内外の先進的な乳幼児の活動支援の現状などについて、駒沢女子短期大学福川須美教授の講義。2 日目の午前中は小田原女子短期大学吉田眞理教授の「ひろばで起こる課題に対応する力をつける」。ワークショップ形式で親子への対応の実際を学習。午後は〈ひろば事業〉の視察見学(横浜・びーのびーの／横浜・どろっぷ／港区・あいぽーと／板橋区・関ぴよびよ／江東区・東陽子ども支援センターみずべ)。最終日には、まとめの「児童館に求められるこれからの子育て支援とは」。行政・市民活動・児童館の実践者を招き(光が丘子ども家庭支援センターの新澤拓治さん／びーのびーの奥山千鶴子代表／中野区武蔵台児童館島田聖子館長)、求められる役割についてディスカッション。受講者も加わって意見交換。活発な議論が展開された。 (研修室ほか)
第 3 回 これからの児童館活動 「中高生の“社会参加”と“居場所づくり”」	〃 (50)	39	H21.1.21 ~ 23	〈居場所づくり〉だけでなく、いかに〈社会的・市民的な活動〉や〈ボランティア活動〉へ広げていくか、具体的なかかわり方を研修。初日の夜は、東京福祉大学大学院鈴木雄司教授が、「ゆう杉並」などでの実践を交えて、中高生世代の活動の意義と今後のあり方について講義。2 日目は、実践者を招いてパネルディスカッション形式で話し合い(市川子ども文化ステーション勝部久美子事務局長、横浜市青少年育成協会企画営業課七澤淳子さん、佐賀県小城市児童センター本村桂子館長)。午後は少人数のグループに分かれ、討議を深めた。夕方からは、体験学習ファシリテーターの江上厚さんの指導で、「ファシリテーション技術」の理論を学んだ。最終日は、大正大学吉澤英子名誉教授の「中高生世代の活動を活性化するプロセス理解」。子どもたちの気持ちを理解し、活動を発展させるための大切な活動の要素として、「記録」について講義。まとめにかえて、心をとらえる指導者のあり方についてワークショップ形式で考えた。指導者としての接し方を考えるよい機会となったようだ。 (研修室)
つくって演じる人形劇	〃 (各 30)	42 23	8.24 9.7	8 月は「つくる」。1 回の講習で形になるように、そのままでも表情ができる色つきのウレタンを使用して人形作り。9 月は「演じる」。表情人形の基本の扱い方(さしがねの持ち方など)の指導をうけ、午後はグループで練習。児童館や保育所などで生かせる作品を書く(芝居にする)ことにチャレンジ。最後にグループ発表。人形の持ち方や声の出し方のほか、「見せる対象をどうするか、誰に向かってメッセージを発するのかを考える」「人形の特徴を考えると、自然に動きが出る」「自分の力で作ってみることで応用力がつく」。指導者に応用力がつくと、子どもたちもできるようになるなど、具体的にアドバイス。充実した 2 日間。講師は、「人形劇・木ぐつの木」の鹿島佳子さん。 (研修室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おりがみにつよくなる講習会	(人) " (各 50)	(人) 31 25	11.9 11.16	「おりがみカーニバル」にあわせて、児童館職員等を対象に開催。初心者にも対応できるよう、折り図の見方をていねいに説明しながら進めている。同じ折り方から派生して、さまざまな種類を折ることができる「野菜」「果物」のほか、それらを入れるバスケット、柿の形をしたメモ入れなど、応用を楽しめる作品を紹介。また、数種類のきのことかごを折り、「保育者と子どもたちになったつもりできのこ狩りに行く」という設定でスキットを楽しむなど、児童館や保育の現場ですぐに生かせる楽しみ方も指導。講師は、日本折紙協会に推薦してもらっている。 (研修室)

2. <動く子どもの城>

〈乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム〉

名 称	内 容
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんのできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見。
親子ふれあい体操“1・2・3”	1・2歳または、2・3歳の幼児と親を対象とした運動プログラム。親子で楽しく体を動かしながらふれあい、子どもの成長を感じながら、コミュニケーションを楽しむ。
ぽかぽか広場 乳幼児と親のための交流広場	児童館では、乳幼児とその親が気軽に集まり、親同士で話をするなかで子育ての悩みを解消し、仲間作りができる「広場」への取り組みが始まっている。そのようなふれあい広場の実践を紹介。 【「広場」の持ち方と相談（小児保健部ほか）】 乳児とその親を対象とした「広場」の環境設定、雰囲気作り、子育て相談の持ち方などの運営方法を紹介。 【音楽で遊ぼう（音楽事業部・保育研究開発部ほか）】 ワンポイントの音楽遊びなどをとおして、親子でふれあって遊ぶ楽しさを体験。親同士の仲間作りを促進。 【身近なもので遊ぼう（プレイ事業部ほか）】 親子の時間を豊かにするために、ハンカチや新聞紙など身近なものを使って体を動かして遊んだり、親子のスキンシップを楽しむプログラムをワンポイントで紹介。
親子で遊ぶパペットランド	幼児にとって小さな人形は、安心して接することができる大切な友だち。幼児とその親を対象に、身近にあるものを人形に見立てて遊ぶ、“親子のふれあい”プログラム。対象年齢別に、1歳6ヶ月～3歳向けの「ふれあい遊び」と、3歳以上向けの「劇遊び」がある。

〈幼児や学童を対象とした遊びのプログラム〉

名 称	内 容
身近な道具でスポーツあそび	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも・そして特定のスポーツの道具として使うことが多いボールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまな運動遊び、スポーツへと展開。
「おにごっこ」で楽しく体力づくり	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に伸ばしていった。現代ではその基本的な体力の低下が危ぶまれている。簡単に転んだり、上手によけることができずぶつかってしまったり。体力のなかでも「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームなどのスポーツ遊びを多彩に展開。
ガドガドコンサート 「おんがくがスキ！」	従来のように参加者に聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊びや手遊びの要素が盛り込まれているコンサート。演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となり音楽の楽しさをより一層体験できる参加型のプログラム。
竹の響き 「アンクルンコンサート」	アンクルンは竹で作られたインドネシアの民族楽器で、「竹のハンドベル」とも呼ばれている。竹が奏でる優しく素朴な音のハーモニーを楽しむ。また、子どもたちがアンクルンを体験するコーナーもある。
絵本の読み語り 「おはなしコンサート」	スライドで写し出した大きなイラストと、ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語りを行うプログラム。絵本の楽しさを家族一緒に体験してもらうことができるプログラム。小劇場向けの「心をこめた贈り物」と、小さなスペースでも上演できる「おはなしおんがくパンパカペーン」がある。
音楽ゲームセンターで遊ぼう 「スーパースターゲッター」	日常の子どもたちとの遊びの活動のなかから作り上げた、オリジナルの音楽遊びプログラム。「踊る」「歌う」「聞く」「リズムをたたく」「楽器を体験する」などさまざまな音楽的要素を含んだゲームが屋台のように並ぶ。

名 称	内 容
アニメ・ワークショップ	遊びをとおして、映像の仕組みを考えることができるプログラム。2枚の簡単な絵を描いて作る「ぱたぱたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ「視覚がん具」の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。また、ワークショップでは制作の難しい複雑な「視覚がん具」などの展示も行う。
映像探検 写真ワークショップ	写真の“写る仕組み”を体験するプログラム。写真の発明以前に、画家たちがデッサンの補助的器具として用いていた“カメラ・オブスクラ”や、レンズを使わないカメラ“ピンホールカメラ”を使ったワークショップを行う。また、写真の仕組みや歴史を探る展示も併設。
こどもの城映画劇場	子ども向けに作られた、国内外の芸術的な短編アニメーション作品の上映。基本的に、こどもの城フィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に収蔵作品から数本を選んで上映。「武藤行雄記念文庫」にはカナダ国立映画制作庁 NFBC のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品約 110 本が収蔵されている。
みんなで遊ぼう パペット・ランド	人形作りと人形遊び。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作成。作った人形でお話をしたり、仲間と一緒に遊ぶなど、ごっこ遊びを繰り広げたりと、イメージの世界を楽しむ、人形遊びのプログラム。
レクリエーションゲーム大会 「忍者マスター決定戦」	ごっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプログラム。忍者の世界をテーマに、ファンタジーの世界を仲間と共にしながら、協力、相談、競争をキーワードに、さまざまなゲームをとおして交流をはぐくむことをねらいとしている。
やってみよう！ パソコン遊びのプログラム	パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置。実施するプログラムは、「きれいなグラフィック遊び」やさまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインし、実際に作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、今まで【こどもの城】のパソコンルームで実施したプログラムのなかから、いくつかを選択して実施。

〈児童厚生員などを対象とした実技研修会〉

名 称	内 容
つくって遊ぼう	紙・布・木など身近な素材を使った、子育て広場や子育てサークルで活用できる造形プログラムの研修。子どもといっしょに造形活動を行う時の素材・道具の使い方や、環境設定などについて学ぶ。
乳幼児の食生活	乳幼児の食生活（授乳・離乳食など）について、親の悩みはつきない。食生活の基本的な考え方などを、子育ての実情をふまえて、管理栄養士が解説。
乳幼児の健康管理と応急処置	乳幼児の成長をふまえ、けがの応急処置をはじめ、事故の予防や日常生活の健康管理などを看護師が説明。
乳幼児の発達と大人のかかわり	0～2歳の子どもは、遊び、言葉、自己主張など、目覚しい発達をとげ、親が接し方に悩む時期でもある。この時期の発達の特徴や大人のかかわり方などについて臨床心理士が解説。
児童館を拠点としたネットワークづくり	児童館が地域の子育て支援拠点として機能するためには、地域の社会資源を結びつけるコーディネート機能が大切。さまざまな地域の事例に基づき、ネットワーク作りについて学ぶ。
ボランティア・コーディネート	児童館が地域と密着して、豊かな事業を展開していくためには、ボランティア活動のコーディネートが必要不可欠。児童厚生員を対象にした研修、ボランティアの資質向上を目的にした研修を選択して実施。
不思議な映像実験室	《映像の時代》ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像にふれることは欠かせない。映像の基本的な原理について、遊びを通じて理解できるプログラムを体験するワークショップ。



全国児童館おりがみ作品展

名 称	内 容
手作り楽器のワークショップ	ふだんは、がらくたとして捨ててしまうようなものを生き返らせて、音が出るようにする。金属の缶やフィルムのケースなどが、音の道具に早変わり。そして制作終了後には、全員で作った楽器で音をだして遊ぶ。
打楽器で遊ぶワークショップ	ブラジルのサンバを中心に、アフリカの太鼓・タムタム、和太鼓、スプーンなど、身の回りにあるものや手作り楽器なども活用して、リズム遊び。元気よく打楽器をたたき、アンサンブルを楽しむ。
想像遊びのワークショップ	さまざまな絵本をモチーフにして、想像遊び、見立て遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。簡単なカードを作るとおして協同制作者とのコミュニケーションをはかる。
人形遊びのワークショップ	紙コップ・タオル・靴下など身近な素材を使って人形を制作し、遊びにつなげていくための講習会。人形を使った表現遊びをするためのノウハウを学ぶ。
造形ワークショップ	素材・発想・技法などで、さまざまなプログラムが生まれる。どこにでもある素材を用いて、ほんの少しだけ発想を変えると、ふだんは見えないものが見えてくる。そうしたプログラムを何種類か参加者と体験制作し、それが生まれる考え方や、発想法についても考える。

〈地域の児童館などの展示とワークショップ〉

名 称	内 容
造形ワークショップ展	〔こどもの城〕造形スタジオのプログラムを、視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。そのなかからいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。パネル展示が中心となるプログラム。「素材アラカルト」「こども歳時記」「絵本の世界へ」「竹体験ワークショップ」「音・光体験」の5種。
お父さんの少年時代	児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんが子どもだったころ、昭和30～40年代の〈遊び〉の展示。めんこ、べいごま、凧、日光写真などの遊び道具の展示をきっかけにして、親子のコミュニケーションをはかり、子どもたちに昔遊びのエッセンスを体験してもらう。
全国児童館おりがみ作品展	各地の児童館活動のなかで制作した折り紙作品の展示。全国の児童館に参加を募り、寄せられた25作品を〔こどもの城〕での展示。終了後、全国で巡回展を実施。

〈実績一覧〉

都道府県	開 催 団 体	実 施 日 時	プロ グ ラ ム 名	催し	研修	展示
鹿児島県	キッズランド児童館	4.12～22	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
愛媛県	伯方児童館	4.14～21	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
埼玉県	ふじみ野市児童センター	4.29～5.6	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
佐賀県	鳥栖市児童センター	5.11～18	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
福岡県	岡垣町こども未来館	5.21	ばかばか広場「身近なもので遊ぼう」	○	○	
福島県	福島市野田児童センター	6.2～7	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
京都府	京都市久我の杜児童館	6.3～15	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
東京都	世田谷区赤ちゃんサロン「大きな栗の木の下で」	6.5	ばかばか広場「音楽で遊ぼう」	○	○	
宮城県	気仙沼市立赤岩児童館	6.18	親子ふれあい体操"1・2・3"	○	○	
兵庫県	西宮市高須児童センター	6.20	ばかばか広場「広場」の持ち方と相談	○	○	
新潟県	長岡市多世代交流館 になにーな	6.23	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
山口県	山口県岩国市こども支援課子育て支援センター	6.26	ばかばか広場「広場」の持ち方と相談	○	○	
東京都	調布市多摩川児童館	7.4	ばかばか広場「広場」の持ち方と相談	○	○	
愛知県	名古屋市とだがわこどもランド	7.10	身近な道具でスポーツあそび		○	
山形県	鶴岡市子育て支援センター	9.6	親子ふれあい体操"1・2・3"	○	○	
北海道	稚内市教育委員会	9.20	身近な道具でスポーツあそび	○	○	
大阪府	門真市子育て支援課	9.30	ばかばか広場「音楽で遊ぼう」	○	○	
茨城県	つくば市二の宮児童館	10.6	身近な道具でスポーツあそび	○	○	
長野県	駒ヶ根市子ども交流センター4館合同	10.18	レクリエーションゲーム大会「忍者マスター決定戦」	○	○	
埼玉県	富士見市児童活動センター	10.27	ばかばか広場「身近なもので遊ぼう」	○	○	
東京都	八丈島子供家庭支援センター	10.28・29	ばかばか広場「音楽で遊ぼう」	○	○	

都道府県	開催団体	実施日時	プログラム名	催し	研修	展示
山形県	酒田市児童センター	10.31	親子ふれあい体操"1・2・3"	○	○	
徳島県	徳島県「みらい」	11.7～9	パソコン遊びのプログラム	○	○	
埼玉県	所沢市立児童館	11.10	すくすくスキンシップ(ほかほか広場の要素を入れて)	○	○	
山口県	山口県児童センター	11.13	レクリエーションゲーム大会の演出プラン		○	
山梨県	社会福祉部児童家庭課	11.19	「おにごっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
静岡県	島田市役所教育部社会教育課	11.21	想像遊びのワークショップ		○	
青森県	子ども家庭支援センター	11.23～12.7	造形ワークショップ展「コラージュ・ワークショップ」		○	○
愛知県	美和町中央児童館	11.28～12.15	お父さんの少年時代	○	○	○
熊本県	菊池郡菊陽町	11.30	おはなしおんがくパンパカパーン	○	○	
埼玉県	入間市キッズ・アート・ギャラリー協力委員会	12.1～21	造形ワークショップ展「素材ア・ラ・カルト」		○	○
岡山県	岡山市久保東児童館	12.4	ほかほか広場「音楽で遊ぼう」	○	○	
北海道	札幌市中の島児童会館	12.6～13	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
新潟県	燕市児童研修館「こどもの森」	12.7	絵本の読み語り「おはなしコンサート」	○	○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	12.20～1.12	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
京都府	京都市大塚児童館	1.11・12	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
岩手県	洋野町種市放課後児童クラブどりーむキャンパス	1.17～2.1	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
京都府	京都市大塚児童館	1.22	おりがみ研修会		○	
香川県	さぬきこどもの国	1.29～2.15	お父さんの少年時代	○	○	○
兵庫県	神戸市西区社会福祉協議会	1.3	ほかほか広場「作って遊ぼう」		○	
福島県	川内町役場 保健福祉部	2.21	みんなで遊ぶパペットランド	○	○	
千葉県	市川市役所子ども部	2.7, 9	身近な道具でスポーツあそび	○	○	
石川県	いしかわ子ども交流センター	2.8～22	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
京都府	京都市久我の杜児童館	3.1～13	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
大分県	大分アートプラザ	3.16～4.7	造形ワークショップ展「素材ア・ラ・カルト」		○	○
兵庫県	神戸市総合児童センター（こべっこランド）	3.20～29	全国児童館おりがみ作品展巡回展			○
兵庫県	神戸市総合児童センター（こべっこランド）	3.22	おりがみ研修会		○	○

3. 助成金による事業

〈独立行政法人福祉医療機構 子育て支援基金助成事業「児童館を活用した父親ネットワークづくり事業」〉

名 称	日 時	内 容
児童館を活用した父親ネットワークづくりのためのモデル事業	6月～H21.2月	地域の子育て環境を整えていくためには男性の参画も必要であり、また父親にとっても地域に仲間がいることはさまざまなメリットが考えられる。児童館を活用して父親同士のネットワークを構築するためのモデル事業に取り組んだ。実施地：川北児童会館（札幌市）、六甲道児童館（神戸市）、代田南児童館（東京都）、荻窪児童館（東京都）、玉川学園子どもクラブころころ児童館（東京都町田市）、東四郎丸児童館（仙台市）。
父親ネットワーク・サミット	H21.1.31	モデル事業の成果の発表と、父親グループの交流をはかるために実施。モデル事業討論会、父親活動博覧会、公開ブレーンストーミング「パパ友をつくるために」の3部構成。父親活動博覧会ではモデル事業の6児童館に加え、さまざまな父親グループを招き、ポスターや映像などで活動を紹介すると同時に、グループ間の交流をはかった。参加父親グループ：みどりのばば（東京都府中市）、おやじの部屋・みたか組（東京都三鷹市）、父親サポート関西（大阪市）、プレーパークむさしの（東京都武蔵野市）、NPO法人わこう子育てネットワーク・ぱぱ組（埼玉県和光市）、NPO法人ファザーリング・ジャパン（東京都）、NPO法人新座子育てネットワーク盛り上げ隊（埼玉県新座市）。
「みんなで子育て DADDY'S NET」の発行	H21.3月	モデル事業や父親の地域活動の先進事例などの情報をまとめ、父親の子育て参画の普及・推進のために、報告書「みんなで子育て DADDY'S NET」を発行し、全国の自治体・児童館などに配布した。

〈独立行政法人福祉医療機構 子育て支援基金助成事業「児童館における中高生のボランティア活動活性化事業」〉

名 称	日 時	内 容
児童館における中高生のボランティア活動活性化のためのモデル事業	6月～H21.2月	児童館を拠点に、中高生世代の来館を促進し、その居場所となるだけでなく、市民的・自治的な活動へ参画していく姿をいかに作っていくかをテーマに、モデル事業を全国5か所で実施した。館の規模や立地条件、委託前の中高生世代の活動の実施度合い（ほとんど実践のない館も含む）もさまざまところを選び、小さな普通の児童館でも実践例からエッセンスを取り入れられるように考えて計画・実践した。実施地：苗穂はるにれ児童会館（札幌市）、野沢児童館（東京都）、緑児童館（名古屋市）、松山市中央児童センター、小城市児童センター（佐賀県）。
地域における中高生活動ファシリテーター講習会	11.5・6（札幌市） 12.18・19（東京都） H21.1.15～16（京都市）	居場所作りの活動にとどまらず、児童館の中高生世代のボランティア活動を含む市民的活動を活性化するために、中高生世代と活動する指導者へ向けた講習会を全国3か所で実施。研修項目は共通としたが、地元の実践者を講師として起用して、より実践的な講習となるようにした。講習内容は、①講義「中高生活動の意義」②実践報告をもとにした討論③「ファシリテーションの理論と実践」④これからの実践のための目標作り。児童館スタッフだけでなく、地域指導者にも呼びかけ、地域で子どもたちを育てることを考える良い機会となった。
「地域に発進 !! 中高生世代 居場所からの1・2・3」の発行	H21年3月	モデル事業の報告、ファシリテーター講習会の実施報告、運営委員からの提言、中高生の活動や成長をとらえるための記録のあり方などをまとめた報告書「地域に発進 !! 中高生世代 居場所からの1・2・3」を発行し、全国の自治体・児童館・社会福祉協議会・ボランティアセンターなどに配布した。

〈財団法人こども未来財団委託事業「子育てサークル活動者研修事業」〉

名 称	日 時	内 容
子育てサークル活動者研修事業	厚生労働省・側こども未来財団が主催する「子育てサークル活動者研修事業」について、側こども未来財団から委託されて4地域で実施した。事業は、4日間の研修会と協力団体が企画するモデル事業で構成されている。	
輪・話・和・笑 こそだての“わ”～みんなで育児・育自を楽しもう～ (秋田県潟上市)	6.26、7.3、10、18（研修会） 11.16（モデル事業）	【研修会】①ワークショップ「よりよい関係のためのコミュニケーショントレーニング」②基調報告「少子化の現状と次世代育成支援の取り組みについて」・ワークショップ「サークルで生かせるグループワーク」③パネルディスカッション「子育てサークルから広がる子育ての輪」・交流会 ④ワークショップ「活動に役立つ遊び」 【モデル事業】話・和・笑・輪～こそだてあそびの“わ”～in かたがみ～はなして なごんでわらって わをつくろう 協力：潟上市子育てネットワーク協議会(かたがみっ子元気ネット)／潟上市教育委員会
子育てサークル応援講座 子育てサークル120%楽しもう！ (群馬県前橋市)	9.4、9、18、22（研修会） 11.30（モデル事業）	【研修会】①コミュニケーショントレーニング「あなたの対人力をアップ！」②ワークショップ「新しい出会いで新しい自分を見出しよう！」・基調報告「子育て支援、次世代育成支援の取り組みほか」③パネルディスカッション「いろいろな経験！親子で成長！みんなのサークル話」・交流会 ④実践グループワーク「私を活かしてサークル力アップ！」 【モデル事業】子どもと遊ぼう！みんなで遊ぼう！ 協力：NPO 法人市民メディアアベバーみんとかんぱにー
ようこそ、ようこそ とつとり子育てワンダーランド ママ友100人できるかな？ (鳥取県鳥取市)	8.26、9.2、12、19（研修会） 10.17（モデル事業）	【研修会】①ワークショップ「よりよい関係をつくるためのコミュニケーショントレーニング」②サークルあれこれ、パネルディスカッション「育て！子育ての芽。地域の支えで、しっかり根っこを、はらせよう」・交流会 ③ワークショップ「サークルで生かせるグループコミュニケーション」・基調報告「子育て支援、次世代育成支援の取り組みほか」④ワークショップ「グループ運営に役立つコミュニケーションのとり方」 【モデル事業】おいでよ、おいでよ！とつとり子育てワンダーランド《糸の収穫祭》 協力：ゆうゆうとつとり子育てネットワーク
みんなで育てよう子育ての輪～子育てをひとりで抱えていない？～ (鹿児島県鹿児島市)	10.7、15、21、29（研修会） 11.15（モデル事業）	【研修会】①コミュニケーショントレーニング「よりよい関係を築くためのコミュニケーショントレーニング」②グループワーク「よりよい関係を築くためのコミュニケーショントレーニング～グループ編～」③基調報告「次世代育成支援の取り組みについて」・パネルディスカッション「子育てグループの魅力と広がる子育ての輪」・交流会 ④グループワーク「子育てグループ作り」 【モデル事業】楽しめる子育てしてみませんか 協力：NPO 法人ミーサ・インフォメーション・Net

子どもの城

事業年報

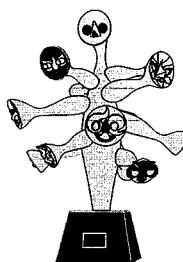
平成20年度

平成21年11月1日発行

[編集・発行]
財団法人 児童育成協会
理事長 吉武 民樹

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話 03-3797-5666
<http://www.kodomono-shiro.jp/>

表紙イラスト／KOHYA
デザイン／COIL
印刷所／日本印刷株式会社



財団法人 児童育成協会
 **子どもの城**

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
<http://www.kodomono-shiro.jp/>